

一 自己疾病傷痍ニ罹リタルトキ
 一 歸省若クハ轉地療養等ノ途次變災厄難ニ遭ヒ
 タルトキ
 明治二十年(二月)成第三號及明治二十五年(三
 月)訓第六十五號ハ廢止ス
 ○明治三十二年五月十日訓第二百七十號(支廳長
 戸長宛)
 各恩給法又ハ官吏遺族扶助法等ニ依リ扶助料ヲ請
 求スルモノノ取扱規程ハ各其施行規則ニ明記有之
 通達署又ハ奥印ノ上地方長官ニ差出スヘキ等ノ處
 或ハ市町村長ニ於テ請求書ノ書式又ハ證據書類ノ
 當否等取調ノ爲メ數日役場ニ留置爲ニ請求期間ヲ
 經過スル者間有之抑市町村長等ノ奥印ヲ要スル
 ハ其市町村内居住者タルヲ證スルノ必要アルヲ以
 施行規則ニ於テ規程セラレタル迄ノ事ニ付市町村
 長ノ故意又ハ過失ニ因ルトモ之カ爲メ法律上規定
 スル所ノ期限ヲ延長スヘキ理由無之ニ付請求期限
 内ニ地方長官ニ提出セサル請求書ハ本人ノ權利消
 滅又ハ其權利ヲ拋棄シタルモノト見認メ審査スル
 ノ外無之請求者ニ對シテハ頗ル憫然ノ狀ニ堪兼候
 間右等不都合ノ儀無之様可取扱旨内閣恩給局長ヨ
 ヲ通牒アリタルニ依リ篤ク注意スヘシ
 ○明治三十三年六月一日訓第三百三十五號(支廳
 區役所戸長役場宛)
 舊土人中苗字ノ設定ナキ者有之様相聞候處有ハ明
 治八年二月二十二號布告ニ違反シ不都合ノ次第
 ニ付爲ト取調ノ上其設ナキ者ニハ此際速ニ設定ノ
 出願ヲナサシムヘシ
 但シ設定ノ許可ヲ受ケタルトキハ戸籍法第百六
 十四條ニ準シ届出ヲ要スル儀ニ付其旨注意スヘ
 シ
 ○明治三十三年六月一日訓第三百三十八號(支廳
 區役所宛)
 一 社團又ハ財團ノ名稱
 一 其組織並ニ保護ノ方法
 一 設立者住所職業氏名
 一 設立者ノ身元經歷
 一 現今ノ狀況
 一 設立者住所職業氏名
 一 設立者ノ身元經歷
 一 現今ノ狀況
 ○明治三十三年八月二十八日訓第五百五號(支廳
 區役所宛)
 一 所轄管内ニ於ケル該法人ニ對シテハ嚴重監督ヲ
 加ヘ仍一ノ二十四字ヲ除クノ外前出訓第五百五號
 下同シキヲ以テ本文省略ス
 ○明治三十四年二月二十六日訓令第十一號
 社團又ハ財團ニシテ民法第三十四條ニ依リ法人ト
 爲スニ付主務大臣ノ許可ヲ要スル申請書又ハ法人
 ノ主務大臣ヘ差出スヘキ願書ハ主務大臣事務所在
 地ノ支廳又ハ區役所ヲ經由スヘシ
 ○明治三十四年二月二十六日訓第五百二十六號(支
 廳區役所宛)
 一 社團又ハ財團ノ名稱
 一 其組織並ニ保護ノ方法
 一 設立者住所職業氏名
 一 設立者ノ身元經歷
 一 現今ノ狀況
 ○明治三十三年八月二十八日訓第五百五號(支廳
 區役所宛)
 一 所轄管内ニ於ケル該法人ニ對シテハ嚴重監督ヲ
 加ヘ仍一ノ二十四字ヲ除クノ外前出訓第五百五號
 下同シキヲ以テ本文省略ス
 ○明治三十四年二月二十六日訓令第十一號
 社團又ハ財團ニシテ民法第三十四條ニ依リ法人ト
 爲スニ付主務大臣ノ許可ヲ要スル申請書又ハ法人
 ノ主務大臣ヘ差出スヘキ願書ハ主務大臣事務所在
 地ノ支廳又ハ區役所ヲ經由スヘシ
 ○明治三十四年二月二十六日訓第五百二十六號(支
 廳區役所宛)
 一 社團又ハ財團ノ名稱
 一 其組織並ニ保護ノ方法
 一 設立者住所職業氏名
 一 設立者ノ身元經歷
 一 現今ノ狀況

第五類

小學校

○明治二十四年十一月二十八日訓令第八十一號
 郡區役所宛)
 管内學校ヘ下賜セラレタル
 天皇陛下 ノ御影並教育ニ關シ下シタマヒタル
 勅語ノ應奉ハ校内一定ノ場所ヲ選ビ最モ尊重ニ奉
 置セシムヘシ
 ○明治二十七年一月九日訓令第一號(郡區役所戸
 長役場區町村立小學校宛)
 天皇陛下
 皇后陛下ノ御影並教育ニ關シ下シタマヒタル勅語
 ノ應奉等ニ關スル規定左ノ通相定ム
 御影並 勅語ノ應奉等ニ關スル規程
 第一條 天皇陛下 皇后陛下ノ御影並教育ニ關ス
 ル 勅語ノ應奉ハ尊重ニ奉置スヘシ
 第二條 御影並 勅語ノ應奉ニ奉置セル學校ニ於
 テハ奉衛ノ爲メ其校敷員ヲシテ宿直セシムヘシ
 但シ學校敷内ニ敷員住宅ノ設ケアルトキハ其
 居住ノ敷員ヲシテ奉衛ヲ勤メシメ別ニ宿直ヲ
 置カサルコトヲ得
 第三條 御影奉拜ノ式日ヲ除ク外ハ限リニ奉置所
 ノ戸扉ヲ閉閉スヘカラス
 第四條 御影並 勅語ノ應奉所ノ火災事變等
 ニ遭際スルトキハ速ニ之ヲ奉還シ不敬ノ畏ナキ
 儀態ニ注意スヘシ
 第五條 御影並 勅語ノ應奉ヲ奉置セル學校ニ於
 テ若シ校舍ノ營繕其他事故ノ爲メ其奉置上差支
 五 一 構造ハ堅實實ヲ主トスヘク且ツ尊嚴ヲ失ハ
 サル限リニ於テ各種ノ裝飾ヲ爲スコトヲ避ケ
 ヘシ又社殿造ト爲スヘカラス
 二 位置ハ成ルヘク高燥ノ地ヲ選ビ又建物ノ土臺
 ト敷石トノ境ヲ透シ若ハ其ノ間ニ溝ニ設キ
 鐵板ヲ敷ク等濕氣ノ際ラサル構造ト爲スヘシ
 三 壁ハ二重張トシ其内部ヲ羽目打又ハ漆喰仕上
 ト爲シ濕氣ノ透ラサル構造ト爲スヘシ
 四 天井及床上下四隅並天井上側方及床下側方ニ
 適當ノ空氣抜散口ヘシ其床上下四隅ノ空氣抜
 散口細孔チ多ク穿テタル設備ト爲スカ若ハ細孔
 ノ金網張ト爲スチ可トス
 五 天井上側方空氣抜散口外壁ト内壁トニ多少
 ノ差違アリシメ吹雪等ノ侵入セザル構造ト爲
 スヘシ
 六 扉ハ成ルヘク二重ト爲シ内扉ハ金網張ト爲ス
 ヘシ
 六 屋根ハ椽非ト爲ストキハ非是一寸五分以下ト
 爲シ瓦葺若ハ葦葺非ト爲ストキハ非是一寸五分
 以下ト爲シ雨露ノ浸入セザル構造ト爲スヘシ
 七 新ニ建築シ又ハ改修ヲ爲シタル際ハ内部ノ光
 分乾燥シタル後ニアラサレハ奉安スヘカラス
 八 學校長ハ隨時開扉シテ空氣ノ交換ヲ計リ又内
 外異狀ヲキチキチ檢スヘシ
 從來建設ノモノニシテ以上各項ニ照シ設備上不完
 フリト認ムルモノハ速ニ相當ノ改修ヲ爲スヘシ
 ○明治三十四年十二月二十二日訓令第三百三十四號
 (支廳區役所町村役場戸長役場區町村立小學校宛)
 區町村立小學校儀式舉行ニ關スル規程
 第一條 儀式並莊重ヲ旨トシ虚飾ヲ排シテ
 注意スヘシ
 第二條 小學校令施行規則第二十八條ノ儀式ハ左
 ノ順序ニ依リテ之ヲ行ヘシ
 一 著席
 (一)職員兒童著席
 (二)參列員著席
 (三)參列員著席
 二 學校長儀式舉行ノ旨ヲ告グ
 三 學校長御座ヲ奉揚ス此時一同最敬禮
 四 唱歌 若方代 一同合唱(二回)
 五 職員兒童參列員一同
 六 天皇陛下ノ御影ニ對シテ最敬禮ヲ行フ
 七 學校長ハ教育ニ關スル勅語ヲ奉讀ス
 此間一同敬禮ヲ行フ
 八 學校長御座ヲ奉垂ス此時一同最敬禮

九 學校長ハ教育ニ關スル勅語ニ基キ聖旨ノ在ル所ヲ誦告ス

十 唱歌(式日相當ノ唱歌)一同合唱

十一 學校長儀式終了ノ旨ヲ告グ

十二 修飾

十三 退席

(一)參列員退席

(二)職員兒童退席

第三條 御影ヲ下賜セラレタルトキハ拜戴ノ儀式ヲ舉行シ其順序ハ前條ノ規定ニ依ルヘシ

第四條 卒業證書授與ノ儀式ハ左ノ順序ニ依リテ之ヲ行フヘシ

一 著席

(一)職員兒童著席

(二)參列員著席

二 修飾

三 學校長儀式舉行ノ旨ヲ告グ

四 唱歌 君カ代 一同合唱(二回)

五 學校長ハ教育ニ關スル勅語ヲ誦告ス

此間一同敬肅ノ意ヲ表シ

六 終リニ最敬禮ヲ行フ

七 學校長證書授與ス

式辭

(一)學校長ノ誦告

(二)臨視官ノ祝辭

(三)來賓ノ祝辭

(四)在校兒童總代ノ祝辭

(五)卒業兒童總代ノ答辭

八 唱歌

九 學校長儀式終了ノ旨ヲ告グ

十 修飾

十一 退席

(一)參列員退席

(二)職員兒童退席

唱歌(式日相當ノ唱歌)一同合唱

式日缺クコトヲ得

第五條 開校ノ儀式若ハ其他ノ儀式ヲ舉行セントスルトキハ前條ノ規定ニ準スヘシ

第六條 區町村長戶長其ノ他學事關係職員ハ學校ノ儀式ニ成ルヘク參列スヘシ

第七條 儀式舉行ノトキハ兒童保護者ヲシテ成ルヘク參觀セシムヘシ

第八條 儀式ヲ舉行スヘキ場所ハ最モ清潔ナラシムヘシ

第九條 儀式舉行ノトキハ校門及式場ニ國旗ヲ掲クヘシ

○明治三十二年十一月一日訓第六百三十三號(支廳區役所戶長役場宛)

國家事業ノ發達ハ國民能力ノ發達ニ起因シ國民能力ノ發達ハ之ヲ教育ノ成績ニ俟タサルヘカラス從來本道ハ拓殖ヲ急務トシテ進歩モ將來ニ力ヲ發達シ有終ノ美ヲ成サント欲セハ亦大ニ力ヲ教育ニ致ササルヘカラス故ニ拓殖ト教育トハ本道施政ノ二大要綱ニシテ輕重アル事無シ職ニ其任ニ當ル者常ニ此ニ留意シ以テ進歩ナカラン事ヲ務ムヘシ

本道ニ在テハ學齡兒童ノ就學者僅ニ全數ノ半ニ過キス今其然ル所以ヲ察スルニ殷富ノ府街ト雖校舍狹隘ニシテ兒童ノ入學ヲ阻絶スルモノアリ戶數多キ村落ニ在テモ學校ノ距離遠隔ナルカ爲メ兒童ヲ通學モシムル事能ハサルモノアリ移住者ノ部落ニ至テハ未ダ校舍ノ設ケアラサルモノ多シカラス是皆不就學者多クカラムノ原因ニシテ當務者ノ不慮スヘカラス所ナリ校舍ヲ擴張シ亦其配置ニ感ミナカラシムル事地方ノ實力ニ關スル要點多ク

兒童ニ學ノ道ヲ與ヘサルハ教育施設ノ本旨ニ悖レリ當務者宜シク計畫ヲ立案シ以テ國民教育ノ本義ニ副ハンコトヲ務ムヘシ

教育ハ教育ノ主眼ニシテ其責任ノ重大ナル事言テ俟タス故ニ其任ニ在ル者他事ニ顧念スルナク全力ヲ其職務ニ盡サスルハカラス是政府ニ在テモ教育ノ待遇ニ厚キヲ加ヘ其職責ニ對シテ亦敬意ヲ致スノ傾向ヲ來タシタルハ誠ニ國家ノ慶事ナリ然レモ一方ニ於テハ轉免ノ申請者ルシク煩雜ヲ來タシ教育ノ進歩ヲ阻礙スルノ虞ナキヤ得ズ是ハ注意ヲ要スル所ナリ教育ノ振興ヲ圖ルニ於テハ教員ノ待遇ヲ厚スルト進退ヲ重ニスルトハ兩トカラ缺クヘカラス當務者ハ自今一層慎重ヲ加フヘシ

○明治三十六年二月二十五日訓令第十三號(支廳區役所町村役場戶長役場區町村立小學校宛)

本道普通教育ニ關スル注意事項主務課シテ別冊ニ通調在セシメタルニ依リ當務者宜シク其ノ趣旨ヲ體シ之ヲ貫徹スルヘシ(別冊ハ別ニ之ヲ頒布ス)但シ支廳長區長ハ私立小學校ハ本文ノ旨趣ヲ傳達スヘシ

(別冊)

第一總說

北海道ノ普通教育ニツイテハ、若シ人保護法其他幾分特別ノ事柄カナリハナイカ、大體ハ一般ノ府縣ト同シク、法令ノ上ニ定マツテ居ル。夫レ故是等ノ法令ヲ、適當ニ實行スルトイフ事カ、即チ北海道ノ普通教育ノオモナ仕事ナル。然リハ其法令ノ主意ヲ明ニ解釋シテ開導スルニツイテ、其實行方ヲ監督スルトイフ事カ、本道ノ教育行政ノ最モ重要ナル點ナルヲ以テ、今是等ノ解釋ニ

基イテ、凡ソ本道内ノ普通教育ノ施設ニ對スル、本廳ノ意見及希望ヲ明カニシテ、實地ニ普通教育ノ事務及其技術ニ從事スル人々ノ參考ニ供ヘ、注意ヲ促シ、以テ各自ノ職責ヲ全クセラレタシタメニ、其注意書ヲ發表スル譯テアル。

第二 學校(分教場)簡易教育所ノ含ム以下普通教育ハ、或ハ初等教育トモイヒ、呼ビ方種々アレトモ、今茲ニ主トシテハ、義務教育ノ事ナリ。サテ普通教育ハ、讀テ字ノ如ク、普通トモニモ行キ波ルヘキ教育アルカ故ニ、其萬事カ、高尙複雜ナクテ、尋常一通リノ事テナクテハナラヌ。マシテ義務教育ト云ヘハ、徵兵ノ義務ヤ、納稅ノ義務ヲ果ス事ト同シニ、イヤシクモ其義務ノ聲ノカカラヌモノハ、一人モアマスニ、之ヲ盡サセテナクテハナラヌモノアルカラ、若シ其事カ甚タ入組ンテ、費用カ澤山ニカ、ル様テハ、都鄙貧富ヲオシナヘテ、平均ニ殘リナク行渡ラセルトイフ事ハムツカシイ、夫レ故法令ノ主意ハ、ドコドコマテモ、其施設ヲ簡易ニシテ、早ク、普ネテ、行キ渡ラセラルニアルカラ、學校ノ設置ナトモ、其主意ヲ以テ仕事ヲ進ハセテハナラヌ。夫レ故一所ニ立派ナ學校ヲ設ケ、完全ナ教育ヲ施シテ居テモ、若シ他ノ一方ニ一人タリトモ不就學者カアリ、常ニ缺席者カアル様テハ、此義務教育ノ主意ニカナラフモノト云ハレナイ。

右ノ主意ニヨリ、學校設置ノ仕事ノ大體チイヘハ凡ソ左ノ通りナル。

一 學校ノ設置ハ、第一二六七歳ノナサナイ子供カ、寒暑ノ時、雨露ノ日ニモ、タヤスク通ヒ得ラレル所ニ立テルチ、根本ノ原則トスル。

決シテ大人ノ考チ標準ニシテハナラヌ。夫レ

(一)參列員退席

(二)職員兒童退席

唱歌(式日相當ノ唱歌)一同合唱

式日缺クコトヲ得

第五條 開校ノ儀式若ハ其他ノ儀式ヲ舉行セントスルトキハ前條ノ規定ニ準スヘシ

第六條 區町村長戶長其ノ他學事關係職員ハ學校ノ儀式ニ成ルヘク參列スヘシ

第七條 儀式舉行ノトキハ兒童保護者ヲシテ成ルヘク參觀セシムヘシ

第八條 儀式ヲ舉行スヘキ場所ハ最モ清潔ナラシムヘシ

第九條 儀式舉行ノトキハ校門及式場ニ國旗ヲ掲クヘシ

○明治三十二年十一月一日訓第六百三十三號(支廳區役所戶長役場宛)

國家事業ノ發達ハ國民能力ノ發達ニ起因シ國民能力ノ發達ハ之ヲ教育ノ成績ニ俟タサルヘカラス從來本道ハ拓殖ヲ急務トシテ進歩モ將來ニ力ヲ發達シ有終ノ美ヲ成サント欲セハ亦大ニ力ヲ教育ニ致ササルヘカラス故ニ拓殖ト教育トハ本道施政ノ二大要綱ニシテ輕重アル事無シ職ニ其任ニ當ル者常ニ此ニ留意シ以テ進歩ナカラン事ヲ務ムヘシ

本道ニ在テハ學齡兒童ノ就學者僅ニ全數ノ半ニ過キス今其然ル所以ヲ察スルニ殷富ノ府街ト雖校舍狹隘ニシテ兒童ノ入學ヲ阻絶スルモノアリ戶數多キ村落ニ在テモ學校ノ距離遠隔ナルカ爲メ兒童ヲ通學モシムル事能ハサルモノアリ移住者ノ部落ニ至テハ未ダ校舍ノ設ケアラサルモノ多シカラス是皆不就學者多クカラムノ原因ニシテ當務者ノ不慮スヘカラス所ナリ校舍ヲ擴張シ亦其配置ニ感ミナカラシムル事地方ノ實力ニ關スル要點多ク

故道ノ遠近ナトモ、專ラ此標準ニ依リテ決セラルレハナラヌ。此原則ニヨリテ學校ヲ立テルニ、參考スヘキ事柄ハ、(一)義務兒童、即チ學齡兒童ノ人數、(二)地理上ノ事、即チ道ノ遠近難易、土地ノ開ケ行ク有様、數地ノ適否等、(三)人情、即チ其學校ニ關係アル人民ノ模様(但シテノチ苦情ナトハ、固ヨリ採用スルコトカ出來ヌカ、理ニ勝ツテ事實上ニマケル様ナ事)、ナイ様、豫メ注意カ入ル。

(四)經濟上ノ都合ナトアル。

固ヨリ右ノ大體チアツテ、尙實地ノ模様ニヨリテハ、幾種ニモ研究セネナルベシ。又既に是マテ配置シテアル學校ニツイテハ、今俄カニドコロトイフノチハナイカ、此後其位置テモ變ヘ様トスルカ、又ハ増設、或ハ新築ナトモシ様トイフ時ニハ、前項ノ主意ヲ參考スヘキ事ナル。

義務教育ノ原則カラ起ツテ、當務者ノ最モ注意ヲ要スルハ、學校ノ廢止合併又ハ高等小學校等ノ新設ノ事ナル。(一)今日ノ學校ノ配置テハ、大體ニ於テ義務教育兒童ノ教育ノ要求ニ應ズルニ足ラメトイフ事ハ、統計上テモ明カナ事ナル。然ラハ大體ニ於テ、尋常小學校ノ數ハ、増ストモ減ス事ノ出來ヌ事モ亦明カナル。夫レ故尋常小學校ノ廢止合併トイフ事ハ、容易ニヤラヌトイフ方針ナル。

(二)從テ高等小學校等義務教育以外ノ學校ノ新設ハ、此義務教育ノ完成シタカ否カニ依ツテ、是ヲ定メ若クハ許否スル方針ナル。即チ一方ニ義務教育兒童ノ不就學者、又ハ缺席者カ澤山アリ、若クハ教員ノ配置、其他設備等ニ於テ、不完全ノ所カアルノニ、夫チサシ

一 學校ノ設置ハ、第一二六七歳ノナサナイ子供カ、寒暑ノ時、雨露ノ日ニモ、タヤスク通ヒ得ラレル所ニ立テルチ、根本ノ原則トスル。

決シテ大人ノ考チ標準ニシテハナラヌ。夫レ

第一總說

北海道ノ普通教育ニツイテハ、若シ人保護法其他幾分特別ノ事柄カナリハナイカ、大體ハ一般ノ府縣ト同シク、法令ノ上ニ定マツテ居ル。夫レ故是等ノ法令ヲ、適當ニ實行スルトイフ事カ、即チ北海道ノ普通教育ノオモナ仕事ナル。然リハ其法令ノ主意ヲ明ニ解釋シテ開導スルニツイテ、其實行方ヲ監督スルトイフ事カ、本道ノ教育行政ノ最モ重要ナル點ナルヲ以テ、今是等ノ解釋ニ

ス、其學校ノ中テモ有力ナ人ヲ充テラ
レタイ事、世間ノ經驗ヲ開クニ、此教
育ハ、困難ヲ割合ニ、勉強スレハスル
タケ成効力眼ニ見ユルヨウテアツテ、
實ニ教育家ノ腕ノ振ヒモテアルト云
フ。

七 學務委員ノ職務ハ、固ヨリ成規ニ明文カアル
事テアルケレトモ、實際ハ主トシテ此就學事
務ニ、大ニ力ヲ盡サレタイ。元來學務委員ノ
制度、是マテ度々改正モアツテ、イツモ有名
無實トイフ苦情カ多イカ、是レ必竟其職務ヲ
オロソカニスル者カ、少クナイカラテアラウ。
シカシナカラ此委員ハ、同シ名譽職テモ、他
ノ委員トチカツテ、法令上必ス常ニ置カチハ
ナラヌモノテアリ、從テ其設置ノ主意モ、是
レニ重要ナル公務ヲ取扱ハセル事アル。其重
要ノ公務ノ主トモノハ、即チ此就學事務ノ事
務ヲアルカ故ニ、學齡兒童ノ調査、其父兄ニ
對スル實地ノ督責、學齡兒童ノ出席事務ノ助
力、同シク特別教育ニツイテノ世話方等、是
等ノ仕事ニハ充分ニ盡力セラレ、又區町村長
戸長若クハ學校長カラモ、是等ノ仕事ニツイ
テハ、學務委員ニ充分注文シテ、助力ヲウケ
ル様ニナサセ。

第四 教授ニ關スル事

普通教育ノ目的ハ、入學ノ兒童ニ、教則(主トシ
テ小學校令施行規則第一章チイフ)ノ示ス通り教
育ヲ施シテ、卒業サセルニアル。教育ノ事務カ、
皆此方面ニ向テ働タト同シク、學校内ニ於ケル教
授ノ仕事モ、亦結局茲ニ歸着スルモノテアル(茲
ニ教授トイフハ、教育ノ學術上ニ於ケル教授、管
理、訓育、訓練等學校ニ於テナス所ノスヘテノ仕
業ニナサセ)。

事ナイフ。元來學校ニ於テ子供ヲ教育スル技術上
ノ事ハ、學校長及教員ノ職權テアツテ、既ニ法令
カ其技術上ノ事ヲ、此職權ニ委テアル以上ハ、
ミタリニ他カラ干渉スヘキモノナシ。即チ學校
長及教員ハ、我カ責任ヲ以テ其事ニアツテ、教
則ノ目的ヲハタスヘキ仕事ヲスルモノテアル。然
シナカラ、此獨立ノ職權ヲ以テスル仕事ト、國家
ノ法令タル所ノ教則トノ間ニ於テ、是マテノ教育
ノ實例上、實際ニ於テ誤解モアリ、間違モアリ、
若クハ違法ノ事モアル事ハ往々少クナイ。夫レ故
教育行政ノ監督ノハタラキトシテ、モトヨリ亂
ニ技術上ニ干渉セヌケレト、其結果カ教則ノ目
的ヲ達スル事ノ出來ヌモノト認メラルベキハ勿論
事、其他誤解、違法等ニツイテハ、當然ニ之批評
シ、又ハ訂正サセル事ナト作用ナシ及ホス事アル。
今是等ニツイテ注意スヘキ要點ヲ云ヘハ、凡ソ左
ノ通テアル。但シ教則ニ明文ノアル事、又ハ教則
ニ照シテ批評ノ入ラヌモノハ別ニイハヌカラ、之
ヲ教則ニ照シテハ、合點セラレタイ。
一 教授ノ仕事ハ、教則ノ目的ヲ達スルニアルノ
テ、之ヲヒラタクイヘハ、國家ノ注文書ニシ
タカツテ、其注文通りノ仕事ヲナシ、其仕上
ケケルニアル。夫レ故其注文書即チ教則ハ、
常ニクツカヘシテ、教案ヲ立テテモ、其實
地授業ノ監督ヲスルニモ、必ス其主意ニ背カ
ヌ様ニイダサチハナラヌ。從テテタトヘ教則
中ニ吾カ心ニ合ハナイモノカアリ、又ハ其注
文ヨリ別ニ其イモノカアルトシテモ、未タ
其注文書ノ改メラレナイカキリハ、之ヲ私
ニトリカヘテ行フ事ハ出來ナイ。此點カ誤解
若クハ違法ナト事柄ノ多イ事テアル。此點ヲ
學校長及教員タル人々ハ、大ニ注意セチハナ

ラヌ。夫レ故是迄ノ教育者ナトハ勿論、タン
タン世ノ中ニ書籍、雜誌、演說等新規ナル論
カアツテ、之ヲ現行法タル教則ニツクリヘテ、
ムシロ夫レ等ノ新論等ヲ優ツタモノト感シ
ムニシテモ、又其マサマモノトスル事カ所
謂論論トイフモノナラヌ。テアツタニシテモ、
其事カナホ現行ノ法ニ抵觸シテ居ルカラニ
ハ、決シテ之ヲ其學校ニ施ス事ハ出來ヌモノ
テアル。若シ之ヲ施ストキハ、即チ其行為ハ
違法又ハ越權トナリ、遂ニ懲戒ノ問題ニモ玉
ルモノテアル。但シ技術上ノ研究ニツイテハ、
亦カコトナ制限カアルモノト認解シテハナラ
ヌ。即チ國家ハ其國是トスル教育ノ目的ヲ達
スル仕事ヲ、一定ノ注文書ヲ以テ、學校長及
員ニニタチ、學校長教員ハ其注文ニ隨フテ、
實地ニ其仕事ヲスル、コノ仕事カ即チ技術
アル。此技術ノ如何ハ即チ師範學校ヲ教ヘタ
所、又ハ教員ノ檢定試験ヲ受メシタ所ノモノ
テアツテ、既ニ免許狀ノアル人ニ對シテハ、
國家ハ其技術ヲ信用シテ居ルベキテアル。ケ
レトモ凡ソ教育ノ仕事ハ、社會ノ進歩ニトモ
ナツテ、夫レヨリ進ムトモ後レル事ハ技術
ニツイテハ、師範學校ノ卒業又ハ檢定ヲ受ケ
タ當時ノ程度ニ止マル事ヲ満足スル、益々其
技術ノ進歩スル事ヲ望ムコトアル。此進歩
ヲナスハ、教員各自カ奮勵ノ餘力ヲ以テ、或
ハ新著書ヲ研究シ、或ハ教育雜誌ノ類ヲ購讀
シ、或ハ演說ニ新聞紙等ニ、尙モ教育ノ材料
又ハ參考トナスヘキ事柄ニハ、常ニ注意シテ、
其知識技能ヲ改良セラレルヨウ、大ニ希望ス
ル所テアル。是ハ教員ノカキカ考ヘレハ、

即チ其職務ニ忠實ナル所以テアルカラ、是非
コノ研究ノ心掛ケヲ忘ラナイヨウニシタイ。
タタ是等ハ、法ノ上カラ見レハ、私ノ事テア
ツテ無論公ノ教則ト對立スル事ハ、出來ナイモ
ノテアルカラ、私ヲ以テ教則ヲ左右スルナト
ノ事ノナイヨウニ注意スルノカ肝要テアル。
右法令ノ實行ニツイテ、尙誤解ノナキ様注意
スヘキ事ハ、宗教トノ關係テアル。宗教ハ固
ヨリ誰カ何宗ヲ信仰シヨウカ、憲法カラ許サ
レタ自由テアツテ、其信仰方カ國法ノ範圍内
テサヘアレハ、外カラ彼是干渉セラルル事テ
ナイ。夫レ故教員テモ、兒童テモ其信仰ニツ
イテハ、他人カラ強イラレモセヌ、又他人
強イ得ラレモテモナイ。併シナカラ是ハ
固ヨリ私ノ事テアルカラ、此私ヲ以テ公ノ事
柄ヲ動カス事ノ出來ナイノハ、亦言フマテモ
ナイ事テアル。夫レ故教則ノ實行上(修身科
ノ教授其他儀式等)ニツイテ、學校長教員カ
吾信仰上ノ考ヲ以テ、其教育ノ事柄ヲ動カシ
タリ、變ヘタリスル事ハ決シテ許サナイ。若
シ斯様ナ事ヲスルトキハ、即チ違法ヲ以テ論
セチハナラヌ。從テ學校兒童ハ勿論其保護者
トイヘトモ、其信仰上カラ學校ノ教則ニ依ル
教育ヲ忌避スルナトノ事ハ相成ラヌ事テア
ル。

日ニツイテノ仕事ノ如何ハ、右ノ學校長ノ職
權トナツテ居ル教員ニ依テ定マル答ノモ
ノテアル。夫レ故モ此教員ノ職權カ定マラナ
イトキハ、各教員ハ、如何ニシテコソシキカ、
其姓名ノ仕事ノ範圍、程度カカラ答テアル
ル。言フカヘテイヘハ、此學校長ノ定メル教
授細目トイフモノカ、國家カ各教員ニ注文書
ル仕事ノ明細書キテアル。然ラハ明細書キカ
ナクテハ、教員ハ何チシテコソイカ分フナイト
イフ事モ亦明テアロフ。然レニ此教授細目チ
コソラヘナイ學校カアル。コソコソラヘタニ
シテモ、當該學校長ノ職權ヲ以テコソラヘタ
シハナクテ、モヨリノ校長會議ヲ、或ハ教員
會議ヲ招ヘタモ、モナイイハナイ様テアル。
又ハ實物ノ著書ヲ以テ、其マ其學校ノ教授
細目トシテアルモノモアルカ知レヌ。ケレ
トモ是等ハ嚴格ニイヘハ皆違法テアル。抑モ
學校長ノ職務中此教授細目ヲ定メル程重イモ
ノハナイ。其重イ教授細目チ、吾レ自ラ全力
ヲ注キ、研究ニ研究カサチテ定メルトイフ
事チセスシテ、之ヲ前記ノ様ニ違法モノニ任
セテオカトイフヨウナ事ハ、實ニ百語同斷ト
イハチハナラヌ。即チ學校長タル職務ヲ放棄
シテ居ルモノト云ツテモヨロシイ。

論、其智識技能ノ事ニ至ルマデ、其處處、其
時時ノ新シキ材料ヲ用キテ演說シテ、實地ノ
ヤクニ立ツ様ナ教育ヲ與ヘ様トイフ爲メアル
ル。

此主意カラ考ヘレハ、教授細目トイフモノハ、
各各ノ學校ノ校長カ、自ラ責任ヲ以テキメル
トイフ事ハ勿論(廣ク部下教員若クハ他人ノ
意見ヲ聞キ、又ハ著書雜誌ノ論說等ヲ參考シ
テ取調ヘチナス事ハ、固ヨリ差支ナク又必要
テアルカ、結局學校長カ決定スヘキモノテア
ルトイフ事チ忘レテハナラヌ)之トキモルニ
モ月又ハ週週ニ、當該學年ノ兒童、對シテ、
其時時ノ適當ナル材料ヲ考ヘテ、キメル事トス
ルカ相當カ、イカニシクモ學年ノ始メ毎ニハ、
改メテ其學年ニ適シタモノヲコソラヘル注意
ヲソム。夫レ故タトヘ教授細目カアツテ、
イフ様ヘキカワカラヌヨウトシテ、僅ニシテ
トクノハ、コレヲ採ヘナイ意圖ト同シキメテ
受ケチハナラヌイ。

教員ハ右ノ教授細目ノ命令ヲウケテ、始メ
其技術ノ仕事カキルモノテアル。ソコ其
注文書チ、吾カ受持ノ子供ノ體力、智力、品
行ナトニ照シ合ヒテ、サテ其注文ノ目的ヲ達
シヨウニハ、イカニシタリヨロシキカ、是レ
即チ技術テアル、授業法テアル。教案トイフ
モノハ、此場合ニ立テルモノテアル。此授業
法即チ技術ハ、教則ノ目的ヲ達スルカカ
イフ事ノ懸ツテ居ル程ノ大事ナモノテアル。
夫レ故此教案ヲ立ツルニハ、充分ノ力ヲ以テ
工夫セヨウサチハナラヌ。是レ即チ教員タル
職務チ、此職務ヲ盡サセヨウトスル爲メニ、
教員ハ任用セラレテアルト云ツテヨロシイ。

然ルニ此教案トイフ様ナモノカナクテ、工夫
モ用意モ何モセズニ、カラ手テ教授シテ居
ルモノカ往々少クナリ。是等ハ其職務ヲ盡ス
モノトハ決シテイハレナイ。但シ一方ニハ又
教案ニ、非常ニ手数チカケ、多分ノ時間ヲ費
シテ、之レカ爲メ却テ實地ノ授業ニ實ノイフ
モノカナクイテモナイ。是ハ又極端テ所謂障
立タナレテ、過キタルハ尙及ハサルモノナラ
ル。

四

教案ヲ立タルニハ、必ス教則ノ、其所及關係
ノ所チ、先ツ讀ミ味ハツテ、サテ我カ充分ナ
考ヘテ以テスルハ勿論、此場ニコレ、廣ク著
書ナリ雜誌ナリ、出來ル丈ケ廣ク取調ヘテ、
ソコテ教則即チ注文書ノ目的ニカナフ様ナ教
育ヲ施スヘキ管テアル。タダシ前ニモ言フ通
リ、教則ノ主意ニ背カス様注意セテハナラヌ。
教則ノ解釋カラ、各教科目ノ教授上ニツイテ、
注意セテハナラヌト思フ事柄ハ左ノ通り。但
シ亦教則ニ明文ノアル事及餘リ批評ノナイ事
ハイハス。

(一)

修身ノ教授ノ實際ノ有様ハ、教科書
ノ講讀ヲ以テ終ル様アレドモ、
之レハ固ヨリ徳性ノ涵養ノ手段ニハナ
カラウカ、之レノニ満足スル事ハ出
來ヌ。教則ノ修身ノ目的ハ、普通教育
ノ事テアルカラ、寧ロ躬行實踐ノ指導
ニ重キチ置カテハナラヌ。躬行實踐ノ
指導チナスニハ、其材料モ、其方法モ、
其目的ヲ達スル事ノ出來ルモノニヨリ
チハナラヌ。然レニ唯教科書ノ講讀チ
ナシテ、夫レテ此教科ノ目的ヲ達シタ
モノト思フハ誤リテアル。

教科書力讀メ、又其事柄カナル様
ニ教ヘル事ハ、固ヨリ望ム所ナラ
去リナカラ其仕事ノミテハ、此科目ノ
目的ヲ達シ得ナイコト、右ノ通りテア
ルカラニハ、先ツ實踐躬行ノ教ヘ方チ
主トシ、其傍ニ於テ、講讀ノ事モスル
カヨロシイ。之チカヨロシイ傍ノ仕事ト
シテ、兼テ講讀ノ事チモ終ル様ニシコ
ワトイフ事ハ、即チ技術上ノ仕事チア
ツテ、幾様ノ工夫モアラウ。

躬行實踐ヲ教ヘル材料トシテハ、第一
作法ノ事テアル。(勤儉貯蓄ノ事ハ、本
道ニ於テハ躬行實踐ノ指導ヲ要スル主
ナモノ、一ツテアルカ、此事ハ別ニ委
シク示サレル事故茲ニハ略ス)然レニ
此作法ノ事チ往々誤ツテ、小笠原流ナ
ドノ禮式ヲ其マ、教ヘルモノカアルカ
此等ハステニ時勢モ異リ、又其事柄カ
高尚テアツテ、普通教育ノ材料トナル
モノハ、甚タ少ナリ。夫レ故カヨリナ
廷達ノ事ニ、時チ費チサナイ様ニ注意
セテハナラヌ。

作法ノ材料ヲ集メル事モ、亦固ヨリ技
術ノ仕事テアル。然シチカラ教則ノ解
釋ヨリ茲ニ望ム所ノ一二ノ例チイヘハ
一通リノ立讀、魚讀、物ノ受ケ渡シ、
出入、行き送ヒ(殊ニ雪道又ハ人込
ノ場合ニ自他ニ便利ニシテ不作法ナラ
サル體ノコトニシテ)、汽車、馬車、汽
船ナトノ乘リアイノ心得、物ノ整理及
掃除ノ仕方(殊ニ女子ニハ勝手室所向
キノ)、其處ノ普通ノ飲食ニカカハル作

法(殊ニ女子ニハ版ノ給仕ノ仕方ナト)
普通其處ノ贈答物ニツイテノ心得、女
子ノ結髪ノ事等(以上主トシテ體ノ賦
ニ屬スルモノ故様返シテ慎リサチハナ
ラヌ)、朝夕ノ挨拶、其他吉凶又ハ見舞
ナトニツイテノ普通ノ口上、用事チタ
シ及ダシ終ツタ返事ノ口上等(以上主
トシテ言語ノ練習ニ屬スルモノ)但シ體
ノ練習チ連合セテハ出來ヌモノ、凡ソ
是等ノ材料(所謂國民教育材料)其趣近
頃ヨリイフ公徳ノ範圍中、其所ニ非テ
ロカ心得オカチハナリヌ事柄ナトハ、
教科書其他普通ノ書物ニアルモノモア
ルケレドモ、モモニ其學校學校チ、其
所所ニ固有ニ普通ノ事柄ヲ取調ヘテオ
イテ、之チ平生ニ使ワル様ニセテハ出來
ヌ事テアル。

此行爲ニカカハル様ハ、固ヨリ唯一兩
度位百テ開カセタノミテハイカン。入
學ノ始ヨリ卒業ノ終マテ、タヘズ繰リ
返シ繰リ返シ其動作ニツイテ體ヲシテ
始メテ仕上ノ出來ルモノナラシメ。サス
レハ是チクノ事ノ仕上ニモ、相應ノ時
間カ入ル、而モ最モ必要ナ事テアルカ
ラ彼ノ目的ノチカツテ修身書ノ講
讀トイフ様ナ事ノミニ費ス時間ヘ、教
授法ノ工夫チ省キ得ワル様チ省カチ
ハナルマイ。

(二)

國語ノ教育ニツイテ、教則ノ目的ノ
上カテ、不足チ感スルハ、普通ノ文字
文章ノ不熟チ事テアル。尋常四年チ卒
業シテモ、受取テ端書モロクニ書ケヌ
トイフ事ハ、屢見聞スル所ナラヌ。
殊ニ其シイノハ、卒業ノモノチ在ツテ、
徴兵ノ檢査ノ折ニ、吾ガ姓名サヘ書ケ
ヌ者カマアルトイフ。教則ハ、教員
ニ固ヨリ力チ要求セヌ。是レ抑モ
誰ノ責任テアルカ、大ニ猛省セテハナ
ラヌ事テアル。所定ノ教科書チ以テ、
此普通ノ需用チ充タス様ニスルニハ、
如何ニセテハナラヌトイフ事ハ、又教
育ノ技術上ノ事テアル。去リナカラ結
局ニ於テ、教科書バカリテハ、材料ノ
是ラヌモノノアル事ハ云フマテモナイ
即チ普通ニ形式ノキマツテ居ル受取
書、扇書、徵稅令書、苗字、名字、其
所モヨリノ地名、制札、展覧、看板ノ
文字ナト、カヨリナモノハ、即チ國民
教育ノ基本材料トシテ、是非其學校學
校チ調ヘ集メタモノテ教ヘナケル出
來ヌ事テアル。夫レ故ニ是等ノ材料ニツ
イテハ、カノ國民教育資料ナトイフ
實リ物ナトハ、イケラカ考ヘテハナラ
ワトモ、其學校ノ當然ノ役ニタヌ事
勿論テアル。

(三)

教授書等ニテトモ、既ニ國家ノ注文
トアル以上ハ、其教則ノ下ニ勤ク學校
長教員ハ、如何ナル工夫チ以テモ、其
注文チ充タサチハナラヌモノナラシメ。
シカラハ今日ノ教授法ノ上ニ於テ、改
良スヘキ點モ少クアルマイ。例ヘハ本
ノ教(ヘルニ、)肝心ノ文字ヨリモ、事柄
ノ授ケルノミ、時チ費ス事、作文ノ問
題又ハ時間カ、記事文ノミニ偏シテ目
用公私ノ用カ、分數ノ演算又ハ背算目
ル事、習字ノ文字カ、實用外ノ大字チ
書カセルチ普通トシテ、却テ算紙、卷
紙ノ類ニナラハセル事ナトノ種チル
事、話チ方ハ平生使ハヌ言葉子ノ演
說のニカタクモアルモ、日常ノ口
上又ハ子供相應ノ體裁チ以テスルモノ
少ク事、是等ハ如何ニシテモ、教則ノ
目的ヲ達スルニ妨ケアル事ト認メラレ
ルカラ、其材料チ、方法チ、速力
ニ之チ改メテハナラヌ事ト思フ。

親切、愛國ナトイフ事ノ、精神上ノ
修養ハ、右等普通ノ行爲上ノ教育ト相
俟ツテ、完成スル事チツトメテハナラ
ヌ。

因ニ言フ、近頃學校ノ管理法清潔法ノ
進步カラ、學校ノ床板チ鏡ノヨウニ拭
イテアルハ、誠ニ結構チコトアル。
去リナカラ之レカタメニ子供ノ動作カ
不活潑ニナリハモメカトイフ心配カアル。
是ハ右ノ清潔チ夫ハモウニスル
ト共ニ、左様チ不活潑ニナラヌヨウ、
體操チナトト相俟ツテ、充分氣チ付ケ
テハナラヌ事テアル。

今一ツハ右等ノタメチチカセル事テ
アル。是レハイカニ教育者カ理解チツ
ケテモ、大體ニ於テ不都合チ事テアル。
即チ洋服チ着ケタトキニ香チカケハ、
恰モ上下チツケタトキニ袋チカクコウ
チモノテ、之チチイテ、ハダシトナル
ハ、却テ不作法チ萬テアル。此不作法
チ學校チ教ヘ、又ハ他人ニ強イル(學
校長カ校則チ以テ、之チ禁シ得ル
職權ハナイ、香チ禁スナトイフ札ハ
早々取り除クナサイ)トイフ事ハ、言
語同斷ノ不都合トイハテハナラヌ。但
泥香ノ儘ナト上ルハ固ヨリナラヌ。
又病室若クハ疊敷ノ所ナトハ、當然ニ
香チ禁シテロシイ。以上清潔チ保ツ
ト共ニ、是等ノ不作法ノチイ様ニスル
タメニハ、入口ニ必ス相當チ香チチ備
ヘル事、職員ナト、内ノ人ハ常ニ之チ
ハカス事トスルモ、儀式ノチリニハ必

其必要ニ依リ混シテ教ヘル事ニナツテ居ル。然ルニ實際多クノ教授テハ、加減又ハ乗除ナトトクテ、原則的演繹的ニ教ヘテ非ル。之際教授法カ、教則ト低級シテ居ル所テ、元來教則カ今ノコトニ程度サテラレタノハ、主ニ實用ノ勘定ニ熟サセル注意カラテアル。然ラハ教授法モ、其注意ニ從テ改メテ、其目的ヲ達スル様ニセナケレハナラズ。

算術ノ教授ニツイテ改良ヲ要スルハ、問題ヲ成ルルタメ其所ノ生活ニカカハルモノニ取ル事、口問口答ノ仕方テ暗算ノ分量ヲ多クスル事、寸尺間數等ニツイテ手足ナトテ使ハセル事、度量衡ノ實物使用ニナレサセル事、成ルルタメ空數ヲ用非サル事、其所ニ固有ノ數量ノ名稱、器具ノ使ヒ方等ヲ教ヘル事ナトテアル。

算術ノ材料モ亦基本材料トシテ、其所ノモノヲ其學校學校集メテ注意ヲ要スル。例ヘハ其所ノ人口、戶數、職業別、反別、產物、輸出入物、其所ノ關係アル遠近ノ交通運程、運送費、日用品ノ賤物價、進シテハ其區町村費ノ豫算決算額ナト、學年ノ程度、子供ノ進歩ノ模範ニ應ジテ、前項ノ諸問題ヲ、カコトナ材料ノ内カラ選ム事ニ注意アリタイ。サスレハ勘定ノ熟達ト共ニ、其所ノ必要ヲ知識、若クハ愛國心ノ基テアル所ノ愛國心ヲ併セテ授ケ養フ事モ出來ル。是等ハ固ヨリ實物ノ算術

コト、實用ノ作法紀律ニ慣ラサセテハナラズ。

(二)本道ニ於テハ、屋内體操場ハマダハ必要テアル。シカシナカラ此體操場ハ雨露ノ場合等、如何ニスルモ外ニ出テヤル事ノ出來ヌ時ニ、使フヘキモノテアツテ、當ニ此中テヤルモノテナイ事ハイフマテモナイ。然ルニ晴天テアツテ、ソトノ運動場ノ充分使ハレル場合ニ、ナホ此屋内體操場ヲ平氣テヤツテ非ルモノカ多イ(甚シイノハ、ストーフチドンドンタイテ)。コトナ弱イ人間ヲ推ヘラレテハ困ル。カコトナ事カ果シテ多イトスレハ、此屋内體操場ハ却テ有害無益物ト認メラレテモ仕方カナイ。當路者ノ猛省ヲ要スル所テアル。(三)休息時間ニハ、ソトメテ屋外ノ運動遊戯ヲ獎勵セラレタイ。屋内體操場ノナキ所ナトハ勿論ノ事テアル。又廊下ナトノ深山アル學校ナトテハ、其廊下ナトニサワカセテ置クモアル様タカ是等ハ注意アリタイ。元來學校ノ建築ナトモ、節約シ得ラレルタメ節約ナサナハナラヌカラ、廊下ナリ、附屬建物ナリ左ノニ必要テモナイ様ナモノハ、ソトメテサケテハナラヌ。教授法ノ上カラ考ヘテモ雨天ノ場合ナトニ、教場ノ中テ相當ニ遊ハセル工夫カナイトモイハレマイ。(四)體育ノ主意カラシテ、相撲、力持ナト、其所相應ノ遊戯ハ、ソトメテ獎勵セラレタイ。之レハ其學校ノ子供許ニ

書ナトニナイ。夫レ故普通ノ算術書ハホソノ參考テ、生徒ノ受ケル教育ハ、教則ノ目的ニ從テ、カコトナ知識技能ヲ得サセル様ニ工夫アリタイ。(四)唱歌ニツイテハ、課程ノ通り勵行ヲ望ムノ外ハナイ。但シ規則ノ手續キチ經ヌ即チ檢定スマスハヤリ歌ナト、ミタリニ教ヘル事ハ、教授上ノ方便ノタメトハイヘ、注意セテハナラヌ事テアル。

(五)裁縫モ亦同様テアル。特ニ普通教育完成ノ上カラ、女子ノ就學ヲ獎勵スル方便トシテモ、マスマス此科目ノ普及ヲ望ム。併シナカラ或ハ其所ニ必要ナ剪裁、刺繍ナト、流行ガマシキ事柄ヲサケテ、成ルルタメ其所ノ實用ヲ主トセラレタイ。特ニ子供ノ家業ノ物ノ縫ヒ、スキ洗濯サトハ、實際的ニ教ヘラレル事ヲ望ム。

(六)國語モ亦同様シク、用紙ヲ多ク使ハセテ、假令教授法ノ上ノ事トハイヘ、出來ルルタメ節約ノ注意ヲ要ス。(七)地理、歴史、理科、是等ノ教科ハ、固ヨリ各事柄ヲ教ヘル答ノモノテアル。ニ、實際ノ讀書ノ教授ト、其形ニ於テモ、其實ニ於テモ、區別ノ出來ヌモノカ多イ。是レ亦修身書ノ使ヒ方ト同シク、教授法ノ上ニ於テ注意改直ヲ要スル所テアル。是等ノ教科ニ使フ材料モ、亦ソトメテ其所ノ手近イモノヲ、モトニスル様注意アリタイ。例ヘハ地理テ其學校内

カキマス、其所ノ卒業生又ハ若キイ者ナトニハ、授業上、取給上等ニ差支ナイ限りハ、隨意ニ出入サセテ、其區町村内ノ活潑有益ノ遊ヒ場所ニナル事ニシタイ。

五 教育ノ技術上ノ方法ハ、如何様ニスルモ、其教員ノ隨意アツテ、學校長ノ職權ノ監督ノ外ハ、ミタリニ他ヨリ干涉セラレモノテナイ。是レ即チ教員ノ職權テアル。サリナカラ前ニモ懸離イフ通り、教則ノ要求ノ結果カラ見テ、到底其要求ヲ充タヌ事カ出來ナイト、認メラレル方法ハ、行政ノ監督上カラ止ムヲ得ス干渉セテハナラヌ事モ出來ル。固ヨリ是等ハ實地ノ問題ニ、一概ニハイヒカタイ事テアリ、又前ニ既ニ述ヘタコトモアレトモ、凡ソ今迄ノ方法ノ中テ、廢止又ハ改正ヲ望ム事柄ハ左ノ通りテアル。(一)教場ノ出入ニ無用ノ時ナ費ス事。(二)問答等ニ立タセナドシテ無用ノ時ナ費ス事。(三)餘飯ノ前ニ屢屢呼出シテ無用ノ時ナ費ス事。(四)教授ノ準備トイフ事ノ手續ハ、ヤリ方ノ巧拙ニハアラワカ、オシナラシテ無効ニ費ス時間多イ事。(五)修身科ニ於テ、筆即チ體ヲ使ハセテ慣ラヌ事ノ稀ナ事。(六)日用ノ口上テ教ヘ慣ラヌ事。(七)國語科ニ於テ其所ノ日用ノ文字文章ノ教ヘ方少イ事。(八)記事文ハカリニ偏シテ、直接普通ニ必要ヲ受取、扇、注文、問合セナトノ公

外カラ始メテ、其區町村以外ニ及ホス事、歴史ノ其所ノ沿革(殊ニ殖民地ニ於テハ其開拓ヨリ今日、重ルマテノ仕事等)社寺ノ事、山嶺アル家トノ事等ヲ以テ基本觀念ヲ作ル事。是等ノ材料モ亦普通ニ教授法ノ上ニ於ケル地圖、國畫、標本、實物ナトノ外、日常普通ニ必要ナ事柄(即チ其所ノモノ)及其所ト直接關係アル地方ナトノモノ)ヲ其學校學校ニテ調ヘ集メ置キ當ニ使用スル事ヲ注意セラレタイ。

(八)課程ニ從テ、其教授法ノ上ニ於テハ、トコマタモ益々勵行セラレタイ。然ルニ(イ)此科目ハ規律ヲ守ル様ナトイフ事モ一ツノ目的テアル。故ニ一般規律上ノ事ハ勿論、特ニ修身科ト連絡ナツケテ、教育スルモノト思フ。實際此邊ノ注意アルカトイカ。

(九)此科目ノ目的ハ、固ヨリ身體ノ強ク健カニスルニ在リ。技能ノ如何ハ其方便ニ過キナイ。然ルニ實際技能ノ本ニノミテ走ル傾カナイカトイカ。(十)修身科ト連絡ニツイテハ、作法ト相俟ツテ(イ)日ノ時勢ニ適スル様ナ、動作ニナレサセテモラヒイ(タトヘハ姿勢ヲミダシテ、賣入ノ前ノ机ノ手ナリサモタヒ、アリタマレヘキ場合ニ足フヨリ無遠慮ニシ、脱帽ヲ忘レ、禮卷ヲナシ、其外道ノ行キアヒヒ人ヤ物ニツキアタルナト、數ヘ來レハ實際限ナイカ、カコトナ實地ノ作法ニ流レヌ

私用文ノ復リ方ノ分際僅少又ハ皆無ト事。(九)話シ方カ平生ノ言葉使トナケイ、又ハ子供ニ不似合ノ言葉使ノモノ多イ事。實地ニハホトント不要ナ大字ハカリ習ハセテ、却テ手紙、端書、扇、標本ナト實用ノ書キ方ヲ教ヘル事少ク、又ハ皆無ト事。(十)算術ノ教ヘ方ハ、學術的ノ順序ニ順キ、實用ノ勘定ノ仕方教ヘナイ事。(十一)一尺、一坪、何何(例ヘハ郵便ノ四匁ノ類)、一斤、一升又ハ何何ナト云フ數ノ基本ノ觀念ヲ確カニ教ヘ(コマズシテ、ミタリニ數量多ク無意味ノ問題ノミチ與ヘル事)。(十二)算術ノ問題ハ大方空數ヲ使ヒ、其所、其時ニ必要ナ假テツケテ教ヘルモノ少ク、又ハ皆無ト事。(十三)日(日分算)以テハ(カナル事)、手親指申指テヒロケタ寸、又ハ兩手ヲヒロケタ尺ナトテ基本トシテ物ヲハカル事、又物ノ目方ヲハカル事ナト)、足(一ト足何尺トイフ事ヲ基本トシテハカル事ナト)、ナトニ依ツテ數ヘ方ヲ助ケル仕方ヲ教ヘルモノナイ事。(十四)度量衡器ヲ用非ス、又ハ使ツテモ子供ノ各サシテ使ヒ慣ラハサセヌ事。(十五)風雨等止ムテ得ヌ場合ナトイフ、口内テバカリ體操、遊戯ナラス事。(十六)雪中ノ遊戯ハ、本道ノ子供ニハ殊ニ必要テアルニ、學校ニ於テハ其方法ノ研究施設ニ注意セヌモノ多イ事。

(十八) 常ニ使ヒモセキ器械、器具其他ノ物
品ナドヲ漫ニ要求シ、若クハ是等ヲ濫
用シテ、校費ヲ濫ミ又ハ教授法ノ改良
ナドト稱ヘテ、筆紙其用他品即チ
子供ノ學費ヲミダリニ増加スル事。

(十九) 衣服、髪飾、傘、下駄ナドノ流行競
争等ニ注意セシメテ、子供又ハ其親親
ニ迷惑ヲ感セサセラルコト。

(二十) 宿泊以上ノ修學旅行ナラス事。
(二十一) 教授上ノ都合ナドト稱ヘ通學ノ遠
近ニカカラス、強テ非當ヲ持テサセ
ル事。

(二十二) 以上(十八)乃至(二十一)ハ義務教
育ノ勵行、即チ子供ノ出席ニ、直接間
接ノ故障ヲ生スル原因ナルカラ、當
路者ハ殊ニ綿密ニ注意アリタイ事。

其他其所ノ日常必要ヲ材料、即チ國民教育ノ
材料ノ使ヒ方カ、甚ク僅少又ハ皆無テアツテ、
是レカテメ教則ノ要求ノ上ケニ、カケル所
ノ多イ事ハ、ステニ前ニ述ヘタ通りテアル
カラ、各學校ニ於テハ、夫夫速ニ取調ヘテ之
ヲ備ヘ、必ス之ヲ使ハセル事ニ致サレタイ。

第五 職員ノ職務ニ關スル事
學校職員ノ職務及服務ニカカハル事ハ、施行規則
以下ニ明文カアツテ、今ツケ加ヘ入ラヌ事テア
ルケレトモ、是レマテノ實際ニ照ラシテ、尙注意
ヲ要スト思フ事柄ナクニシラス。

一 學校長ハ辭令ヲ受ケテ任ニ若イタ時カラ、其
學校ノ仕事ヲトシテ、部下ノ職員ヲ監督ス
ル職權ヲ持ツ。サテ其仕事ハ法令ニ明文ノア
ルモノト、時ニ上級ノ官廳ノ訓令等ニヨリテ、
其範圍カ定マルモノト、是等ノ法令以外ニハ

職務ハナイ。夫レ故タト(學校内ニ起ツタ事
ニセヨ、又學校ノ外テ出來テ似ヨツタ事ニセ
ヨ、此仕事以外ノ事柄アルカラニハ、學校
長タル職權又ハ責任ヲ以テ論スル事ノ出來ナ
イモノナル。例ヘハ學校ヲ教育會場ニ使ヒ、
又ハ他ノ學校ト申合セテ、授業法ノ研究會ヲ
ナストイフ事ナトハ、學校ノ仕事ト甚ク似コ
ツテ居ルケレトモ、今日ノ法令ノモトテハ、
無關係ナル。又ハ學校ヲ徵兵検査ノ爲メナ
トニ使フトキモ、同シク公事ニ使フモノテハ
アルケレトモ、凡ソ學校ノ使用ニツイテ別ニ
規則手續ノアルコトナレハ、必ス其手續ニ從
ツテヤルヘキ事ナル。

學校長ハ、右ノ如ク校務ヲ技術(己レノ受持
子供カアレハ殊更ニ)トシテ、其職權責任カ
アルニヨリ、當ニ事務ノ指揮監督バカリナ
ク、教授上ノ指揮監督ヲシ、之カタメニハ、
少クモ一週間ニ一回宛位ハ、各教員ヲ巡視
シテ、部下ノ仕事ノ如何ヲ知り、殊ニ卒業證
書ヲ渡ス子供ノ成績ハ、其一人一人ニツイテ
モ、明カニ答辯力出來ル程ニナツテチリチ
ナラス、其外私ニ授業ノ時間ヲ伸縮シタリ、
勝手ニ休校ナラシムル様ナ事ハ、固ヨリアル
マシキ事ナラハルカ、尙十分注意シテ違法ノ
事ノナイ様ニセテハナラス。

教員ニツイテモ大體前項同様ナル。教員
ノ仕事ハ任命者任シテ、何學校又ハ何學年ト
イフ受持ヲ命セラル、又ハ教授科目等ヲ以テ、
或事柄ヲ指定セラレテ、始メテ其範圍カ明カ
ニ定マル。夫レ故是等ノ法令ノ明文其他上級
官廳及學校長ノ職權ノ命令(學校ノ内規等モ
相當ノ手續ヲ以テ定マルモノトハ、亦此命令

二
人以上ノ德義ヲ守ラレケレハナラヌ。若シ
學校長教員カ、此常人ニモ劣ル行爲カアルト
スレバ、夫レハ假令成規明文ニ照シテ缺點
所ノモノカナイニシテモ、尙ホ學校長教員ト
シテ許ス事出來ヌ。夫レ故學校内ニ於テハ、
五ニ誠意親切(他ノ缺點ニツイテハ、五ニ忠告
アレ。サモナクシテ亂リニ校事又ハ不平ノコ
トナトシテ他人ニ誹ラシ、又ハ新聞ニ無名ノ
投資チスルナトノ行ヒアルモノハ、既ニ教員
タル品格ノナイモノナル、モシ何カ論議シ
イ事カアラハ、其名ヲ明カニシテ、正堂堂
トナルカコト。サモナクシテソコソコト無責任
任ノ落書ナトナル卑劣者ナ者ハ、宜シク
自退スヘシテアル。子供ノ落書ヲ制スルモ亦
此意ニ外ナラヌ。サテ以テ、和善協同シテ其任
事ノ成效ニ盡ス許リテハナイ、學校外ノ各
日ノ生活上ノ事ナトニ於テモ、此常人ノ行
爲ニ劣ラス、常ニ其以上ノ品格ヲ保ツ事ニ注
意セテハナラス。

右ノ次第ニヨリ、職務ノ内外ニ、注意スヘキ
事柄ノ主ナルモノヲ、參考ノタメ左ニシラス。
職務内
(一) 法規命令ニ應ヒ其職務ヲ誠實ニ勵行ス
ル事。
(二) 學校長ハ部下ノ職員ニ若シ不穩當ノ行
爲アリト認メルモノアルトキハ、之ニ
注意督促ヲ加ヘ、尙改メサルトキハ上
級廳ヘ内申スル事。
(三) 教員ハ五ニ協和シ、若シ他ノ行爲ニツ
キ如何ハシク思フ行爲アルトキハ、親
切ニ忠告シ、其事一校ニ關シテ默スル事
ノ出來ヌ様ナ事ナラハ學校長ヘ内申ス

三
テアル)ニ依ルモノハ、即チ各自ノ職權ヲア
ル。此職權ニ依ツテスル外ニハ、教員トシテ
ノ仕事ハナイ。
入學ノ兒童ハ、教則ニヨリ、且學校長教員ノ
右ノ職權ヲ以テ教育サレタルモノナルカ故
ニ、其子供若クハ保護者ハ、其教則及職權ノ
命令ニハ、絕對ニ服從スヘキモノナルアツテ、
種種ノ注文又ハ苦情ヲ持込ムコトナラハ、先
分是等ノ情態ハ觀察者セテハナラヌ。學校
長教員ト其子供若クハ保護者トノ關係分サハ
右ノ通りテアルカ故ニ、マシキ其外ノ無關係
ノ人カ、學校又ハ職員ノ事ナトニ、囑ケザ
レワレル譯ノモノナク、無關係ナル。
子供ノ懲戒ハ、規則又ハ命令ニ背イタカリト
云ツテ、直ニ之ヲ行フトイフコトハ望ム所ナ
ク、教育ハ、トコ迄モ教育ノ懇切ニ教
育シ、到底其效ノナイニ至ツテ始メテ、懲戒
ナク勵行セウレタイ。此ノ場合ニハ他ニ對シ
テ少シモ遠慮ハ入ラヌ、職權上正當ト認メル
所ヲ勵行ナサシ。但シ物覺エカザルイナトト
云ツテ叱ルコトハ、考ヘ物ヲ、近頃技術上テ
モ廢ツテコトナラヌ。

四
區町村長月長ナカ、法令ノ委任ニヨリテ、
學校ノ事ニ關係スルハ、何レモ明文ノ然リシ
ムル所ナル。其明文カナクモ、法令ノ解釋
上カ、區町村ニ屬スル教育ノ事務、即チ學
校ノ維持保存ノ事ナト、主ニ經濟上ノ事務ニ
ツイテハ、學校長ハ其指揮ニ從ツテ取扱ナ
スヘキモノナル。サレバナカ、職員ノ進退、
勸懲、其他(町村長月長等ハ明文ノ委任アル
モノハ此ノ限リナク)子供ノ教育上ノ事ト

五
トニ就テハ、固ヨリ干渉セラレルモノテハナ
イ。町村長月長學務委員ナトモ此職權ノ區別
ヲ誤ラヌ様ニシ、且又互ニ其責任ヲ他ニ押シ
ツケアテ様ナ事ノナイ様ニセラレタイ。但シ
區長ニハ尙別ニ委任セラレタモノカアル。但シ
學校長ト職員トノ職權即チ仕事ノ區別、職員
ト其學校ノ子供若クハ保護者トノ關係ナト、
右ノ通りナル。然ルニ或ハ教員ト學校長ト
ノ間ナトニ、往々意見ノ衝突カナイテモナイ。
ケレトモ學校ノ仕事ハ右ノ如ク各自ノ範圍限
界カキマツテ居ル故、其以外ニ意見ノ衝突ノ
アラウ事ハナイ。若シ右ノ職權ニツイテ、意
見ノチカフ事カアルハ、是レハ教育行政上、
結局裁判チスルモノカアル。即チ順序ニ從テ、
上級ノ行政廳カ最後ノ決定ヲ與ヘ、此決定一
タヒ定マルハ、ソレテ事カキマル事ナル。
若シ是等ノ決定チマタスシテ、私ニ爭論ス
ルナトハ、即チ學校ノ仕事ナクシテ、法令
以外ノ私事ナル。夫レ故意見ノ異ル場合ニ
ハ、其順序ヲ違フテ上級ノ決定ニ服從シ、若
シ其決定チ法令ナトニ、トウシテモ善カ意ニ
合ハナイ事カアルナラハ、モハヤ自ラ退クノ
外途カナイ。但シ此學校ノ仕事以外ニ法令ノ
改正チ、公益上ノ事柄ナトニ意見アル者ハ、
夫レハ善カ職務上ノ事ナクテ、一般國民ノ
權利トシテ、請願スルナリ、献白スルナリ、
普通ノ道ニ從フヘキ事ナル。學校ノ職員諸
君ハ、特ニ右等職務ノ内外ノ區別ニ注意アリ
タイ。

六
職務上ノ事柄ハ右ノ通りナルカ、元來學校長
教員ハ、教育トイフ重イ仕事ニ任スル人テア
ルカラ、其心モ、其言葉モ、其行モスヘテ常

七
人以上ノ德義ヲ守ラレケレハナラヌ。若シ
學校長教員カ、此常人ニモ劣ル行爲カアルト
スレバ、夫レハ假令成規明文ニ照シテ缺點
所ノモノカナイニシテモ、尙ホ學校長教員ト
シテ許ス事出來ヌ。夫レ故學校内ニ於テハ、
五ニ誠意親切(他ノ缺點ニツイテハ、五ニ忠告
アレ。サモナクシテ亂リニ校事又ハ不平ノコ
トナトシテ他人ニ誹ラシ、又ハ新聞ニ無名ノ
投資チスルナトノ行ヒアルモノハ、既ニ教員
タル品格ノナイモノナル、モシ何カ論議シ
イ事カアラハ、其名ヲ明カニシテ、正堂堂
トナルカコト。サモナクシテソコソコト無責任
任ノ落書ナトナル卑劣者ナ者ハ、宜シク
自退スヘシテアル。子供ノ落書ヲ制スルモ亦
此意ニ外ナラヌ。サテ以テ、和善協同シテ其任
事ノ成效ニ盡ス許リテハナイ、學校外ノ各
日ノ生活上ノ事ナトニ於テモ、此常人ノ行
爲ニ劣ラス、常ニ其以上ノ品格ヲ保ツ事ニ注
意セテハナラス。

右ノ次第ニヨリ、職務ノ内外ニ、注意スヘキ
事柄ノ主ナルモノヲ、參考ノタメ左ニシラス。
職務内
(一) 法規命令ニ應ヒ其職務ヲ誠實ニ勵行ス
ル事。
(二) 學校長ハ部下ノ職員ニ若シ不穩當ノ行
爲アリト認メルモノアルトキハ、之ニ
注意督促ヲ加ヘ、尙改メサルトキハ上
級廳ヘ内申スル事。
(三) 教員ハ五ニ協和シ、若シ他ノ行爲ニツ
キ如何ハシク思フ行爲アルトキハ、親
切ニ忠告シ、其事一校ニ關シテ默スル事
ノ出來ヌ様ナ事ナラハ學校長ヘ内申ス

八
實業補習學校ノ事
實業補習學校ハ、時世ノ必要上、又我國教育ノ方
針カラモ、是カマスマス其設置ヲ獎勵セテハナ
ラヌ。然ルニ是マテ小學校ニ附設シテ補習科、
又實業補習學校ト名ノツテヤラヌモノノ成績ノ、

附錄
(一) 家内和合シ、他ノ批評ヲウケサル事。
(二) 近所親類等ノ交際ナトニ注意スル事。
(三) 金錢ナトノ貸借ニ注意スル事。
(四) 特別必要ノ事ナキニ當リテハ、酒類ヲハ特
ニサナサス事。
(五) 約束コト、特ニ集會出席ナトノ時間ヲ
アヤマラヌ事。
(六) 其所ノ慣例ナトニソムカヌ事。
(七) 尸籍上ノ屑ナトヲ忘ラヌ事。
(八) 納税ノ時期ナトハ常人ノヨリモ早クスル
事。

九
實業補習學校ノ事
實業補習學校ハ、時世ノ必要上、又我國教育ノ方
針カラモ、是カマスマス其設置ヲ獎勵セテハナ
ラヌ。然ルニ是マテ小學校ニ附設シテ補習科、
又實業補習學校ト名ノツテヤラヌモノノ成績ノ、

附錄
(一) 家内和合シ、他ノ批評ヲウケサル事。
(二) 近所親類等ノ交際ナトニ注意スル事。
(三) 金錢ナトノ貸借ニ注意スル事。
(四) 特別必要ノ事ナキニ當リテハ、酒類ヲハ特
ニサナサス事。
(五) 約束コト、特ニ集會出席ナトノ時間ヲ
アヤマラヌ事。
(六) 其所ノ慣例ナトニソムカヌ事。
(七) 尸籍上ノ屑ナトヲ忘ラヌ事。
(八) 納税ノ時期ナトハ常人ノヨリモ早クスル
事。

十
實業補習學校ノ事
實業補習學校ハ、時世ノ必要上、又我國教育ノ方
針カラモ、是カマスマス其設置ヲ獎勵セテハナ
ラヌ。然ルニ是マテ小學校ニ附設シテ補習科、
又實業補習學校ト名ノツテヤラヌモノノ成績ノ、

附錄
(一) 家内和合シ、他ノ批評ヲウケサル事。
(二) 近所親類等ノ交際ナトニ注意スル事。
(三) 金錢ナトノ貸借ニ注意スル事。
(四) 特別必要ノ事ナキニ當リテハ、酒類ヲハ特
ニサナサス事。
(五) 約束コト、特ニ集會出席ナトノ時間ヲ
アヤマラヌ事。
(六) 其所ノ慣例ナトニソムカヌ事。
(七) 尸籍上ノ屑ナトヲ忘ラヌ事。
(八) 納税ノ時期ナトハ常人ノヨリモ早クスル
事。

ア、リ而自カツタモノモ、少クナイナトノ情
況カラ、此施設ヲ遠慮シテ非ル向モアラウ。又教
育ハ中學大學ニ限ルナトイフ誤解カラ、其段階
的高等小學校ノ設立ノミニ傾イタ故モアラウ。ケ
レトモモハヤ區町村トシテモ斯様ナ事ニバカリ日
ヲ暮ラシテ非ルト、只世間ニ後レバカリテナク、
其ノ團體内ノ生活ノ問題ヲ解決セヨトモ出テナク、
校ナ悉レモアルカラ、當路者ハ深ク是等ノ事ニ注
意セラレタリ。

(一) 實業補習學校ノ施設ニツイテハ、近頃ノ規
則ハ、實ニヨク此邊ニ氣ヲ付ケラレテ、其
手續モ甚タタスク出来テ非ル。夫レ故有
力ナ區町村ノ小學校ヘハ、オヒオヒ是レヲ
附設スル計畫ヲ立テテ施行セラレタリ。
教ヘル事ハ、實業トイヘハトテ、必ス木ヤ金
ノ細工ヲスルナトニ限ラス。卒業生(尋常
高等トモ)ノ望ミニ依テ夜又ハ休日ナトニ、
一時間ナリ、二時間ナリ(或ハ年内ノ冬夏
季ナトアル季節ヲ限ツテモヨイ)各ノ好ム
農、工、商、水産ナトノ讀本ヲ教ヘ、又ハ
職業用ノ算盤ヲ教ヘ、又ハ同様手紙ノ書キ
方帳面ノ付ケ方ナトヲ教ヘ、又ハ縫紉洗濯
ノ事柄ノ内只一ツヲ教ヘ、又ハ其ノ右等
以上ヲ兼テ教ヘ、又ハ人ニ交ゼヨセニ
教ヘテモ、皆實業ノ補習ナル。生徒ノ人
數モ、必ス何人以上トイフ様ナ事ハナイ、
一二人テモ、十人テモ、何十人テモヨシ
イ。

(二) 實業補習學校ノ施設ニツイテハ、近頃ノ規
則ハ、實ニヨク此邊ニ氣ヲ付ケラレテ、其
手續モ甚タタスク出来テ非ル。夫レ故有
力ナ區町村ノ小學校ヘハ、オヒオヒ是レヲ
附設スル計畫ヲ立テテ施行セラレタリ。
教ヘル事ハ、實業トイヘハトテ、必ス木ヤ金
ノ細工ヲスルナトニ限ラス。卒業生(尋常
高等トモ)ノ望ミニ依テ夜又ハ休日ナトニ、
一時間ナリ、二時間ナリ(或ハ年内ノ冬夏
季ナトアル季節ヲ限ツテモヨイ)各ノ好ム
農、工、商、水産ナトノ讀本ヲ教ヘ、又ハ
職業用ノ算盤ヲ教ヘ、又ハ同様手紙ノ書キ
方帳面ノ付ケ方ナトヲ教ヘ、又ハ縫紉洗濯
ノ事柄ノ内只一ツヲ教ヘ、又ハ其ノ右等
以上ヲ兼テ教ヘ、又ハ人ニ交ゼヨセニ
教ヘテモ、皆實業ノ補習ナル。生徒ノ人
數モ、必ス何人以上トイフ様ナ事ハナイ、
一二人テモ、十人テモ、何十人テモヨシ
イ。

(三) 教ヘル事、生徒ナトノ都合モ右ノ通りテア
ルカ故ニ、其教ヘル人モ、ナルタケ手輕イ
都合テヤラレタリ。即チナルタケ其附設ノ

學校ノ職員ヲ頼ム事ニシテ、其所ノタメメ
アルカラ、其職員モ報酬ナトノ事ナク彼是ナ
カマシク云ハスニ誓セラレタリ。又教ヘ
方ノ心得モ、普通ノ補習ナルカラ、別ニ
實業ノ技能ノナイ人テモヨシイ。只學問
ハ學者又ハ業餘ヲ作ルメテアルトイフカ
如キ古イ考ハ禁物ナリ、何テモ其所ノ生活業
務ノ情態ニ氣ヲ付ケ、其外實業上ノ智識技
能ノアル人ヲアレハ尙結構ナル。夫レ故
何カ特別ノ技能ヲ要スル教科ヲ加ヘル場合
ノ外ハ、別ニ專門ノ教師ヲ置ク様ナ費澤
事ノナイ様ニセラレタリ。但シヒニ其所ニ
篤志ヲ専門家ナトカアツテ、振ツテ其事ニ
當ツテクレル様ナ人カアレハ、補佐合ナ事
ナル。

(四) 教ヘル場所、用具ナトモナルタケ小學校ノ
モノヲ其儘使用スル様ニセラレタリ。別ニ
校舍ヲ建テラレトモ、道ツテ進ンタ上ノ事
ナル。但所ニヨリ費用ノカカラズ便利ナ
借家ナトカアレハ、勿論ソレモ宜シイ。而
シテ此ノ補習學校ハ、大抵ハ夜學、又ハ晝
テモ他ノ職員子供ナトノ居ラヌトキヤル
テアルカラ、火ノ元、其外男女ノ品行向
取方カハラ、始メカ用心シテ、嚴シク極メ
テカカラムトイカヌ。但アマリ此ノトク
テ、此所ニ出ルルナリテ注意セヨイカヌ。
是等ハ當局者ノ親切ヲ注意セヨイカヌ。
費用ハ固ヨリ學校ノ方モ、生徒ノ方モ節約
シテラレタリ。始メハナルタケ炭油代位
テスム位カコソシイ。ソレモナルタケ其學
校ノモノヲ貸與ヘテ、生徒ニ出シ合ハサセ
ルナトノ事ハ、止メラレタリ。夫レ故生徒

(五) 學校ノ職員ヲ頼ム事ニシテ、其所ノタメメ
アルカラ、其職員モ報酬ナトノ事ナク彼是ナ
カマシク云ハスニ誓セラレタリ。又教ヘ
方ノ心得モ、普通ノ補習ナルカラ、別ニ
實業ノ技能ノナイ人テモヨシイ。只學問
ハ學者又ハ業餘ヲ作ルメテアルトイフカ
如キ古イ考ハ禁物ナリ、何テモ其所ノ生活業
務ノ情態ニ氣ヲ付ケ、其外實業上ノ智識技
能ノアル人ヲアレハ尙結構ナル。夫レ故
何カ特別ノ技能ヲ要スル教科ヲ加ヘル場合
ノ外ハ、別ニ專門ノ教師ヲ置ク様ナ費澤
事ノナイ様ニセラレタリ。但シヒニ其所ニ
篤志ヲ専門家ナトカアツテ、振ツテ其事ニ
當ツテクレル様ナ人カアレハ、補佐合ナ事
ナル。

カ、リハ、ナルタケ授業料ヲ取ラヌ様、又已
ムテ得ニ取ルニシテモ極少クセラレタリ。
教員ノ報酬ハ、教員ノ方カラハ、所謂常人
以上ノ品格ヲ保ツヘキ人ナルカラ、無理
ナ事モ言ハレマイカ、區町村トシテハ、宜
シク相當ノ勞ニ相イラレ注意カアラタリ。是
等ハ必要費アルカラ、アマリケケテセ
ムカロイ。

○明治三十五年九月二十七日訓令第六十一號(文
部省) 區町村役場長長役場區町村立小學校
尋常小學校ニ於テ年齡凡十歲以上ノ兒童ニシテ始
メテ就學スル者又見守ノ備置スル者ノ數一學級
以上ニ編制スルニ足ルトキハ成ルヘク他ノ兒童ト
其學級ヲ殊ニシテ左ノ要項ニ準ジテ編制ノ教育ヲ
施スコトヲ要ス又右ノ兒童ト同一學級ニ
編制シタル場合ニ於テ右ノ要項ヲ準ジテ以
テ適當ノ教育ヲ施サントシテ努ムヘシ

第一 兒童ノ數ニ學級以上ニ編制スルニ足ルト
キハ其ノ年齡及能力發達ノ程度ニ依リ適當ノ
編制ヲナスヘシ

第二 同一學級ノ兒童ノ數部ニ區分シテ教授ス
ルコトヲ要スルトキハ其區分ノ標準亦前項ニ
準スヘシ

第三 平日小學校ノ例ニ依リ兒童ヲ二部ニ分チ
午前午後ノ二回ニ教授スルモ妨ケナシ

第四 教授時間ハ必スシモ正教科ノ教授時間ニ
定ムルコトヲ要セス

第五 每週ノ教授時數ハ十八時ヲ減スルコト
ヲ得故ニ同一學級全部ノ時間ト一定スルコ
トヲ得ルハ勿論ナリト雖モ場合ニ依リテハ其
ノ一部ハ十八時、二十一時又ハ二十七時等區
區ナルモ妨ケナシ

第六 智識、技能ハ兒童將來ノ生活ニ注意シテ
最モ重要ナル事項ヲ選ビ且區町村住民ト
シテ直接關係ナリ有スル事項ハ特ニ留意シテ之
ヲ教授スヘシ

第七 修身ノ教育ニ關スル勸告ノ旨趣ニ基キ道
徳ノ要旨ヲ授ケヘキハ勿論ナリト雖モ特ニ勤
勉、恭儉、信實、公德等ニ就キ實踐ニ適切ナ
ル近易ノ事項及日常ノ作法簡易ナル攝生法ヲ
授ケヘシ

飲食、奢侈、野卑等ノ惡風ニ陷ラサル様特ニ
訓戒スルコトヲ要ス

第八 國語ノ教授時間ハ讀ミ方、綴リ方、書キ
方ニ區別セシメテ教授スルヲ普通トシテ特ニ言
語ノ練習ニ注意スルコトヲ要ス綴リ方ハ成ル
ヘク談話體ナリ非違意ヲ主トシ又務メテ實地
ニ應用セシムルコトヲ要ス

漢字ハ成ルヘク其ノ數ヲ節減シ應用最モ廣キ
モノヲ選ブヘシ

第九 算術ハ算算ヲ單用シ且ツ特ニ暗算ニ習熟
セシムヘシ

第十 體操ハ主トシテ遊戲ヲ課スヘシ又遊戲ノ
際ニハ成ルヘク清爽快活ナル唱歌ヲ授ケヘシ

第十一 女子ノ爲メニハ成ルヘク裁縫ヲ加フヘ
シ

第十二 教授細目ハ特ニ之ヲ定ムヘシ

第十三 各教科ノ教授ノ程度ハ現行規定ノ課程
ヲ斟酌シテ兒童心身ノ發達ニ適當ヒシメシム
コトヲ務ムヘシ

第十四 兒童ノ學業成績ヲ考査シテ隨時其ノ年
齡相當以下ノ學年ニ編入シ又ハ卒業ヲ認定ス
ルコトヲ得

第十五 兒童轉任其他ノ事由ニ因リ退學スルト
キハ在學中ノ成績ヲ認定シテ相當ノ證明書ヲ

與フルコトヲ得

第十六 訓練ニ關シテハ特ニ適當ノ方法ヲ講ス
ヘシ例ヘハ部長若ハ級長ノ制ヲ設ケルカ如キ
又ハ成ルヘク自治、自働ノ習慣ヲ養フカ如キ
ハ最モ必要ナリ

第十七 見守兒童ニ付テハ教授ノ爲メ見守ノ保
育上ニ際シテ及ホスコトナキ様深ク留意スル
コトヲ要ス

見守兒童多數ナルトキハ該兒童互ニ見守看護
當番ヲ設ケルカ如キ制ヲ設ケヘシ見守ノ爲メ
ニハ成ルヘク玩具類ヲ備フヘシ

○明治三十年一月十九日訓令第四號(都區役所戶
長役場小學校宛)

普通教育ノ設備上完全ナ期スルカ爲メ成ルヘク左
ノ施設及調査ヲ爲スヘシ

一 各都區役所(直轄ノ分)各戶長役場部内若クハ數
戶長役場部内ヲ連合シテ毎年小學校教員ヲ召
集シ教授上管理上及學校衛生上ニ關スル事項
ノ協議會ヲ開クヘシ

一 各都區役所ニ於テ毎年一回其部内ノ小學校ロ
リ教員一名若クハ數名ヲ召集シテ教授上管理
上及學校衛生上ニ關スル事項ノ協議會ヲ開ク
ヘシ

一 (三十四年一月訓令第四號ヲ以テ本項削除)

一 卒業生ハ勿論半退學ノ者ト雖モ成ルヘク學
校ニ集會セシムル方法ヲ設ケ在學中學習シタ
ル事柄ヲ遺忘セシメサラシムルコトヲ務ムヘ
シ

○明治三十二年十一月二十二日訓令第六百七十九號
(支廳區役所宛)

學齡兒童ノ就學督促ハ實ニ教育行政ノ一大要務ナ
リ從來本道ニ於テハ學齡兒童就學ニ關スル規則ア

ルモ概シテ調査ノ精密ト決キ隨テ督促亦周到ナリ
サルノ體ナキニアラス自今大ニ教育ノ振興ヲ謀リ
當事者ヲシテ充分ノ精査ヲ遂ケ督促ヲ精シメ
以テ實績ヲ舉ゲシムルコトヲ期スヘシ依テ準備スヘキ
要項ヲ示ス左ノ如シ

一 土地ノ情況ヲ酌量シテ一定ノ年限ナリテ學齡
兒童百ニ付就學八十五以上ニ達セシムルコト
一 校舎ハ收容スヘキ兒童數ニ相應シ前項所定ノ
年限内ニ設備ヲ整フルコト

一 前各項ニ依リテ定ムル所ノ年限ハ其理由ト具
シテ開申スルコト

○明治三十四年三月二十七日訓令第三十一號
學齡兒童就學ニ關スル規則

學齡兒童就學ニ關スル規則

第一條 區町村長ハ毎年一月末日マデ其ノ
年四月ニ於テ就學ノ始期ニ達スヘキ兒童及其ノ
年三月限リ就學猶豫満期トナルヘキ兒童ヲシテ
就學セシムヘキ期日及學校ノ定メテ之ヲ保護
者ニ通知スヘシ

第二條 前條ノ通知ヲ受ケタル兒童ノ保護者ニシ
テ小學校令施行規則第八十四條ニ依リ免除若ハ
猶豫ヲ請ハントスル者、小學校令第三十六條第
一項但書ニ依リ認可ヲ受ケントスル者、又ハ區
町村長ノ指定以外ノ學校ニ於テ小學校ノ教
科ヲ修メシメントスル者ハ二月十五日マデ區
町村長ノ申立ヲヘシ

第三條 區町村長ハ前條ノ申立ニシテ小學校
令第三十三條ニ依リ免除若ハ猶豫スヘキモノノ
リト認ムルトキハ其ノ事由ヲ詳具シ二月末日マ
デニ監督官廳ニ申出スヘシ

前項申出後同一ノ事由アルトキハ其ノ都度前項
ノ手續ヲ爲スヘシ

第五類 小學校

第四條 免除若ハ猶豫ヲ受ケタル者ト雖モ其ノ事
 故止ミタルトキハ兒童ノ保護者ニ於テ直ニ區町
 村長戸長ニ申立ツヘシ此場合ニハ區町村長戸長
 ハ遲滞ナク之ヲ學齡簿ニ記入スヘシ

第五條 區町村長戸長ニ於テ小學校令施行規則第
 八十一條第一項又ハ同條第二項ニ依リ學齡簿ニ
 記入シタルトキ又ハ小學校令施行規則第九十六
 條後段ノ届出アリタルトキハ遲滞ナク本規則第
 一條ノ規定ニ準シ相當ノ取扱ヲ爲スヘシ

第六條 區町村長戸長ハ小學校令施行規則第八十
 三條ニ依リ兒童ノ氏名、生年月、住所、入學期
 日及保護者ノ氏名、住所、職業並兒童トノ關係
 ナ三月三十日マテニ關係學校長ニ通知スヘシ

第七條 區町村長戸長ハ前條ノ通知ヲ爲シタル後
 其ノ就學ニ關シ異動ヲ生シタルトキハ其都度關
 係學校長ニ通知スヘシ

第八條 區町村長戸長ハ尋常小學校ノ教科ヲ終了
 シタル學齡兒童ニシテ其ノ區町村ニ來住シタル
 者アルトキハ遲滞ナク其ノ兒童ノ就學ノ始期ニ
 達シタル年ノ學齡簿ニ記入スヘシ

第九條 小學校設置區域及小學校ノ位置指定ニ關
 スル規則第二條ニ依リ教育事務ノ委託ヲ受ケ若
 ハ小學校令施行規則第八十八條ニ依リ他區町村
 コリ通學スル者アル場合ニ於テハ就學ノ事務申
 兒童ノ出席ニ關スル事務ハ該兒童在學ノ學校ニ
 於テ其ノ他ノ事務ハ該兒童居住ノ區町村ニ於テ
 取扱フヘシ

第十條 區町村長戸長ハ小學校令第三十六條第一
 項但書ニ依リ認可ヲ與ヘタル兒童ノ教育ヲ監督
 スル爲メ毎月一回以上其ノ實況ヲ觀察スヘシ

第十一條 小學校令施行規則第九十三條ノ督促ハ
 區町村長戸長ニ於テ報告ヲ受ケタルトキ遲滞ナ
 ク之ヲ行ヒ三週間以内ニ完了スヘシ

第十二條 小學校令施行規則第九十一條第九十二
 條ノ報告後該兒童ニシテ就學者ハ出席シタルト
 キハ小學校長ハ其ノ旨ヲ關係區町村長戸長ニ報
 告スヘシ

第十三條 小學校令施行規則第九十三條第二項ノ報告後該
 兒童ニシテ就學者ハ出席シタルトキハ區町村長
 戸長ハ其ノ旨ヲ監督官廳ニ報告スヘシ

第十四條 區町村立尋常小學校長ニ於テ小學校令
 第三十八條ニ依リ兒童ノ出席ヲ停止シタルトキ
 ハ遲滞ナク其ノ事由ヲ關係區町村長戸長ニ報告
 スヘシ其ノ停止ヲ解キタルトキ亦同シ

第十五條 本規則ニ於テ區町村立尋常小學校長ト
 アルハ簡易教育所首席教員ヲ包含ス

附則
 第三十條 明治三十二年十二月北海道廳令第百
 十七號學齡兒童就學規則ハ之ヲ廢止ス

第三十一條 明治三十六年二月十一日訓令第九號(支廳區役
 所町村役場戸長役場區町村立尋常小學校宛)
 學齡兒童ノ就學事務ニ關シテハ小學校令施行規則
 及明治三十四年(三月)北海道廳令第三十一號ニ依
 リ夫々整理スルハ勿論ナリト雖モ此ノ事務ハ根本タ
 ト能ハサルニ付尙左ノ通取計フヘシ

一 區町村長戸長ハ戸籍簿、寄附簿ニ據リ三月二十
 日(成規ニ於テハ前年十二月末日ナレトモ未調
 製ノモノニ對シ本年限り)以前一定ノ期日ヲ定
 メ其區町村內ニ居住セル學齡兒童(假令ハ明治
 三十六年次ハ明治二十九年五月一日生ヨリ明治
 三十年四月一日生マテノモノ)ヲ調査シ左ノ各
 號ニ依リ加除シタルモノヲ以テ學齡簿ノ人員ヲ
 定メ就學者實ノ用ニ供スヘシ

一、一箇年以上居所分明ナラサル者(假令ハ明
 治三十四年十二月調査(三十五年次學齡簿編
 製ノトキ)ノ時以來引續住所不明ノモノ即チ
 無籍ニテ他ヘ轉居若ハ行方不明ノ者)ハ學齡
 簿中ヨリ除クヘシ

二、居所分明ナルサレドモ一箇年未満ノ者ハ各
 人ニ就キ其ノ旨ヲ報告シ置クヘシ

三、區町村內實地ノ調査ヲナシ無籍ニテ他ヨリ
 來住シ居ル學齡兒童ハ之ヲ學齡簿ニ登錄スヘ
 シ

四、戸籍上現ニ年中ニアルモ實際ノ年齡ト一
 見符合セサル者アリハ醫師ノ診斷書ニ依リ推
 定ノ年齡ヲ以テ學齡簿ニ加除シ其ノ旨ヲ報告シ
 置クヘシ

但シ戸籍上未タ學齡ニ達セサルモ實際ハ既
 ニ學齡ニ達シタルコト一見明白ナルモノア
 ルトキハ本文ノ手續ニ準シ本廳ノ指揮ヲ受
 ケル上學齡簿ニ加フルコトヲ得

二前項ノ手續ハ必ス之ヲ勵行シ監督官廳ハ其ノ情況
 ヲ監督スヘシ但本令發布前ニ於テ(明治三十五
 年十二月以後)已ニ前項ノ手續ヲナシタルモノ
 ハ假令調査ノ期日(第一項ニ示シタル期日)異
 ナルモノト雖再調査スルヲ要セス

三以上ニ依リ就學者實ヲ實行シタルトキハ左ノ表
 式ニ依リ區町村長戸長ハ支廳長ニ尋常小學校長
 (簡易教育所首席教員)合メ以下同シ)ハ支廳長
 區長ニ報告スヘシ

支廳長區長ハ學事年報(明治三十四年三月訓令
 第十八號)ト同時ニ長官ニ報告スヘシ

區町村長、戸長及尋常小學校長ヨリ支廳長區長ニ
 報告ノ期日ハ支廳長區長ニ於テ適當之ヲ定ムヘ
 シ

四支廳長區長ハ本令中必要ノ事項ヲ立立尋常小學
 校長ニ傳達スヘシ

第一號表

何何尋常小學校
 簡易教育所明治何年度學齡兒童就學成績表

(其ノ年度五月一日調)

種別	明治三十六年次兒童		明治三十五年次兒童		明治三十四年次兒童		明治三十三年次兒童		明治三十二年次兒童		明治三十一年次兒童		明治三十年次兒童		明治二十九年次兒童		計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
前學年前ヨリ尋常小學校ノ教科ヲ修ムル者																	
本學年ニ至リ入學セル者																	
合計																	

一 本表中明治何年次兒童トハ假令ハ明治三十六年次ハ(明治二十九年五月一日生ヨリ明治三十年四月一日生マテ)ノ兒童ヲ云ヒ明治三十五年次ハ(明治二十八年五月生ヨリ明治二十九年四月生マテ)ノ兒童ヲ云フ其ノ以上ハ三十五年次ノ兒童計算ノ例ニ依リ其ノ區町村ノ學齡簿ニ記載セラレ其ノ小學校、簡易教育所ノ學齡簿ニ現在スル學齡兒童ニ就テ調査スヘキモノトシ但シ學齡以外ノ者ハ勿論次項ノ兒童計算スヘカラス

二 他町村ヨリ通學スルモノアルトキハ本表ニ假令(町村別)別紙ニ認メ添付スヘシ

何區町村(何戸長役場部内)明治何年度學齡兒童成績表

第五類 小學校

種別	明治三十年次兒童		明治二十九年次兒童		明治二十八年次兒童		明治二十七年次兒童		明治二十六年次兒童		明治二十五年次兒童		計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
尋常小													
在學兒童													
本區町村尋常小學校													
合計													

第五類 小學校

五四六

- 一 本表第二號表ニ依リ調査スヘシ但シ調査ノ際第二號表ノ尋常小學校在學兒童ノ欄木區町村尋常小學校在學兒童數ト第一號ノ前學年以前ヨリ尋常小學校ノ教科ヲ修ムル者ノ計數ト(其ノ區町村内各小學校全部ノ表ノ合計數)符合スヘキモノニ付之ヲ檢スヘシ
- 二 本學年入學兒童ノ欄其ノ區町村内尋常小學校入學者ノ數ト第一號表ノ本學年ニ至リ入學セル者ノ數ト(其ノ區町村内小學校全部ノ表ノ合計數)符合スヘキモノニ付之ヲ檢スヘシ
- 三 第一號表ト同時ニ進達セル別表即チ他町村ヨリ通學ノ兒童數ト第二號表尋常小學校在學兒童ノ欄他區町村尋常小學校在學兒童數及本學年入學兒童ノ欄他區町村尋常小學校入學兒童數カ符合スルヤ否ヤヲ檢スヘシ
- 四 第二號表說明第五項ニ該當スル兒童アルトキハ其數ハ本表不就學ノ欄猶豫ノ部貧窮ノ下ヘ假ニ其ノ他ノ一欄ヲ設ケ茲ニ計入シ其理由書ハ本表ニ添附進達スヘシ

○明治三十四年五月一日總令第七十號
小學校令第二十五條ニ依リ明治三十年(三月)北海道廳令第九號ヲ左ノ通り改正ス

教科目	圖書名	卷冊	訂正年月日	編者	出版者
國語	北海道尋常小學讀本	卷一	明治三十四年三月廿七日訂正印刷	文部省	大日本圖書株式會社
		卷二	明治三十四年三月廿七日訂正印刷		
		卷三	明治三十四年三月廿七日訂正印刷		
		卷四	明治三十四年三月廿七日訂正印刷		

○明治三十一年二月八日總令第九號
尋常小學校讀書教科用圖書及其配當表左ノ通り相定メ本年四月一日ヨリ施行ス

教科目	圖書名	卷冊	訂正年月日	編者	出版者
國語	北海道尋常小學讀本	卷三	明治三十一年二月八日訂正印刷	文部省	大日本圖書株式會社
		卷四	明治三十一年二月八日訂正印刷		
		卷五	明治三十一年二月八日訂正印刷		
		卷六	明治三十一年二月八日訂正印刷		
		卷七	明治三十一年二月八日訂正印刷		
		卷八	明治三十一年二月八日訂正印刷		

○明治三十一年五月十九日總令第四十號
尋常小學校讀書教科用圖書及其配當表左ノ通り相定メ本年四月一日ヨリ施行ス

教科目	圖書名	卷冊	訂正年月日	編者	出版者
國語	北海道尋常小學讀本	卷三	明治三十一年五月十九日訂正印刷	文部省	大日本圖書株式會社
		卷四	明治三十一年五月十九日訂正印刷		
		卷五	明治三十一年五月十九日訂正印刷		
		卷六	明治三十一年五月十九日訂正印刷		
		卷七	明治三十一年五月十九日訂正印刷		
		卷八	明治三十一年五月十九日訂正印刷		

教科目	圖書名	卷冊	訂正年月日	編者	出版者
國語	北海道尋常小學讀本	卷三	明治三十一年五月十九日訂正印刷	文部省	大日本圖書株式會社
		卷四	明治三十一年五月十九日訂正印刷		
		卷五	明治三十一年五月十九日訂正印刷		
		卷六	明治三十一年五月十九日訂正印刷		
		卷七	明治三十一年五月十九日訂正印刷		
		卷八	明治三十一年五月十九日訂正印刷		

○明治三十四年十二月十五日總令第七十三號
小學校修身、國語、算術、圖畫、地理、日本歷史及理科ノ教科用圖書左ノ通り相定メ明治三十五年四月一日ヨリ施行ス

教科目	種類	圖書名	卷冊	發行年月日	檢定年月日	著者	發行者
修身	兒童用	尋常修身教本甲編兒童用	全四冊	明治三十四年八月十日訂正印刷	明治三十四年八月十六日	文學社編輯所	小林義則
國語	兒童用	尋常國語習字手本尋常科	全八冊	明治三十四年八月二十二日訂正印刷	明治三十四年九月十四日	加納友市	會社
算術	教員用	尋常算術教科書入門教員用	全四冊	明治三十四年九月九日訂正印刷	明治三十四年九月十三日	金港堂書籍株式會社	金港堂書籍株式會社
圖畫	兒童用	尋常圖畫教科書甲種	全三ノ上	明治三十四年十月一日訂正印刷	明治三十四年十月八日	竹内栖鳳	株式會社普及會
國語	兒童用	尋常國語習字手本尋常科	全六冊	明治三十四年十一月八日訂正印刷	明治三十三年十二月十七日	渡井忠	金港堂書籍株式會社

第五類 小學校

五四七

定期清潔法
 定期清潔法ハ毎年二回以上之ヲ行フモノトス
 十 教室内ニアル机腰掛等ヲ室外ニ出シテ戸障子窓掛等ヲ外シ牀板及扉下ニ撒水シ天井四壁牀板下等悉ク之ヲ掃ヒ然レ後清水ヲ以テ洗拭スヘシ但汚染殊ニ甚シキ部分及ヒ器具等ハ熱湯汁若クハ石鹼水ヲ以テ洗拭スヘシ
 十一 簾下、牀下等モ手ノ届ク限リ之ヲ掃ヒ外部ノ羽目及窓廻リハ龍吐水等ヲ以テ洗拭スヘシ
 十二 窓掛ハ之ヲ洗滌シ書籍文具等ハ日光ニ曝シ刷拭スヘシ
 十三 器具ハ總テ室ノ乾キタル後ニアラレハ室内ニ持込ムヘカラス
 十四 掃除後五日間以上窓ヲ開キ空氣及日光ヲ通セムヘシ
 十五 牀板壁面等ノ磨滅アルモノハ此際之ヲ填塞シ風穴、煙突等ノ塵埃ハ之ヲ除去スヘシ
 十六 糞糞室、體操室、生徒控所、職員室、室直室、小使室、便所、下水、芥藁場等ハ此際大掃除ナシ且少破損アル處ハ悉ク修理ヲ加フヘシ
 十七 浸水後ノ清潔法
 十八 洪水ノ害ヲ被リタル小學校ハ開校前左ノ清潔方法ヲ施行スヘシ
 十九 シテ空氣ヲ通シ且少牀下ノ汚物泥土ヲ除去シ場合ニ依リテハ焚火火鉢等ヲ用ヒテ充分ニ乾燥セシムヘシ
 二十 器具、牀板、校具、腰張等ノ浸水シタル者ハ清水又ハ熱湯ヲ以テ洗拭シタル後成レヘク之ヲ日光ニ曝シ充分ニ乾燥セシムヘシ
 二十一 浸水ノ害ヲ被リタル井戸ハ必ス數回之ヲ汲

潔シテ汚物ヲ除キ井戸側ハ清水ヲ以テ洗ヒ能ク水ノ澄ミタル後ニ之ヲ使用スヘシ但開校後一箇月ハ必ス其水ヲ煮沸シテ飲用スヘシ
 十九 右ノ外定期清潔法ニ掲ケタル各項ヲ適宜ニ適用スヘシ
 ○明治二十八年三月七日總令第八號
 文部大臣ノ指定ニ依リ明治二十五年四月勅令第四十號市制町村制施行セサル地方ノ小學校教育規程ヲ明治二十八年四月一日ヨリ當經下ニ施行ス
 ○明治三十四年三月二十七日總令第三十二號
 明治三十五年勅令第四十號市制町村制施行セサル地方ノ小學校教育規程第二條ニ基キ區町村立小學校設置區域及區町村立小學校ノ位置指定ニ關スル規則左ノ通定ム
 小學校設置區域及小學校ノ位置指定ニ關スル規則
 第一條 少學校設置區域ハ區ニ在リテハ區ノ區域ニ依リ町村ニ在リテハ町村ノ區域ニ依ル但シ戶長役場所轄ノ町村ニ在リテハ其ノ所轄區域ニ依ル
 第二條 支廳長ハ小學校設置區域ノ町村ニシテ左ノ各條ノ一ニ該當スルモノアリト認ムルトキハ北海道廳長官ノ認可ヲ得テ其教育事務ヲ他ノ小學校設置區域ノ區町村ニ委託セシムヘシ
 一 就學セシムヘキ兒童ノ數一、小學校ヲ構成スルニ足ラサルモノ
 二 適度ノ通學路程内ニ於テ一、小學校ヲ構成スルニ足ルヘキ兒童數ヲ得ルコト能ハサルモノ
 前項ノ場合ニ於テ他支廳管内又ハ區ニ跨ルコト

キハ關係支廳長官ノ承諾ヲ受ケルヲ要ス
 前二項ノ場合ニ於テハ支廳長官ハ應ニ關係町村ノ意見ヲ聞クヘシ
 第三條 北海道廳長官ハ前條ノ事情アルモ同條ノ規程ニ依リコトヲ得スト認ムルトキハ小學校設置區域ヲシテ其ノ一部ニ關シテハ小學校ノ設置又ハ兒童教育事務ノ委託ニ關スル義務ヲ免レンムルコトアルヘシ
 第四條 支廳長官ニ於テ小學校若ハ分教場ノ設置ヲ要スルモノアリト認ムルトキハ其ノ位置指定ニ關シ北海道廳長官ニ上申スヘシ其ノ變更ヲ要スルモノアリト認ムルトキ亦同シ
 第五條 區町村長官ハ小學校設置區域内ニ數校アル場合ニ於テハ便宜通學區域ヲ設ケルコトヲ得
 第六條 區町村長官ニ於テ通學區域ヲ設ケタルトキハ北海道廳長官ニ開申スヘシ
 第七條 從前ノ規程ニ依リ特ニ指定シタル小學校設置區域及小學校設置區域ヲ分割シタル場合ハ本令第一條ニ依リ特ニ指定シタル小學校設置區域ト看做ス
 第七條 明治三十一年(七月)北海道廳令第五十六號ハ之ヲ廢止ス
 ○明治三十四年三月三十一日總令第二十號(支廳區役所町村役場戶長役場宛)
 明治三十四年(三月)北海道廳令第三十二號小學校設置區域及小學校ノ位置指定ニ關スル規則第四條ニ依リ上申ニハ左記第一號乃至第七號ノ認可、第五條ニ依リ開申ニハ左記第四號及第七號ノ認可ヲ添附スヘシ
 一 區町村立小學校高等小學校ノ別

位置
 一 區町村、大字、字、地番、地目、段別並右租地、無租地、貸付地、付與地ノ別ヲ記シ其ノ二筆以上ニ涉ルモノハ一筆毎ニ記スヘシ
 二 校地及其ノ附近ノ情況
 三 道徳上衛生上ニ關スル情況、水ノ供給及水質ノ良否、通學ノ便否及其ノ最近距離等ヲ記スヘシ
 四 小學校設置區域及通學區域内ノ戶數、人口、男女年齡兒童數並新設スヘキ小學校ニ對シ適度ノ通學路程内ニ在ル男女年齡兒童數在學セシムヘキ男女年齡兒童數
 五 校地ノ圖面(縮尺六百分ノ一用紙美濃紙)
 六 方位、校地ノ區域、屋外體操場ノ區域及坪數、隣接スル土地道路山川等地勢ノ概況ヲ表示スヘシ
 七 小學校設置區域ノ地圖
 方位、區町村ノ境界町村、大字、字、道路山川湖海ノ位置及名稱、人家ノ所在、各小學校ノ位置及各校間ノ距離、各校ニ對シ通學ノ區域及其ノ各字ヨリ小學校ニ至ル距離等ヲ表示スヘシ
 ○明治三十四年四月九日總令第五十七號
 簡易教育規程左ノ通り改正ス
 簡易教育規程
 第一條 町村又ハ其ノ一部ニシテ尋常小學校設置ニ關スル費用ノ負擔ニ堪ヘサルモノハ此規程ニ依リ簡易教育所ヲ設ケテ尋常小學校ニ代フルコトヲ得(三十五年二月總令第十一號ヲ以テ本條改正)
 第二條 簡易教育所ヲ設ケシトストキハ町村長

又ハ戶長ハ左ノ各項ヲ具シテ北海道廳長官ノ許可ヲ受ケヘシ
 一 尋常小學校設置ニ關スル費用ノ負擔ニ堪ヘサル事實
 二 簡易教育所ノ位置
 三 簡易教育所ノ設置
 四 簡易教育所通學區域内ノ戶數人口及男女年齡兒童數
 五 簡易教育所設置ノ期間
 六 經費ノ收支豫算
 前項第五號ノ期間ハ六年以内ノ期限ヲ以テ之ヲ定ムヘシ
 第三條 簡易教育所ノ教科目、修業年限、教則、學年、休業日及式日ニ關シテハ尋常小學校ノ規定ヲ準用ス但シ土人兒童ニ關シテハ土人兒童教育規定ニ依ルヘシ
 特別ノ事情アリテ前項ニ依リ難キトキハ教科目ヲ除キ管理者ニ於テ北海道廳長官ノ許可ヲ受ケ之ヲ斟酌スルコトヲ得
 第四條 簡易教育所教員ノ進退、職務及服務、懲戒、俸給、旅費其ノ他諸給與ニ關シテハ小學校代用教員ニ關スル規定ヲ準用ス
 第五條 簡易教育所ニハ左ノ用具ヲ備フヘシ
 教科書、教授用掛圖、北海道及日本地圖、指針器、黑板、黒板拭、時計、門札其他必要ノ用具
 第六條 簡易教育所ニ備フヘキ諸表簿ハ尋常小學校ノ例ニ依ル
 第七條 簡易教育所ノ敷地建物ノ設備ハ管理者ニ於テ之ヲ定ム支廳長官ノ認可ヲ受ケヘシ
 附則
 第八條 從前ノ規定ニ依リ簡易教育所施行スルモノハ本規程施行ノ際管理者ニ於テ所名ヲ北海道

區町村長官ニ開申スヘシ
 ○明治三十三年二月十三日總令第六號(支廳區役所戶長役場宛)
 學校ノ設置若クハ簡易教育所ノ認可ヲ受ケタルモノニシテ開始シタル場合並ニ學校建築落成シタル場合ニハ其旨開申スヘシ
 ○明治三十三年十二月六日總令第七號
 學務委員規則左ノ通り定ム
 學務委員規則
 第一條 區町村ハ教育事務ノ爲小學校設置區域ニ學務委員ヲ設ケヘシ
 第二條 區一級町村ノ學務委員ハ北海道廳令第九條北海道一級町村制第十八條ニ依リ之ヲ設ケヘシ但前條ノ場合ニ於テハ區會町村會ノ議決ニ依リ之ヲ定ム
 三 區町村ノ學務委員ハ町村會議員若クハ町村會議員ノ選舉權ヲ有スル者又ハ町村會議員及町村會議員ノ選舉權ヲ有スル者ヲ以テ之ヲ充テ但シ其ノ學務委員ハ町村會ニ於テ之ヲ選舉ス(三十五年五月總令第六十八號ヲ以テ本項追加)
 前項學務委員ノ組織ニ關シテハ町村長官ノ定ム北海道廳支廳長官ノ許可ヲ受ケヘシ(三十五年五月總令第六十八號ヲ以テ本項追加)
 戶長役場所轄町村ノ學務委員ハ町村總代官ノ選舉權ヲ有スル者ノ中ニ之ヲ充テ之ヲ任命ス
 學務委員ニハ區町村立小學校男教員ヲ加フヘシ
 學務委員ハ各學區トス
 第三條 學務委員ハ選舉ニ依ル者ヲ除キ區町村長又ハ戶長ニ任命ス
 第四條 學務委員ノ數ハ小學校設置區域毎二十人以下トス
 第五條 學務委員ハ左ニ掲ケル事項ニ就キ區町村

長戸長ヲ補助シ又ハ其諸問ニ應シテ意見ヲ陳述スヘシ

- 一 就學督促ニ關スルコト
- 二 家庭又ハ其他ニ於テ尋常小學校ノ教科ヲ修ムル者ノ認可ニ關スルコト
- 三 就學義務ノ免除又ハ就學ノ猶豫ニ關スルコト
- 四 設置ニ關スルコト
- 五 經費豫算ノ調製ニ關スルコト
- 六 授業料ニ關スルコト
- 七 學校基本財産ニ關スルコト
- 八 教科目ノ加除ニ關スルコト
- 九 修業年限ニ關スルコト
- 十 小學校及補習科ノ設置廢止ニ關スルコト
- 十一 區町村會ニ於テ選舉セラレ又ハ町村總代人ノ選舉權ヲ有スル者ノ中ヨリ任命セラレタル學務委員ノ任期ハ四年トス(三十四年四月總令第六十一號ヲ以テ本項改正)
- 十二 第二項ニ依リ町村會議員中ヨリ選出シタル者ノ學務委員ノ任期ハ二年トス(三十五年五月總令第六十八號ハ以テ本項追加)
- 十三 補缺選舉ニ依リ就任シタル者ノ任期ハ前任者ノ殘任期間トス
- 第十四 學務委員ニシテ資格ノ要件ヲ失ヒタル者ハ當然其職ヲ失フ
- 第十五 戶長役場所町村ノ學務委員ハ職務取扱ノ爲ニ要スル賃費ノ辨償ヲ受クルコトヲ得
- 第十六 前項ノ學務委員ニハ賃費辨償ノ外其ノ勤務ニ相當スル報酬ヲ給スルコトヲ得
- 第十七 區町村長又ハ戶長ハ學務委員任免ノ都度其氏名族籍職業生年月及報酬額ヲ北海道廳長官ニ報告スヘシ

附則

第十條 本規則ハ明治三十三年十二月十日ヨリ施行ス

第十一條 本規則施行前ノ設定ニ係ル區學務委員規則中本規則ニ抵觸スル條項ハ本規則施行ヨリヨリ其效力ヲ失フモノトス但本規則施行前選出セラレタル學務委員及其補缺ノ爲メ選舉セラレタル學務委員ノ任期ニ關シテハ從前ノ規定ヲ適用ス

第十二條 明治二十八年北海道廳令第四十六號明治三十二年北海道廳令第四百四號ハ本規則施行ヨリヨリ廢止ス

○明治三十四年三月三十一日總令第四十二號

舊土人兒童教育規程左ノ通定ム

第一條 尋常小學校ニ於テ舊土人兒童ト其ノ他ノ兒童トヲ區別シテ教授スル場合ハ舊土人兒童ノ教科目各學年ノ教授ノ程度及每週教授時數ハ此ノ規程ニ依ル

第二條 舊土人兒童ノ教科目ハ修身、國語、算術

教科目	學年	每週教授時數	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年
修身	第一學年	二	二	二	二	二
	第二學年	二	二	二	二	二
國語	第一學年	二	二	二	二	二
	第二學年	二	二	二	二	二
算術	第一學年	二	二	二	二	二
	第二學年	二	二	二	二	二

○明治三十四年五月七日訓令第四十三號(支廳町村役場戶長役務區町村立小學校宛)

舊土人兒童教育規程ノ施行ニ關シテ其ノ注意スヘキ事項ヲ示ス當事者之ニ依リテ教育ノ實效ヲ擧ケントシ務ムヘシ

- 一 學級編制ハ左ノ要項ニ依リ施設スヘシ
 - 一 尋常小學校ニ二箇以上ノ學級ヲ設ケル場合ニ於テ舊土人兒童ノ員數一學級ヲ編成スルニ足ルヘシト認ムルトキハ舊土人兒童ノ爲ニ學級ヲ別ニスヘシ
 - 二 尋常小學校ニ於テ舊土人兒童ノ員數二十名以上アルモ之方爲ニ一學級ヲ編成シ難キ事情アルトキハ舊土人兒童教育規程ニ依リ成ルヘク半日小學校ト爲スヘシ
- 二 各教科目ノ教授要旨及其ノ實施ノ方法ハ小學校令施行規則第一條乃至第四條及第十條第十一條第十三條ニ準據シ尙左ノ各項ニ留意スヘシ
 - 一 各教科目ハ普通ノ尋常小學校ノ凡第三學年迄ノ程度ヲ四學年間ニ修了セシムルノ旨趣ナルヲ以テ簡易ヲ旨トシテ教授スヘシ
 - 二 各學科ノ教授ハ實物教授法ニ基キテ覺悟ノ修練ヲ充分ナラシメ兼テ學科ニ對スル興味ヲ起サシメンカ爲主トシテ實物標本圖畫等

體操	三遊	戲	三遊	通體操	三遊	通體操
計	一八		二三		二七	
裁縫						
農業						

ナ利用スヘシ

何レノ教科目ニ於テモ其ノ教材ハ最モ最近ニシテ生活ニ必須ナルモノト選ミ反覆練習以テ熟得セシメントシ務ムヘシ

思想ヲ整理シ觀念ヲ明確ナラシメテ練習ヲ進メテ教授上ノ要件ナルヲ以テ務メテ急進ヲ避ケ既得ノ知識ヲ利用シ漸次教育ノ效果ヲ收メントシ務ムヘシ

修身ハ特ニ清潔、秩序、廉潔、勤儉、忠實、愛國ノ諸徳ヲ養フ主トシ且日常ノ作法ニ注意シ善行トシテ習慣ヲ養成セントシ務ムヘシ

衛生法ニ關スル事項ハ便宜修身科ニ於テ之ヲ教授クヘシ

國語ノ讀ミ方、書キ方、綴リ方ハ第三學年ニ至ルマテハ教授時間ヲ區別セシメテ之ヲ授クヘシ

發音及言語ノ練習ニハ特ニ留意シ普通ノ言語ヲ以テ自由ニ思想ヲ發表シ得ルニ至ラシムヘシ

綴リ方ハ日用文記事文ノ區別ヲ廢シ其ノ文

體操

三遊

戲

三遊

通體操

三遊

通體操

體操

三遊

戲

三遊

通體操

三遊

通體操

體操

三遊

戲

三遊

通體操

三遊

通體操

ルヘシ

- 一 有害ナル瓦斯、煤煙、塵埃等ヲ發生スル工場及噴霧ナル工場
- 二 飲酒遊興ヲ事トスル各種ノ營業店
- 三 諸興行場
- 四 火葬場及墓地
- 五 監獄署
- 六 遊樂院
- 七 瘴氣發生ノ虞アル池沼及汚水溝
- 八 懸崖及堤防

第三條 校地内ニハ屋外體操場ヲ設クヘシ
屋外體操場ハ成ルヘク校舎ノ南方、西南方若ハ東南方ノ日當リヨキ平坦ナル地ヲ選ビ方形又ハ之ニ類スル形狀ニシテ其ノ面積ハ左ノ例ニ依ルヘシ

- 一 尋常小學校ニ於テハ兒童百人未満ハ百坪以上トシ兒童百人以上ハ二人ニ付キ一坪以上ノ割合トス
- 二 高等小學校ニ於テハ兒童百人未満ハ百五十坪以上トシ兒童百人以上ハ一人ニ付キ一坪半以上ノ割合トス
- 三 尋常高等小學校ニ於テハ兒童百人未満ハ百五十坪以上トシ兒童百人以上ハ尋常小學校ノ教科ヲ修ムル兒童一人ニ付一坪以上、高等小學校ノ教科ヲ修ムル兒童一人ニ付一坪半以上ノ割合トス但シ兒童百人以上ニシテ高等小學校ノ教科ヲ修ムル兒童百人未満ナルトキハ百五十坪ノ外百人ヲ超ヘタル兒童一人ニ付一坪以上ノ割合トス
- 四 特別ノ事情アルトキハ第二號及第三號ノ規定中一坪半ヲ一坪ニ減スルコトヲ得

屋外體操場ハ特別ノ事情アル場合ニ限リ校地外ニ設クルコトヲ得但シ成ルヘク校舎ニ接近シタリ位置ヲ選ムヘシ

第四條 校地内ニハ井又ハ水道等ニ依リ善良ナル飲料水ヲ供給スルノ備ヲ爲シ又下水渠ヲ設クヘシ

井及水道ハ汚物ノ浸入セサル構造トシ水汲場ニハ危險ノ虞ナキ設アルヲ要ス
井ハ下水渠、汚水溝、塵埃場等ニ接近スヘカラズ
下水渠ニ受クル汚水ヲ公共溝渠又ハ適當ノ場所ニ排洩シ難キ場合ニ於テハ校舎ヨリ成ルヘク離隔シタル場所ニ汚水溝ヲ設クヘシ
下水渠及汚水溝ハ不透透物ヲ以テ之ヲ造ルヘシ但シ特別ノ事情アルトキハ一寸以上ノ厚板ヲ用ヒ其ノ内外ニ「コールド」ヲ塗りテ之ヲ造ルコトヲ得

汚水溝ニハ覆蓋ヲ設クヘシ

第五條 校地ノ周圍ニハ採光通氣ヲ妨ケサル程度トシ適當樹木ヲ栽植シ且遮擋等ヲ設クヘシ

第六條 御影柵所ハ校地内適當ノ位置ヲ選ミ成ルヘク不燃質ノ構造ト爲スヘシ

第七條 校舎ノ建築ハ授業上、衛生上ノ便ヲ圖リ質料堅牢ナランコトヲ要ス
校舎ハ平屋造ト爲スヘシ但シ特別ノ事情アルトキハ二階ト爲スコトヲ得
二種以上ノ建物ヲ並列シテ建築スルトキハ其ノ相互ノ距離ハ建物ノ高ノ一倍半以上タルヘシ

第八條 校舎ニハ各學級ニ應ズル通常教室、教員室、圖書器械室、屋内體操場、湯浴所、便所及物置ヲ設クヘシ

前項ノ外唱歌、裁縫等ヲ課スル學校ニ於テハ便所ニ於テハ特別ノ事情アル場合ニ限リ校地外ニ設クルコトヲ得但シ成ルヘク校舎ニ接近シタリ位置ヲ選ムヘシ

第九條 教室ノ構造ハ左ノ各項ニ準據スヘシ
校舎ニハ適當非當日ヲ設クヘシ
多級小學校ノ教室ハ幅四間長五間、單級小學校ノ教室ハ幅及長各四間以上五間以下ヲ常例トス但シ多級小學校ニ於テハ幅三間以上四間以下長四間以上五間以下ノ教室ヲ設クルコトヲ得
教室ノ面積ハ兒童一人ニ付三尺平方ノ割合トシ小ナルコトヲ得ス
天井ハ床面ヲ距ルコト九尺以上トスヘシ
床ノ高ハ二尺以上トシ床下ノ四方ニ風抜ヲ設クヘシ
採光窓ノ面積ハ床面積ノ六分の一以上トシ其ノ下縁ノ位置ハ床面上凡二尺五寸ニ定ム其ノ上縁ハ床面上八尺五寸以上トシ成ルヘク天井ニ接近セシムヘシ但シ採光窓ノ上部ハ欄間ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得又裁縫教室ノ採光窓ハ成ルヘク主要ナル採光窓ハ兒童座席ノ左方ニシテ南方ニ設クルヲ常例トス
窓ハ兒童座席ノ前面及前面ヨリ三尺以内ノ左右側ニ設クルコトヲ得ス
採光窓ニハ日光ノ直射ヲ遮蔽セシムカ爲窓簾ヲ備フヘシ
窓ハ特ニ完全ナル建築ヲ爲シ得ル場合ノ外ハ引違子戸ト爲シ又雨窓ノ浸入ヲ防クヘキ適當ノ構造ト爲スヘシ
教室内ハ壁ハ灰色、淡黃色其ノ他ノ中性色ト爲スヘシ
各教室ニハ適當二箇ノ出入口ヲ設ク又使宜敷教

室ニ通スル出入口ヲ設クヘシ戸ハ引違戸又ハ引戸トナスヘシ

第十條 屋内體操場ノ幅ハ五間以上八間以下ヲ常例トシ其ノ面積ハ單級小學校ニ於テハ三十坪以上トシ其ノ他ハ一學級ヲ増ス毎ニ凡十坪ノ割合ヲ加フルモノトス

屋内體操場ハ天井ヲ張ラサルヲ常例トシ其ノ構造ハ教室ノ例ニ準據スヘシ但シ窓ノ下縁ハ牀上凡三尺乃至四尺ニ定ム又便宜高窓ヲ設クヘシ

第十一條 教室、教員室、屋内體操場等ニハ校房ノ裝置ヲ爲シ又ハ暖房器ヲ備フヘシ

第十二條 廊下ハ片廊下ヲ常例トシ其ノ幅ハ六尺以上タルヘシ

第十三條 二階造ノ校舎ニハ二箇以上ノ階段ヲ設クルヲ常例トス
階段ハ幅四尺五寸以上五寸乃至六寸踏面八寸乃至一尺トシ成ルヘク曲折構造ト爲シ中間ニ踊場ヲ設ク且手欄ヲ附スヘシ

第十四條 昇降口ハ成ルヘク男女ヲ區別シ冬季常風ノ方向ヲ避クヘシ
昇降口ノ面積ハ一學級ニ付二坪以上ノ割合トスヘシ
昇降口ニハ履物棚及傘架ヲ設クヘシ
土地ノ情況ニ依リ昇降口若ハ校舎内適當ノ場所ニ冬季ニ於テ履物ノ凍結ヲ防クノ設備ヲ爲スヘシ

第十五條 便所ハ別棟トシ夏季常風ノ方向ニ注意シ升ヲ距ルコト四間以上ノ位置ニ設ク廊下ヲ以テ校舎ニ接続スヘシ又屋上ニ臭氣抜ヲ設クヘシ
便所ノ周圍ニハ塀牆ヲ設ク又ハ樹木ヲ植ウヘシ

門札 公(私)立何尋常小學校

兼、尿流、注等ハ不透透物ヲ以テ之ヲ造ルヘシ但シ特別ノ事情アルトキハ一寸以上ノ厚板ヲ用ヒ其内外ニ「コールド」ヲ塗りテ之ヲ造ルコトヲ得

糞箱ノ上部周邊ハ雨水ノ浸入セサル構造ト爲スヘシ

便所ハ男女ヲ區別シ男兒百人ニ付大便所二以上小便所四以上、女兒百人ニ付五以上ノ割合ヲ以テ設クルヲ常例トス

大便所ハ天井ヲ張ラス戸ハ上下ヲ透シテ右開ト爲スヘシ
小便所ニハ高六寸幅一尺以上ノ踏石ヲ設クヘシ

便所ニハ適當ノ場所ニ手洗場ヲ設クヘシ

第十六條 校舎ハ甲乙二種トシ學校ノ種類、學級ヲ編制、兒童ノ員數等ニ應ズルニ須要ナルモノヲ備フヘシ
尋常小學校ニ於テ備フヘキ甲種校具ハ水道所定ノ教科用圖書、本道地圖、日本地圖、世界地圖、讀本用掛圖、修身用掛圖、算術用掛圖、辭書、

乙種校具ハ机、腰掛、黑板、教壇、時計、電燈、身體検査器械、算盤、硯及硯箱、清潔法施行用具、湯沸用具、水桶、湯呑用具、水入、墨汁給筒、湯沸用具、日課表板、國旗、門札、校印、職印、書格欄、戸欄其ノ他甲種ニ屬セサル須要ノ什器トス

第十七條 門札、校印及職印ハ左ノ標準ニ準據シ調製スヘシ

尋常小學校ニ於テ備フヘキ甲種校具ハ前項ノ外地理標定用掛圖及標本、理科用器械標本、模型及圖畫、圖書用具、裁縫用具、樂器、動植物標本用具等トス但シ讀本掛圖及指數器ヲ備フルノ限ニアラス
唱歌、裁縫、國畫、農業、商業又ハ手工ヲ加フル學校ニ於テハ其ノ教授ニ要スル器具ヲ備フヘシ

小學校ニ備フヘキ乙種校具ハ机、腰掛、黑板、教壇、時計、電燈、身體検査器械、算盤、硯及硯箱、清潔法施行用具、湯沸用具、水桶、湯呑用具、水入、墨汁給筒、湯沸用具、日課表板、國旗、門札、校印、職印、書格欄、戸欄其ノ他甲種ニ屬セサル須要ノ什器トス

方一寸六分

校印 北海道何郡區 公(私)立何 高等小學校

方六寸

校印 北海道何郡區 公(私)立何 高等 小學校長之印

第十八條 兒童用机腰掛ノ寸法ハ別表ノ標準ニ依リ兒童ノ身長ニ適應セシメテコトヲ要ス
 兒童用机腰掛ハ高等小學校ニ於テハ一號乃至三號ノ三種、高等小學校ニ於テハ三號乃至五號ノ三種、高等小學校ニ於テハ一號乃至五號ノ五種ヲ備フルヲ常例トス
 第十九條 土地ノ狀況ニ依リ成ルヘク教員ノ住宅ヲ設ケヘシ
 第二十條 小學校ノ校舍、御影奉置所、教員住宅ヲ建設(新築、改築、増築)又ハ既設建物ノ充用若ハ(借用)セントストキハ區町村立ニ在リテハ設立者ニ於テ左ノ事項ヲ具シ北海道廳長官ノ認可ヲ受ケヘシ
 一 校地ノ圖面(縮尺六百分ノ二用紙美濃紙) 方位、坪數、校地内ニ建設スル建物ノ配置、屋外體操場ノ區域及坪數、門及井ノ位置、隣接スル土地道路山川等地勢ノ概況ヲ表示スヘシ
 二 建物ノ平面圖及側面圖(縮尺二百百分ノ一用紙美濃紙)

紙美濃紙)
 一 方位、建物ノ各部室ノ名稱區劃及坪數、出入口及教壇ノ位置、建物ノ構造、要領等ヲ表示スヘシ
 二 夏季及冬季常風ノ方向
 三 教室ニ關スル事項
 四 教壇ノ高、牀面ト天井トノ距離、窓ノ構造、牀面ヨリ窓ノ下緣及上緣マテノ距離、各室ノ採光窓ノ面積、壁色等ヲ記スヘシ
 五 下水渠、汚水溜及便所ノ構造
 六 小學校設置區域内ノ戸數、人口、男女學齡兒童數並該區域内ノ對シ適度ノ通學路程内ニ在ル男女學齡兒童數但シ私立小學校ハ之ヲ要セス
 七 當該學校ノ現在男女在學兒童數及建設後增加スヘキ男女在學兒童數
 八 各學級及各學年別ニ記スヘシ
 九 建築ノ設計及仕様書

十一 工事著手及竣工ノ期日
 十二 前各號ノ外特殊ノ事情アルトキハ其ノ事
 項
 十一 既設建物借用ノ場合ハ貸借契約書寫、借用ノ場合ハ其期限
 十二 前各號ノ外特殊ノ事情アルトキハ其ノ事
 項
 十一 既設建物借用ノ場合ハ貸借契約書寫、借用ノ場合ハ其期限
 十二 前各號ノ外特殊ノ事情アルトキハ其ノ事
 項
 十一 既設建物借用ノ場合ハ貸借契約書寫、借用ノ場合ハ其期限
 十二 前各號ノ外特殊ノ事情アルトキハ其ノ事
 項

項目	番號	一號	二號	三號	四號	五號
身長	一	一〇〇以上 一三〇未滿	一一〇以上 一四〇未滿	一二〇以上 一五〇未滿	一三〇以上 一六〇未滿	一四〇以上 一七〇未滿
机ノ高	一	一五、五〇	一七、〇〇	一八、五〇	二〇、〇〇	二一、五〇
机ノ幅	一	一一、〇〇	一三、〇〇	一四、〇〇	一五、〇〇	一六、〇〇
机ノ長	一	三〇、〇〇乃至 三六、〇〇	三六、〇〇乃至 四二、〇〇	四二、〇〇乃至 四八、〇〇	四八、〇〇乃至 五四、〇〇	五四、〇〇乃至 六〇、〇〇
腰掛ノ高	一	八、六〇	九、四〇	一〇、二〇	一一、〇〇	一一、八〇
腰掛ノ幅	一	八、二〇	九、〇〇	九、八〇	一〇、六〇	一一、四〇
腰掛ノ長	一	二六、〇〇乃至 三二、〇〇	三二、〇〇乃至 三八、〇〇	三八、〇〇乃至 四四、〇〇	四四、〇〇乃至 五〇、〇〇	五〇、〇〇乃至 五六、〇〇
倚用男兒	一	五、〇〇	五、四〇	五、八〇	六、二〇	六、六〇
第一横木ノ高	一	四、〇〇	四、四〇	四、八〇	五、二〇	五、六〇
第二横木ノ高	一	一〇、〇〇	一〇、八〇	一一、六〇	一二、四〇	一三、二〇

本表中身長欄ハ「センチメートル」其ノ括弧内ノ數及机ノ高以下ハ曲尺ノ寸ヲ以テ一位トス

○明治三十四年六月六日訓令第七十一號(支廳區役所町村役場局長役場區町村立小學校規程) 教育事務ニ關シ整理スヘキ表簿等ノ種類及様式左ノ通定ム
 第二號表第四號表及第二十一號表ハ毎年五月末日ヨリ本廳ニ差出スヘシ
 但三十三年度ニ限リ本年六月末日マテニ差出スヘシ
 支廳ニ於テ整理スヘキモノ

- 一 御影勸誘簿本簿 (第一號)
- 二 學齡兒童就學調査表 (第二號)
- 三 町村立小學校配置地圖
- 四 小學校ノ位置、設置區域町村字ノ境界、道路山川ノ位置、人家ノ所在等ヲ表示スヘシ (第三號)
- 五 町村立小學校簿 (第四號)
- 六 町村立小學校校地校舎平面圖 (第五號)
- 七 小學校年比較表 (第五號)
- 八 學校職員名簿 (第六號)
- 九 學校職員履歷簿
- 十 學務委員名簿 (第七號)
- 十一 町村立小學校教員功績調査簿 (第八號)
- 十二 教育功績者調査簿
- 十三 町村立小學校授業料表 (第九號)
- 十四 町村教育費算表 (第十號、第十一號)
- 十五 町村教育費決算表 (第十二號)
- 十六 町村立小學校基本財産表 (第十三號)

第五類 小學校

第四號

設置區域	學校數	校地坪數	教室數	教室坪數	校外體操場坪數	校内體操場坪數	机體掛數	收容シ得ヘキ兒童數	在籍兒童數	不就學兒童數
合計										

(町村立小學校設備調査表)

本表ハ毎年三月一日現在ニ依リ調製スヘシ
區町村ニ在リテハ「設置區域」學校數「ノ二欄」學校名「ナル一欄」改メ調製スヘシ

第五號

年次	種別	校				級				教員							
		簡易	尋常	高等	高等	普通	高等	高等	高等	正	准	代用	正	尋常	高等	高等	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女

(小學校累年比較表)

本表ハ三月一日現在ニ依リ調製スヘシ
私立ニ係ルモノハ更ニ一表ニ調製スヘシ

第六號

任命年月日 俸給 氏名
加俸年月日 俸給 氏名

第七號

設置區域區町村名定員
任命年月日 俸給 氏名

第八號

功績	年			現職	族籍	氏名	生年月
	就職年月日	本道就職年月日	本校就職年月日				
教授、管理、訓練、児童ノ成績、卒業生、成績、品行、勤怠、賞罰、其他成績ノ調査上必要ノ事項ヲ記載スルモノトス	轉任退職等ノ經歷	俸給ノ經歷	本道就職年月日	就職年月日			

(順ハロイ)

一 批評ヲ下シタルトキハ必其年月日ヲ記入スヘシ
二 視學官、視學其他教育關係ノ官吏及師範學校職員ノ批評アルトキハ之ヲ記入スヘシ

第五類 小學校

第九號

任命年月日 俸給 氏名
族籍職業 氏名

校名	定員	備考
月一人以上入學シタル者ニ對シテ月一人以上入學スル一人月額	月一人以上入學シタル者ニ對シテ月一人以上入學スル一人月額	

第十號

設置區域	戸數	町村費	町村費	町村費
賦課ノ受賦課ノ受クタルモノナルモノ	町村費	町村費	町村費	町村費
合計				

(町村教育費調査表)

第五類 小學校

第十一號

設置區域	校數	前年度	本年度			
			正教員	准教員	高等科	高等科
			數均額	數均額	數均額	數均額

平均		本年度

第十二號

設置區域	校名	正教員	准教員	代用教員	臨時給俸	臨時給俸	臨時給俸	臨時給俸	臨時給俸	臨時給俸	臨時給俸	臨時給俸	臨時給俸	臨時給俸	臨時給俸	臨時給俸	臨時給俸	臨時給俸	臨時給俸	臨時給俸

第十三號

合計	校名	金額	土地	建物	其他物品

第十四號

保護者	兒童氏名	報告受付年月日	督促年月日	報告後出席日

第十五號

兒童氏名	保護者	學年	年月日	知年月日	報告後出席日

第十六號

順席	明治		授業日數	日日出席數		日日缺席數		其他日數
	年	月		女	男	女	男	
姓名								
一								
二								
三								
四								
五								
六								
七								
八								
九								
十								
十一								
十二								
十三								
十四								
十五								
十六								
十七								
十八								
十九								
二十								
合計								

第五類 小學校

第五類 小學校

煙燻ノ有無及煙燻ト最近生徒ノ距離	
室内ノ温度	
圖書掛圖黑板ノ衛生上ノ適否	
學校清潔方法實行ノ情況	
飲料水ノ真否	

第二十三號

品名	日番號	數量	購入年月日	單價	總價	發賣所	破損若クハ毀却等ノ事

○明治三十五年十二月五日訓令第百二十七號(支廳區役所宛)
 小學校數及児童數調別紙様式ニ依リ毎年十月一日現在ニ就キ同月十五日限
 ヲ本廳ヘ報告スヘシ
 第二號表ハ本年ニ限リ四月一日現在ニ依リ本月二十日限リ報告スヘシ
 (第一號表) 川紙ハ美濃紙トス

公立高等小學校數及児童數調 明治何年十月一日現在

區別	種別	校數	一學年	二學年	三學年	四學年前學年	卒業生	中學	高等女學	其他ノ學校	男女
何區	男										
何區	女										
何區	計										

公立小學校數及児童數調 明治何年十月一日現在

種別	校數
多級尋常小學校	
何校	
高等併置小學校	
何校	

第三類 小學校

單級尋常小學校		何校		高等小學校		何校	
多級尋常小學校児童數		一學年	二學年	三學年	四學年	合計	
男							
女							
計							
單級尋常小學校児童數		一學年	二學年	三學年	四學年	合計	
男							
女							
計							
修業年限二箇年ノ高等小學校児童數		一學年	二學年	合計			
男							
女							
計							
(女子ノミヲ以テ編制シタル) 高等小學校児童數		一學年	二學年	三學年	四學年	合計	
男							
女							
計							

右報告ス 明治何年月日

北海道廳長官宛 何支廳長區長 氏 名 印

○明治三十一年三月十五日訓令第十三號(支廳長官宛)
 區町村立小學校經費豫算ハ收支トモ左ノ様式ニ依リ毎年二月二十日限リ道
 加豫算ハ其都度本廳ニ報告スヘシ
 明治二十八年(十二月)北海道廳訓令第四十五號ハ之ヲ廢止ス

種目	何尋常小學校	何高等小學校	計
種目			
正教員俸給			
准教員俸給			
風教員俸給			
諸給料			

種目	何尋常小學校	何高等小學校	計
種目			
正教員俸給			
准教員俸給			
風教員俸給			
諸給料			

第三類 小學校

Table with columns for various expenses: 旅費, 雜給, 借地借家賃, 圖書器械標本費, 器具費, 消耗品費, 新築費, 修繕費, 其他ノ諸費, 合計. Rows for 何尋常小學校, 何高等小學校, 何高等小學校.

備考 正教員俸給ノ欄校長俸給ハ更ニ朱書記裁ヲ要ス

Table with columns for personnel: 尋常科受持, 本科正教員, 高等科受持, 本科正教員, 同月俸平均額, 高等科受持, 本科正教員, 同月俸平均額.

備考 同月俸平均額ノ欄ニ前年度月俸平均額ヲ朱書記裁ニテ併記スヘシ 尋常高等併置ノ小學校ニ於テ其受持尋常高等ノ兩科ニ跨ルモノハ其受持時間ノ多キ方ニ組入ルヘク時間相等シキトキハ高等科ニ組入ルヘシ

金使用規則ノ通定ム

- 第一條 教育資金ハ第十條ノ場合ヲ除ク外區町村立尋常小學校ノ校地校舍ノ設備費ニ充テル爲メ北海道區町村制ヲ施行シタル地方ニハ之ヲ區町村ニ交付シ其ノ他ノ地方ニハ之ヲ小學校設置區域ニ補助ス
第二條 設備費ヲ貸付又ハ補助スル順序ハ校地校舍ノ設備費ヲ要シ且ツ其力微弱ナリト認めルモノヲ先キニシ之ニ次クモノヲ後ニス但シ其苦ニ罹リタルモノニ就テハ特別ノ処分ヲナスコトアルヘシ
第三條 尋常高等小學校ノ設備費ヲ貸付又ハ補助スルモノハ其總費額ノ五分ニテ以テ尋常小學校ノ設備費ト見做シ之ニ對シ貸付又ハ補助金額ヲ定ム
第四條 貸付又ハ補助金額ハ拾圓ヲ以テ單位トス
第五條 貸付金ハ貸付ノ翌年度ヨリ起算シ左ノ期間ニ於テ年賦均等償還法ニ依リ償還スヘシ但シ貸付金ノ均等シテ單位以下ノ端數ヲ生シタルトキハ其ノ端數ニ保ル分ハ最後ニ償還スヘキ金額ニ加フルモノトス
一 貸付金五百圓未満 五箇年以内
二 貸付金五百圓以上千五百圓未満 七箇年以内
三 貸付金千五百圓以上三千圓未満 八箇年以内
四 貸付金三千圓以上 九箇年以内
一 貸付金ノ翌月ヨリ返納ノ當月マデ月割ヲ以テ計算ス
二 貸付金償還及利子納付ノ期限毎年三月トス
第六條 設備費ノ貸付又ハ補助ヲ受ケントスルトキハ區町村長又ハ月長ニ於テ左ノ事項ヲ具シ北海道區町村長官ニ申請スヘシ
一 貸付又ハ補助額
二 貸付又ハ補助金額
三 貸付金償還期間
四 設備費ニ要スル學校及設備スヘキ事項並其ノ圖面
五 工事設計要略及工事費總額
六 工事着手及竣成ノ豫定期限
七 區町村費納入歳出豫算表(前年度豫算前年度豫算ニ對シ比較増減ヲ示シタルモノ)
八 諸税負擔一覽表(書式第一號)
九 基本財産調

第十條 區町村會又ハ區町村總代人ノ決議ニ依リテ

- 第七條 設備費ノ貸付又ハ補助ヲ申請スルモノアルトキハ支廳長ハ之ニ同意見ヲ付シテ進達スヘシ
一 支廳管内ヨリ二校以上ニ就キ設備費ノ貸付又ハ補助ヲ申請スルトキハ支廳長ハ第二條ニ依リテ其ノ順次ニ關スル意見ヲ添申スヘシ
第八條 設備費ノ貸付ヲ受ケタルトキハ即日書式第二號ノ借用證ヲ差出スヘシ
第九條 設備費ノ貸付又ハ補助ヲ受ケタル後正當ノ事由ナクシテ事業中ニ止シ若ハ事業ヲ縮小シタルトキハ貸付金又ハ補助金ノ全部若ハ其ノ一部ヲ返還セシムルコトアルヘシ
第十條 教育資金ノ一部ハ毎年豫算ニ定ムル金額ヲ以テ區町村立小學校教員ノ獎勵其ノ他普通教育ニ關スル費用ニ充テ其ノ概目左ノ如シ
一 區町村立小學校教員又ハ區町村吏員等ニシテ教育上功績アル者ニ對シ其ノ表彰若ハ貸與
二 簡易教育所教員又ハ僻處ノ地ニ在ル區町村立小學校教員ノ俸給及其ノ他諸給與ノ補助(三十六年二月廳令第二十五號ヲ以テ改正)
三 區町村立小學校ノ成績優等ナルモノニ對シ獎勵品ノ授與
第十一條 明治三十三年(六月)北海道廳令第四十九號ハ之ヲ廢止ス

書式第一號 諸税負擔第一覽表

Table with columns for taxes: 税目, 金額, 納税者總數, 總人口ニ對スル平均, 總戸數ニ對スル平均. Rows for 直接國稅, 地方稅, 區町村稅, 備考.

第五類 小學校

書式第二號 借入證

Table for loan certificate with columns: 年月日, 償還元金, 利子額, 計. Includes text for北海道廳長官宛 and 區町村長 氏名印.

備考 利子ハ債務額ニ對スル金額ヲ記入スルモノトス

- 明治三十四年三月二十九日訓令第十五號(支廳區役所町村役場戶長役場區町村立小學校宛)
教育資金使用規則第十條ニ基キ學事獎勵ニ關スル規則左ノ通定ム(三十四年九月訓令第四百十二號ヲ以テ「教育基金配當金使用規則第六條」トアルヲ「教育資金使用規則第十條」ト改メ本規則中「就學費」トアルヲ「名譽費」ト改ム)
一 學事獎勵ニ關スル規程
二 公立小學校教員區町村吏員ニシテ左ノ一項若ハ數項ニ該當スル者
一、多年教員ノ職ニ從事シ其ノ功績顯著ナル者
一、就學ノ補助宜シキヲ得其ノ成績顯著ナル者
一、校舍ノ建築其ノ他設備ニ關シテ特ニ盡力シ其ノ功績顯著ナル者
一、學校基本財産ノ造成ニ關シテ特ニ盡力シ其ノ功績顯著ナル者
一、夜學其ノ他ノ方法ニ依リテ教育ニ盡力シ其ノ功績顯著ナル者

第五類 小學校

尋常小學校在籍兒童數
百ニ對スル出席歩合

公立尋常高等小學校ニ在テハ尋常科ニ係ルモノノミヲ記入スルモノトス
名譽旗製式

色及地質 紫色パンタン
旗 露ノ結晶中心梅花白色
周 國總紫色
大 長四尺三寸幅二尺九寸
旗竿 黒塗
竿頭球 金色

○明治三十四年五月二十八日訓令第五十九號(支
廳區役所宛)
區町村立小學校長及教員ノ進退ニ關スル取扱手續
左ノ通定ム

區町村立小學校長及教員ノ進退ニ關スル
取扱手續

第一條 支廳長區長ニ於テ教員ノ任用ヲ申請スル
トキハ俸給額ヲ具シ且履歷書ヲ添附スヘシ但シ
始メテ採用セラルヘキ師範學校卒業生ニ就テハ
其ノ氏名及履歷書ヲ省略スルコトヲ得

第二條 支廳長區長ニ於テ教員ノ轉任ヲ申請スル
トキハ其ノ事由及俸給額ヲ具スヘシ但シ年功加
俸、加俸差額、特別加俸又ハ増俸ヲ受ケル者ニ
就テハ其ノ種類及給額ヲ附記スヘシ

第三條 教員ノ俸給増額ヲ要スルトキハ支廳長區
長ニ於テ其ノ俸給額ヲ具シ北海道廳長官ニ上申
スヘシ

第四條 教員ノ俸給減額ヲ要スルトキハ正教員
ヲ准教員トナスヲ要スルトキハ支廳長區長ニ於
テ其ノ事由ヲ具シ且本人ノ承諾書ヲ添附シ北海
道廳長官ニ上申スヘシ

第五條 區町村立小學校教員及代用教員ノ俸給旅
費其ノ他諸給與ニ關スル規則第七條第八條ニ依
リ俸給ヲ支給スヘキ者アルトキハ支廳長區長ニ
於テ其俸給額ヲ具シ且區町村ノ同意書ヲ添附シ
北海道廳長官ニ上申スヘシ

第五類 小學校

ノ進退ニ關スル規程第一條第一號同第五條第一
號ニ該當スト認ムル者アルトキハ支廳長區長ニ
於テ其ノ事由ヲ具シ當該學校醫(學校醫ナキト
キハ開業醫)ノ診斷書ヲ添附シ北海道廳長官ニ
上申スヘシ

第七條 小學校令施行規則第二百二十二條第二號第
三號第四號又ハ區町村立小學校准教員ノ進退ニ
關スル規程第一條第二號第三號第四號ニ該當ス
ルモノアルトキハ支廳長區長ニ於テ其ノ事由ヲ
具シ北海道廳長官ニ上申スヘシ

第八條 小學校令施行規則第二百二十六條第二號又
ハ區町村立小學校准教員ノ進退ニ關スル規程第
五條第二號ニ依リ退職ヲ願出スル者アルトキハ
支廳長區長ニ於テ其ノ事由ヲ調査シ意見ヲ附シ
願書ヲ北海道廳長官ニ進退スヘシ

第九條 小學校令施行規則第二百二十六條第三號ニ
該當スル者アルトキハ支廳長區長ニ於テ其旨北
海道廳長官ニ上申スヘシ

第十條 小學校令施行規則第二百二十二條同第百二
十六條又ハ區町村立小學校准教員ノ進退ニ關ス
ル規程第一條同第五條ノ事由ニ因リシテ休職
若ハ退職ノ處分ヲ要スト認ムル者アルトキハ支
廳長區長ニ於テ其ノ事由ヲ詳具シ北海道廳長官
ニ上申スヘシ

第十一條 公務ノ爲學校長及教員ノ出張ヲ要スル
トキハ本道内ニ就テハ支廳長區長之ヲ命シ本道
外ニ就テハ支廳長區長ニ於テ其ノ事由及期日ヲ
具シ北海道廳長官ニ上申スヘシ

○明治三十三年十月十一日訓令第九十三號

明治三十三年(八月)文部省令第十四號小學校令
施行規則第三百三條ニ基キ區町村立小學校准教員ノ
進退ニ關スル規程左ノ通定ム

區町村立小學校准教員ノ進退ニ關スル規程

第一條 區町村立小學校准教員ノ任用ニ關スル規程
當スルトキハ其ノ情狀ニ依リ休職ヲ命ス

第二條 區町村立小學校准教員ニシテ陸海軍現役
ニ服シ又ハ戰時事務ニ際シ召集セラレタル者ハ
當然休職者トス但シ陸軍六週間現役ニ服スル者
ハ此ノ限ニアラス

第三條 休職ノ期間ハ第一條第一號及第二號ノ場
合ニ在リテハ一箇年トシ同條第四號ノ場合ニ在
リテハ其ノ事件ノ裁列所ニ要屬中トシ同條第三
條及第二條ノ場合ニ在リテハ其ノ事故止ミタル
後三箇月トス

第四條 休職者ハ職務ニ從事セザル外總テ在職者
ト異ナルコトナシ但シ別段ノ規定アルモノハ此
ノ限ニアラス

第五條 區町村立小學校准教員左ノ各條ノ一ニ該
當スルトキハ退職ヲ命ス

第五類 小學校

第六條 第一條又ハ第五條ノ事由ニ因ラスシテ休職又ハ退職ヲ命スル必要アルトキハ特別ノ處分ヲナスコトアルヘシ

第七條 區町村立小學校准教員左ノ各號ノ一二該當スルトキハ當然退職トス

一 當該學校ノ廢テラレタルトキ

二 休職期間滿テタルトキ

○明治三十四年五月二十八日訓令第六十號(支廳區役所町村役場戸長役場區町村立小學校宛)

區町村立小學校長教員及代用教員ノ職務及服務ニ關スル心得左ノ通定ム

區町村立小學校長教員及代用教員ノ職務及服務ニ關スル心得

第一條 學校長ノ執行スヘキ事務ノ概目左ノ如シ

一 御影勸助縣廳本ノ奉命ニ關スルコト

二 學級ノ維持及教授時間割ヲ定ムルコト

三 教案ヲ檢閲スルコト

四 教授管理及訓練ノ統一ヲ計ルコト

五 兒童ノ貧窮ニ關スルコト

六 儀式舉行ニ關スルコト

七 統計報告及願届等ニ關スルコト

八 校具表簿及書類ノ整理保管ニ關スルコト

九 校地校舍ノ取締ニ關スルコト

十 學校衛生ニ關スルコト

十一 前各號ノ外法律命令ニ依リ學校長ノ職務ニ關スル事項

第二條 正教員ノ執行スヘキ事務ノ概目左ノ如シ

一 教授ノ準備ヲナシ及教案ヲ編製スルコト

二 兒童ノ操行及學業成績ヲ考査スルコト

三 兒童ノ出席缺席調査ニ關スルコト

四 教室ノ清潔及整頓ニ關スルコト

五 前各號ノ外學校長ノ指示ニ係ル事項

第三條 准教員ハ正教員ノ事務ヲ補助シ又ハ學校長指示ノ事務ニ從事スヘシ

第四條 學校長ハ左ノ各號ニ就キ意見アルトキハ管理者ニ提出スヘシ

一 學級編制ノコト

二 教科目ノ加除及隨意科ニ關スルコト

三 每週教授時數増減ノコト(小學校令施行規則第十七條第三項及第十九號ノ場合ニ限ル)

四 補習科ニ關スルコト

五 設備ニ關スルコト

六 經費豫算ニ關スルコト

七 前各號ノ外教育上必要ノ事項

第五條 學校長ハ職員ノ進退勤務ノ狀況等ニ關シ意見ヲ支廳長區長ニ提出スルコトヲ得

第六條 學校長ハ職員ノ出張ヲ要スト認ムルトキハ其旨支廳長區長ニ具申スルコトヲ得

第七條 前二項ニ依リ提出スル意見又ハ具申シテ經費ノ支出ヲ要スル事項ナルトキハ學校長ハ豫メ其ノ經費ノ支出ニ關シ町村長戸長ニ協議スヘシ(三十五年三月訓令第十四號ヲ以テ本項追加)

第六條 學校長ハ職務ノ執行ニ關シ必要ナル規程ヲ設ケルコトヲ得

前項ニ依リ規程ヲ設ケタルトキハ之ヲ監督官廳ニ報告スヘシ

第七條 學校長職員若ハ不在ノトキハ上席教員其ノ事務ヲ取扱フヘシ

第八條 學校長及教員ハ始業時限十分前迄ニ出勤シ出勤簿ニ捺印スヘシ

第九條 學校長轉任休職退職免職失職ノトキハ辭令受領ノ日ヨリ三日以内ニ校長表簿書類ノ目録及校務ニ關スル引續書ヲ調製シ其ノ事務ヲ後任

者ニ引續書ヲ上區町村長戸長ニ報告スヘシ但シ後任者未定若ハ著任セザル場合ハ多級小學校ニ在リテハ上席教員ニ單級小學校ニ在リテハ區町村長戸長ニ引續クヘシ

第十條 學校長及教員新任又ハ轉任ノトキハ辭令受領ノ日ヨリ七日以内ニ出勤スヘシ若シ期限内ニ出勤シ難キ事情アルトキハ其ノ事由ヲ具シ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第十一條 學校長及教員缺勤旅行等ノ場合ニ在リテハ左ノ規定ニ依ルヘシ

一 官廳ノ召集ニ應スルトキ又ハ遲刻早退等ノ場合ニ在リテハ豫メ其ノ旨ヲ學校長ニ届出ツヘシ

二 傷病疾病ノ爲缺勤スルトキハ一週間以内ハ學校長ニ一週間以上ニ涉ルトキハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ支廳長區長ニ届出テ爾後三週間毎ニ醫師ノ診斷書ヲ差出スヘシ

三 父母ノ看病其止ムテ得サル事故ノ爲缺勤セントスルトキハ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ

四 忌服ノ場合ニ在リテ其ノ旨監督官廳ニ届出ツヘシ

五 父母ノ看病轉地療養其ノ他止ムテ得サル事故ノ爲旅行セントスルトキハ其ノ日數及旅行先ヲ具シ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ但シ轉地療養ノ場合ニ在リテハ醫師ノ診斷書ヲ添附スヘシ

六 學校ノ休業中ニ於テ旅行セントスルトキハ

其ノ日數及旅行先ヲ具シ教員ニ在リテハ學校長、學校長ニ在リテハ支廳長區長ノ承諾ヲ受クヘシ但シ教員ノ旅行ヲ承認シタル場合ニ於テハ其ノ旨支廳長區長ニ報告スヘシ

七 出張ノ命ヲ受ケ出張スルトキハ支廳長區長ニ届出ツヘシ

八 前第五號乃至第七號ノ場合ニ於テ歸著シタルトキハ其ノ旨支廳長區長ニ届出ツヘシ

九 教員一人ナル場合ニ於テ前各號中學校長ニ届出ツヘキモノハ更ニ之ヲ區町村長戸長ニ通報スヘシ

第十二條 學校長及教員ニシテ陸海軍現役ニ服シ又ハ戰事等際ニ召集セラレタルトキハ出張陸海軍ノ勤務演習又ハ六週間現役ニ服スルトキハ出張歸著トモ支廳長區長ニ届出ツヘシ

第十三條 休職者ニシテ轉任又ハ旅行スルトキハ支廳長區長ニ届出ツヘシ

第十四條 學校長及教員ヨリ官廳ニ差出スヘキ文書ニシテ特別ノ規定アルモノノ外ハ學校長ニ在リテハ區町村長戸長、教員ニアリテハ學校長及區町村長戸長ヲ經由スヘシ但シ第五條ノ事項ニシテ町立小學校ニ關スルモノハ町長戸長ヲ經由スルノ限リニアラス

第十五條 前各條中准教員ニ關スル規定ハ代用教員ニ之ヲ準用ス

○明治二十八年三月十日訓令第九號(郡區役所戸長役場公立小學校宛)

明治二十五年(四月)勸令第四十號市制町村制施行セザル地方ノ小學校教育規程ヲ明治二十八年四月一日ヨリ施行候ニ付從來ノ小學校教員ハ辭令ヲ用ヒス其學校ニ從來任用シタル高等尋常等ノ名義

ニ從ヒ左ノ通繼セシム

一 從來高等科ノ教員免許狀ヲ有シテ訓導ニ任シタル者及尋常科ノ教員免許狀ヲ有シテ訓導ニ任シタル者ハ本年四月一日ヨリ各其名義ニ相當スル本科訓導ニ任シタル職心得ヘシ

一 從來唱歌、裁縫等專科ニ屬スヘキ教員免許狀ヲ有シテ訓導ニ任シタル者ハ本年四月一日ヨリ專科ノ訓導ニ任シタル職心得ヘシ

一 從來小學校簡易科ノ教員免許狀ヲ有シテ訓導ニ任シタル者ハ本年四月一日ヨリ尋常小學校本科訓導ニ任シタル職心得ヘシ

一 從來ノ准訓導中裁縫ノ教員免許狀ヲ有シタル者ハ本年四月一日ヨリ專科訓導ニ任シタル職心得ヘシ

一 訓導ノ同日ヨリ本科訓導ニ任シタル職心得ヘシ

○明治三十五年五月二十日訓令第七十號(支廳區役所町村役場戸長役場區町村立小學校宛)

區町村立小學校長及教員左ノ各號ノ一二該當スル場合ニ於テハ別ニ辭令ヲ用ヒシテ直ニ其ノ小學校長及教員ニ任用セラレタルモノトス但第二號ノ場合ニ於ケル校長第六號ノ場合ニ於ケル下級ノ校長及第五號ノ場合ニ於ケル尋常小學校教員資格者ハ此ノ限ニアラス

一 校名ヲ改稱シタル場合

二 尋常小學校ヲ尋常高等小學校ニ變更シタル場合

三 尋常高等小學校ヲ尋常小學校ニ變更シタル場合

四 高等小學校ヲ尋常高等小學校ニ變更シタル場合

五 尋常高等小學校ヲ高等小學校ニ變更シタル場合

六 學校ヲ併合シタル場合

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

明治三十年(三月)北海道廳訓令第十三號ハ本令發布ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

○明治三十三年九月十二日訓令第八十七號

明治三十三年(三月)勸令第三百三十三號市町村立小學校教員加俸令第九條ニ依リ區町村立小學校教員加俸給與ニ關スル細則左ノ通相定ム

區町村立小學校教員加俸給與ニ關スル細則

第一條 加俸ノ支給増額ハ發令ノ當日ヨリ加俸ヲ差メテ支給スルコトニシテ其ノ當月ヨリ計以テ計算ス但減額及第四條ニ該當シタル者其ノ月中更ニ特別加俸ヲ受ケタル場合ハ發令ノ翌月ヨリ計算ス

第二條 加俸ハ病氣又ハ其ノ他ノ事故ニ依リ缺勤スルモノ之ヲ減給スルコトナシ但新任轉任ノ者未タ就職セズシテ缺勤シタルトキハ之ヲ支給セズ

第三條 加俸ハ毎年十月四月ニ於テ其ノ前六箇月分ヲ取算メ本額ヨリ支給ス但休職退職ノ命セリレ又ハ其ノ他ノ理由ニ依リ加俸ヲ差メテ支給セズトキハ其ノ際之ヲ支給ス

第四條 特別加俸ヲ受ケル者左ノ場合ニ於テハ別ニ辭令ヲ用ヒシテ其ノ加俸ヲ失フ

一 他ノ學校ニ轉任シタルトキ

一 單級學校ノ多級學校ニ變更シタルトキ

一 多級學校ノ單級學校ニ變更シタルトキ

第五條 市町村立小學校教員加俸令第七條後段ニ依リ特別加俸ヲ受ケル者支給ノ必要ナント認ムルニ至リタルトキハ之ヲ停止ス

第六條 加俸ニ關スル辭令及請求書式左ノ如シ

附則

第五類 小學校

第七條 單級小學校在勤ノ教員ニシテ加俸令施行前ヨリ勤務スル者ニハ本年四月ヨリ其ノ他ハ就職ノ當月ヨリ本細則ノ規定ニ準シ特別加俸ヲ支給ス

第八條 市町村立小學校教育費國庫補助法第六條ノ年功加俸ニ相當スル金額及市町村立小學校教員加俸令第十一條ノ差額金ノ支給方法ニ關シテハ本細則第一條乃至第三條ヲ適用ス

市町村立小學校教員加俸令第三條ニ依リ本道區町村立小學校ニ勤務中年功加俸年額金何圓支給ス

年月日、北海道廳

校名 職名 氏名

市町村立小學校教員加俸令第七條(後段)ニ依リ特別加俸年額金何圓支給ス

年月日、北海道廳

校名 職名 氏名

Table with columns for rank (職名) and salary (俸給額). Ranks include 一級, 二級, 三級, 四級, 五級, 六級, 七級, 八級, 九級. Salaries range from 七拾五圓 to 三拾五圓.

准 教 員

Table with columns for rank (職名) and salary (俸給額). Ranks include 一級, 二級, 三級, 四級, 五級, 六級, 七級, 八級, 九級. Salaries range from 拾六圓 to 拾八圓.

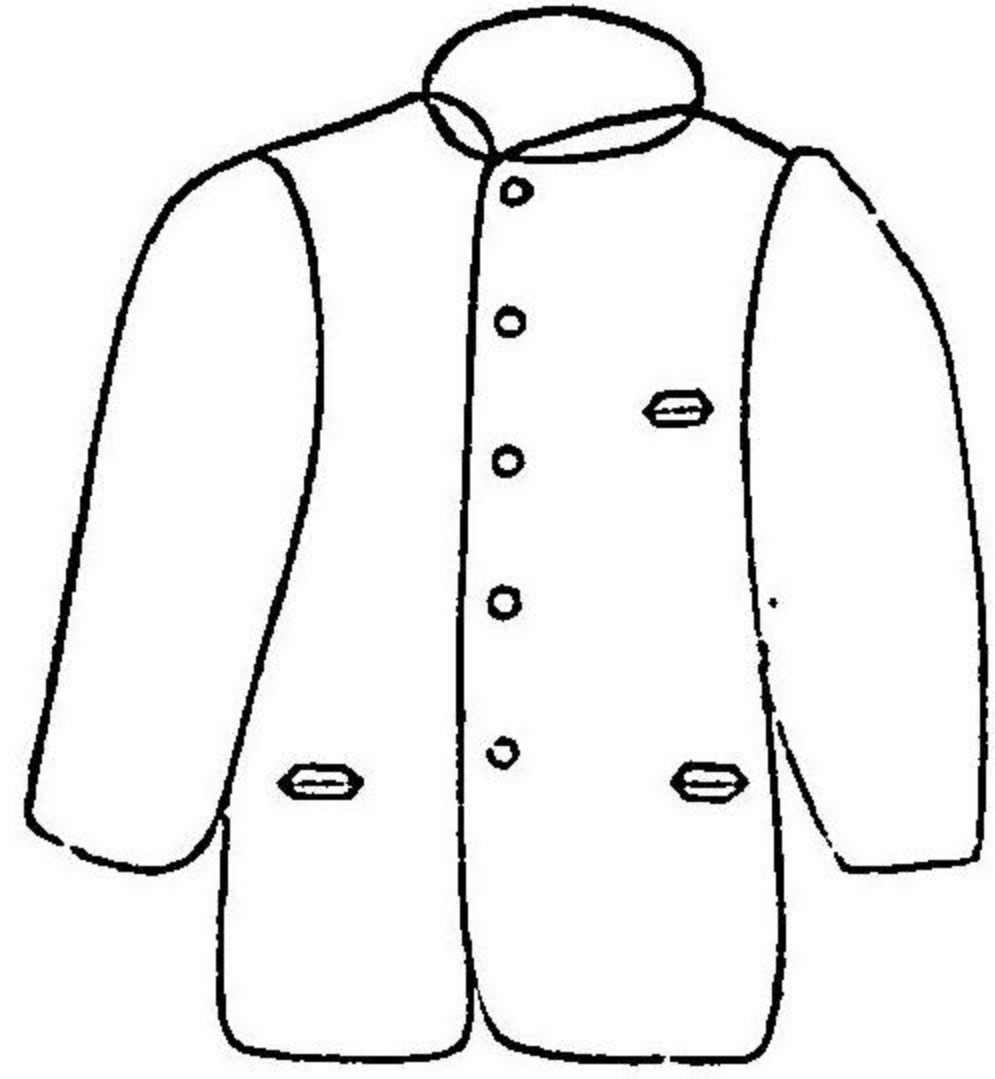
第二條 本科正教員ニシテ一級上俸ヲ受ケ特ニ功勞アル者ニハ漸次百圓マテ増スコトアルヘシ

第五類 小學校

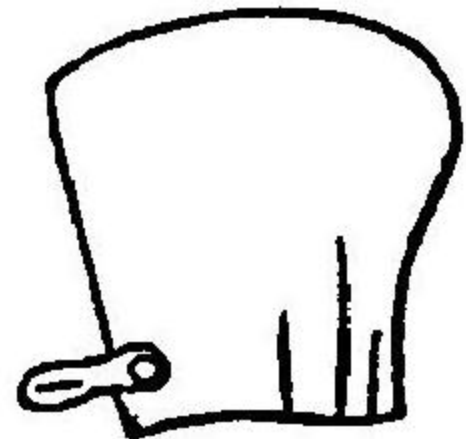
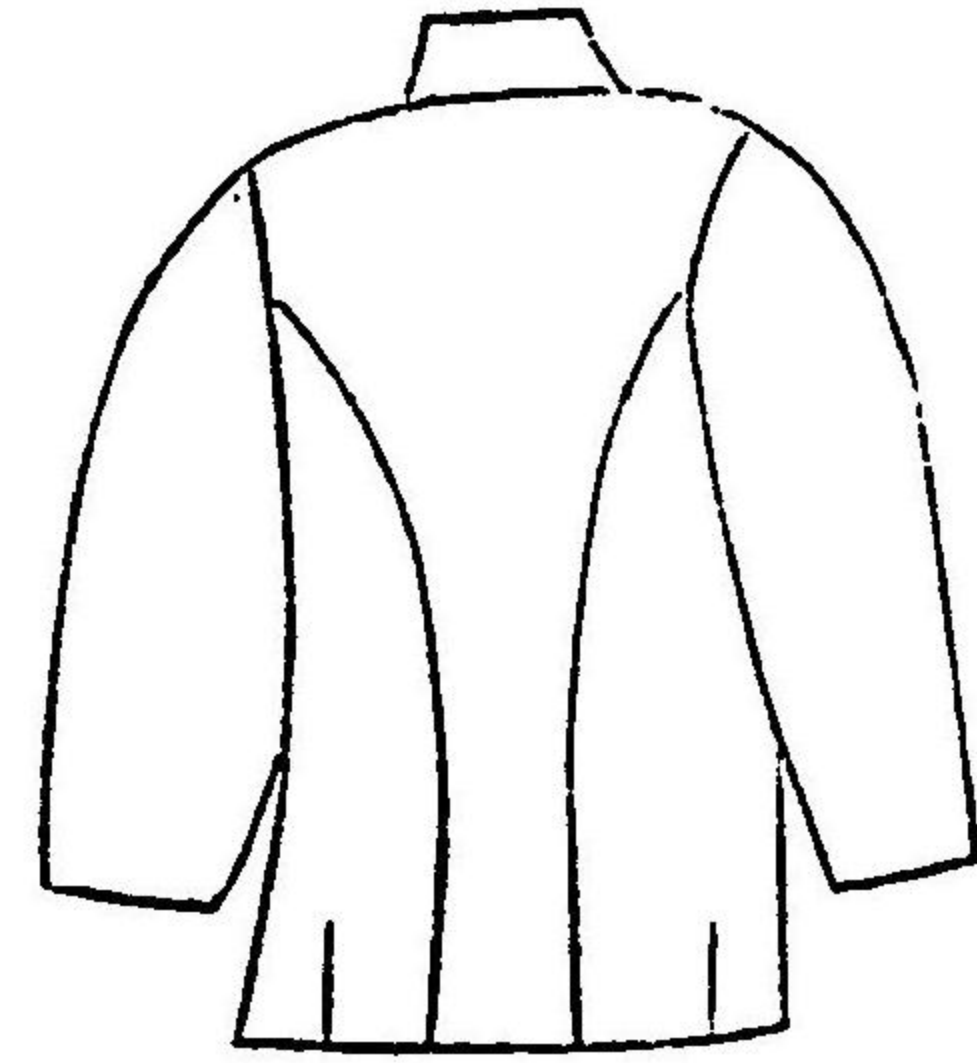
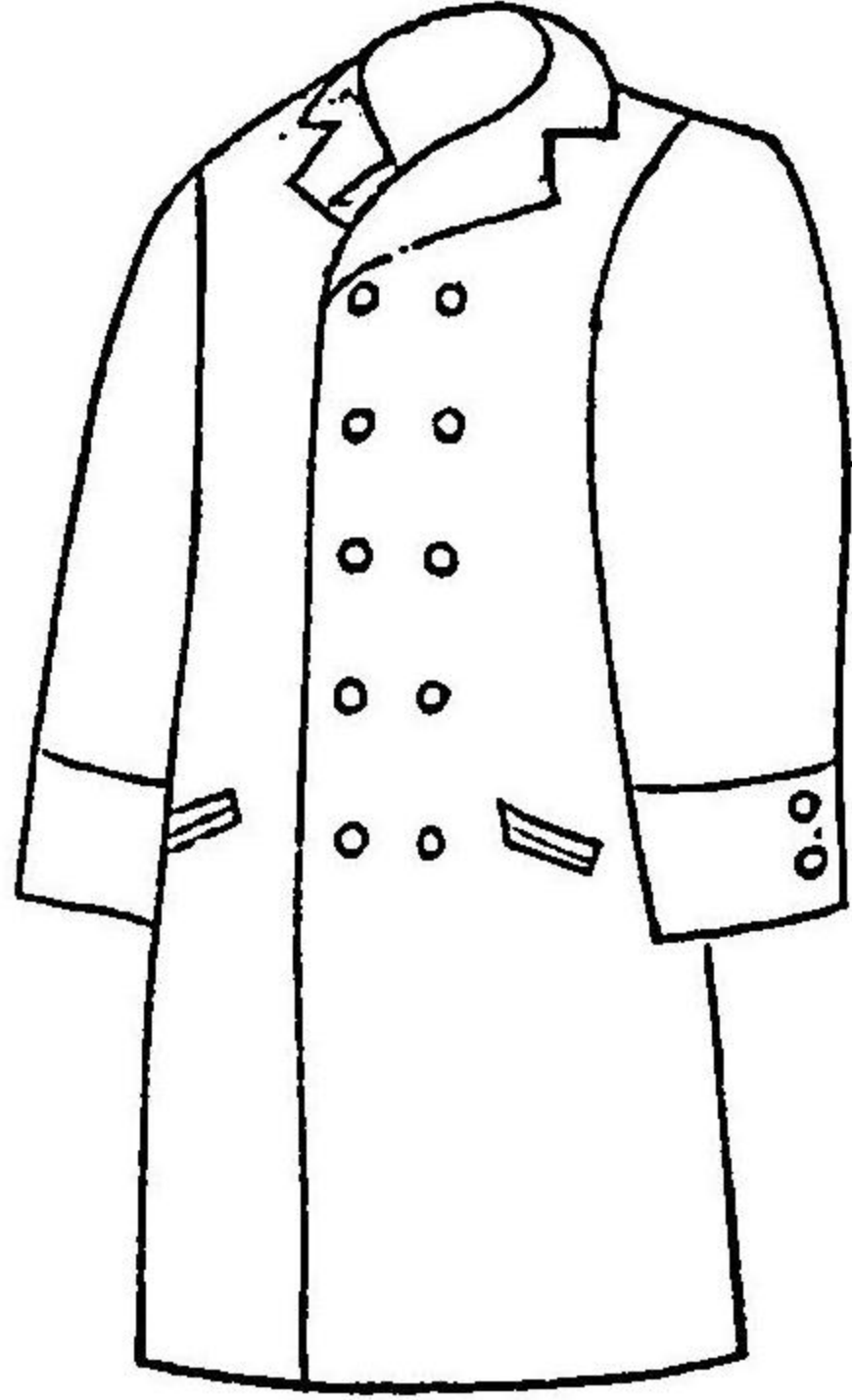
其ノ減給額ニ依リ 第十一條 教員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ當月分ノ俸給ハ發令若ハ免狀失効ノ當日マテ日割ヲ以テ給ス

Table with columns for rank (職名) and salary (俸給額). Ranks include 正教員, 准教員. Salaries range from 拾五圓 to 拾七圓.

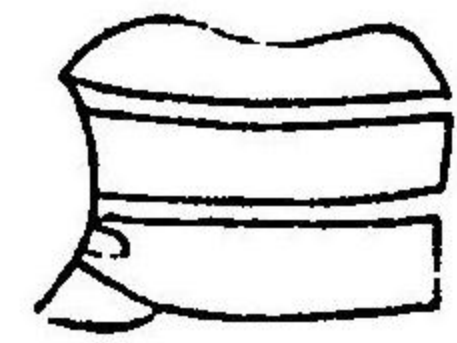
第三圖



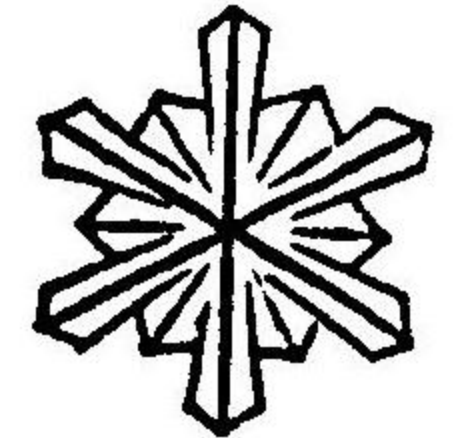
第六圖



第四圖

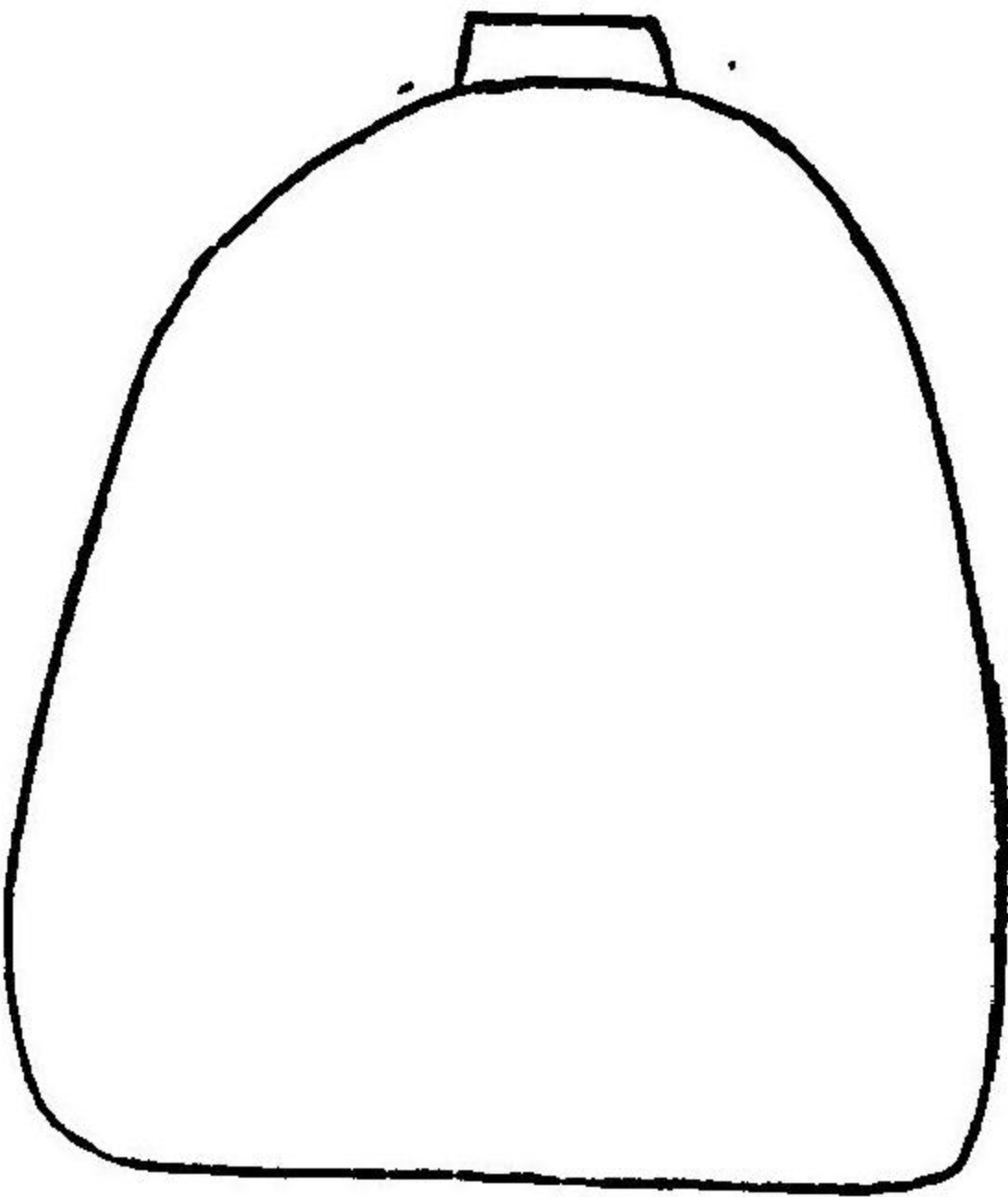
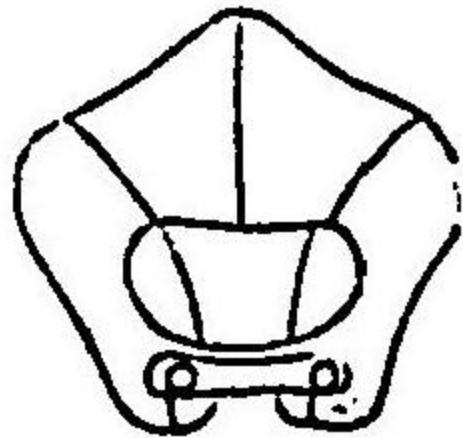
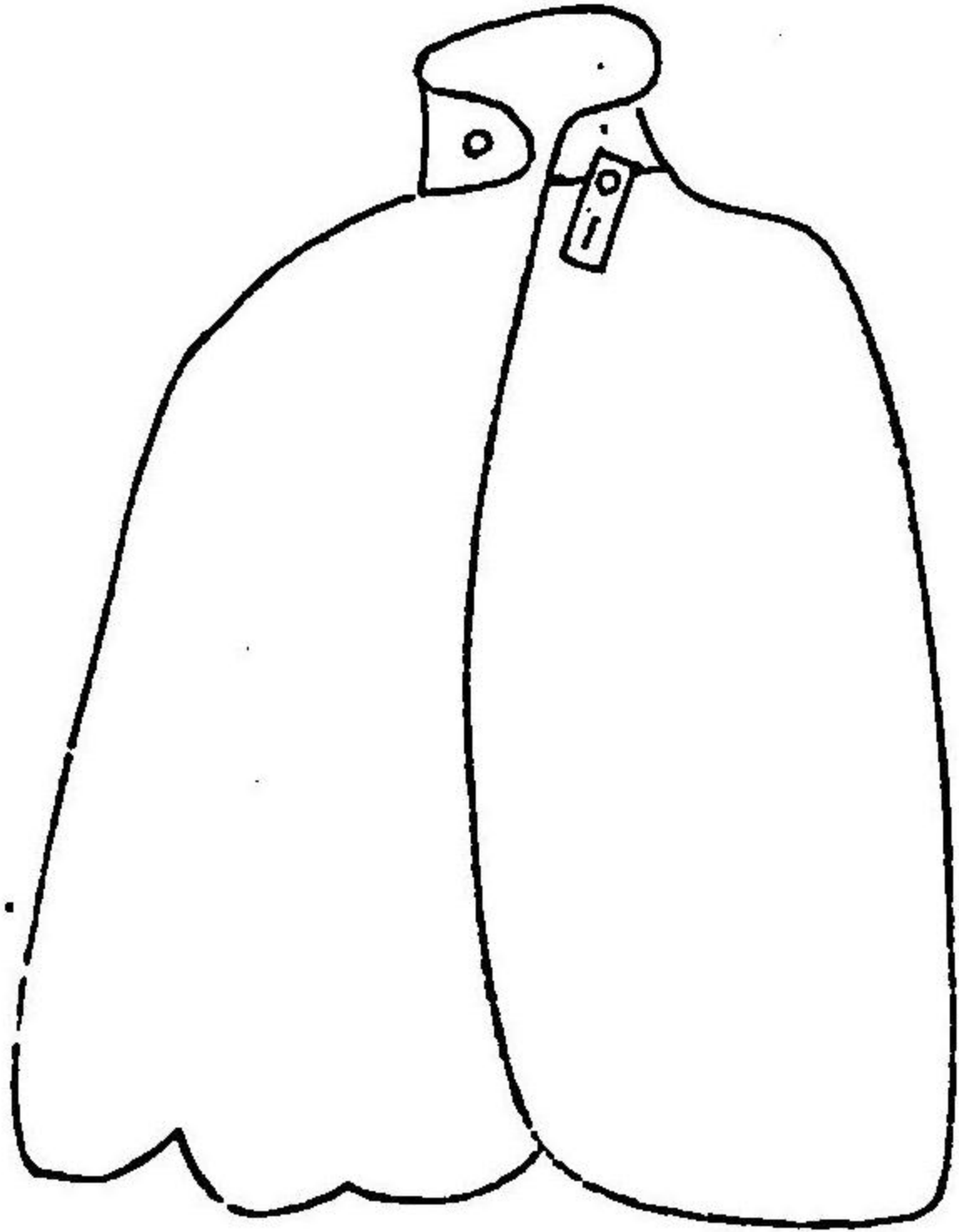


第五圖



分九徑

第七圖



○明治三十三年九月二十日勅令第九十號
 小學校教員檢定細則左ノ通相定ム
 第一條 教員檢定ハ受験人ノ學力、品行、身體ニ
 就キ教員タルニ堪能ナルヲ否ヲ檢定スルモ
 第二條 無試驗檢定ハ其出願者アル毎ニ之ヲ執行
 ス
 但シ現ニ本道小學校員ノ職ニ從事シ成績優等
 ナル者ニ就テハ本人ノ出願ニ依ラスシテ無試
 驗檢定ヲ行フコトアルヘシ(三十四年三月
 令第十三號ヲ以テ本項追加)
 第三條 試驗檢定ハ毎年五月十月ノ二回小學校本
 科正教員及専科正教員ニ就テハ札幌及函館ニ於
 テ小學校准教員及尋常小學校正准教員ニ就テハ

各支廳ニ於テ執行ス其試驗執行ノ期日、出願ノ
 期限及試驗場ハ豫メ之ヲ告示ス(三十四年三月
 令第十三號三十五年二月令第十七號ヲ以テ
 本條中改正)
 但シ本道師範學校ニ於テ小學校教員講習科ヲ
 修了シタル者ハ其際師範學校長ノ申請ニ依リ
 檢定ヲ行フ(三十四年三月令第十三號ヲ以
 テ本項追加)
 第四條 檢定ヲ受ケントスル者ハ氏名、族籍、住
 所、生年月日及希望ノ資格ヲ記シタル願書ニ原
 籍地區(市)町村長又ハ戶長ノ身元證明ヲ受ケ
 (第一號書式)左ノ書類及手数料ヲ添ヘ所轄支廳
 (區及他府縣出願者ニ關シテハ此ノ限ニアラス)
 ナ經由シ北海道廳長官ニ出願スヘシ(三十六年
 二月令第十七號ヲ以テ本條中改正)

但シ現ニ本道區町村立小學校教員ノ職ニ在ル
 者ニシテ檢定ヲ出願スル場合ハ身元證明及身
 體檢査書ヲ送附スルヲ要セス
 一 學業、業務、賞罰等ニ關スル履歷書(第二
 號書式)及學業證書若ハ教員免許狀ノ寫
 二 學校員ノ身體檢査書(第三號書式)但シ學校
 員ノ設置ナキ地ニ在リテハ明治三十一年文
 部省令第七號第一條若ハ第二條ニ該當スル
 資格アル醫師ノ檢査書ヲ以テスルモ妨ケナ
 シ
 第五條 無試驗檢定ヲ出願シタル者ニシテ小學校
 教員檢定委員會ニ於テ試驗ヲ必要ト認メタルト
 キハ本人ノ志望ニ依リ更ニ出願ヲ要セス該願書
 ナ以テ試驗檢定願書ニ更フルコトヲ得
 第六條 小學校本科正教員ノ試驗科目音樂、手

第五類 小學校

扁平胸、狭小胸若クハ全身ノ健康ニ直接ノ關係アル慢性ノ疾患アル者ヲ指ス
中心視力ハスチルレン氏ノ試視力表ニ依リテ其記載力ハ $20/20$ ト記スヘシ但遠視若ハ近視ニアリテハ $20/20$ ハ距離ニ於テ 20 號ヲ明視シ得ル眼鏡ノ度ヲ記載スヘシ
色盲ハ其有無若シ其患アル者ハ何色盲ト記載スヘシ
呼吸器ハ理學的診斷ノ成績ヲ記載スヘシ
神經系ハ中樞若ハ末梢神經ニ障害ノ有無ヲ記載スヘシ
皮膚ハ主トシテ傳染性皮膚病ノ有無ヲ記載スヘシ若シ顔面等ニ現ハ

レタル皮膚アルトキハ之ヲモ記載スヘシ
一 言語ハ明瞭、吃、嚥聲等ヲ記載スヘシ
一 既往現在ノ疾病又ハ畸形ハ腦病、肺病、肋膜炎、脚氣等ノ會患、肺病、心臓病、胃腸病等ノ現在及顯著ナル畸形ヲ記載スヘシ
○明治三十四年一月十五日告示第十號
小學校教員試驗檢定用圖書左ノ通定ム
但手工、商業、習字、珠算ニ就テハ別ニ之ヲ定メス
小學校本科正教員男子ノ部(三十五年三月告示第八十六號ヲ以テ本表中改正)

科目	書目	冊數	著者	發行所	教		國	
					育	語		
倫理	倫理論語抄	二冊	山本信孝	東京市神田區裏神保町	學校管理法	湯原元一	同	同上
增訂	勅語行義	一冊	井上哲次郎	同	倫氏教育學	同	同	同上
中等	倫理學教科書	四冊	岡田瓦平	同	實論學級教授法	加納友市	東京市神田區通新石町二番地	同
帝國	憲法大意	一冊	金港堂編輯所	同	小學校令及小學校令施行規則	須永泉定三郎	同	同上
內外	教育史	一冊	同	同	讀書教本	須永泉定三郎	同	同上
中等	國文讀本	十冊	落合直文	同	中等國文讀本	同	同	同上
適用	日本文學小史	二冊	同上	同上	新選西洋史	白鳥庫吉	東京市神田區神保町九番地	富山房
中等	教育日本文典	一冊	大槻文彦	東京市神田區通新石町二番地	東洋史要	小川銀次郎	同	同上
漢文	孟子	一冊	同上	同上	中等日本歷史	岡部精一	同	同上
地理	新編地理教科書	一冊	同上	同上	算術教科書	藤澤利喜太郎	同	同上
數學	初等代數教科書	二冊	同上	同上	初等幾何學教科書	菊池大麗	同	同上
物理	實川簿記法	一冊	同上	同上	簿記學原論	勝村榮之助	同	同上
物理	近世物理學教科書	一冊	同上	同上	物理學教科書	海野力太郎	同	同上
化學	實驗化學教科書	一冊	同上	同上	化學新編	池田三郎	同	同上
動物	動物學教科書	二冊	同上	同上	動物學教科書	大幸勇吉	同	同上
植物	植物學教科書	二冊	同上	同上	植物學教科書	飯島好學	同	同上

第五類 小學校

科目	書目	冊數	著者	發行所	教		國	
					育	語		
倫理	倫理論語抄	二冊	山本信孝	東京市神田區裏神保町	學校管理法	湯原元一	同	同上
增訂	勅語行義	一冊	井上哲次郎	同	倫氏教育學	同	同	同上
中等	倫理學教科書	四冊	岡田瓦平	同	實論學級教授法	加納友市	東京市神田區通新石町二番地	同
帝國	憲法大意	一冊	金港堂編輯所	同	小學校令及小學校令施行規則	須永泉定三郎	同	同上
內外	教育史	一冊	同	同	讀書教本	須永泉定三郎	同	同上
中等	國文讀本	十冊	落合直文	同	中等國文讀本	同	同	同上
適用	日本文學小史	二冊	同上	同上	新選西洋史	白鳥庫吉	東京市神田區神保町九番地	富山房
中等	教育日本文典	一冊	大槻文彦	東京市神田區通新石町二番地	東洋史要	小川銀次郎	同	同上
漢文	孟子	一冊	同上	同上	中等日本歷史	岡部精一	同	同上
地理	新編地理教科書	一冊	同上	同上	算術教科書	藤澤利喜太郎	同	同上
數學	初等代數教科書	二冊	同上	同上	初等幾何學教科書	菊池大麗	同	同上
物理	實川簿記法	一冊	同上	同上	簿記學原論	勝村榮之助	同	同上
物理	近世物理學教科書	一冊	同上	同上	物理學教科書	海野力太郎	同	同上
化學	實驗化學教科書	一冊	同上	同上	化學新編	池田三郎	同	同上
動物	動物學教科書	二冊	同上	同上	動物學教科書	大幸勇吉	同	同上
植物	植物學教科書	二冊	同上	同上	植物學教科書	飯島好學	同	同上

算術	國語	修身	科	裁縫	體操	理科				地理	歷史
						普通	植物學	動物學	化學		
算術小教科書	新編國語教科書	新編修身教科書	新編理科教科書	新編裁縫教科書	新編體操教科書	普通理科	植物學	動物學	化學	日本地理	外國地理
一冊	一冊	一冊	一冊	一冊	一冊	一冊	一冊	一冊	一冊	一冊	一冊
藤澤利喜太郎	藤澤利喜太郎	藤澤利喜太郎	藤澤利喜太郎	藤澤利喜太郎	藤澤利喜太郎	藤澤利喜太郎	藤澤利喜太郎	藤澤利喜太郎	藤澤利喜太郎	藤澤利喜太郎	藤澤利喜太郎
同市京橋區銀座一丁目	同市京橋區銀座一丁目	同市京橋區銀座一丁目	同市京橋區銀座一丁目	同市京橋區銀座一丁目	同市京橋區銀座一丁目	同市京橋區銀座一丁目	同市京橋區銀座一丁目	同市京橋區銀座一丁目	同市京橋區銀座一丁目	同市京橋區銀座一丁目	同市京橋區銀座一丁目
大日本圖書株式會社	大日本圖書株式會社	大日本圖書株式會社	大日本圖書株式會社	大日本圖書株式會社	大日本圖書株式會社	大日本圖書株式會社	大日本圖書株式會社	大日本圖書株式會社	大日本圖書株式會社	大日本圖書株式會社	大日本圖書株式會社

算術	國語	修身	科	裁縫	體操	理科				地理	歷史
						普通	植物學	動物學	化學		
算術小教科書	新編國語教科書	新編修身教科書	新編理科教科書	新編裁縫教科書	新編體操教科書	普通理科	植物學	動物學	化學	日本地理	外國地理
一冊	一冊	一冊	一冊	一冊	一冊	一冊	一冊	一冊	一冊	一冊	一冊
藤澤利喜太郎	藤澤利喜太郎	藤澤利喜太郎	藤澤利喜太郎	藤澤利喜太郎	藤澤利喜太郎	藤澤利喜太郎	藤澤利喜太郎	藤澤利喜太郎	藤澤利喜太郎	藤澤利喜太郎	藤澤利喜太郎
同市京橋區銀座一丁目	同市京橋區銀座一丁目	同市京橋區銀座一丁目	同市京橋區銀座一丁目	同市京橋區銀座一丁目	同市京橋區銀座一丁目	同市京橋區銀座一丁目	同市京橋區銀座一丁目	同市京橋區銀座一丁目	同市京橋區銀座一丁目	同市京橋區銀座一丁目	同市京橋區銀座一丁目
大日本圖書株式會社	大日本圖書株式會社	大日本圖書株式會社	大日本圖書株式會社	大日本圖書株式會社	大日本圖書株式會社	大日本圖書株式會社	大日本圖書株式會社	大日本圖書株式會社	大日本圖書株式會社	大日本圖書株式會社	大日本圖書株式會社

第五類 小學校

理	理化	教	一册	根藤	同市日本橋區通旅籠町	小林 八郎
動	動物	初歩	一册	五島清太郎	同市日本橋區本町	金 港
植	植物	初歩	一册	好 學	同市日本橋區本町	上
體	普通體操	法	一册	坪井玄道	同市京橋區銀座一丁目	大日本圖書株式會社
國	國語	教本	八册	復永和三郎	同市日本橋區突顯町	善 及 舍

○明治三十四年五月二日訓令第三十九號(支廳區役所町村役場長役場宛)
區町村ニ於テ准教員講習所ヲ設クルトキハ左ノ規程ニ據ルヘシ

准教員講習所規程
第一條 准教員講習所ハ尋常小學校准教員ヲ養成スル者ニ須要ナル學科ヲ講習スルヲ以テ目的トス
第二條 准教員講習所ヲ開設スルトキハ左ノ事項ヲ具シ町村ニ在リテハ支廳長、區ニ在リテハ長官ノ認可ヲ受クヘシ
一 關係區町村名
二 位置
三 規則
四 生徒定員
五 收入支出豫算表
第六條 第一號乃至第四號ノ變更ハ認可ヲ受ケ第五號ノ變更ハ其都度開申スヘシ
第七條 第二號ニ依リ支廳長ニ於テ認可シタルトキハ關係事項ヲ具シ直ニ長官ニ報告スヘシ
第八條 規則ニハ左ノ事項ヲ規程スヘシ
一 講習ノ學科日ニ關スル事項
二 講習ノ期限及各學科日ノ講習時數ニ關スル事項

三 依日ニ關スル事項
四 試驗及終了證書ニ關スル事項
五 入退學ニ關スル事項
六 貸借ニ關スル事項
七 前各號ノ外必要ナル事項
第九條 准教員講習所ヲ廢止シタルトキハ町村ニ在リテハ支廳長、區ニ在リテハ長官ニ開申スヘシ但シ支廳長ハ其ノ旨直ニ長官ニ報告スヘシ
第十條 准教員講習所ニ入學セシムヘキ者ハ左ノ資格ヲ備フルコトヲ要ス
一 品行方正
二 身體健全
三 年齡十四年以上
四 修業年限四箇年ノ高等小學校ヲ卒業シタル者又ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者
第十一條 講習ノ學科日及其ノ程度ハ左ノ如シ
一 修身 道徳ノ要旨
二 國語 教授法ノ大要
三 算術 小學校教科用本ノ講讀算術、習字、筆算、分數及小數ノ加減乘除、單比例
四 歷史 日本歷史及日本地理ノ大要
五 地理 物理、化學ノ初歩
六 理科 單音唱歌
七 體操 普通體操

第十二條 講習ノ女子ノ爲メニハ開クコトヲ得
第十三條 講習ノ期限ハ六月トシ其ノ毎週教授時數ハ二十八時トス
第十四條 特別ノ事情アルトキハ講習ノ期限ヲ六月以上ニ定メ毎週教授時數ヲ十八時マデ減スルコトヲ得但シ通計六百七十時ヲ下ルコトヲ得ス
第十五條 各學科日ノ毎週教授時數ハ凡ソ左ノ標準ニ依ルヘシ
一 修身 三時間
二 國語 三時間
三 算術 三時間
四 歷史 三時間
五 地理 三時間
六 理科 三時間
七 體操 三時間
第十六條 准教員講習所ニハ區町村立小學校ノ校舍備品等ヲ使用セシムルコトヲ得但シ其ノ小學校ノ教授ニ妨キ場合ニ限ル
第十七條 准教員講習所ノ職員ハ左ノ如シ
一 所長 一名
二 講師 若干名
第十八條 准教員講習所職員ハ小學校正教員又ハ師範學校、中學校若クハ高等女學校教員ノ免許

實業學校

○明治三十六年四月一日廳令第五十號
北海道廳立函館商業學校學則左ノ通定ム

第一章 目的、修業年限
第一條 本校ハ甲種商業學校ノ程度ニ依リ商業ニ關スル必要ノ教育ヲ施スルヘシ
第二條 本校ニ本科ノ外當分豫科ヲ置ク又時宜ニ依リ専攻科ヲ置クコトヲ得
第三條 生徒ノ數ハ各科ヲ通シテ凡ソ三百名トス
第四條 修業年限ハ本科三箇年、豫科二箇年、専攻科一箇年トス
第二章 學科日、程度、教授時間
第五條 本科ノ學科日ハ修身、讀書、習字、作文、數算、地理、歷史、英語、露語、經濟、法規、簿記、商品、商業要項、商業實踐及體操トス豫科ノ學科日ハ修身、讀書、習字、作文、算術、地理、歷史、英語、理科、圖畫及體操トス
第六條 専攻科ノ學科日ハ英語、露語、法規、經濟、商業要項及商業實踐トシ理科若クハ數科ヲ選ハシム
第七條 各學科日ノ程度及毎週教授時間ハ左ノ如シ但シ専攻科ノ各學科日ノ毎週教授時間ハ學校長ニ於テ之ヲ定ム

學科	第一學年	第二學年	第三學年
修身	一 道徳ノ要領	一 同上	一 同上
國語	一 國語及漢文講讀	一 同上	一 同上
算術	一 算術、代數	一 同上	一 同上
歷史	一 日本歷史、世界歷史	一 同上	一 同上
地理	一 日本地理、世界地理	一 同上	一 同上
英語	一 英語、會話	一 同上	一 同上
露語	一 露語、會話	一 同上	一 同上
經濟	一 經濟學、簿記	一 同上	一 同上
法規	一 法規、簿記	一 同上	一 同上
簿記	一 簿記、簿記	一 同上	一 同上
商品	一 商品、簿記	一 同上	一 同上
商業要項	一 商業要項、簿記	一 同上	一 同上
商業實踐	一 商業實踐、簿記	一 同上	一 同上
體操	一 體操、簿記	一 同上	一 同上
合計	三三	三三	三三

第五類 實業學校

學科		第一學年		第二學年	
學科	時間	學科	時間	學科	時間
修身	一	道德ノ要領	一	同上	同上
讀書	三	假名交リ文讀	三	同上	同上
習字	二	楷書	二	行書	二
作文	一	往復文、記事文	一	同上	同上
算術	五	筆算、珠算	五	同上	同上
地理	二	日本地理ノ大要	二	外國地理ノ大要	二
歴史	二	日本歴史ノ大要	二	外國歴史ノ大要	二
英語	六	發音、綴字、讀方、會話、會話、習字	六	讀方、譯解、會話、作文、書取	六
理科	四	博物、理化學ノ大要	四	同上	同上
圖畫	一	自在畫	一	同上	同上
體操	三	普通體操、兵式體操	三	同上	同上
合計	三〇		三〇		

經濟	
商業要項	內外國商業取引方法
商業實踐	內外國商業取引實踐

第三章 學年、休業日、式日
 第七條 學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル
 學年ヲ三學期ニ分ツ第一學期ハ四月一日ヨリ八月三十一日ヲ第二學期
 ハ九月一日ヨリ十二月三十一日ヲ第三學期ハ翌年一月一日ヨリ三月三十一日ヲトス
 第八條 休業日左ノ如シ
 一 祝日
 二 大祭日
 三 春季休業
 四月一日ヨリ
 同月七日マデ
 八月三十一日マデ
 同月三十一日マデ
 一 冬季休業
 十二月二十五日ヨリ
 翌年一月七日マデ
 一 札禮神社祭
 六月十五日
 一 開校記念日
 前項ノ外必要ノ場合ニハ學校長ニ於テ長官ノ認可ヲ受ケ臨時休業ヲナス
 コトアルヘシ
 第九條 祝元節、天皇節、一月一日及開校記念日ニハ職員及生徒學校ニ集
 リ祝賀ノ式ヲ行フヘシ
 第四章 入學、退學、懲戒
 第十條 生徒ハ入學ハ學年ノ始リ三十日以内トス但シ缺員ノアルトハ第
 二學期又ハ第三學期ノ始リ十日以内ニ臨時入學ヒシムルコトアルヘ
 シ
 第十一條 入學ヲ許可スヘキ者ニハ左ノ資格アルヲ要ス
 一 體格及性質本校ノ課程ヲ修ムルニ足リ且ツ將來商業ニ適スト認ムル
 者
 二 養育第一學年ニハ年齡十二年以上ニシテ高等小學校第二學年ヲ終リ

タル者豫科第二學年ニハ年齡十三年以上ニシテ高等小學校第三學年ヲ終リタル者
 前項ニ適合スル者募集人員ニ滿タラルトキハ學力試験ニ合格シ前項ノ年齡ニ該當スル者
 三 本科第一學年ニハ年齡十四年以上ニシテ豫科ヲ終リタル者若ハ四年程度ノ高等小學校ヲ終リ且ツ英語ノ試験ニ合格シタル者
 前項ニ適合スル者募集人員ニ滿タラルトキハ學力試験ニ合格シ前項ノ年齡ニ該當スル者
 第十二條 前條高等小學校ヲ經テ入學シ望ム者募集ノ數ニ越ユルトキハ選拔試験ヲ行ヒ其ノ成績ノ順ニ依リ入學ヲ許可ス
 第十三條 第十一條第十二條ノ試験手續ハ本校生徒ノ試験手續ト同シ
 第十四條 入學志願者ハ第一號書式ノ願書及第二號書式ノ履歷書ヲ提出スヘシ
 第十五條 入學ノ許可ヲ得タル者ハ學校ノ指圖ニ依リ保證人ト共ニ學校ニ至リ第三號書式ノ證書ヲ提出スヘシ
 保證人ハ前條區内ニ住居シ一家ヲ立ツル成年以上ノ男子トシタルコトヲ要ス
 保證人ハ生徒ノ身上ニ關スル一切ノ事件ヲ引受ケ且ツ監督スル義務ヲ負フ若シ學校長ニ於テ其ノ責任ニ關シテ充分ナリト認メタル者ニ付テハ之ヲ代ヘシムルコトアルヘシ
 保證人轉居シタルトキハ速ニ其ノ旨學校ニ届出ツヘシ
 第十六條 生徒ハ退學スルコトヲ得ス若シ止ムコトヲ得サル事情ニ依リ退學セントスルトキハ其ノ事ヲ記シ保證人連署ニテ願出ツヘシ

第十七條 學校長ハ左ノ各號ノ一ニ當ル者ニハ退學ヲ命ス
 一 性行不良ニシテ改善ノ見込ナシト認メタル者
 二 學力劣等ニシテ成績ノ見込ナシト認メタル者
 三 引續キ一箇年以上缺席シタル者
 四 正當ノ事由ナクシテ引續キ一箇月以上缺席シタル者
 第十八條 學校長ハ教育上必要ト認メタルトキハ生徒ニ懲戒ヲ加フ
 懲戒ハ戒諭、停學又ハ放校トス
 第十五條 各學年ノ修業又ハ全科ノ卒業ヲ認ムルニハ品行、本業ノ學業及試験ノ成績ニ依リ且ツ正當ノ事由アリテ試験ニ缺席シタル者ニ對シテハ品行及學業ノ成績ノミヲ調ヘテ之ヲ定ムルコトアルヘシ
 第二十條 試験ハ學期試験及學年試験トシ學期試験ハ第一學期及第二學期ノ終ニ於テ行ヒ學年試験ハ學年終ニ於テ行フ但シ正當ノ事由アリテ試験ニ缺席シタル者ノ爲ニ次ノ學期ノ始ヨリ一箇月以内ニ試験ヲ行フコトアルヘシ
 讀書、作文、習字、算術、數學、國畫、商業實踐、英語、露語及體操ニ付テハ試験ヲ行ハサルコトアルヘシ
 第二十一條 品行及各學科ノ成績ハ點數ヲ定メ百點ヲ滿點トス
 品行及各學科ノ成績四十點以上ニシテ平均六十點以上ノ者ヲ及第トス但シ二科以内ノ成績四十點未滿ニテモ他學科ノ成績ヲ見テ及第ト爲スコトアルヘシ

第二十二條 全科ノ卒業シタル者ニハ第四號書式ノ證書ヲ專攻科ヲ修業シタル者ニハ第五號書式ノ證書ヲ授ケ
 第六條 授業料
 第二十三條 授業料ハ一箇月金幣圓トシ毎月九日マデニ其ノ月分ヲ納メシム但シ四月及一月ハ十日マデトス
 授業料ヲ納ムル期限ノ後ニ至リ初メテ出席又ハ入學シタル者ハ其ノ當日之ヲ納メシム全ク出席セザルトキハ其ノ月分ヲ徵收ス
 第二十四條 前條ノ期限マデニ授業料ヲ納メタル者ハ出席ヲ停止シ授業料ヲ徵收セズ
 授業料ノ納入ノ志アルコトハ學年ノ内ニ二回ニ及ブ者ハ其ノ學年ノ間出席ヲ停止ス
 第七條 持待生
 第二十五條 學校長ハ生徒ノ中學業修等品行方正ニシテ他ノ生徒ノ模範トナルヘキ者ヲ選拔シ持待生トナスコトヲ得持待生ノ期間ハ一學年トス
 持待生ニハ授業料ヲ免除ス
 第二十六條 持待生ノ數ハ學校數ノ二倍以下トス
 附則
 第二十七條 本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス
 明治三十三年六月北海道廳令第五十三號北海道廳立南館商業學校規則ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス
 第一號書式 入學願 (用紙半紙)
 南館商業學校何科何學年ハ入學致シ別紙履歷書ヲ添へ願上候也
 住所 族籍戸主何某何男又ハ弟等

第五類 實業學校

(本人、氏、名、印)
(本年未成年者ナラトキハ親權ヲ行フ者又ハ後見人署名捺印ヲ要ス)

年月日 北海道立函館商業學校校長氏名殿

第二號書式 履歷書 (用紙半紙算紙)

住所

族籍戸主(何某何男又ハ弟等) 氏 名

生年月日

一何年何月ヨリ何年何月マテ何地公(私)立何學校ニ於テ何修業又ハ卒業(證書又ハ證明書別紙ノ通)

一何年何月ヨリ何年何月マテ何地何業ニ就キ若ハ何學校(何塾)ニ於テ何修業又ハ卒業

一何年何月何地ニ於テ何何ニ依リ何何ノ賞(罰)ヲ受ケ右ノ通ニ候也

第三號書式

在學證書 (用紙美濃紙)

私儀此度入學御許可相成候ニ付テハ御規則堅ク相守申ヘク候也

年月日

住所

族籍戸主(何某何男又ハ弟等) 氏 名

生年月日

何某在學中御規則堅ク相守ラセ候ハ勿論本人ニ係ル一切ノ事ヲ引受ケ且ツ本人ニ於テ御定メノ期限マテニ授業料ヲ納メサルトキハ御通知次第私コリ通ニ納ムヘク候也

年月日 北海道立函館商業學校校長氏名殿

前書保證人某ハ成年以上ノ男戸主ニシテ函館區内ニ一家ト立ツル者ナルコトヲ證ス

年月日

第四號書式

卒業證書

族籍

氏 名

生年月日

本校全科ノ卒業ヲ證ス

年月日

第五號書式

修業證書

族籍

氏 名

生年月日

本校政科ニ於テ何何科ヲ修業シタルコトヲ證ス

年月日

北海道立函館商業學校校長氏名殿

○明治三十二年六月二十五日總令第五十八號

函館商業學校職員ノ俸給旅費額其諸給與ノ支給方法ニ關シテハ明治三十二年(三月)北海道總令第二十四號ヲ適用ス

○明治三十二年六月二十六日總令第三百五十四號(函館商業學校電)

左記ノ事項ハ校長限リ處分シ其要領ヲ開申スヘシ

第五類 實業學校

細則ノ制定改正ニ關スル事
職員ノ事務分掌ヲ定ムル事
俸給月額十五圓ノ職員以下進退賞罰ノ事
手當月額二十圓未満ノ囑託教員進退賞罰ノ事
校員歸省養病其他私事旅行積及除服處分ノ事
校員(管内出張ヲ命スル事)
一週日以内臨時休業ノ事
生徒管内修學旅行ノ事
生徒賞罰ノ事但放校ハ此限ニアラス
生徒ノ募集及商業學校生徒入退學願ノ處分ニ關スル事
但募集人員ハ本總ノ告示ニ依ル

一 普通學科日 修身、讀書、作文、數學、物理、地理、英語、圖畫、體操
二 實業學科日 機械、航海術、機關術大意、海上氣象學大意、造船學大意、圖畫、海軍實習
三 實習

一 札禮神社祭 六月十五日
一 開校紀念日
第四條 學科程度及教授時數
第九條 本科ノ學科程度及每週教授時數ハ別表甲表ニ依リ豫科ノ學科程度及每週教授時數ハ別表乙表ニ依ル
第五條 生徒定員、入學、退學及除服
第十條 生徒ノ定員ハ本科百二十名豫科八十名トス但シ本科實習生ハ定員以外トス
第十一條 生徒入學ノ時期ハ學年ノ始トス但シ決員アルトキハ臨時入學ヲ許スコトヲアヘシ
第十二條 本科第一學年ニ入學ト許スヘシ但シ豫科ヲ修了シタル者又ハ年滿十四年以上二十年以下品行端正身體健全ニシテ學力修業年限四箇年ノ高等小學校卒業若ハ之ト同等以上ノ者タルヘシ(三十六年二月總令第二十七號ヲ以テ本條中改正)

第五類 實業學校

校長ノ品行方正學力優等ノ證明書アル者ハ前項ノ試験ヲ要セスシテ入學ヲ許スコトアルヘシ

第十五條 入學志願者ハ書式第一號ノ願書ニ書式第二號ノ履歷書ヲ添ヘ入學ノ許可ヲ得タル者ハ書式第三號ノ證書ヲ差出スヘシ

第十六條 保證人ハ成年以上ノ男子主ニシテ一家ヲ立テ生徒ノ身上ヲ引受テ學校ト相待テ監督ノ責ヲ盡スニ足ルト認ムル者ニ限ル

第十七條 生徒ハ退學スルコトヲ許サズ但シ止ムコトヲ得サル事情ニ依リ退校ノ許可ヲ得ントスルトキハ書式第四號ノ願書ヲ差出スヘシ

第十八條 學校長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル生徒ニハ退學ヲ命スヘシ

一 品行不良ニシテ改善ノ見込ナシト認メタル者

二 學力劣等ニシテ卒業ノ見込ナシト認メタル者

三 正當ノ事由ナクシテ引續キ一箇月以上缺席シタル者

四 引續キ一箇年以上缺席シタル者(三十五年三月總令第二十四條ヲ以テ本項追加)

第十九條 學校長ハ指揮訓練ニ違背スル生徒ニ對シ其輕重ヲ量リ之ヲ懲戒スヘシ

懲戒ハ減學、停學、放校ノ三種トス

第六章 試験及卒業

第二十條 試験ヲ分テ臨時試験、學年試験、卒業試験トス

第二十一條 臨時試験ハ學期中履修シタル科目ニ付臨時之ヲ施行ス

第二十二條 學年試験ハ每學年ノ終ニ於テ其學年間ニ履修シタル科目ニ付之ヲ施行ス

第二十三條 卒業試験ハ實習終了ノ後之ヲ施行シ合格者ニハ卒業證書ヲ授ク

第二十四條 各科目ノ試験及成績點數ハ百ヲ以テ定點トシ其十分ノ六以上ヲ以テ及第トス

但各科點數十分ノ六未満ナリト雖モ平均點數十分ノ七以上ヲ得タル者ニ就キテハ平常ノ品行學力ヲ參照シ特ニ及第セシムルコトアルヘシ(三十六年二月總令第二十七號ヲ以テ本項追加)

第二十五條 學年ノ成績點數ハ學年試験ノ得點ニ臨時試験ノ得點ヲ加ヘ平均シ卒業ノ成績點數ハ卒業試験ノ得點ニ學年ノ成績點數ヲ加ヘ平均シタルモノトス

第二十六條 卒業試験ニ落シタル者ニハ三箇月以内履修ノ命シ再試験ヲ施行ス

第七章 授業料

第二十七條 授業料ハ本科課程各一箇月金壹圓トス但シ本科實習生ハ之ヲ徴收セス

第二十八條 學則ニ依リ又ハ臨時學校ノ都合ニ依リ休業二箇月(二月一日)末日マテ全月休業セントキ)以上三及フトキハ授業料ヲ徴收セス

第二十九條 生徒疾病若ハ他ノ事情ニ依リ一箇月以上缺席スルハ授業料ヲ免除セス

第三十條 授業料ノ免除シタル者ニハ免除中授業ヲ停止スルコトアルヘシ

第八章 生徒服裝

第三十一條 生徒ノ服裝ハ學校長之決定メ北滿道總長官ノ認可ヲ經ヘシ

第九章 特待生

第三十二條 學術優等品行方正ニシテ衆生徒ノ模範タルヘキ者ヲ選ビ特待生トス

第三十三條 特待生ノ期限ハ一學年間トシ其人員十六人以内トス

第三十四條 特待生ハ授業料ヲ免除ス

第十章 專修科

第三十五條 本校ニ專修科ヲ置キ從來ノ清員ニシテ船長機關長運轉士機關士ノ試験ヲ受ケント欲スル者ニ本科ノ學科中志願ノ學科目ノ專修セシムルヲ以テ目的トス

第三十六條 專修科ノ入學ノ時期及人員ハ學校長ニ於テ臨時之ヲ定ムヘシ

第三十七條 專修科ニ入學ヲ許ス者ハ左ノ資格ヲ有スル者タルヘシ

一 身體強壯品行方正ニシテ海上若ハ工場履歷ヲ有スル者

二 已ニ海技免狀ナリシ更ニ高等ノ海技免狀ヲ得ントスル者

三 本規則ニ定メタル身元保證人アル者

第三十八條 專修科入學志願者ハ書式第五號ノ願書ニ書式第六號ノ履歷書

ナ添ヘテ差出スヘシ

第三十九條 專修科ノ授業料ハ一箇月金貳圓トス

甲號一(三十六年二月總令第二十七號ヲ以テ本表改正)

本科ノ學科程度

學年	科目	時數	第一學年	第二學年	第三學年
修身	一	人倫道德ノ要旨	一	同上	同上
讀書作文	四	講讀、作文	一	同上	同上
數學	六	算術、代數	六	代數、幾何、三角法	同上
物理	二	地誌及地交	三	物理	同上
地理	二	地誌及地交	同上	同上	同上
英語	七	綴字、書取、讀方、譯解、習字	七	讀方、譯解、文書取、作文	同上
圖畫	一	自在畫	同上	同上	同上
運川術	三	運川術	六	同上	同上
航海術	二	航海術	三	航海術	七
機關術	二	機關術	七	同上	同上
造船學	二	造船學	二	造船學	二
海上氣象	二	海上氣象	二	海上氣象	二
醫學	二	醫學	二	醫學	二
海軍法規	二	海軍法規	二	海軍法規	二
體操	一	普通體操	一	同上	同上
兵式體操	一	兵式體操	一	同上	同上

甲號二

學年	科目	時數	第一學年	第二學年	第三學年
修身	一	人倫道德ノ要旨	一	同上	同上
讀書作文	四	講讀、作文	一	同上	同上
數學	六	算術、代數	六	代數、幾何、三角法	同上
物理	二	地誌及地交	三	物理	同上
地理	二	地誌及地交	同上	同上	同上
英語	七	綴字、書取、讀方、譯解、習字	七	讀方、譯解、文書取、作文	同上
圖畫	一	自在畫	同上	同上	同上
運川術	三	運川術	六	同上	同上
航海術	二	航海術	三	航海術	七
機關術	二	機關術	七	同上	同上
造船學	二	造船學	二	造船學	二
海上氣象	二	海上氣象	二	海上氣象	二
醫學	二	醫學	二	醫學	二
海軍法規	二	海軍法規	二	海軍法規	二
體操	一	普通體操	一	同上	同上
兵式體操	一	兵式體操	一	同上	同上

乙 號

學科ノ學科程度		第一學年		第二學年	
學年	時數	學年	時數	學年	時數
修身	一	人倫道德ノ要旨	一	同上	同上
國語	七	國語ノ講義	七	同上	同上
算術	三	算術ノ講義	三	同上	同上
地理	三	日本地理	三	外國地理	三
物理	一	物理ノ講義	一	同上	同上
化學	一	化學ノ講義	一	同上	同上
英語	七	綴字、讀方、譯解、會話、習字	七	同上	同上
圖畫	一	取、寫、繪、習字	一	同上	同上
音樂	三	普通音樂	三	同上	同上
體育	三	兵式體操	三	同上	同上

書式第一號

入學願書 (用紙半紙)
 私儀御校預科(本科)航海科、機關科ニ入學志願ニ付御許可被成下度履歷書相添此段相願候也

年 月 日
 現住所 北海道(何府縣)華(士)族(平民) 戸主(誰何男弟等)
 姓 名 印
 學校長姓名殿
 書式第二號 履歷書 (用紙半紙) 現住所

書式第三號

在學證書 (用紙美濃)
 私儀今般入學御許可相成候ニ付テハ御規則堅ク遵守候ハ勿論半途退學致問致依テハ書留新候也

年 月 日
 現住所 北海道(何府縣)華(士)族(平民) 戸主(誰何男弟等)
 姓 名 印
 前書某在學中御規則堅ク遵守候ハ勿論本人ニ係ル一切ノ事件ハ私ニ於テ引受可申候也
 年 月 日
 現住所 北海道(何府縣)華(士)族(平民) 戸主
 姓 名 印
 前書保證人某ハ丁年以上ニシテ一家ノ立ツル者ニ相違無之候也
 年 月 日
 區町村長(戸長) 姓 名 印

書式第四號

退學願書 (用紙半紙)
 私儀退學致度ニ付別紙理由書相添保證人連署此段相願候也

年 月 日
 現住所 北海道(何府縣)華(士)族(平民) 戸主(誰何男弟等)
 姓 名 印
 學校長姓名殿
 書式第五號(三十六年二月廳令第二十七號ヲ以テ本書式改正) 入學願書 (用紙半紙)
 私儀專修科ニ入學シ航海(機關)科ノ學科日中何科專修致度候ニ付御許可被成下度別紙履歷書相添此段相願候也

年 月 日
 現住所 北海道(何府縣)華(士)族(平民) 戸主(誰何男弟等)
 姓 名 印
 前書某入學御許可ノ上ハ在學中御規則堅ク遵守候ハ勿論本人ニ係ル一切ノ事件ハ私ニ於テ引受可申候也

年 月 日
 現住所 北海道(何府縣)華(士)族(平民) 戸主(誰何男弟等)
 姓 名 印
 ○明治三十四年十一月二十三日廳令第六十七號
 北海道立函館商船學校職員ノ俸給旅費額其他諸給與ノ支給方法ニ關シテハ明治三十二年(三月)北海道廳令第二十四號ヲ適用ス
 ○明治三十四年十二月二日訓令第九十九號(北海道立函館商船學校宛)
 左記ノ事項ハ校長限處分シ其要領ヲ開申スヘシ
 一 細則ノ制定改正ニ關スル事
 一 職員ノ事務分掌ヲ定ムル事
 一 俸給額額拾五圓ノ職員以下進退賃額ノ事
 一 手當月額拾圓未滿ノ職員進退賃額ノ事
 一 職員隨省養病其他私事旅行額及除服處分ノ事

書式第六號

學校長姓名殿
 書式第六號(三十六年二月廳令第二十七號ヲ以テ本書式改正) 履歷書 (用紙半紙)
 現住所 北海道(何府縣)華(士)族(平民) 戸主
 姓 名 印
 年 月 日
 海技免狀所持スルモノハ其寫ヲ添付スヘシ
 右ノ通相違無之候也

船名	總噸數	船種類	職業	職業期間

者宜シク時勢ノ進歩ト土地ノ情況トニ應ジ適當ノ施設ヲ爲サンコトヲ期スヘシ
 第一 設置ノ目的ニ關スル事
 一 實業學校補習ハ各種ノ實業ニ從事シ又ハ從事セントスル者ニ簡易ナル方法ニ依リ其ノ職業ニ要スル知識技能ヲ授ケルト同時ニ普通教育ノ補習ヲ爲スヲ目的トス故ニ實業ノ教科ヲ主トシ併シテ普通教育ノ補習ヲ爲スヲ本旨トス尤土地ノ情況ニ依リ教科目ハ如何様ニモ之ヲ増減附屬スルコトヲ得ヘシ然レトモ徒ニ教授時數ヲ増シ教科目ヲ繁多ナラシムルハ宜シク避クヘキコトナリ要ハ

第五類 實業學校

只生徒各自ノ志望ト學力トニ應シ適切ノ教育ヲ施スニアルナリ

第二 設備ニ關スル事

- 一 少額ノ費用ヲ以テ經濟的ニ經營スルコト最モ必要ナルヲ以テ成ルヘク小學校又ハ其ノ他ノ學校ニ附設シ校舍備品器機器具等ヲ兼用スルノ利便ヲ計ルヘシ
- 一 土地ノ情況ニ依リテハ實業補習學校ヲ一定ノ場所ニ當置スルコトナク適宜各村ノ小學校等ヲ借用シ巡回教授ノ方法ヲ採ルモ妨ケナシ
- 一 器機器具標本ハ成ルヘク十分ニ備フルヲ要スルヲ以テ篤志者ノ寄贈又ハ貸與リ受ケ或ハ教員生徒ニ於テ自ラ之ヲ製作スル等ノ方法ニ依リ之ヲ完備ヲ計ルヘシ
- 一 學級編制ニ關スル事
 - 一 年級凡ソ十四歳ヲ界トシテ長幼ニ區別シテ職業若ハ男女ニ依リ區別スル等適宜ノ編制ヲナスコトヲ要ス
 - 一 教科ニ關スル事
 - 一 年少ノ生徒ニシテ普通教育ノ素養十分ナラサル者ニハ成ルヘク普通ノ教科日ヲ課シテ補習セシムルヲ可トス
 - 一 德育ハ教育ノ基礎ニシテ特ニ實業ニ從事スル子弟ニ於テハ信用ヲ重シ公益ヲ尙フ等ノ氣風ヲ養成スルコト必要ナリ故ニ各教科日ニ通シテ徳性ヲ涵養シ實踐躬行ヲ勸奨セシムルヲ要ス
 - 一 實業ニ關スル科目ハ土地ノ情況ニ應シ選擇最モ其ノ宜シキヲ得ルヲ要ス明治三十五年文部省令第一號第四條ニ掲グルモノハ僅ニ其ノ數個ヲ例示スルニ過キス故ニ之ヲ實

第六 修業期間ニ關スル事

- 一 土地ノ情況ト教科目ト種類トニ依リ或ハ之ヲ數週數月ノ短期トシ或ハ之ヲ數年ニ亘ルノ長期トスルモ固ヨリ其ノ任意ナルヘシ又同一學校ニ於テ修業期間ノ相異ナル教科日

第七 教授時間及季節ニ關スル事

- 一 實業ノ教科日ニ於テハ家庭工場若ハ商店ニ於テ生徒ノ修得シ能ハサル知識技能ヲ授ケ以テ生徒力學校外ニ在リテ實地ニ操作スル所ノ事物ト密接ノ聯繫アラシメ内外相應シテ實業發達ニ資セシムルコトヲ期スヘシ
- 一 教授時間及季節ニ關スル事
 - 一 教授ノ時間及ハ季節夜間或ハ日曜日或ハ職業上ノ休業日或ハ冬期農閑等土地ノ情況、生徒ノ職業ノ種類等ニ依リ其ノ修業ニ最モ便宜ナル時期ヲ擇フヘシ
 - 一 教授時數ハ成ルヘク多キヲ食ルコトナク適當ニ之ヲ定メ小學校等ヲ使用スル場合ニ於テハ其ノ教授時間ハ當該學校教授時間外ニ於テスヘシ

第八 入退學ニ關スル事

- 一 入學資格ニ關スル事
 - 一 入學資格ニ關シテハ年齢十年以上學力常小學校卒業以上ニ於テ定ムルコトニ應シルカ故ニ地方ノ情況ト學校ノ種類トニ應シ適當ニ之ヲ定メ必シモ一律ニ拘泥セサルコトヲ要ス
 - 一 入學ハ本人又ハ保證人ヨリ口頭ヲ以テ申込メ學籍簿ニ記名調印セシムルカ如ク簡便ノ方法ヲ採リ退學ハ一定ノ條件ヲ設ケ之ニ應ジサルヲ注意ヲ要ス
- 一 退學ニ關スル事
 - 一 入學資格ニ關シテハ年齢十年以上學力常小學校卒業以上ニ於テ定ムルコトニ應シルカ故ニ地方ノ情況ト學校ノ種類トニ應シ適當ニ之ヲ定メ必シモ一律ニ拘泥セサルコトヲ要ス

第九 明治三十四年六月十五日勅令第六十三號
明治三十二年(三月)北海道勅令第二十二號ヲ左ノ

中學校及高等女學校

公立實業補習學校職員ノ俸給旅費其ノ他諸給與ニ關シテハ區町村立小學校教員及代用教員ノ俸給旅費其ノ他諸給與ニ關スル規定ヲ準用ス但シ學校長ニ就テハ本村正教員ト同視ス

公立實業補習學校校長ニハ手當ヲ支給スルコトアルヘシ

○明治三十一年六月二十四日勅令第三十三號(支廳長役場宛)

明治二十七年(六月)文部省令第十四號實業教育費國庫補助法施行規則第三條ニ依リ文部大臣ノ認可ヲ受ケヘキ實業補習學校經費豫算ハ自今明治二十七年(五月)本廳訓令第三十號區町村費收支豫算書式ニ依ヒ記載スヘシ又同條ニ依リ同大臣ニ報告書ヘキ收支計算書ニハ自今明治二十七年(五月)本廳訓令第三十號區町村費決算書式ニ依ヒ決算書ヲ調製シ之ニ添付スヘシ

○明治二十八年三月十六日勅令第二十四號
札幌中學校及函館中學校職制ヲ定ムルコト左ノ如シ

中學校職制

- 一 第一條 學校長ハ長官ノ命ヲ承ケ校務ヲ整理シ教諭以下ノ職員ヲ統轄ス
- 一 第二條 教諭ハ學校長ノ指揮ヲ承ケ教務ニ從事ス
- 一 第三條 助教諭ハ學校長ノ指揮ヲ承ケ教諭ノ職掌ヲ助ク
- 一 第四條 舍監ハ學校長ノ指揮ヲ受ケ寄宿舎ニ關スル事務ヲ掌理ス
- 一 第五條 舍監ハ助教諭ヨリ兼スルコトヲ得

○明治三十五年五月七日勅令第六十七號
明治三十四年(三月)勅令第四十一號北海道立中學校學則左ノ通改正ス

北海道立中學校學則

- 一 第一章 休業日
 - 一 第一期 休業日ハ祝日大祭日除クノ外左ノ如シ
 - 一 春期休業 四月一日ヨリ
 - 一 夏期休業 八月一日ヨリ
 - 一 冬期休業 十二月三十一日ヨリ
 - 一 札幌神社祭 翌年一月七日ヨリ
 - 一 開校紀念日 六月十五日
 - 一 第二期 學科課程及教授時數
 - 一 第三章 各學科ノ課程及每週教授時數ハ左表ノ如シ

學科	學年		修身	國語及漢文	外國語	地歴
	第一學年	第二學年				
第一學年	一	一	一	七	六	三
第二學年	一	一	一	七	六	三
第三學年	一	一	一	七	七	三
第四學年	一	一	一	六	七	三
第五學年	一	一	一	六	七	三

學科課程及每週教授時數表

第五類 中學校及高等女學校

數	四	算	術	四	代算	數術	四	代幾	數何	四	同	上	四	幾何
博	二	鑽	物	二	植	物	二	動	生理及衛生、 動物	四	同	上	四	三幾何
物理及化學										二	同	上	四	物理
法制及經濟										二	同	上	四	物理
圖	一	自在	畫	一	川	白	器	在	畫	一	川	白	器	在
唱	一	普通	樂	譜	法	一	同	上	上					
體	三	兵	普	通	體	操	三	同	上					
計	二八						二九			三〇			三〇	

表中ノ外國語ハ英語トス

第三章 課程ノ修了及卒業ノ認定
 第三條 各學年ノ課程ノ修了又ハ各學科ノ卒業ヲ認定スルニハ、操行ノ平素ノ學業及試驗ノ成績ヲ考査シテ之ヲ定ム。但シ正當ノ事由アリテ試驗ニ缺席シタル者ニ對シテハ、操行及平素ノ學業ノ成績ノミヲ考査シテ之ヲ定ムルコトアルヘシ。

第四條 試驗ハ分テ學期試驗及學年試驗トシ、學期試驗ハ第一學期及第二學期ノ終ニ於テ之ヲ行ヒ、學年試驗ハ第三學期ノ終ニ於テ之ヲ行フ。但シ正當ノ事由アリテ試驗ニ缺席シタルモノノ爲メ、學年試驗ニ於テハ、學期試驗ノ成績ヲ代メテ之ヲ行フコトアルヘシ。

期ノ授業始コリ一箇月以内ニ特ニ追試驗ヲ行フコトアルヘシ。
 第五條 國語及漢文、外國語、數學、圖畫、唱歌、體操ニ就キテハ、試驗ヲ行ハサルコトアルヘシ。
 第六條 操行及各學科ノ成績ハ甲乙丙丁戊ノ五等ニ別テ之ヲ評定シ、丙以上ニ該當スルモノヲ合格トシ、但シ一學科ノ成績丁ニ該當スルモノト雖モ、他學科ノ成績ヲ參照シテ之ヲ合格トスルコトアルヘシ。

第一號ノ證書ヲ授與ス
 第四章 入學、退學及懲戒
 第七條 生徒ノ入學ハ、學年ノ始トシ、其試驗期日、募集人員ハ一箇月前之ヲ告示ス。但シ、其試驗期日ハ、第二學期及第三學期ノ始ヨリ十日以内ニ臨時入學ヲ許スコトアルヘシ。
 第八條 入學志願者ハ書式第三號ノ願書ヲ提出ス。但シ、願書添付ノ證書ハ、願書ノ後之ヲ返付ス。入學ノ許可ヲ得タル者ハ書式第四號ノ證書ヲ受

出スヘシ
 第九條 在學證書ニ署名ノ保證人ハ、學校所在地ニ住シ一家ヲ立テ、成年以上ノ男子トシ、シテ生徒ノ父兄若クハ後見人又ハ生徒ノ身上ヲ引受ケル監督ノ責ヲ盡スニ足ル者ニ限ル。若シ學校長ニ於テ不充分ト認ムルトキハ、之ヲ替ヘシムルコトアルヘシ。
 第十條 生徒ハ、進リニ退學スルコトヲ得。若シ止ムコトヲ得サル事情ニヨリ退學セントスルトキハ、書式第五號ノ願書ヲ提出スヘシ。
 第十一條 指揮訓練ニ違背スル生徒ハ、輕重ヲ量リテ之ヲ懲戒ス。
 第十二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル生徒ニハ、退學ヲ命ス。
 一 性行不真ニシテ改善ノ見込ナシト認メタル者
 二 學力劣等ニシテ成業ノ見込ナシト認メタル者
 三 引續キ一箇年以上缺席シタル者
 四 正當ノ事由ナクシテ引續キ一箇月以上缺席シタル者

滿納二箇月ニ及フトキハ、之ニ退學ヲ命ス
 第六條 服裝
 第十七條 生徒ノ服裝ハ、北海道廳長官ノ認可ヲ經テ學校長ノ決定ム。
 第七條 特待生
 第十八條 學術優等品行方正ニシテ、業生徒ノ模範タルヘキ者ヲ選ビテ特待生トシ、特待生ハ學校長ノ之ヲ選定ス。
 第十九條 特待生ノ期限ハ一學年間トシ、其ノ人員ハ百人ニ付五人以内トス。
 第二十條 特待生ニハ、授業料ヲ免除ス。
 第八章 補習科
 第二十一條 補習科ノ修業期間ハ、毎年四月ヨリ九月ニ至ル六箇月トス。
 第二十二條 補習科ノ學科目及每週教授時數表左ノ如シ。

第二十三條 補習科ニ入學ノ許スヘキ者ハ、前學年ニ於テ當該學校ヲ卒業シタル者ニ限ル。
 第二十四條 補習科生徒ノ入學ハ、毎年四月トス。
 第二十五條 補習科ニハ、試驗ヲ行ハス。
 第二十六條 補習科ヲ終了セリト認メタル者ニハ、書式第二號ノ證書ヲ授與ス。
 第二十七條 第二章、第三章及第四章中第七條ハ、補習科ニ適用セズ。
 第九章 寄宿舎
 第二十八條 寄宿舎ニ入ルコトヲ志願スル生徒ハ、入舍願書ヲ提出スヘシ。
 第二十九條 入舍ノ許可ヲ受ケタル者ハ、書式第六號ノ證書ヲ提出スヘシ。但シ、保證人ハ、在學證書ニ署名セル保證人ト同一ナルヘシ。
 第三十條 訓育上必要ト認メタル生徒ニ對シテハ、入舍ヲ命スルコトアルヘシ。
 第三十一條 生徒ハ、進リニ退舍スルコトヲ得。但シ、止ムコトヲ得サル事情ニ依リ退舍セントスルトキハ、保證人連署退舍願書ヲ提出スヘシ。
 第三十二條 懲戒ヲ受ケ又ハ舍則ヲ犯シタル生徒ニハ、退舍ヲ命スルコトアルヘシ。
 第三十三條 寄宿舎ニ關スル細則ハ、學校長ノ決定ム。
 附則
 第三十三條 本令施行ノ際現ニ在學スル生徒ニ對シテハ、本令施行ノ課程ハ、學校長ニ於テ便宜料酌シテ之ヲ定ム。北海道廳長官ノ認可ヲ受ケヘシ。

書式第一號

卒業證書

本校全學科ノ卒業ヲ證ス

年月日

何中學校校長位勳爵氏 名印

印校

族籍 氏 生年月

番號

修業證書

何中學校卒業生

族籍 氏 生年月

印校

本校補習科ノ終了ヲ證ス

年月日

何中學校校長位勳爵氏 名印

番號

書式第三號

入學願書

私儀御校へ入學志願ニ付御許可被成下度願書相添此段相願候也

年月日

何中學校校長氏名殿

族籍戸主(誰何男第等) 氏 名印

住所

在學證書

私儀今般入學御許可相成候ニ付テハ御規則第何條ノ守候ハ勿論半途退學ニ退學致間敷依テ證書如斯候也

書式第四號

在學證書

私儀今般入學御許可相成候ニ付テハ御規則第何條ノ守候ハ勿論半途退學ニ退學致間敷依テ證書如斯候也

書式第六號

在學證書

私儀今般御校寄宿舎ニ入會御許可相成候ニ付テハ御規則第何條ノ守候ハ勿論半途退學ニ退學致間敷依テ證書如斯候也

○明治二十八年八月九日訓令第二十九號(中學校區町村立小學校宛)

高等小學校第二ノ課程ヲ卒業シタル志願者ニ對シテハ其修業證書ニ依リ無試験ニテ中學校第一ノ年級へ入學ヲ許サルヘキ旨ニ候處修業年限二箇年ノ高等小學校ニ於ケル卒業證書ハ修業證書ト同視スヘキハ勿論單級ノ高等小學校等ニ於テ修業證書ヲ授與セサル場合ニアリテハ二箇年以上修學シ其成績佳良ナル者ハ學校長又ハ首席教員ノ證明書ヲ以テ修業證書ト見做シ取扱フコトヲ得

○明治三十五年五月七日訓令第六十二號(中學校宛)

明治三十五年(二月)文部省訓令第三號ニ基キ適宜教授細目ヲ編製シ以テ各學科教授ノ效果ヲ完カクシメンコトヲカムヘシ

○明治三十二年三月三十一日訓令第二十四號

明治三十二年(二月)勅令第二十八號中學校令第十四條ニ依リ公立中學校職員俸給規程左ノ通定ス

公立中學校職員俸給規程

第一條 公立中學校職員俸給等級ヲ定ムルコト左表ノ如シ

但シ教諭助教及書記ノ俸給ハ其職務ノ輕重難易等ニ依リ俸給等級相當ノ額ヲ減給スルコトヲ得

トアルヘシ

第二條 公立中學校職員俸給支給方法ニ付テハ文官ノ俸給支給ニ關スル規定ヲ適用ス

第三條 公立中學校職員旅費及旅費支給方法ニ付テハ文官ノ旅費ニ關スル規定ヲ適用ス

第四條 此規則ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

明治二十八年(三月)北海道廳令第二十五號ハ此規則施行ノ日ヨリ廢止ス

(一) 號表

委任文官ト同一ノ待遇ヲ受ケル中學校職員俸給等級表

職名	等級	俸給
校長	一級	貳千四百圓
教諭	二級	千六百圓
助教	三級	千貳百圓
書記	四級	九百圓
庶務	五級	七百圓
司書	六級	六百圓
司帳	七級	五百圓

(二) 號表 (三十二年十月訓令第九十二號ヲ以テ表中追加)

列任文官ト同一ノ待遇ヲ受ケル中學校職員俸給等級表

職名	等級	俸給
教諭	一級	上九拾圓
助教	二級	七拾五圓
書記	三級	六拾五圓
庶務	四級	五拾五圓
司書	五級	五拾圓
司帳	六級	四拾五圓
司事	七級	四拾圓

(三) 號表 (三十二年十月訓令第九十二號ヲ以テ表中追加)

列任文官ト同一ノ待遇ヲ受ケル中學校職員俸給等級表

職名	等級	俸給
校長	一級	貳千四百圓
教諭	二級	千六百圓
助教	三級	千貳百圓
書記	四級	九百圓
庶務	五級	七百圓
司書	六級	六百圓
司帳	七級	五百圓

○明治三十年十二月二十日訓令第二十九號(北海道師範學校札幌中學校區町村立中學校宛)

左記ノ事項ハ校長限リ處分シ其要領ヲ開申スヘシ但明治二十八年四月一日當廳訓令第九十九號ハ之ヲ廢止ス

一 細則ノ制定改正ニ關スル事

一 職員ノ事務分掌ヲ定ムル事

一 俸給月額拾五圓ノ職員以下進退賃割ノ事

一 手當月額拾圓未滿ノ職員進退賃割ノ事

但シ中學校ハ此限ニアラス(三十二年十一月訓令第六百九十一號ヲ以テ但書追加)

第五類 中學校及高等女學校

一 校員歸省養病其他私事旅行及除服處分ノ事
 一 校員ニ管内出張ヲ命スル事
 一 一週日以内臨時休業ノ事
 一 生徒管内修學旅行ノ事
 一 生徒賞罰ノ事但放校ハ此限ニアラス
 一 生徒ノ募集及中學校生徒入退學願ノ處分ニ關スル事
 一 但募集人員ハ本廳ノ告示ニ依ル

一 不用物品處分ノ事
 ○明治三十五年三月二十八日廳令第三十六號
 北海道廳立札幌高等女學校學則ヲ左ノ通り定メ本年四月一日ヨリ施行ス
 北海道廳立札幌高等女學校學則

第一章 修業年限及學科目
 第一條 本校ニ本科及補習科ヲ置キ其ノ修業年限ハ本科四箇年補習科一箇年トス
 第二條 本科ノ學科目ハ修身、國語、歷史、地理、數學、理科、國畫、家事、裁縫、音樂、體操、外國語、教育トス但シ外國語及教育ハ隨意科目トス
 補習科ノ學科目ハ修身、國語、數學、理科、國畫、家事、裁縫、音樂、體操、外國語、教育トス但シ外國語、教育トス但シ外國語及教育ハ隨意科目トス

第二章 休業日
 第三條 休業日ハ祝日大祭日曜日ヲ除クノ外左ノ如シ
 一 春期休業 四月一日ヨリ 四月七日マテ 七日
 一 夏期休業 八月一日ヨリ 八月三十一日マテ 三十一日
 一 冬期休業 十二月二十五日ヨリ 十二月三十一日マテ 十四日

一 札幌神社祭 六月十五日
 一 皇后陛下御誕辰
 一 開校紀念日
 一 第三章 學科課程及教授時數或補習科ノ學年及學期
 第四條 本科及補習科ノ學科課程及每週教授時數ハ別表ノ如シ
 第五條 補習科ノ學年ノ終始及學期ノ區分ハ本科ニ關スル規定ニ依ル
 第六條 學期末ニ於テハ平素ノ學業及操行ノ成績ヲ考査シ以テ其ノ進否ヲ檢シ學年末ニ於テハ每學期ノ學業及操行ノ成績ヲ考査シ以テ其ノ及落ヲ評定ス但シ修身、歷史、地理、理科、家事及教育ニ就キテハ試驗ヲ行フコトアルヘシ
 成績ハ甲乙丙丁戊ノ五等ニ別テ之ヲ表ハシ丙以上ニ成績スルモノハ合格トシ以下ハ不合格トス
 第七條 本科ヲ卒業セリト認メタル者ニハ書式第一號ノ證書ヲ發給シ補習科ヲ修了セリト認メタル者ニハ書式第二號ノ證書ヲ發給ス但シ補習科ヲ修了セリト認メタル者ニハ書式第三號ノ證書ヲ發給ス
 第八條 入學志願者ハ書式第四號ノ願書ヲ入學ノ許可ヲ得タル者ハ書式第五號ノ證書ヲ差出スヘシ
 第九條 補習科ニ入學スルヲ得ヘキ者ハ本校ニ於テ本科ヲ卒業シタル者タルヘシ
 前項ノ外他ノ修業年限四箇年以上ノ高等女學校ニ於テ其ノ本科ヲ卒業シタル者ニハ補習科ニ入學ヲ許可スルコトアルヘシ
 補習科ニ入學セシムルヘキ者ノ年齢ハ十六年以上二十年以下トス
 第十條 保證人ハ成年以上ノ男子ニシテ一家ヲ立テ生徒ノ身上ヲ引受ケ學校ト相待テ監督ノ責ヲ盡スニ足ル者ニ限ル若シ學校長ニ於テ不充分ト認ムルトキハ之ヲ替ヘシムルコトアルヘシ
 第十一條 生徒ハ預リニ退學スルコトアルヘシ但シ止テ得サル事情ニヨリ退學セントスルトキハ詳細ノ事實ヲ具陳シ書式第六號ノ願書ヲ差出スヘシ
 第十二條 指揮訓練ニ違背スル生徒ハ輕重ヲ量リ之ヲ懲戒ス
 第十三條 懲戒ハ減給、停學、放校ノ三種トス
 第十四條 授業料ハ一箇月金壹圓トス
 第十五條 學則ニヨリ又ハ臨時學校ノ都合ニヨリ休業一箇月(一日ヨリ)末日マテ全月休業セシトキハ及フトキハ當月分ノ授業料ヲ徵收セス
 第十六條 疾病若クハ他ノ事情ニヨリ一箇月以上缺席スルモ授業料ヲ免除セス
 第十七條 授業料ヲ免除スル者ニハ念納中授業ヲ停止ス
 第十七章 特待生
 第十八條 品行方正學術優等ニシテ衆生徒ノ模範タルヘキ者ヲ選ビ特待生ト爲ス
 第十九條 特待生ノ期限ハ一學年間トシ其ノ人員ハ百人ニ付五人以内トス
 第二十條 特待生ニハ授業料ヲ免除ス
 第八章 給費生
 第二十一條 本校ニ給費生ヲ置ク
 給費生タルコトヲ得ヘキ者ハ本科第三學年以上及補習科ノ生徒ニ限ル
 給費生ニシテ不適當ナリト認メタルトキハ給費

ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ(三十五年五月廳令第七十號ヲ以テ本項追加)
 第二十二條 本科給費生ニハ引續キ補習科ノ課程ヲ履修セシムルモノトス
 第二十三條 給費生ニハ授業料ヲ免除シ學費トシテ年額金六拾圓ヲ給與ス其ノ支給細則ハ別ニ之ヲ定ム
 第二十四條 給費生ニシテ許可ヲ得テ中途退學シ又ハ退學者クハ放校ヲ命セラレタル者ニハ在學中給與シタル學費ノ全部ヲ償還セシムル限シ其ノ疾病ノ爲メ退學シ又ハ卒業ノ見込ナキ爲メ退學ヲ命セラレタル者ニハ其ノ情狀ニヨリ學費ノ全部若クハ幾部ヲ免除スルコトアルヘシ
 第二十五條 給費生ハ補習科修了ノ月ヨリ五箇年間北海道廳長官ノ指揮ニ從ヒ教員ノ職務ニ從事スル義務ヲ負フモノトス
 前項ノ義務ヲ盡スコト能ハサルノ事故ヲ生ジタル者ハ其ノ理由ヲ詳具シテ北海道廳長官ノ指揮ヲ受ケヘシ
 第二十六條 前條第二項ノ場合ニ於テ義務ヲ免除スル者ニ就テハ其情狀ニ依リ在學中給與シタル學費ノ全部若クハ幾部ヲ償還セシムルコトアルヘシ
 第二十七條 給費生志願者ハ書式第七號ノ願書ヲ差出スヘシ
 保證人ニ關シテハ前條ノ規定ヲ準用ス

本科學科課程及每週教授時數表

學科	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年
修身	二	二	二	二
國語	六	六	五	五
歷史	三	三	三	三
地理	三	三	三	三
數學	二	二	二	二
理科	二	二	二	二
國畫	一	一	一	一
家事	一	一	一	一
裁縫	一	一	一	一
音樂	一	一	一	一
體操	一	一	一	一
外國語	一	一	一	一
教育	一	一	一	一

第五類 中學校及高等女學校

音	樂	二	單音唱歌	二	同	上	二	複單音唱歌	二	樂器使用法	上
體	操	三	普通體操遊戲	三	同	上	三	同上	三	同上	上
外	(英語)	三	習書譯語	三	會同	話上	三	作文同	三	文法上	上
教	育									教育理論大要	
計		二八		二八			二八				

外國語ヲ修メサル者ニハ各學年ニ於テ圖畫ニ一時間裁縫ニ二時間ヲ増ス
 教育ヲ修ムル者ニハ第四學年ニ於テ國語ヨリ二時間ヲ減シテ之ニ充ツ

補習科學科課程及每週教授時數表

學科目	每週時數
修身	一 人倫道德ノ要旨 作法
國語	四 讀本作文習字
數學	三 算術(珠算ヲ含ム)幾何ノ初步
理科	四 博物物理化學生理衛生
圖畫	一 自在畫 用器畫ノ初步
家事	一 一家ノ整理經濟ニ關スル事項
裁縫	五 刺子縫方 裁子方 縫ヒ方 編ミ物

音樂	二 單音唱歌 複音唱歌
體操	三 普通體操 遊戲
外國語(英語)	三 讀本 譯解 會話 作文
教育	四 教育ノ原理 教育史 教授法
計	三〇

外國語ヲ修メサル者ニハ家事裁縫ニ三時間ヲ増ス
 教育ヲ修メサル者ノ每週教授時數ハ計二十六時トス

書式第一號

卒業證書

本校所定ノ本科ヲ卒業セシメトシテ
 年月日

北海学園立札幌高等女學校長位勳爵氏名印

番號

印校

族籍 氏 生年月

書式第三號

隨意科目修業證書

本校所定ノ何學科ヲ隨意科トシテ修了セシメトシテ
 年月日

北海学園立札幌高等女學校長位勳爵氏名印

番號

印校

族籍 氏 生年月

書式第二號

修業證書

本校所定ノ補習科ヲ修了セシメトシテ
 年月日

北海学園立札幌高等女學校長位勳爵氏名印

番號

印校

族籍 氏 生年月

書式第四號

入學願書

私儀御校へ入學志願ニ付御許可被成下度願書相添此段相願候也
 (用紙半紙)

住所 族籍 氏 名印
 月主(誰何女妹等)
 (用紙半紙)
 住所 族籍 氏 名印
 月主(誰何女妹等)

一 何年何月ヨリ何年何月マテ何地公私立何學校ニ於テ何修業文ハ卒業
 當何月何年何月 生年月

第五類 中學校及高等女學校

一 何年何月ヨリ何年何月マテ何地何某ニ就キ若クハ何學校何塾ニ於テ
何學修業又ハ卒業
一 何年何月何地ニ於テ何何ニ由リ何何賞罰ヲ受ケ
右ノ通ニ相違無之候也

書式第五號

在學證書
私儀今般入學御許可相成候ニ付テハ御規則堅ク相守候ハ勿論申途迄リニ
退學致間數依テ證書如斯候也

年 月 日
前書某在學中御規則堅ク可爲相守ハ勿論申途迄リニ係ル一切ノ事件ハ私ニ於
テ引受可申候也

前書保證人某ハ成年以上ニシテ一家ヲ立ツル者ニ相違無之候也
年 月 日
何區(町村)長 名 印

學校長氏名殿
前書保證人某ハ成年以上ニシテ一家ヲ立ツル者ニ相違無之候也
年 月 日
何區(町村)長 名 印

書式第六號
退學願書
私儀退學致度ニ付別紙理由書(診斷書)相添保證人連署此段相願候也
年 月 日
第何學年氏 名 印
保證人 氏 名 印
學校長氏名殿

勿論萬一御規則ニ依リ學費償還被命候節ハ其金額保證人ニ於テ直ニ相償
可仕候依テ保證人連署此段相願候也

書式第七號

給費願
某儀御校ノ給費相受度御許可ノ上ハ補習科修了ノ後成規ノ通服務可仕ハ
年 月 日
何區(町村)長 名 印

前書保證人某ハ成年以上ニシテ一家ヲ立ツル者ニ相違無之候也
年 月 日
何區(町村)長 名 印

學校長氏名殿
前書保證人某ハ成年以上ニシテ一家ヲ立ツル者ニ相違無之候也
年 月 日
何區(町村)長 名 印

書式第七號
給費願
某儀御校ノ給費相受度御許可ノ上ハ補習科修了ノ後成規ノ通服務可仕ハ
年 月 日
何區(町村)長 名 印

○明治三十五年五月十六日訓令第五百二十五號(北海道廳立札幌高等女學校
宛)

北海道廳立札幌高等女學校給費生學
資支給細則
第一條 學資ハ月割トシテ毎月下旬ノ支給ス
第二條 學資ハ給費ヲ許可シタル當日ヨリ支
給ス
給費ノ許可ヲ取消シタルトキハ其當日マテ學資
ヲ支給ス
第三條 退學者クハ放校ヲ命ジ又退學ヲ許可シタ
ル當月分ノ學資ハ之ヲ支給セズ
第四條 停學中ハ學資ヲ支給セズ
第五條 正當ノ理由ナクシテ缺席スルコト十四日
ヲ滿セルトキ又ハ正當ノ事由ニ依リ缺席スルコ
ト六十日ヲ滿セルトキハ其ノ隔エタル日以後ノ
學資ヲ支給セズ
第六條 第二條第四條及第五條ノ場合ニ於テ學資
ヲ支給スヘキ日數全月ニ滿タルトキハ其ノ支
給方法ハ日割計算ニ依ル
第七條 日割計算ノ法ハ前乘除除トシ其ノ月ノ現
日數ニ依ル但シ計算上單位未滿ノ端數ハ之ヲ切
捨ツ
○明治三十五年十二月一日訓令第七十八號(札幌
高等女學校宛)
其ノ校給費生ニ退學ヲ命スル場合ニハ事實ヲ詳具
シ本長官ノ指揮ヲ受ケヘシ

教員講習科ノ四種トシ準備科ハ本科及簡易科ニ
連綴ス
小學校教員講習科ニ關スル規則ハ別ニ之ヲ定ム
第二條 修業年限ハ本科四年簡易科二年四箇月豫
備科一年トス
第三條 學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日
ニ終ル之ヲ分テ三學期トス第一學期ハ四月一日ヨ
リ七月三十一日ニ至ル第二學期ハ九月一日ヨ
リ十二月二十四日ニ至ル第三學期ハ翌年一月十
六日ヨリ三月三十一日ニ至ル
第四條 教授日數ハ每學年凡四十四週トシ每週ノ
教授時數ハ本科及簡易科ハ三十四時豫備科ハ三
十時トス
但シ夏季休業前二週間及夏季休業後一週間ハ每
週ノ教授時數ヲ二十四時トス
第五條 休業日ハ左ノ如シ
祝日
大祭日 六月十五日
札幌神社祭 九月十七日
開校記念日 九月十七日
日曜日
夏季休業 自八月三十一日
至八月三十一日
冬季休業 自十一月二十五日
至一月二十五日

テハ殊ニ重要トス故ニ生徒ヲシテ不潔忠孝
ノ大義ヲ明ニシ國民タル志操ヲ振起セシメ
シコトヲ要ス
四 規律ヲ守リ秩序ヲ保テ師友タルヘキ威儀ヲ
具ノルハ教員タル者ニ在リテハ殊ニ重要ト
ス故ニ生徒ヲシテ不潔長上ノ命令訓誨ニ服
從シ起居行動ヲ正シクセシメシコトヲ要ス
身體ノ健康ハ業ヲ成ス基ヲ成ス故ニ生徒ヲシ
テ不潔衛生ニ留意シ體操ヲ勉メ健康ヲ増進
セシメシコトヲ要ス
六 教授ハ教員タルヘキ者ニ適切ニシテ小學校
教授ハ大綱ノ旨趣ニ副ハントコトヲ旨トスヘシ
教授ハ常ニ其方法ニ注意シ生徒ヲシテ業ヲ
愛クル際教授ノ方法ヲ會得セシメシコトヲ
務ムヘシ
八 言語ノ明瞭正確ナルハ教員タル者ニ在リテ
ハ殊ニ重要トス故ニ教授ノ際常ニ生徒ヲシ
テ其口述ヲ正シクシ以テ言語ヲ練習セシメ
シコトヲ務ムヘシ
九 學習ノ法ハ個ニ教授ノモトニシテシムヘキ
ノニアラス生徒ヲシテ常ニ自リ學業ヲ進メ
技藝ヲ研ク習慣ヲ養ハシメシコトヲ務ムヘ
シ
十 學科ハ規定ノ教科書ニ基キ應用ヲ主トシテ
教授セシコトヲ要ス
第三條 本科ノ學科日及其程度
國語、漢文、歴史、地理、算學、物理、化學、
博物、習字、國畫、音樂、體操、農業、手工、
英語トス但農業、手工、英語ハ生徒ノ所長ニ據
リ一科目ヲ課ス又農業、手工、英語ハ水産科附
課ス

第五類 師範學校

師範學校

○明治三十一年七月五日訓令第五十號
明治二十六年(十二月)北海道師範學校規則左ノ通
リ改正ス
北海道師範學校規則
第一章 總則
第一條 本校ノ學科ハ本科簡易科豫備科及小學校

第五類 師範學校

第八條 本科生徒ニ課スヘキ學科目ノ程度ハ左ノ如シ

- 一 修身
 - 第一學年 每週二時
 - 教育ニ關スル 勸諭ノ旨趣ニ基キテ人倫道德ノ要領ヲ授ク
 - 第二學年 每週二時
 - 前學年ニ準シ較々詳ニ人倫道德ノ要領ヲ授ク
 - 第三學年 每週二時
 - 前學年ニ準ス
 - 修身ヲ教授スル順序方法ヲ授ク
 - 第四學年 每週二時
 - 前學年ニ準シ更ニ帝國憲法ノ要領ヲ授ク
 - 修身ヲ授クルニハ躬行實踐ヲ旨トシ徒ニ理論ニ偏セザラントトス
- 二 教育
 - 第一學年 每週二時
 - 教育史 内外國教育ノ沿革及著名ナル教育家ノ傳記主義方案ノ要略ヲ授ク
 - 第二學年 每週二時
 - 教育ノ原理 心理ノ大要ヲ授ク
 - 第三學年 每週三時
 - 教育ノ原理 教育ノ目的及智育德育體育ヲ授ク
 - 論理ノ大要及教授ノ原則ヲ授ク
 - 第四學年 每週三時
 - 教育ノ原理 法令及學校管理法每週二時
 - 實地授業每週十五時
 - 教育ノ原理 前學年ノ續
 - 教育法令及學校管理法 教育ニ關スル現行ノ法令規則ニ基キ學校ノ設置編制設備管理法經濟衛生等ノ方法ヲ授ク兼テ地方制度ノ大要ヲ授ク

六二二

- 實地授業 附屬小學校ニ於テ兒童教育ノ方法ヲ練習セシム
- 教育ヲ授クルニハ小學校教育ノ旨趣方法ヲ理解セシメ教育者タル精神ヲ養フコトヲ旨トシ理論ニ偏シ高遠ニ馳スルカ如キコトヲカラントトス
- 實地授業ニ就キテハ附屬小學校ニ於テ師範生徒ヲシテ兒童ヲ教授セシメ各學科目ノ教員附屬小學校主事又ハ訓導ヲ授業ニ當ラサル生徒ヲ率イテ之ニ立會ヒ其授業ヲ監督シテ適否ヲ批評シ又時時自ラ教授シテ之カ模範ヲ示スヘシ
- 三 國語
 - 第一學年 每週四時
 - 讀誦 平易ニシテ雅馴ナル文章ヲ讀誦セシム
 - 文法 音韻ノ性質假名ノ用法言語ノ種類文章ノ諸規則ヲ授ク
 - 作文 文題ヲ與ヘ平易ナル文體ニ據リ日用書類記事文等ヲ作ラシム
 - 第二學年 每週三時
 - 讀誦 中古以降ノ雅馴ナル文章及歌ヲ讀誦セシム
 - 作文 前學年ニ準シ更ニ論議文等ヲ作ラシメ兼テ簡易ナル漢文ヲ讀誦セシム
 - 第三學年 每週二時
 - 文學史ノ大要 片假名平假名ノ起源ヨリ國文學ノ發達經過ノ要略ヲ授ク古今諸體ノ文章及ヒ歌ノ中標準トナルヘキモノヲ讀誦セシム
 - 作文 前學年ニ準ス
 - 讀誦 作文ヲ授クル順序方法ヲ授ク
 - 國語ヲ授クルニハ讀誦ハ發音及ヒ句讀ニ注意シ通讀ノ際讀者及ヒ聽者ナシテ文勢文意ヲ會得ヒシメントトス務メ文法ハ言語又ハ文章ヲ以テ正シ

- 確ニ思想ヲ表彰セシメントトシ作文ハ文法ニ隨ヒ簡明著實ニシテ注意ヲ旨トシ文題ハ博ク各學科目ニ於テ授ケタル事項及ヒ日常必須ノ事項ニ就キ務メ其實用ニ適スルモノヲ採フヘシ
- 四 漢文
 - 第二學年 每週二時
 - 經史記傳論說等ノ中平易ニシテ雅馴ナル文章ヲ讀誦セシム
 - 第三學年 每週二時
 - 經史記傳論說等ノ中雅馴ナル文章ヲ讀誦セシム
 - 第四學年 每週二時
 - 前學年ノ續
 - 漢文ヲ授クルニハ殊ニ思想及事實ヲ精細ニ記述シタル文章ヲ授ケ音韻ヲ正シクシ句讀ニ注意シテ句章章意ヲ明カニシ兼テ文理結構ヲ講究ヒシメ又時時簡單ナル國文ヲ漢文ニ翻譯セシムヘシ
- 五 歷史
 - 第一學年 每週二時
 - 日本歷史 建國ノ體制 皇統ノ無窮 歷代天皇ノ 盛業忠實賢ノ事蹟學術技術ノ發達武備ノ強殖政治ノ沿革農工商業ノ發達風俗ノ變遷等ニ關スル事項ヲ授ク
 - 第二學年 每週二時
 - 日本歷史 前學年ノ續
 - 外國歷史 支那歷史ノ大要ヲ授ク次ニ上古ノ著名ナル諸外國ノ歷史ニ移リ其重要ナル事項ヲ授ク
 - 第三學年 每週二時
 - 外國歷史 諸外國ノ中古近世ノ歷史中重要ナル事項ヲ授ク

第五類 師範學校

- ル事項ヲ授ク
- 歷史ヲ教授スル順序方法ヲ授ク
- 歷史ヲ授クルニハ務メ事實ノ關係ニ注意シ文化ノ由來スル所ヲ辨ヘシメ殊ニ我國體ヲ明カニシテ尊王愛國ノ志氣ヲ振起セシメ以テ國民タル志操ヲ養成セシムコトヲ務ムヘシ
- 六 地理
 - 第一學年 每週二時
 - 總論及ヒ日本地理 地球及其表面ノ形狀氣候人種人民生活ノ狀態等ノ要略ヲ授ク次ニ日本地理ニ移リ畿内八道ノ地理ヲ授ク兼テ地圖ヲ描カシム
 - 第二學年 每週二時
 - 外國地理 諸外國ノ地理ヲ授ク兼テ地圖ヲ描カシム
 - 第三學年 每週一時
 - 地文 地球ト諸天體トノ關係ヨリ始メ地球ノ構造陸水氣象生物ノ分布等ノ要略ヲ授ク
 - 地理ヲ授クルニハ人生ニ適切ナル事項ヲ知ラシムルヲ主トシ外國地理ヲ授クルニハ本邦ト重要ノ關係アル諸外國ノ地理ヲ詳ニシテ其他ヲ略ニシ地文ハ成ルヘク本邦ノ事實ニ依リテ之ヲ授クヘシ
- 七 數學
 - 第一學年 每週四時
 - 算術 算術ハ整數分數小數ノ命數記數及ヒ加減乘除比例百分算ヲ授ケ珠算ハ加減乘除ヲ授ケテ之ヲ練習セシム
 - 幾何 定義公理直線ヲ授ク
 - 第二學年 每週四時
 - 算術 算術ハ比例百分算開平開立ヲ授ケ珠算

六二三

- ハ前學年ニ準ス
- 簿記 諸帳簿ノ用法豫算表決算表ノ製式等ヲ授ク
- 幾何 面積比例ヲ授ク
- 第三學年 每週三時
- 代數 記法符號加減乘除分數一次方程式ヲ授ク
- 幾何 立體幾何ノ初歩ヲ授ク
- 算術及ヒ幾何ヲ授クル順序方法ヲ授ク
- 第四學年 每週二時
- 代數 二次方程式比例級數對數複利ヲ授ク算術及ヒ幾何ヲ授クル順序方法ヲ授ク
- 數學ヲ授クルニハ算術ハ精細ニ之ヲ授ケテ運算ノ理由ヲ詳ニシ兼テ速算ニ習熟セシメ代數ハ成ルヘク高遠ニ馳セシメトシテ其數理上ノ問題ノ解決ヲ簡明ニスルニ益アルコトヲ知ラシメ幾何ハ論理ヲ詳カニシ兼テ測量求積法等ノ實用上ニ應用セシムヘシ
- 八 物理化學
 - 第一學年 每週二時
 - 物理 力學音熱ヲ授ク
 - 第二學年 每週二時
 - 物理 熱ノ續及ヒ光ヲ授ク
 - 化學 無機化學中重要ナル諸元素及其化合物ヲ授ク
 - 第三學年 每週三時
 - 物理 電氣磁氣ヲ授ク
 - 化學 前學年ノ續
 - 理科ヲ授クル順序方法ヲ授ク
 - 第四學年 每週二時
 - 化學 有機化學ノ初歩及ヒ實用上重要ナル有機物ヲ授ク

- 理科ヲ授クル順序方法ヲ授ク
- 物理化學ヲ授クルニハ實驗ニ基キ正確ナル觀察ヲ得セシメ近易ナル現象ヲ理解スルノ力ヲ養ヒ日常ノ生活及ヒ生業上ニ資スルニ適シメンコトニ注意スヘシ
- 九 博物
 - 第一學年 每週三時
 - 植物 形態構造生理分類效用ヲ授ク
 - 動物 形態構造生理習性特質分類效用ヲ授ク
 - 第二學年 每週二時
 - 植物 前學年ノ續
 - 動物 前學年ノ續
 - 第三學年 每週二時
 - 人身生理 人體ノ構造生活ノ機能及衛生上重要ナル事項ヲ授ク
 - 礦物 重要ナル礦物ノ形像性質現出法效用諸法ノ要略ヲ授ク
 - 理科ヲ授クル順序方法ヲ授ク
 - 博物ヲ授クルニハ實物標本等ニ就キ正確ナル知識ヲ得セシメ又動物植物ノ相互及ヒ人生ニ對スル關係ヲ密カニシ日常ノ生活及ヒ生業上ニ資スルニ適シメンコトニ注意スヘシ
 - 標本ハ成ルヘク本邦産ノモノヲ主トスヘシ
- 十 習字
 - 第一學年 每週二時
 - 楷書ヲ授ク
 - 第二學年 每週二時
 - 楷書及ヒ行書ヲ授ク
 - 第三學年 每週一時
 - 行書草書及ヒ假名ヲ授ク
 - 習字ヲ授クル順序方法ヲ授ク
 - 習字ヲ授クルニハ先ツ姿勢執筆ノ法ヲ教ヘ次ニ

第五類 師範學校

筆ノ運用字ノ結構ヲ知ラシメ字形端正ニシテ速筆速滯セザラシクトナシテ兼テ細字ノ速寫及黑板上ニ書スルコトニ習熟セシムヘシ

十一 圖畫 第一學年 每週二時 實物模製手本ニ就キテ自在畫ヲ授ケ兼テテ用器畫ノ大要ヲ授ケ

第二學年 每週二時 第三學年 每週二時 實物模製手本ニ就キテ自在畫ヲ授ケ

圖畫ヲ授ケルニハ位置形狀濃淡等其宜キヲ得セシムルヲ主トシ時時自己ノ意匠ヲ用ヒ圖案セシメ又便宜彩色ノ法ヲ授ケヘシ

十二 音樂 第一學年 每週一時 單音唱歌ヲ授ケ

第二學年 每週一時 單音唱歌ヲ授ケ

第三學年 每週二時 單音唱歌複音唱歌及樂器ノ用法ヲ授ケ

第四學年 每週二時 音樂ヲ授ケルニハ歌詞樂譜ノ高麗純正ニシテ教育上裨益アルモノニ就キテ練習セシメ兼テテ音樂上ノ名稱記號等ノ要略及ヒ歌詞ノ意義ヲ知ラシムヘシ

十三 體操 第一學年 每週六時 普通體操 準備法矯正術徒手體操等ノ諸體操ヲ授ケ

第二學年 每週六時 普通體操 各體操柔軟體操小隊教練及ヒ器械體操ヲ授ケ

第三學年 每週六時 普通體操 前學年ニ準シ更ニ球竿棍棒等ノ諸體操ヲ授ケ

第四學年 每週六時 普通體操 前學年ニ準シ更ニ中隊教練銃劍術野外演習及ヒ兵學大意ヲ授ケ

第五學年 每週六時 普通體操 前學年ニ準シ更ニ中隊教練銃劍術野外演習及ヒ兵學大意ヲ授ケ

普通體操 前學年ニ準シ更ニ中隊教練銃劍術野外演習及ヒ兵學大意ヲ授ケ

普通體操 前學年ニ準シ更ニ中隊教練銃劍術野外演習及ヒ兵學大意ヲ授ケ

普通體操 前學年ニ準シ更ニ中隊教練銃劍術野外演習及ヒ兵學大意ヲ授ケ

普通體操 前學年ニ準シ更ニ中隊教練銃劍術野外演習及ヒ兵學大意ヲ授ケ

普通體操 前學年ニ準シ更ニ中隊教練銃劍術野外演習及ヒ兵學大意ヲ授ケ

普通體操 前學年ニ準シ更ニ中隊教練銃劍術野外演習及ヒ兵學大意ヲ授ケ

普通體操 前學年ニ準シ更ニ中隊教練銃劍術野外演習及ヒ兵學大意ヲ授ケ

普通體操 前學年ニ準シ更ニ中隊教練銃劍術野外演習及ヒ兵學大意ヲ授ケ

普通體操 前學年ニ準シ更ニ中隊教練銃劍術野外演習及ヒ兵學大意ヲ授ケ

普通體操 前學年ニ準シ更ニ中隊教練銃劍術野外演習及ヒ兵學大意ヲ授ケ

普通體操 前學年ニ準シ更ニ中隊教練銃劍術野外演習及ヒ兵學大意ヲ授ケ

六二四

水産 前學年ノ續及ヒ漁業經濟ノ大要ヲ授ケ

農業水産ヲ授ケルニハ本道地方ニ適切ナラシムヘシ

第一學年 每週二時 水産ノ大要ヲ授ケ

第二學年 每週二時 水産ノ大要ヲ授ケ

第三學年 每週二時 水産ノ大要ヲ授ケ

第四學年 每週二時 水産ノ大要ヲ授ケ

第五學年 每週二時 水産ノ大要ヲ授ケ

第六學年 每週二時 水産ノ大要ヲ授ケ

第七學年 每週二時 水産ノ大要ヲ授ケ

第八學年 每週二時 水産ノ大要ヲ授ケ

第九學年 每週二時 水産ノ大要ヲ授ケ

第十學年 每週二時 水産ノ大要ヲ授ケ

第十一學年 每週二時 水産ノ大要ヲ授ケ

第十二學年 每週二時 水産ノ大要ヲ授ケ

第十三學年 每週二時 水産ノ大要ヲ授ケ

第十四學年 每週二時 水産ノ大要ヲ授ケ

第十五學年 每週二時 水産ノ大要ヲ授ケ

第十六學年 每週二時 水産ノ大要ヲ授ケ

第十七學年 每週二時 水産ノ大要ヲ授ケ

第十八學年 每週二時 水産ノ大要ヲ授ケ

第十九學年 每週二時 水産ノ大要ヲ授ケ

第二十學年 每週二時 水産ノ大要ヲ授ケ

第二十一學年 每週二時 水産ノ大要ヲ授ケ

第二十二學年 每週二時 水産ノ大要ヲ授ケ

第二十三學年 每週二時 水産ノ大要ヲ授ケ

六二五

第五類 師範學校

英語ヲ授ケルニハ常ニ發音及ヒ讀方ニ注意シ正シキ國語ヲ用ヒテ之ヲ譯解セシメ又時時翻譯ヲナサシムヘシ

第九條 簡易科ノ學科及ヒ其程度 第一學年 國語、漢文、歷史、地理、算學、理科、農業、習字、圖畫、音樂、體操トス

第二學年 國語、漢文、歷史、地理、算學、理科、農業、習字、圖畫、音樂、體操トス

第三學年 國語、漢文、歷史、地理、算學、理科、農業、習字、圖畫、音樂、體操トス

第四學年 國語、漢文、歷史、地理、算學、理科、農業、習字、圖畫、音樂、體操トス

第五學年 國語、漢文、歷史、地理、算學、理科、農業、習字、圖畫、音樂、體操トス

第六學年 國語、漢文、歷史、地理、算學、理科、農業、習字、圖畫、音樂、體操トス

第七學年 國語、漢文、歷史、地理、算學、理科、農業、習字、圖畫、音樂、體操トス

第八學年 國語、漢文、歷史、地理、算學、理科、農業、習字、圖畫、音樂、體操トス

第九學年 國語、漢文、歷史、地理、算學、理科、農業、習字、圖畫、音樂、體操トス

第十學年 國語、漢文、歷史、地理、算學、理科、農業、習字、圖畫、音樂、體操トス

第十一學年 國語、漢文、歷史、地理、算學、理科、農業、習字、圖畫、音樂、體操トス

第十二學年 國語、漢文、歷史、地理、算學、理科、農業、習字、圖畫、音樂、體操トス

第十三學年 國語、漢文、歷史、地理、算學、理科、農業、習字、圖畫、音樂、體操トス

第十四學年 國語、漢文、歷史、地理、算學、理科、農業、習字、圖畫、音樂、體操トス

第十五學年 國語、漢文、歷史、地理、算學、理科、農業、習字、圖畫、音樂、體操トス

第十六學年 國語、漢文、歷史、地理、算學、理科、農業、習字、圖畫、音樂、體操トス

第十七學年 國語、漢文、歷史、地理、算學、理科、農業、習字、圖畫、音樂、體操トス

第十八學年 國語、漢文、歷史、地理、算學、理科、農業、習字、圖畫、音樂、體操トス

第十九學年 國語、漢文、歷史、地理、算學、理科、農業、習字、圖畫、音樂、體操トス

第二十學年 國語、漢文、歷史、地理、算學、理科、農業、習字、圖畫、音樂、體操トス

第二十一學年 國語、漢文、歷史、地理、算學、理科、農業、習字、圖畫、音樂、體操トス

第二十二學年 國語、漢文、歷史、地理、算學、理科、農業、習字、圖畫、音樂、體操トス

第二十三學年 國語、漢文、歷史、地理、算學、理科、農業、習字、圖畫、音樂、體操トス

第二十四學年 國語、漢文、歷史、地理、算學、理科、農業、習字、圖畫、音樂、體操トス

六二五

ヲ授ケ化學ハ無機化學中重要ナル諸元素及ヒ其化合物ヲ授ケ兼テ化學ヲ教授スル際重要ナル礦物ノ形像性質等ヲ附説スヘシ
 人身生理 身體ノ構造生活ノ機能及ヒ衛生上重要ナル事項ヲ授ケ
 理科ヲ教授スル順序方法ヲ授ケ
 九 農業
 第一學年 每週二時
 土壤水利肥料農具耕種栽培等ヲ授ケ
 第二學年 每週二時
 耕種栽培養蠶養蚕等ヲ授ケ
 第三學年 每週二時
 前學年ノ續及ヒ農家經濟ノ大要ヲ授ケ
 農業ヲ教授スル順序方法ヲ授ケ
 十 習字
 第一學年 每週二時
 楷書及ヒ行書ヲ授ケ
 第二學年 每週二時
 行書草書及ヒ假名ヲ授ケ
 習字ヲ教授スル順序方法ヲ授ケ
 十一 圖畫
 第一學年 每週二時
 實物模型手本ニ就キテ自在畫ヲ授ケ
 第二學年 每週二時
 前學年ニ準シ兼テテ用器畫ノ大要ヲ授ケ
 圖畫ヲ教授スル順序方法ヲ授ケ
 十二 音樂
 第一學年 每週二時
 單音唱歌ヲ授ケ
 第二學年 每週二時
 前學年ニ準シ兼テテ樂器ノ用法ヲ授ケ
 唱歌ヲ教授スル順序方法ヲ授ケ
 十三 體操
 第一學年 每週五時
 普通體操 準備法矯正術徒手體操等ノ諸體操ヲ授ケ
 器械體操 各個教練柔軟體操小隊教練及ヒ器械體操ヲ授ケ
 第二學年 每週五時
 普通體操 前學年ニ準シ更ニ球竿棍棒等ノ諸體操ヲ授ケ
 器械體操 前學年ニ準シ更ニ中隊教練銃劍術野外演習及ヒ兵學大意ヲ授ケ
 體操ヲ教授スル順序方法ヲ授ケ
 第三學年 每週四時
 普通體操 前學年ニ準ス
 器械體操 前學年ニ準ス
 體操ヲ教授スル順序方法ヲ授ケ
 第五學年 豫備科ノ學科及ヒ其程度
 第十一條 豫備科生徒ニ課スヘキ學科目ハ修身、國語、歷史、地理、算術、習字、音樂、體操トス
 第十二條 豫備科生徒ニ課スヘキ學科目ノ程度ハ左ノ如シ
 一 修身 每週三時
 教育ニ關スル 勸諭ノ旨趣ニ基キテ人倫道德ノ要領ヲ授ケ
 二 國語
 讀解 平易ニシテ難解ナル國文ヲ讀解セシメ無テテ文法上注意スヘキ事項ヲ授ケ
 作文 文題ヲ與ヘ平易ナル文體ニヨリ日用書類記事等ヲ作ラシム
 三 歷史 每週二時
 本邦建國ノ體制 皇統ノ無窮
 歷代天皇ノ 盛衰忠實賢ノ事蹟學術技術ノ隆替風俗ノ變遷ニ關スル事項ノ大要ヲ授ケ
 四 地理 每週二時
 日本地理及ヒ外國地理ノ大要ヲ授ケ
 五 算術 每週六時
 算術ハ整數分數小數ノ加減乘除ノ復習比例百分算ノ大要ヲ授ケ珠算ハ加減乘除ヲ授ケ之ヲ練習セシム
 六 習字 每週三時
 楷書行書ヲ授ケ
 七 音樂 每週二時
 單音唱歌ヲ授ケ
 八 體操 每週六時
 普通體操 準備法矯正術徒手體操等ノ諸體操ヲ授ケ兼テテ遊戯ヲ課ス
 器械體操 各個教練柔軟體操小隊教練ヲ授ケ
 第六學年 成績検査
 第十三條 成績ノ検査ハ學業検査ヲ行ハシメテシテ教授及ヒ講習ノ成績ヲ檢定スルモノトス
 第十四條 學業検査ノ方法ハ認定試業ノ二トシ認定ハ平常教員ノ查察スル所ニ依リ試業ハ各學期ノ終ニ於テ之ヲ行フ
 但學科ニヨリ教員ニ於テ特ニ試業ヲ行フノ必要ナシト認ムルモノハ之ヲ省略スルコトヲ得
 第十五條 試業ニ缺席セシ者ニハ教員ノ見込ヲ以テ臨時試業ヲ行フコトアルヘシ
 第十六條 學年ノ終ニ於テ職員會議ヲ開キ該學年同ノ學業ノ成績ヲ評定スヘシ
 第十七條 本科及ヒ簡易科ノ最終學年ニ於テハ教育ニ關スル卒業論文ヲ草シシメ成績調査ノ資料ニ充ツヘシ
 第十八條 品行検査ノ要目ハ責任品行才力トス

シ學年ノ終ニ於テ職員會議ヲ開キ之ヲ評定スヘシ
 第十九條 成績ノ評定ハ甲乙丙丁ノ四等ニ分チ丙以上ヲ合格トシ丁ヲ不合格トス
 第二十條 本科及ヒ簡易科卒業ノ者ニハ左式ノ證書ヲ授與スヘシ
 卒業證書
 族籍 姓名
 右ハ當校ノ簡易科ヲ履修シ考試完了セルヲ以テ茲ニ其卒業ヲ證明ス
 明治 年 月 日 學校長位 勳爵 氏 名 印
 〔番號〕
 第七章 生徒規則
 第二十一條 第六條ニ掲グル教育ノ要旨ハ生徒ニ於テモ善ク之ヲ體シ當ニ學德ノ修成ヲ以テ念トスヘシ
 第二十二條 生徒ハ教養ノ效果ヲ全カラシメンカ爲メ總テ本校ノ寄宿舎ニ入リシム
 寄宿舎ニ關スル規則ハ學校長之ヲ定ムヘシ
 第二十三條 生徒在學中ハ學費ヲ支給ス其規則ハ別ニ之ヲ定ム
 第二十四條 木入學ノ許可ヲ得タル生徒ハ左ノ書式ニ據リテ書文ヲ差出スヘシ
 書文 (用紙美濃紙)
 今敝御校へ入學許可相成候ニ付テハ在學中御規則ニ遵ヒ師長ノ訓誨ヲ守リ具當體勵致スヘキハ勿論卒業ノ上ハ成規ノ通服務可仕候依テ書文如斯候也
 第五類 師範學校
 年 月 日 族籍住所 姓名
 北海道師範學校校長 氏 名 印
 第二十五條 入學校ハ自己ノ便宜ヲ以テ退學スルコトヲ許サス但己マテ得サル事情ノ生シタル者ハ特ニ證據ノ上退學ヲ許可スルコトアルヘシ
 前項ニ依リ退學ヲ許可シタルトキハ在學中支給シタル學費ノ全額ヲ償還セシム
 第二十六條 疾病ニ罹リ三箇月以上療養ヲ要スルト認ムル者ニハ一箇年以内休學ヲ命スルコトアルヘシ
 第二十七條 學業進マズ又ハ疾病ニ罹リ成業ノ見込ナシト認ムル者ニハ退學ヲ命ス
 前項ニ依リ退學ヲ命スル者ニハ其情狀ニ因リ在學中支給シタル學費ノ全額若クハ其幾分ヲ償還セシムルコトアルヘシ
 第二十八條 政治又ハ制規ヲ論議シ若クハ命令ヲ誹テ批議スルカ如キコトヲ爲スヘカラス
 第二十九條 新聞雜誌小說ノ類ハ校長ノ許可ヲ得ルニアララレハ之ヲ讀ムヘカラス
 第八章 生徒規則
 第三十條 生徒ノ處分ニ戒飭停學放校ノ三トス戒飭ハ校內ニ於テ誹議セシメ且情狀ニ依リテハ三週間以内外出ヲ禁シ停學ハ一週間以上一箇年以内在學ヲ停止シ放校ハ退學ヲ命スルモノトス
 第三十一條 過誤又ハ怠慢等コリ定規ニ觸レタル者ハ其情狀ニ依リ戒飭ニ處ス
 第三十二條 不都合ノ行動ヲ爲シ長上ノ戒諭ニ服ハサル者ハ其情狀ニ依リ停學若クハ放校ニ處ス
 第三十三條 放校ニ處セラレタル者ハ在學中支給シタル學費ノ全額ヲ償還セシム
 ○明治三十一年七月六日總令第五十一號
 明治三十六年二月北海道總令第三號北海道師範學校生徒募集規則改正スルコト左ノ如シ
 北海道師範學校本科簡易科及豫備科ノ生徒ハ左ノ二種ヨリ募集ス
 第一種 支廳長區長ノ薦舉ニ係ル者 (三十五
 年九月總令第五百二十五號ヲ以テ本項中改正)
 第二種 支廳長區長ノ薦舉ニ依リタル者 (三十五年九月總令第五百二十五號ヲ以テ本項中改正)
 第二條 入學志願者ハ第一種第二種トモ左ノ資格ヲ具フルコトヲ要ス
 一 身體健全品行方正ニシテ小學校教員タルニ適當ナル者
 二 本科及簡易科ノ志願者ハ尋常小學校本科准教員免許狀ヲ有スル者若クハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者豫備科ノ志願者ハ高等小學校第四學年ノ課程ヲ卒業シタル者若クハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者
 三 本科及簡易科ハ年齡十六年以上二十二歳以下豫備科ハ年齡十五年以上十八歳以下ノ者
 四 本道在住者ニシテ家帯ノ係累ナキ者
 第三條 前條資格ノ第一種ニハ師範學校ニ於テ之ヲ檢定スヘク第三第四ハ所轄區町村長戸長ノ證明ニ依ルヘシ (三十五年九月總令第五百二十五號ヲ以テ本條中改正)
 前項第一第二ノ檢定ハ所轄ノ地ニ在ル者ニ限リ師範學校長ヨリ所轄支廳長ニ其施行ヲ託スルコトアルヘシ
 第四條 學力ノ檢定ハ試驗ニ依リ其科目ハ本科及

簡易科ニ在リテハ修身、國語、算術(兼算比例マテ)日本地理、日本歴史トシ豫備科ニ在リテハ修身、國語、算術(兼算比例マテ)トス(三十五年九月廳令第百二十五號ヲ以テ本條中改正)

第五條 生徒ノ入學ヲ許スハ毎學年ノ初トス但シ本科及簡易科ノ各學級ニ缺員アルトキハ第二條第一ノ資格ヲ有シ學力年齡トモ該學級ニ相當スル者ヲ以テ補缺スルコトアルヘシ(三十五年九月廳令第百二十五號ヲ以テ本條中改正)

第六條 生徒募集人員、出願期日及試験時日ハ豫メ之ヲ告示ス(三十五年九月廳令第百二十五號ヲ以テ本條改正)

第七條 入學ヲ許可スルニハ先ツ試驗生トシテ四箇月以内假ニ入學セシメ資格品行ヲ審査シ適當ト認ムル者ニ限リ本入學ヲ許可スヘシ

第八條 第一種志願ノ者ハ第十三條書式第一號第二號ノ願書ニ第二種志願ノ者ハ同條書式第三號ノ願書ニ履歷書及醫師ノ身體検査書ヲ添ヘ所轄區町村長戸長ヲ經由シテ之ヲ差出スヘシ

第九條 支廳長區長ニ於テ生徒ヲ應募セントスルトキハ本人ノ身體資格品行ヲ審査シ適當ト認ムル者ニ限リ本人ノ願書及關係書類ニ應募書ヲ添ヘ師範學校長ヘ送達スヘシ(三十五年九月廳令第百二十五號ヲ以テ本條中改正)

第十條 入學志願者ハ自己ノ身上ニ係ル萬般ノ事ヲ引受ケヘキ保證人ヲ定ムヘシ

第十一條 保證人ハ入學願書ニ連署シ且左ノ書式ニ準シ所轄區町村長戸長ヲ經由シテ保證書ヲ差出スヘシ但シ區町村長戸長ハ前條第二項ノ事實ヲ證明シタル上第八條第二項ニ準シテ之ヲ處理スヘシ(三十五年九月廳令第百二十五號ヲ以テ本條改正)

第十二條 札幌區外ニ居住スル保證人ハ該區内ニ居住スル者ヲ以テ急用ニ應ズヘキ代理者ヲ定メ師範學校長ヘ届出シヘシ師範學校長ニ於テ前項ノ代理者ヲ適當ナラスト認ムルトキハ之ヲ易ヘシムルコトアルヘシ

第十三條 入學願書式左ノ如シ
第一號書式 (三十五年九月廳令第百二十五號ヲ以テ本書式中改正)

第四條 履歷書ノ書式左ノ如シ
履歷書 (三十五年九月廳令第百二十五號ヲ以テ本書式中改正)

第五條 生所北海道(何府縣)何郡區町村氏 名
生年月日

第六條 何科修業者クハ卒業
(修業者クハ卒業證書寫)
一何年何月何日何職ニ從事ス

第七條 一何年何月何日何職ニ從事ス
一賞罰ニ關スル事項
第十五條 身體検査書ニハ左ニ掲グル項目ノ検査成績ヲ記載スヘシ

一 身長
二 體重
三 胸圍

第十四條 入學願書式左ノ如シ
第一號書式 (三十五年九月廳令第百二十五號ヲ以テ本書式中改正)

第五條 生所北海道(何府縣)何郡區町村氏 名
生年月日

第六條 何科修業者クハ卒業
(修業者クハ卒業證書寫)
一何年何月何日何職ニ從事ス

第七條 一何年何月何日何職ニ從事ス
一賞罰ニ關スル事項
第十五條 身體検査書ニハ左ニ掲グル項目ノ検査成績ヲ記載スヘシ

一 身長
二 體重
三 胸圍

第十四條 入學願書式左ノ如シ
第一號書式 (三十五年九月廳令第百二十五號ヲ以テ本書式中改正)

第五條 生所北海道(何府縣)何郡區町村氏 名
生年月日

第六條 何科修業者クハ卒業
(修業者クハ卒業證書寫)
一何年何月何日何職ニ從事ス

第七條 一何年何月何日何職ニ從事ス
一賞罰ニ關スル事項
第十五條 身體検査書ニハ左ニ掲グル項目ノ検査成績ヲ記載スヘシ

一 身長
二 體重
三 胸圍

第十四條 入學願書式左ノ如シ
第一號書式 (三十五年九月廳令第百二十五號ヲ以テ本書式中改正)

第五條 生所北海道(何府縣)何郡區町村氏 名
生年月日

第六條 何科修業者クハ卒業
(修業者クハ卒業證書寫)
一何年何月何日何職ニ從事ス

第七條 一何年何月何日何職ニ從事ス
一賞罰ニ關スル事項
第十五條 身體検査書ニハ左ニ掲グル項目ノ検査成績ヲ記載スヘシ

一 身長
二 體重
三 胸圍

第十四條 入學願書式左ノ如シ
第一號書式 (三十五年九月廳令第百二十五號ヲ以テ本書式中改正)

第五條 生所北海道(何府縣)何郡區町村氏 名
生年月日

第六條 何科修業者クハ卒業
(修業者クハ卒業證書寫)
一何年何月何日何職ニ從事ス

第七條 一何年何月何日何職ニ從事ス
一賞罰ニ關スル事項
第十五條 身體検査書ニハ左ニ掲グル項目ノ検査成績ヲ記載スヘシ

一 身長
二 體重
三 胸圍

第十四條 入學願書式左ノ如シ
第一號書式 (三十五年九月廳令第百二十五號ヲ以テ本書式中改正)

第五條 生所北海道(何府縣)何郡區町村氏 名
生年月日

第六條 何科修業者クハ卒業
(修業者クハ卒業證書寫)
一何年何月何日何職ニ從事ス

第七條 一何年何月何日何職ニ從事ス
一賞罰ニ關スル事項
第十五條 身體検査書ニハ左ニ掲グル項目ノ検査成績ヲ記載スヘシ

一 身長
二 體重
三 胸圍

第十四條 入學願書式左ノ如シ
第一號書式 (三十五年九月廳令第百二十五號ヲ以テ本書式中改正)

第五條 生所北海道(何府縣)何郡區町村氏 名
生年月日

第六條 何科修業者クハ卒業
(修業者クハ卒業證書寫)
一何年何月何日何職ニ從事ス

第七條 一何年何月何日何職ニ從事ス
一賞罰ニ關スル事項
第十五條 身體検査書ニハ左ニ掲グル項目ノ検査成績ヲ記載スヘシ

一 身長
二 體重
三 胸圍

第五類 師範學校

前項ノ場合ニ於テ義務ヲ免除シタルトキハ情狀ニ依リ在學中給與シタル學費ノ全部若クハ幾部ニ償還セシムルコトアルヘシ

第十三條 謂レテクシテ第十一條ノ義務ヲ盡ササル者及服務年限中教員免狀發給ノ處分ヲ受ケタル者ニ就テハ在學中給與シタル學費ノ全部又ハ幾部ヲ償還セシム

第十四條 北海道師範學校生徒募集規則第八條乃至第十二條、北海道師範學校規則第二十一條及第二十四條乃至第三十三條ハ小學校教員講習科生徒ニ準用ス

第十五條 小學校教員講習科開設ノ期日及期限、講習ノ種類及其學科日、學費ノ給否生徒ノ募集ハ毎回北海道總長官ノ認可ヲ經テ北海道師範學校長之ヲ定ム

第十六條 此規則ニ關シテ細則ヲ要スルトキハ北海道總長官ノ認可ヲ經テ北海道師範學校長之ヲ定ム

(書式)

證明書

族籍 氏名 生年月日

何科何科

右ハ本校小學校教員講習科何種講習ニ於テ自明治何年何月何箇年(月)間前記ノ科目ニ就キ講習シ相當ノ成績ヲ得タリ依テ茲ニ之ヲ證明ス

年月日 北海道師範學校校長位勳爵氏名印

第十七條 明治二十九年四月北海道廳令第二十五

號ハ廢止ス

○明治三十三年三月十日廳令第九號

北海道師範學校女子教員講習科規則左ノ通定ム

北海道師範學校女子教員講習科規則

第一條 女子教員講習科ハ尋常小學校教員ヲラントスル者ヲシテ必要ノ學科ヲ講習セシメ兼テ教育ノ方法ヲ研究セシムルヲ以テ目的トス

第二條 女子教員講習科ノ學科日及其程度ハ明治二十八年三月北海道廳令第十九號小學校教員檢定ニ關スル細則第四條ニ依ル

俱備書、音樂、體操ハ之ヲ課ス

學科課程ハ別表定ムル所ニ據ル

第三條 講習期限ハ一箇年以内トス

第四條 女子教員講習科生徒ハ毎回凡ソ四十名トス

第五條 女子教員講習科ニ入學シ得ヘキ者ハ左ノ資格ヲ有スル者タルヘシ

一 身體健全品行方正ナル者

二 高等小學校(修業年限四箇年)卒業以上ノ學力アル者

三 年齡滿十四年以上二十年以下ノ者

第六條 前條資格ノ第一第二ハ師範學校ニ於テ檢定スヘク第三ハ支廳長又ハ區長ニ其施行ヲ託スルコトアルヘシ

前項第一第二ノ檢定ハ遠隔ノ地ニ在ル者ニ限リ師範學校長ヨリ所轄支廳長ニ其施行ヲ託スルコトアルヘシ

第七條 女子教員講習科生徒ニハ學費ヲ支給セス

第八條 女子教員講習科開設ノ期日及期限ハ毎回

北海道總長官ノ認可ヲ經テ北海道師範學校長之ヲ定ム

第九條 女子教員講習科ハ入學セントスル者ハ左式ノ願書ヲ提出シ(口長役場ナキ地ハ支廳又ハ區役所)ヲ經テ北海道師範學校長ニ提出スヘシ

入學願

某師範學校女子教員講習科ハ入學致度某ノ身上ニ關スル萬般ノ事件ハ保證人ニ於テ引受可申別紙履歷書ヲ添ヘ此段相願候也

年月日 族籍住所

志願人氏 名印

何郡區町村番地居住

北海道(何府縣)華士族平民

保證人氏 名印

北海道師範學校校長宛

前書口籍ニ關スル事項相違無之候也

年月日

何何支廳長又ハ何郡區町村長氏名印

履歷書

族籍住所

誰何女姉妹等

生所北海道(何府縣) 氏 名 生年月日

何郡區町村

何年何月ヨリ何年何月マテ何所何學校ニ於テ何科修業又卒業

何何、

(修業若クハ卒業證書寫)

何年何月何職ニ從事ス

第五類 師範學校

第十條 女子教員講習科生徒ノ保證人ハ成年以上ノ戶主ニシテ本道ニ居住スル者タルヘシ入學ヲ許可セラレタル者ハ其保證人ニシテ札幌區外居住スル者ナルトキハ別ニ札幌區内ニ居住スル者ニ就キテ保證人代理者ヲ定メ速署ノ上北海道師範學校長ニ届出ツヘシ北海道師範學校長ニ於テ保證人又ハ其代理者ヲ適當ナラスト認メタルトキハ之ヲ身ヘシムルコトヲ得(三十三年八月廳令第七十九號ヲ以テ本條改正)

第十一條 北海道師範學校規則第七章及第八章ハ寄宿舍學費及修業ニ關スル條規ヲ除キ女子教員講習科生徒ニ準用ス(三十三年八月廳令第七十九號ヲ以テ本條追加)

第十二條 講習期限ノ終ニ於テ學業ノ成績ヲ調査シ相當ノ成績アリト認メタル者ニハ左ノ證明書ヲ授與ス(三十三年八月廳令第七十九號ヲ以テ本條追加)

證明書

族籍 氏名 生年月日

何科何科

右ハ本校女子教員講習科ニ於テ自明治何年何月何箇年(月)間前記ノ科目ニ就キ講習シ相當ノ成績ヲ得タリ依テ茲ニ之ヲ證明ス

年月日 北海道師範學校校長位勳爵氏名印

(別表)

女子教員講習科課程表

學科	每週授時數	程度
修身	二	人倫道德ノ要旨

教育	三	教育ノ大要教授法
國語	五	讀書漢文交リ文 作文日用漢文交リ文
算術	四	珠算四則諸算小數諸比例 球算加減乘除及四則雜題
地理	三	日本地理ノ大要 日本歴史ノ大要
歴史	三	日本地理ノ大要 日本歴史ノ大要
習字	二	楷書 行書 草書
裁縫	五	通常衣服ノ裁方縫方
園藝	一	自在園ノ大要
音樂	二	單音唱歌
體操	三	普通體操

○明治三十四年四月十七日廳令第六十三號

明治三十一年七月北海道廳令第五十三號北海道師範學校附屬小學校規則左ノ通改正ス

北海道師範學校附屬小學校規則

第一條 教科ハ尋常小學校高等小學校ノ二種トス

高等小學校ノ修業年限ハ四箇年トス

第二條 學期ハ左ノ如シ

第一學期 自四月一日起至七月三十一日

第二學期 自八月一日起至十二月三十一日

第三學期 自一月一日起至三月三十一日

第三條 毎日ノ教授終始ノ時刻ハ左ノ如シ

自五月一日 午前八時修業午後二時終業

自九月三十日 午前九時始業午後三時終業

自四月三十日 休業日ハ祝日大祭日日曜日ヲ除クノ外左ノ如シ

一 夏季休業 自八月一日起至三十一日

二 冬季休業 自十二月二十五日起至翌年一月十五日

三 學年末休業 自三月二十五日起至七月

四 札幌神社祭 六月十五日

五 開校紀念日 九月十七日

第五條 尋常小學校ノ教科日ハ修身、國語、算術、體操、園藝、唱歌、裁縫(女兒)トス(三十五年三月廳令第二十五號ヲ以テ本條追加)

第六條 高等小學校ノ教科日ハ修身、國語、算術、日本歴史、地理、理科、園藝、唱歌、體操、農業(男兒)、裁縫(女兒)トス

第七條 教科課程表左ノ如シ

第五類 師範學校

尋常小學校課程表 (三十五年三月閣令第二十五號ヲ以テ木表改正)

科目	第一學年		第二學年		第三學年		第四學年	
	時數	教授週	時數	教授週	時數	教授週	時數	教授週
修身	二	二	二	二	二	二	二	二
國語	九	九	一〇	一〇	一三	一三	一三	一三
算術	五	五	六	六	六	六	六	六
體操	三	三	三	三	三	三	三	三
唱歌	二	二	二	二	二	二	二	二
圖畫								
縫紉								
計	二二	二二	二四	二四	二七	二七	二七	二七

一 尋常小學校第一學年ノ第一學期ハ國語科中ノ讀方、書方、綴方ヲ區分セシメ第二學期ヨリ尋常小學校第二學年ノ綴リマテ讀方、書方ノ二科ニ區分シ尋常小學校第三學年以上ハ讀方、書方、綴方ノ三科ニ區分ス

一 珠算ハ尋常小學校第四學年ニ至リ算術一週六時間ノ内二時間ヲ以テ之ニ充ツ

一 入學ノ初期ニハ每週十八時間マテ授業時間ヲ減スルコトアルヘシ

一 夏季冬季休業日ノ前後各二十日以内ニ於テ適宜本表ノ教授時數ヲ減スルコトアルヘシ

高等小學校課程表 (三十五年三月閣令第二十五號ヲ以テ木表改正)

第五類 師範學校

科目	第一學年		第二學年		第三學年		第四學年	
	時數	教授週	時數	教授週	時數	教授週	時數	教授週
修身	二	二	二	二	二	二	二	二
國語	九	九	九	九	九	九	九	九
算術	四	四	四	四	四	四	四	四
日本歴史	三	三	三	三	三	三	三	三
地理	三	三	三	三	三	三	三	三
理科	二	二	二	二	二	二	二	二
圖畫	一	一	一	一	一	一	一	一
唱歌	二	二	二	二	二	二	二	二
體操	二	二	二	二	二	二	二	二
縫紉	三	三	三	三	三	三	三	三
農業	三	三	三	三	三	三	三	三
計	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二

一 珠算ハ各學年ヲ通シテ算術一週四時間ノ内二時間ヲ以テ之ニ充ツ

一 夏季冬季休業日ノ前後各二十日以内ニ於テ適宜本表ノ教授時數ヲ減スルコトアルヘシ

第五類 師範學校

第八條 學級ノ編制ハ左ノ如シ
一 尋常小學校 五學級
二 高等小學校 五學級
三 高等小學校 五學級
四 高等小學校 五學級
五 高等小學校 五學級
六 高等小學校 五學級
七 高等小學校 五學級
八 高等小學校 五學級
九 高等小學校 五學級
十 高等小學校 五學級
十一 高等小學校 五學級
十二 高等小學校 五學級
十三 高等小學校 五學級
十四 高等小學校 五學級
十五 高等小學校 五學級
十六 高等小學校 五學級
十七 高等小學校 五學級
十八 高等小學校 五學級
十九 高等小學校 五學級
二十 高等小學校 五學級

卒業證書

卒業證書
校印
氏名
生年月
族籍戸主(誰何男女弟妹等)
北海道師範學校校長位勳爵氏名印

修業證書

修業證書
校印
氏名
生年月
族籍戸主(誰何男女弟妹等)
北海道師範學校

學習證書

學習證書
校印
氏名
生年月
族籍戸主(誰何男女弟妹等)
北海道師範學校

○明治二十一年八月十一日訓令(北海道師範學校)
其校中職員校務支分ハ其行先及日數届出ノ上旅行シカラス
○明治三十四年十二月二十六日訓令(北海道師範學校)
其校中職員校務支分ハ其行先及日數届出ノ上旅行シカラス
○明治三十五年四月一日訓令(北海道師範學校)
其校中職員校務支分ハ其行先及日數届出ノ上旅行シカラス
○明治三十五年四月一日訓令(北海道師範學校)
其校中職員校務支分ハ其行先及日數届出ノ上旅行シカラス
○明治三十五年四月一日訓令(北海道師範學校)
其校中職員校務支分ハ其行先及日數届出ノ上旅行シカラス

第一條 學費ハ食費被服費雜費ノ三種目トシ現金ヲ以テ支給ス
前項ノ雜費及雜費ハ小學校教員講習科生徒備員科生徒備員入學生ニハ之ヲ支給セス(三十二年三月訓令第九十一號及三十五年一月訓令第四十一號ヲ以テ本項改正)
第二條 食費ハ一人一箇月金四圓八拾錢トス
第三條 被服費ハ第一年生ハ木入學ノ際其他ノ學年ノ初ニ於テ左ノ定額ヲ支給ス
但原級ニ留マルモノハ年級ニ拘ハラズ本科第四年生ニ均シキ被服費ヲ支給ス

支給ス
本科第一年生 金二十九圓三十六錢
本科第二年生 金五十四圓十五錢
本科第三年生 金七十四圓九十一錢
本科第四年生 金四十四圓三十三錢
第四條 被服費ノ調製スヘキ品目ヲ定ムルコト左ノ如シ
但自己ノ不注意等ニ依リ保存期限内ニ損傷シ體裁ニ關スルモノアルトキハ自費新調ヲ命スヘシ

Table with columns: 品目, 給與年別, 保存期限, 本科第一, 本科第二, 本科第三, 本科第四, 本科簡易, 本科計. Rows include winter clothing, summer clothing, shoes, etc.

第五條 雜費ハ學用品費日用品費修理費雜用費及遊戯費トシ一人一箇月金壹圓六拾錢トス

第五類 師範學校

第三十一年一月訓令(第四十一號)ヲ以テ第二項削除
第六條 依願歸郷又ハ下宿ヲ許可シタルトキハ其當日ヨリ歸校前日マデ日割ヲ以テ食費ヲ控除ス
但冬季休業中ニ限リ依願歸郷又ハ下宿ヲ許可シタルトキハ此限ニアラズ
第七條 夏季休業中ハ食費及雜用費ノミヲ支給ス
但休業前ヨリ依願歸郷又ハ下宿ヲ許可シタル者ニハ之ヲ支給セス
第八條 疾病ニ罹リタル者ハ外宿療養ヲ命ジタルトキハ三十日ノハハ食費及雜費ヲ支給ス
第九條 停學中ハ總テ學費ヲ支給セス
第十條 食費ハ毎月末日雜費ハ毎月五日其月分ヲ拂渡スモノトス
但夏季休業ノ月ニ限リ本文ノ期日ヲ一日ニ繰上ケ支給ナルコトヲ得(三十二年七月訓令第二百八十二號ヲ以テ本項追加)
第十一條 此規則ニ關スル細則ハ北海道師範學校校長之ヲ定ムヘシ
○明治三十五年九月二十六日訓令(第五百二十六號)
○明治三十一年(七月)北海道廳令第五百二十二號(北海道師範學校卒業生服務細則)
左ノ通改正ス
北海道師範學校卒業生服務細則
第一條 北海道師範學校卒業生ハ左ノ服務年限間本道ニ於テ小學校教員ノ職ニ從事スル義務ヲ有ス但シ第二條ノ義務ヲ了スルモノハ小學校ニテラサル官立公立學校教員ノ職若ハ學務ニ關スル他ノ公職ヲ以テ本文ノ職ニ代フルコトヲ得
一 本科卒業生ノ服務年限ハ卒業證書受得ノ日ヨリ十箇年トス
一 簡易科卒業生ノ服務年限ハ卒業證書受得ノ日ヨリ六箇年トス
第二條 ノ義務ヲ了スルモノハニシテ特別ノ事情アルトキハ北海道廳長官ノ許可ヲ受ケテ他ノ府縣内ニ於テ就職スルコトヲ得
第二條 北海道師範學校卒業生ハ本道ニ於テ左ノ年限間北海道廳長官ノ指定スル小學校教員ノ職ニ從事スル義務ヲ有ス
一 本科卒業生ハ卒業證書受得ノ日ヨリ三箇年
一 簡易科卒業生ハ卒業證書受得ノ日ヨリ三箇年
第三條 第一條及第二條ノ義務ヲ盡スコト能ハサル事故アルモノハ其ノ事山ヲ詳シシテ北海道廳長官ノ指揮ヲ請フヘシ

前項ノ事故傷者ハ疾病ニ關ル場合ニ於テハ北海道廳長官ハ特ニ病院又ハ醫師ヲ指定シ其ノ證明ニ係ル診斷書ヲ徵シ若ハ其ノ病狀ニ依リテハ本人ヲ召喚シテ診斷ヲ受ケシムルコトアルヘシ但シ之ニ要スル費用ハ本人ノ自辨トス

第四條 北海道師範學校卒業生ニシテ疾病ニ因リ休職又ハ退職ヲ命セラレタル者ハ其ノ服務ノ義務ヲ有スル期間内毎月末日限リ醫師ノ詳細ナル診斷書ヲ添ヘ病狀ヲ北海道廳長官ニ届出ツヘシ其ノ休職期間滿テ退職シタル者ニ於テモ亦同シ

第五條 北海道師範學校卒業生ハ其ノ在職中ナルト否トニ關ハラズ服務ノ義務ヲ有スル期間内傷者ハ疾病ニ因リ本廳管外ニ於テ療養ヲ爲サルトスルトキハ豫メ其ノ期間及居所ヲ決定シ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ北海道廳長官ノ認可ヲ受ケヘシ

第六條 北海道廳長官ハ必要アリト認ムルトキハ前二條ノ者ニ對シ隨時第三條第二項ノ規定ヲ適用スルコトアルヘシ

第七條 北海道師範學校卒業生ニシテ服務ノ義務ヲ有スルモノ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ遲滞ナク其旨北海道廳長官ニ届出スヘシ但シ第三號ノ場合ニ就キテハ親族ニ於テ其手續ヲ爲スヘシ

第八條 北海道師範學校卒業生ニシテ服務ノ義務ヲ有スルモノ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其情狀ニ依リ在職中給與シタル學費ノ全部若ハ幾部ヲ償還セシムルコトアルヘシ

第九條 北海道師範學校卒業生ニシテ服務ノ義務ヲ有スルモノ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ在職中給與シタル學費ノ全部若ハ幾部ヲ償還セシムルコトアルヘシ

一 謂レナク第一條若ハ第二條ノ義務ヲ盡ササルトキ

二 教員免許狀轉奪ノ處分ヲ受ケタルト

● 學事雜

○明治二十年二月八日第十號達 郡區役所各學校宛

○現在ノ職員ハ本年三月二十日限リ郡區役所ヲ經テ(師範學校商船學校商業學校ハ直ニ)差出スヘシ

但從前ノ諸達本文ニ抵解スルモノハ廢止ス

(別紙)

北海道(何府縣)何國何郡(區)何町(村)何番地

華族(士族平民)

(某長次男)若何備

苗 字 名

年號千支月日何國何郡何町(村)何番地

現住所何國何郡(區)何町(村)何番地

年號千支月日	任 免 賞 罰 事 故	官 衙
明治何年何月何日	校(私)費入學差支候事	何府縣何學校
同何年何月何日	何學科卒業候事	同 上
同何年何月何日	何學校教員免許候事	何 府 縣
同何年何月何日	任某官(某職申付)候事	某省(廳府縣)
同何年何月何日	月俸金何圓下賜候事	同 上
同何年何月何日	何何ニ付爲差支金何圓下賜候事	同 上

同何年何月何日	叙勳何等	賞 勳 局
同何年何月何日	御用有之某國へ被差遣候事	太 政 官
同何年何月何日	歸 朝	
同何年何月何日	某官被廢	
同何年何月何日	道ヲ何分ノ儀相違候送事務從前ノ通リ取扱	某官省廳

實印	何年何月何日改印
小印	何年何月何日改印

履歷記載心得

第一條 履歷書ハ前書雜形ニ依ヒ楷書ニテ正ク認ムヘシ但官廳廢置及官等改正ハ朱ヲ以テ記載ヘシ

第二條 左ノ條項其他職務上ニ就キ官廳ヨリ命令訓諭ヲ受ケタル事件ハ悉皆年月日ヲ逐フテ記載スヘシ

一 任官

一 轉官昇降等

一 敘勳從軍記章

一 賞與恩勞

一 武官補職罷役退職後備軍職

一 委員

一 内地出張

一 教員囑託

一 恩給、一時賜金、滿年賜金

一 官省廳府縣學校廢置及官等改正

第三條 任免賞罰卒業免許等ノ年月日ハ達書證書免狀ノ日付ニ據ルヘシ但日ヲ經テ拜受ノ分ハ年月日ノ左側ニ「何年何月何日拜受」ト記スヘシ

第四條 任免賞罰卒業免許等ノ事故ハ總テ達書證書免狀ノ全文ヲ認ムヘシ

第五條 履歷書差出後轉改氏名改印等ノ節ハ直ニ其旨届出ツヘシ

第六條 履歷用紙ハ請求ニヨリ教育課ヨリ交付スヘシ

○明治二十一年八月十一日訓令號外(郡區役所宛)

町村立學校休業中該校職員校務差支トキ向ハ其行先及日數届出サセ旅行セシメ當シカラス

○明治二十七年十二月七日總令第六十五號

明治二十七年(八月)勅令第四百四十一號ニ依リ公立學校職員ニ休職ヲ命ジタルトキハ依職中俸給支給セス

○明治三十三年七月十日總令第六十號

廳立學校男職員服制左ノ通定メ明治三十四年一月一日ヨリ實施ス但北海道師範學校ニ限リ當分ノ内明治二十一年九月二十七日號外訓令規定ノ制服ヲ用フルコトナリ

總立學校男職員服制

種 別	地 質	製 式	組 鈕
上 衣	紺文ハ藍色縞紗ノ類色若クハセルノ類	立襟一行細紺長シナクツト第一四ノ如シ	藍色丸形胸ニ六箇ヲ附ス
袴	白地ニ同シ但腰ハ白地トスルコトナリ	普通ツボン第二圓ノ如シ	
帽	藍色縞紗	山崎帽又ハ軍帽形トス但軍帽形ニハ條及徽章ヲ附シテハ白布ノ目覆ヲ用フ	

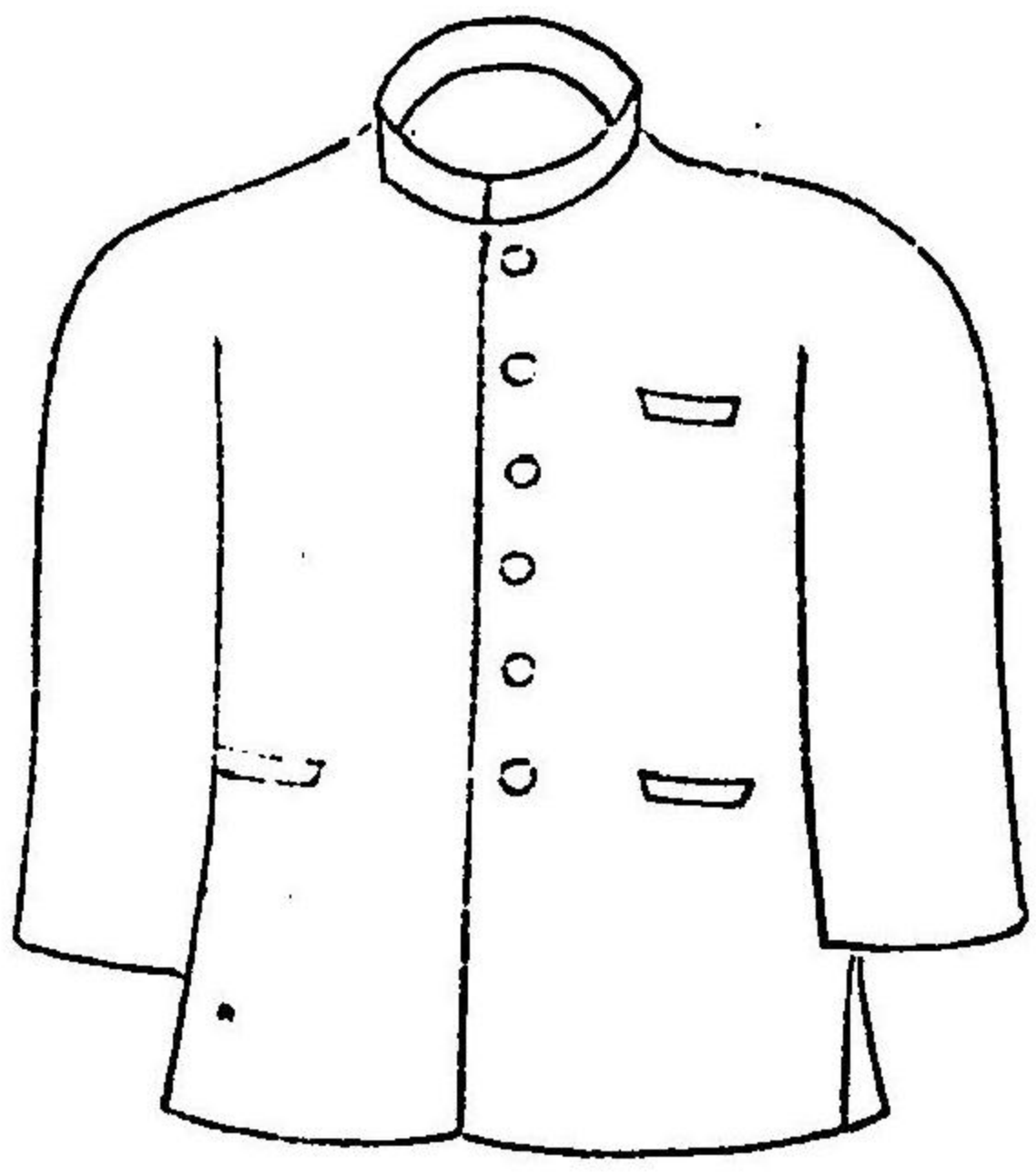
外套	上衣二同シ	折襟二重後面ノ部ヲ制シキ接面部ニシテ各一箇ノ左右腰ノ部ニ各一箇ノ物入ルル第三圖ノ如ク	黑色九形胸ニ五箇七箇ヲ附ス
----	-------	--	---------------

備考

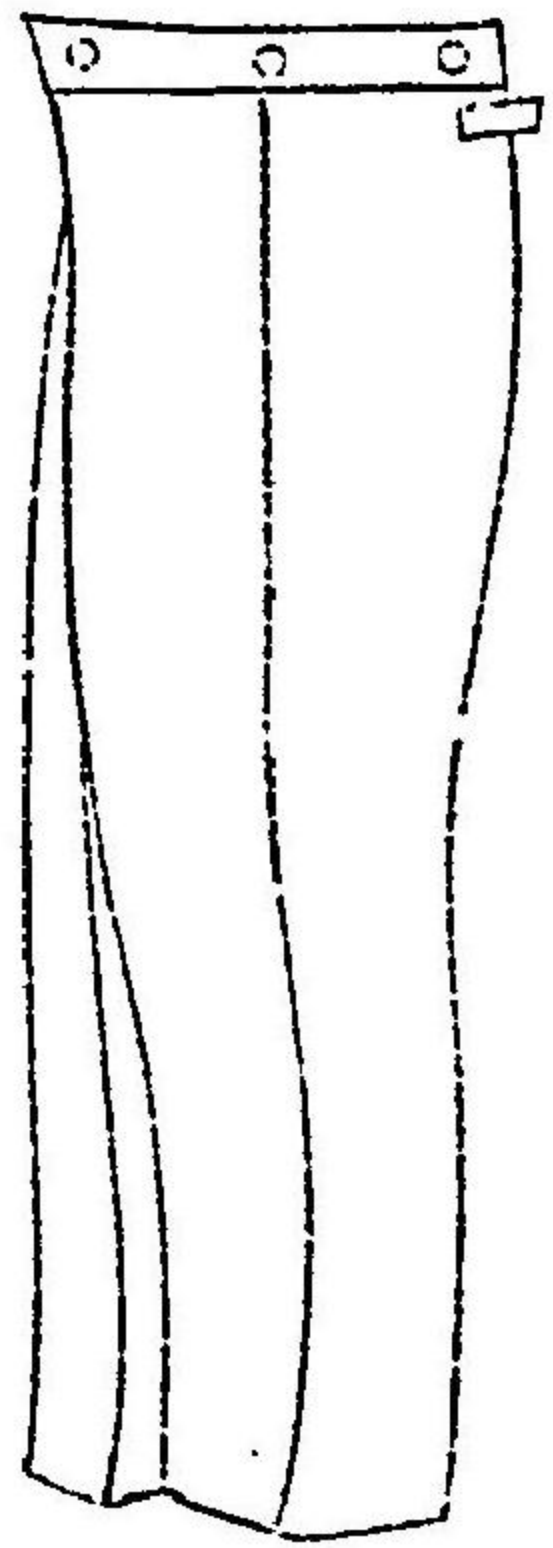
一 軍帽形ノ種類及之ニ附スヘキ條及徽章ハ長官ノ許可ヲ得テ學校長之ヲ定ム

一 此制服ハ宮中ノ儀式ヲ除クノ外禮服ニ代用スルコトヲ得

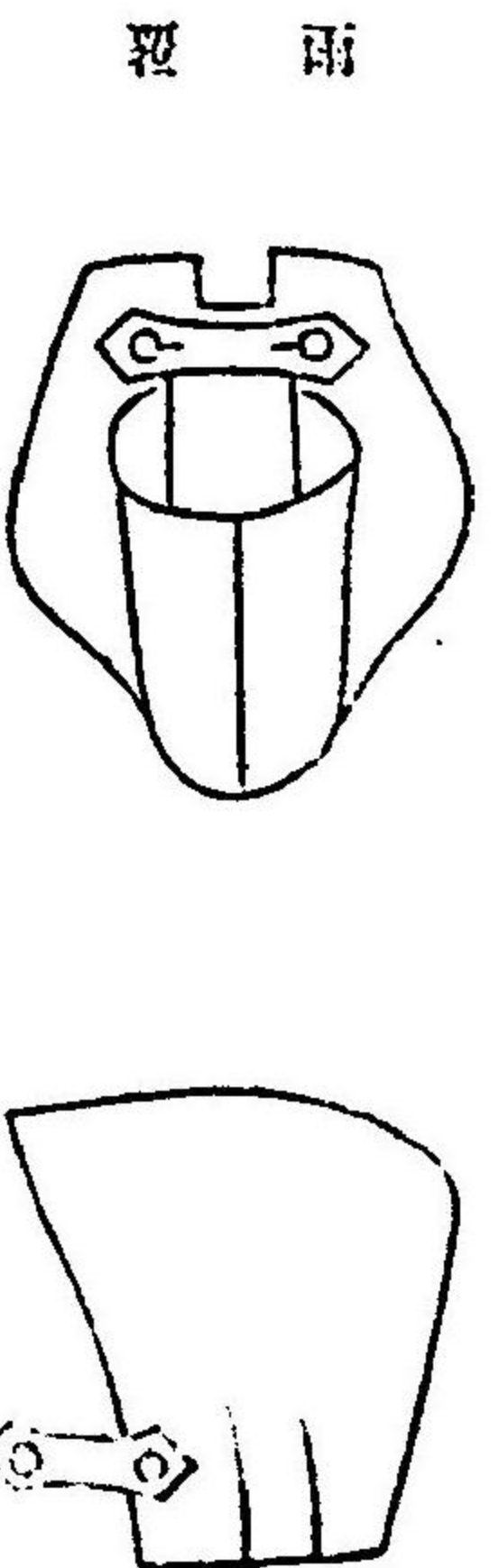
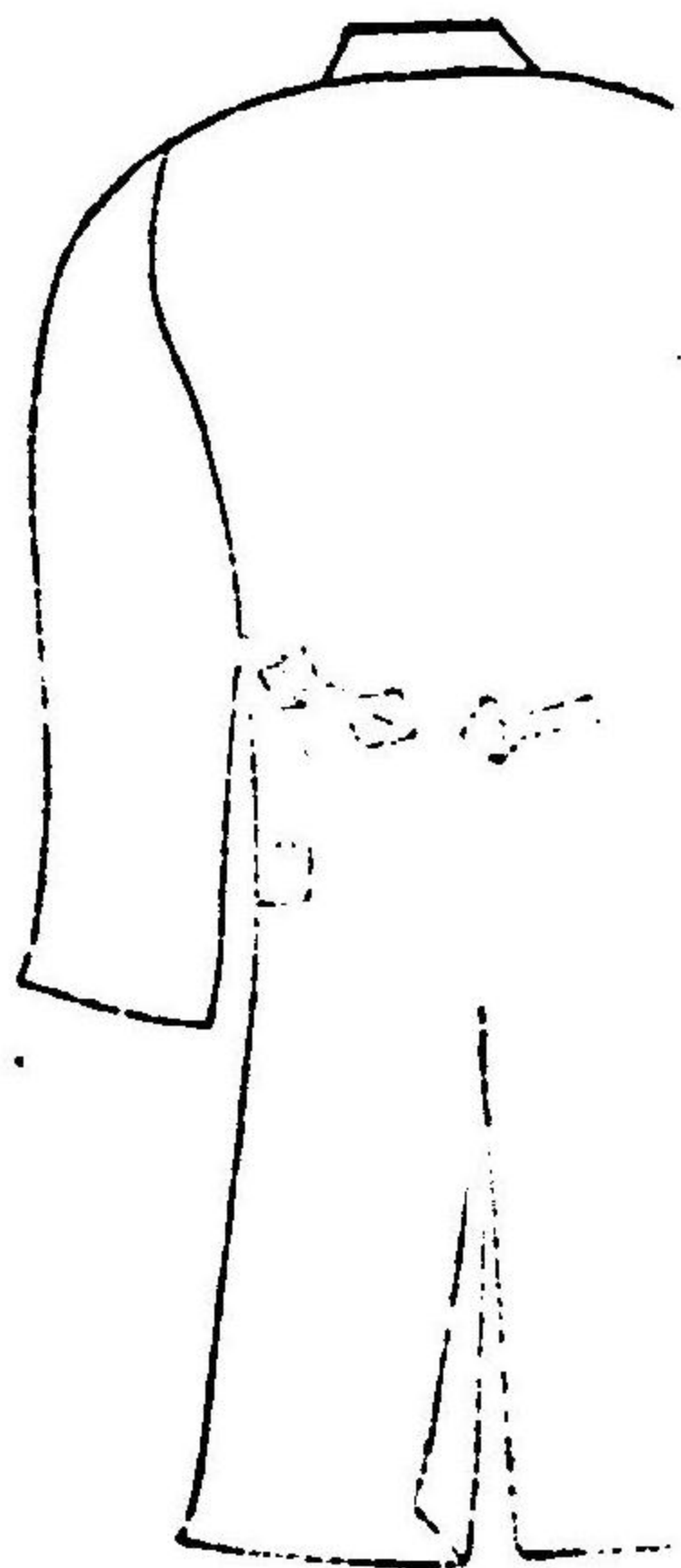
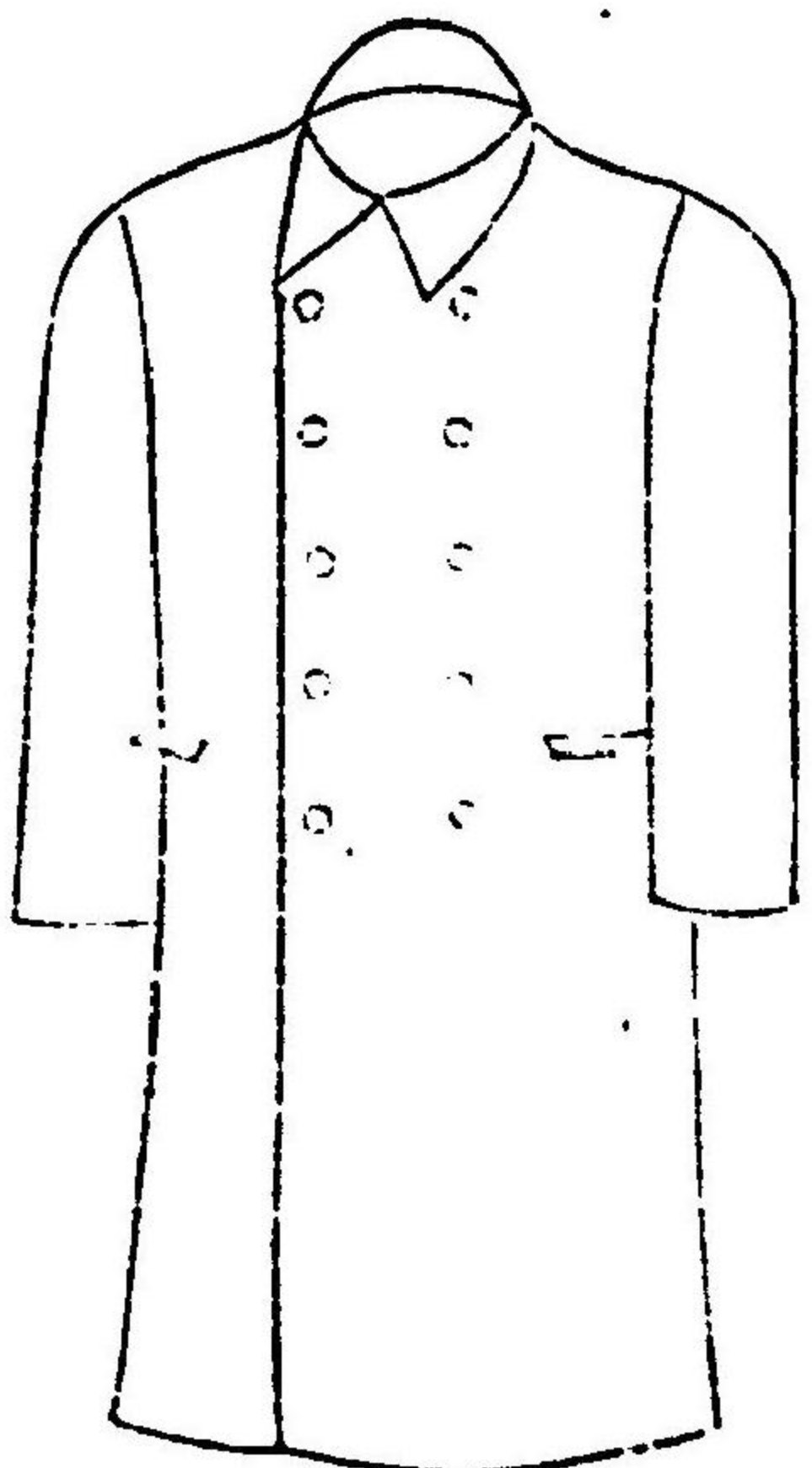
圖一第



圖二第



圖三第



○明治三十三年四月六日訓令第二十四號(支廳區役所戸長役場師範學校中學校商館商業學校宛)

學校生徒ノ喫煙ハ衛生上有害ナルヲ以テ小學校生徒ニ關シテハ業已明治二十七年文部省訓令第六號第八項ヲ以テ其喫煙及煙草ヲ禁テラレタリ

アリ中學校等ニ在リテモ實際生徒ノ喫煙ヲ禁シタルモノ多シ今般喫煙禁止法ノ發布アリ其實施下時ニ特ニ文部省訓令第五號ヲ以テ懇切ニ其生徒取締方ヲ達セラレタリ就テハ本道小學校中學校師範學校及等位ノ之ニ準スヘキ學校ニ在リテハ取締上其生徒ノ成年未成年ナルト學校ノ内外トノ間ハ喫煙シ及煙草煙具ヲ夾帶スルコトヲ禁止スヘシ其他ノ學校ニ在リテモ特ニ注意ヲ加ヘ法律違反ノ者ナカランコトヲ期スヘシ

○明治三十二年七月七日訓令第三百八十七號(北海道師範學校札幌中學校函館中學校 函館商業學校宛)

今般改正條約實施ニ際シ文部省訓令第十號第十一號ヲ以テ生徒教養上ニ關シテ訓令セラレタリ此際能ク其旨意ヲ體シ教養ノ方ヲ謀ラシメテ其本風紀節制ヲ嚴正ニシ生徒ヲシテ遵守履行能ク其本文ヲ履サシメテ教養ノ實ヲ果ケンコトヲ期スヘシ

○明治二十年十一月二十九日訓令號外(札幌農學校北海道師範學校函館商業學校函館商館學校宛)

兵式體操科用銃器火藥取扱方法ノ通定ム

一 兵式體操科用銃器火藥取扱方法

一 兵式體操科用銃器ハ一定ノ場所ニ置キ正科用ノ外之ヲ使用セシム可カラズ

一 銃器置場ハ倉庫内ニ設クヘシ若シ倉庫ナキトキハ四圍戸締堅固ナル室ヲ以テ之ニ充ツヘシ

一 倉庫室ハ銃器保管ニ便宜ナル場所ニ設置スヘシ

○明治三十四年六月十五日訓令第二十五號(支廳區役所戸長役場師範學校中學校商館商業學校宛)

舍監(舍監ヲ缺ク場合ニ於テハ舍監ノ職務ヲ執行スルモノ)ハ銃器置場ヲ保管シ常ニ注意看守スヘシ

一 正科用ノ銃器ヲ出納スルトキハ兵式體操科監督者ニ立會テ要スヘシ

一 生徒銃器攜帶ノ際ハ必ス兵式體操科教員之ヲ監督スヘシ

一 銃器ハ平常生徒ノ受持ヲ定メ取扱ニ注意セシメ失火其他非常ノ際ハ各自之ヲ攜帶セシメ會同監視率適宜ノ場所ニ立退ヘシ

一 發火演習ノ爲メ火藥ヲ要スルトキハ其需用見込ノ量ヲ限リ購求シ演習終リテ若シ殘餘ヲ生シタルトキハ直ニ之ヲ賣買營業人ニ賣渡スヘシ

一 校長ハ每週一回銃器ヲ檢査スヘシ

○明治三十二年四月二日訓令第五號(札幌商業中學校函館商業中學校宛)

兵式體操科用銃器火藥取扱方法ヲ定ムルコト左ノ如シ

(左記ハ前出二十年十一月訓令號外同文ニ付略ス)

○明治三十三年六月二十九日訓令第四十五號(支廳區役所)

町村立學校設置ノ認可ヲ受ケタル場合ニ於テ其校地有租地ナルトキハ其租地額町村字地番地目段別及認可年月日等ヲ記シ圖面ヲ添ヘ所轄稅務署ヘ通知スヘシ(三十六年三月訓令第十七號ヲ以テ本項中改正)

前項校地變更ノ認可ヲ受ケタルトキハ亦同シ

○明治三十四年六月十五日訓令第二十五號(支廳區役所)

札幌中學校、函館中學校、函館商業學校、右學校ノ名稱ニ各「北海道立」ノ五字ヲ冠ス

○明治三十五年十一月二十一日訓令第二十四號(支廳區役所町村役場戸長役場師範學校中學校商館商業學校函館商業學校札幌高等女學校區町村立小學校宛)

學校ノ火災取締ニ關シテハ平常般電燈ヲ要スヘキハ勿論ナルニ從來學校ヨリ失火セシ例ナキニテ是等ハ教育ノ旨趣ヨリ見ルモ其シキ不都合ノ次第ニ付學校職員タル者常ニ深ク其注意シテ冬季ニ際シテハ檢査ノ裝置烟筒ノ掃除等ニ關シ一層嚴密ナル警戒ヲ加ヘ以テ過失ヲ未然ニ防クコトヲ期スヘシ

又學校ニ於テハ火ノ許取及右等非常變災ニ處スル心得等ニ付キ訓練ノ一トシテ適宜ニ之ヲ生徒兒童ニ授ケルヲ要ス

○明治三十三年四月三日訓令第十九號

學事會規則左ノ通相定ム

學事會規則

第一條 學事會ハ北海道長官ノ諮詢ニ應ジテ左ノ事項ヲ審議ス

一 教育行政事務ニ關スル事項

一 學校管理ニ關スル事項

一 教授訓育ニ關スル事項

一 學校衛生ニ關スル事項

第二條 學事會ハ前條ノ事項ニ關シ北海道長官ニ建議スルコトヲ得

第三條 學事會ハ左ノ會員ヲ以テ組織ス

一 視學官

一 視學及協

一 四月訓令第六十九號ヲ以テ改正)

一 各支廳區役所學事主任

一 區立學校校長

一 若干人(三十四年四月訓令第六十九號ヲ以テ改正)

一 師範學校附屬小學校主事 若干人
 一 公立小學校長 一人
 一 公立實業補習學校長 一人
 一 學校醫 一人
 前項ノ外臨時學務委員ヲ加フルコトアルヘシ
 第四條 前條ノ委員ハ北海道廳長官之ヲ命ス
 第五條 學事會ハ隔年一回之ヲ開ク(三十五年三月廳令第十七號ヲ以テ本條中改正)
 但シ開會期日ハ其都度之ヲ定ム
 第六條 公立小學校長公立實業補習學校長及學校醫ノ旅費日當ハ本廳ヨリ之ヲ支給ス
 第七條 學事會ハ會長及幹事若干人ヲ置キ北海道廳長官之ヲ命ス
 第八條 會長ハ會務ヲ統理シ幹事ハ會長ノ指揮ヲ受ケ會務ニ從事ス
 第九條 公立小學校長公立實業補習學校長ヨリ命セラルタル委員ノ任期ハ二箇年トス
 第十條 學事會議事規則ハ別ニ之ヲ定ム
 ○明治三十三年五月三十日訓第三百三十一號(學事會規)

第六條 會員ハ五名以上ノ同意ヲ以テ建議案ヲ提出スルコトヲ得
 第七條 議事ハ第一讀會第二讀會第三讀會ニ區別シ但シ事宜ニ依リ議事ノ順序ヲ省略スルコトヲ得
 第一讀會ニハ議案ノ大體ヲ議シ第二讀會ニハ議案ヲ逐條討論シ第三讀會ニハ本案ニ就キ確定ノ議決ヲナスヘシ
 第八條 修正案ハ第二讀會第三讀會ニ於テ之ヲ提出スルコトヲ得
 但シ第二讀會ニ於テ贊成者ナキモノ及第三讀會ニ於テ三名以上ノ贊成者ナキモノハ之ヲ議決スルコトヲ得ス
 第九條 議事ハ出席會員ノ過半數ヲ以テ其可否ヲ決ス可同數ヲ得トキハ會長之ヲ決ス
 第十條 辯論未タ終ラズト雖トモ會長ニ於テ論旨既ニ盡キタリト認ムルトキハ其議事ノ決ヲ採ルコトヲ得
 但シ會員異議アルトキハ會ノ決ヲ採ルヘシ
 第十一條 可否ヲ決スルノ法ハ起立、記名投票、無記名投票ノ三種トシ會長便宜ニ之ヲ用フヘシ
 第十二條 調査委員ヲ設ケル場合ニ於テハ其選舉法ハ會ノ決スル所ニヨリ議長ノ指名者ヲ會員ノ互選トス
 委員ノ互選ヲ以テ委員長一名ヲ置ク
 第十三條 主任官吏及幹事事務修正案若クハ建議案ノ發議者ハ調査委員會ニ列シ其旨趣ヲ聲明スルコトヲ得
 第十四條 調査委員ノ調査ノ結果ハ委員ヨリ會長ニ報告スヘシ
 第十五條 議決ノ要項ハ會長ヨリ北海道廳長官ニ

報告スヘシ
 第十六條 會長事故ノルトキハ會長ニ於テ議員中ノ一人ヲ指名シ幹事ヲ代理セシムヘシ
 第十七條 本則ニ明文ナキ事項ハ會長總之ヲ決ス
 但シ會員異議アルトキハ會ノ決ヲ採ルヘシ
 ○明治三十三年十一月十五日訓第六百七十九號(支廳規)
 教育事務管理ノ爲メ支廳長ハ其廳學事主任トシテ毎年一回以上管内ヲ巡視セシムル各事項ニ對シテ細則ヲ定ムヘシ
 一 小學校設備ノ適否詳察ノ計
 二 學齡兒童就學ノ狀況
 三 學級編制及教員配置ニ關スル狀況
 四 補習科ニ關スル事項
 五 訓育及教授ニ關スル狀況
 六 學校衛生ニ關スル狀況
 七 學事ニ關スル諸表簿ノ整備
 八 學校基本財産ノ管理及増殖ノ方法
 九 市立人教育ニ關スル狀況
 十 學校職員學校醫服務ノ狀況
 十一 町村長戶長學務委員服務ノ狀況
 十二 教育費ニ關スル事項
 十三 學校管理諸町村トノ關係
 其他必要ト認ムル事項
 ○明治三十四年三月三十一日訓令第十八號(支廳規)
 區役所師範學校中學校兩館商業學校(支廳規)
 學事年報取調諸項及諸表格式左ノ通定ム但シ格式ハ別ニ示ス
 明治二十八年十一月北海道廳訓令第四十二號ハ之ヲ廢止ス
 學事年報取調諸項

管内學事ノ狀況
 學事施設ノ要領及學事ノ現狀ヲ記述スヘシ
 學齡兒童
 就學ニ關スル規則施行ノ狀況ヲ記述スヘシ
 小學校
 學校ノ設備、編制、修業年限及補習科ニ關スル狀況、公立學校ノ配置適否ノ狀況、簡易教育所及私立學校ノ狀況、教員ノ需要供給及待遇ノ狀況ヲ記述スヘシ
 幼稚園
 幼稚園ノ設備、幼兒保育ノ狀況ヲ記述スヘシ
 盲啞學校
 學校ノ設備、授業ノ狀況、生徒卒業後ノ狀況ヲ記述スヘシ
 師範學校
 學校ノ設備、教諭助教諭ノ教員免許狀ヲ受得シタル事由、入學者(生徒ノ種別、從前ノ教育、年齡、父兄ノ職業)半途退學者(人員事由)ニ關スル狀況、生徒卒業後ノ狀況、附屬小學校及小學校教員講習科等ノ狀況ヲ記述スヘシ
 中學校
 學校ノ設備、有資格教員ノ教員免許狀ヲ受得シタル事由、入學者(從前ノ教育、年齡、父兄ノ職業)半途退學者(人員事由)補習科ニ關スル狀況ヲ記述スヘシ
 高等女學校
 學校ノ設備、有資格教員ノ教員免許狀ヲ受得シタル事由、入學者(從前ノ教育、年齡、父兄ノ職業)半途退學者ニ關スル狀況、技藝、專修科、補習科、專攻科ノ狀況ヲ記述スヘシ
 專門學校
 實業學校

學校ノ設備、入學者(從前ノ教育、年齡、父兄ノ職業)半途退學者(人員事由)ニ關スル狀況ヲ記述スヘシ
 實業學校ニ在リテハ學校ト實業トノ關係ヲ記述スヘシ
 各種學校
 學校ノ設備、授業ノ狀況ヲ記述スヘシ
 圖書館
 閱覽人ノ狀況、閱覽圖書ノ種類及其ノ閱覽人ヲ各別ニ記述スヘシ
 學校衛生
 學校清潔方法施行ノ狀況、學校醫ノ視察及生徒又ハ兒童ノ身體検査ノ狀況、傳染病預防及消毒ニ關スル施行ノ狀況、生徒又ハ兒童ノ健康ノ狀況ヲ學校ノ種類ニ依リ區別シテ記述スヘシ
 教員講習
 小學校教員講習ノ狀況ヲ記述スヘシ
 教科用圖書
 教科用圖書ノ適否、需要供給ノ關係、其ノ他教科用圖書ニ係ル狀況ヲ記述スヘシ
 區町村會
 學事ニ係ル議事ノ概況ヲ記述スヘシ
 教育會
 組織並ニ事業ノ概況ヲ記述スヘシ
 學事關係職員及學事視察
 學事關係職員ノ狀況並ニ其ノ學事ヲ視察シタル狀況ヲ記述スヘシ
 學事獎勵
 學事獎勵ノ狀況ヲ記述スヘシ
 學事獎勵ノ狀況ヲ記述スヘシ
 將來學事施設上必要ノ件
 以上ノ外學事ニ關シテ申報スヘキ事項アルトキハ適宜記述スヘシ

右諸項ハ毎統計年度ノ調査ニ依リ第一號乃至第三十號表ヲ添ヘ翌年度五月二十日限リ申報スヘシ
 一 公立學校等ノ歲出入、學校基本財産及其ノ積立ノ方法其ノ他學校等ノ維持ニ係ル狀況ヲ記述スヘシ
 一 教育資金
 使途ノ狀況ニ就キ記述スヘシ
 一 區町村立小學校教員加俸
 市町村立小學校教員加俸令ニ依リ加俸ヲ給與シタル狀況ニ就キ記述スヘシ
 以上ノ外學事經濟上ニ關シテ申報スヘキ事項アルトキハ適宜記述スヘシ
 右諸項ハ毎統計年度ノ調査ニ依リ第三十一號乃至第三十五號表ヲ添ヘ翌年度十月二十日限リ申報スヘシ
 本取調條項中表式アルモノハ表式ニ示ス事項ノ計數増減ノ事由ヲ各別ニ記述スヘシ
 本令ニ統計年度アルモノハ毎年四月一日ヨリ翌年三月三十一日メケテ云フ
 學事年報諸表格式說明
 第一號表
 學齡兒童ハ本籍ト寄留トヲ問ハズ現在人中學年度末ニ於テ年齡六歲一月ヨリ滿十四歲マテノ兒童ノ數ヲ掲クヘシ但シ年齡ハ月ヲ以テ計算スヘシ
 例セハ明治三十三年度末調査ニ於テハ明治二十年四月生ヨリ同二十八年三月生マテノ現員ヲ掲ケルモノトス
 既ニ就學ノ始期ニ達シタル者ハ學齡兒童中其ノ年度内ニ四月ニ於テ六歲一月以上ノ兒童ノ數ヲ掲クヘシ例セハ明治三十三年度末調査ニ於テハ明治二十年四月生ヨリ同二十七年四月生マテノ

現員ヲ掲ケルモノトス。不
就學者中癩癩、白痴、不具癡疾、病弱及發育
不完全ノ者ハ疾病ノ欄ニ掲ケヘシ
小學校令第十二條ニ依リ義務免除ヲ受ケタル町
村ニ居住スル兒童ニシテ不就學者ノ者ハ免除ノ部
其ノ他ノ欄ニ掲ケヘシ
未タ就學ノ始期ニ達セサル者ハ學齡兒童中其ノ
年度内四月ニ於テ未タ六歳一月ニ達セザリシ者
ノ現員ヲ掲ケヘシ例セハ明治三十三年度末調査
ニ於テハ明治二十七年五月生ヨリ同二十八年三
月生マテノ現員ヲ掲ケルモノトス
就學歩合ノ計算ハ單位以下二位ニ止メ四捨五入
スヘシ
本表ハ設置區域毎ニ調査スヘシ

本表ハ設置區域毎ニ調査スヘシ
第三號表
兒童ハ學籍ニアル者ニシテ年度内四月一日ヨリ
三月一日ニ至ル間全ク出席セサル者ヲ除キ年度
内三月一日ノ現員ヲ掲ケヘシ
入學兒童ハ年度内ニ始メテ第一學年ニ入學シタ
ル者ノ總數ヲ掲ケヘシ
卒業者ハ年度内ニ卒業シタル者ノ總數ヲ掲ケヘ
シ
兒童、入學兒童、卒業者ノ中外國人ニ係ル者ハ
適宜ノ符號ヲ付シ區別シテ掲ケヘシ
月日出席兒童平均數ハ年度内ニ於ケル日日出
席兒童數ヲ通算シ年度内ニ於ケル總教授日數ヲ
以テ除シタル數ヲ掲ケヘシ但シ補修科ニ係ルモノ
ハ之ヲ除クヘシ又計算ハ單位以下二位ニ止メ四
捨五入スヘシ
日日出席兒童平均數ハ年度内ニ於ケル日日出
席兒童數ヲ通算シ年度内ニ於ケル總教授日數ヲ
以テ除シタル數ヲ掲ケヘシ但シ補修科ニ係ルモノ
ハ之ヲ除クヘシ又計算ハ單位以下二位ニ止メ
四捨五入スヘシ

生徒、卒業者ハ第二號表及第三號表ノ例ニ準シ
テ掲ケヘシ
第七號表
學校ハ本科生徒ノ男女別ニ依リ年度末現在ノ數
ヲ教員ハ年度末ノ人員(休職者ヲ除ク)ヲ掲ケ
又教諭助教諭ニアラサル教員中主トシテ附屬小
學校ノ教授ヲ擔當スルモノアルトキハ本校ニ計
入セシメテ附屬小學校教員ノ部ニ掲ケヘシ又教
員中其ノ學校職員若ハ他ヨリ兼メタル者アルトキ
ハ朱書ヲ以テ掲ケヘシ
其ノ他ノ教員中師範學校教員免許狀ヲ有スル者
アルトキハ適宜ノ符號ヲ付シ區別シテ掲ケヘシ
生徒ハ年度内三月一日ノ現員ヲ掲ケ入學志願者
ハ其ノ年度内ニ於テ入學セシムル爲行ヒタル第一
學年生徒募集ニ應ジタル者ノ數ヲ掲ケ入學者ハ
年度内ニ第一學年ニ入學シタル者ノ數ヲ掲ケ卒
業者ハ年度内ニ卒業シタル者ノ數ヲ掲ケヘシ但
シ私費ニ係ル者ハ適宜ノ符號ヲ付シ區別シテ掲
ケヘシ

第二號表
學校ハ年度末現在ノ數ヲ掲ケ分教場アルトキハ
尋常小學校若ハ高等小學校ノ全科ヲ置クモノト
其ノ一部ヲ置クモノトヲ區別シ適宜ノ符號ヲ付
スヘシ又補習科ヲ置クモノハ補ノ字ヲ付シ區別
シテ之ヲ掲ケヘシ其ノ教員、兒童、入學兒童、
卒業者亦同シ
小學校令施行規則第三十四條ニ依リ學校ハ其ノ
設立ノ區別、分校分教場ヲ區別シ各其ノ數ヲ備
考ノ欄ニ掲ケヘシ
學級ハ年度内三月一日ノ現在數ヲ掲ケヘシ
教員ハ年度末ノ人員(公立學校ニ在リテハ休職
者ヲ除ク)ヲ掲ケ尋常高等小學校ノ教員ニシテ
其ノ受持兩教員ニ涉ル者ハ教授時數ノ多キ方ニ
掲ケ其ノ時數同シキトキハ高等ノ方ニ掲ケヘシ
區町村立小學校教員ニシテ他ヨリ兼メタル者ハ朱
書ヲ以テ掲ケヘシ又代用教員中小學校教員免許
狀ヲ有スル者アルトキハ適宜ノ符號ヲ付シ區別
シテ掲ケヘシ

第四號表
園、保母、幼兒、保育活動ハ總テ前二表ノ例ニ
準シテ掲ケヘシ
第五號表
學校、教員、生徒、卒業者ハ總テ小學校ノ例ニ
準シテ掲ケヘシ但シ生徒中普通及技藝ノ兩科ヲ
修ムル者ハ主トシテ一方ニ於テ適宜ノ符號ヲ付シ
テ掲ケヘシ卒業者亦同シ
第六號表
小學校ニ類スル各種學校ハ學校ノ目的及學科程
度等小學校ニ準シヘキモノヲ掲ケ學校、教員、

第八號表
附屬小學校ノ學校、教員、兒童、入學兒童、卒
業者、日日出席兒童平均數、日日出席兒童平均
數ハ第二號表及第三號表ノ例ニ準シテ掲ケヘシ
但シ教員中本校職員又ハ他ヨリ兼メタル者アルト
キハ前表ノ例ニ準シテ掲ケヘシ
附屬幼稚園ハ第四號表ノ例ニ準シテ掲ケヘシ
第九號表
學校ハ年度末現在ノ數ヲ掲ケ生徒、入學志願者
入學者卒業者ハ師範學校ノ例ニ準シテ掲ケヘシ
末ノ人員(公立學校ニ在リテハ休職者ヲ除ク)
ヲ掲ケ中學校教員免許狀ヲ有スル者ハ有資格ノ
欄ニ其ノ他ノ教員ハ總テ無資格ノ欄ニ掲ケヘシ

但シ公立學校教員中其ノ學校職員若ハ他ヨリ兼
メタル者アルトキハ朱書ヲ以テ掲ケヘシ又生徒、
入學者、卒業者ノ中外國人ニ係ル者ハ適宜ノ符
號ヲ付シ區別シテ掲ケヘシ
第十號表
學校ハ年度末現在ノ數ヲ掲ケ生徒、入學志願者、
入學者、卒業者ハ第七號表ノ例ニ準シテ掲ケヘシ
九號表ノ例ニ準シテ掲ケヘシ但シ無資格教員中
小學校本科正教員ノ免許狀ヲ有シ第二學年以下
ノ教授ヲ擔任スル者ハ適宜ノ符號ヲ付シ區別シ
テ掲ケヘシ又生徒、卒業者ノ中外國人ニ係ル者
ハ第九號表ノ例ニ準シテ掲ケヘシ

モノニ在リテハ甲種學校ノ欄ニ適宜ノ符號ヲ付
シ區別シテ掲ケヘシ
商業學校ニ商船學校ノ學科ヲ併置シタルモノニ
在リテハ學校、教員、生徒、入學志願者、入學
者、卒業者トモ適宜ノ符號ヲ付シテ各當該ノ部
ニ掲ケヘシ但シ其ノ教員中商業學校ノ教員ト商
船學校ノ教員トヲ教授スルモノアルトキハ其ノ
教授時數ノ多キ方ニ掲ケ其ノ時數同シキトキハ
商業學校ノ部ニ掲ケヘシ
工業學校ニ徒勞學校ノ學科ヲ併置シタルモノ又
工業補習學校中工業、農業、商業、水産又ハ
商船ノ二學科若ハ三學科ヲ併置シタルモノニ在
リテハ前項ノ例ニ準シテ掲ケヘシ
生徒、入學者、卒業者ノ中外國人ニ係ル者ハ中
學校ノ例ニ準シテ掲ケヘシ
蠶業學校、山林學校、獸醫學校、水産學校等ニ
係ルモノハ農業學校ノ部ニ掲ケヘシ
農業學校、商業學校、商船學校中甲種學校ノ程
度ヨリ高キモノハ總テ甲種ノ部ニ當該欄内ニ於
テ適宜ノ符號ヲ付シ區別シテ掲ケヘシ
工業學校中明治三十二年省令第八號第十條ニ依
リ設置シタル學校ハ適宜ノ符號ヲ付シ區別シテ
掲ケヘシ

第十一號表
專門學校ハ醫學、藥學、政治學、法律學、經濟
學、文學(倫理、哲學、教育、語學、史學等ヲ
含ム)但シ中學校ノ學科程度ヨリ高等ナルモノ
理學(物理、化學、博物、數學等ヲ含ム)但シ中
學校ノ學科程度ヨリ高等ナルモノ)及其ノ他ノ
學科(中學校ノ學科程度ヨリ高等ナルモノ)ヲ
專門トシテ授クルモノヲ掲ケヘシ
學校ハ年度末現在ノ數ヲ掲ケ生徒、入學志願者、
入學者、卒業者ハ第七號表ノ例ニ準シテ掲ケヘシ
又他ヨリ兼メタル者アルトキハ朱書ヲ以テ掲ケヘ
シ又生徒、入學者卒業者、ノ中外國人ニ係ル者
ハ第九號表ノ例ニ準シテ掲ケヘシ
第十二號表
學校ハ年度末現在ノ數ヲ掲ケ生徒、入學志願者
入學者、卒業者ハ師範學校ノ例ニ準シテ掲ケヘシ
專門學校ノ例ニ準シテ掲ケヘシ但シ其ノ學校中甲
種實業學校ニ乙種實業學校ノ學科ヲ併置シタル

第十一號表
專門學校ハ醫學、藥學、政治學、法律學、經濟
學、文學(倫理、哲學、教育、語學、史學等ヲ
含ム)但シ中學校ノ學科程度ヨリ高等ナルモノ
理學(物理、化學、博物、數學等ヲ含ム)但シ中
學校ノ學科程度ヨリ高等ナルモノ)及其ノ他ノ
學科(中學校ノ學科程度ヨリ高等ナルモノ)ヲ
專門トシテ授クルモノヲ掲ケヘシ
學校ハ年度末現在ノ數ヲ掲ケ生徒、入學志願者、
入學者、卒業者ハ第七號表ノ例ニ準シテ掲ケヘシ
又他ヨリ兼メタル者アルトキハ朱書ヲ以テ掲ケヘ
シ又生徒、入學者卒業者、ノ中外國人ニ係ル者
ハ第九號表ノ例ニ準シテ掲ケヘシ

第十二號表
學校ハ年度末現在ノ數ヲ掲ケ生徒、入學志願者
入學者、卒業者ハ師範學校ノ例ニ準シテ掲ケヘシ
專門學校ノ例ニ準シテ掲ケヘシ但シ其ノ學校中甲
種實業學校ニ乙種實業學校ノ學科ヲ併置シタル

第十三號表
學校ハ年度末現在ノ數ヲ掲ケ生徒、入學志願者
入學者、卒業者ハ師範學校ノ例ニ準シテ掲ケヘシ
專門學校ノ例ニ準シテ掲ケヘシ但シ其ノ學校中甲
種實業學校ニ乙種實業學校ノ學科ヲ併置シタル

但シ公立學校教員中其ノ學校職員若ハ他ヨリ兼
メタル者アルトキハ朱書ヲ以テ掲ケヘシ又生徒、
入學者、卒業者ノ中外國人ニ係ル者ハ適宜ノ符
號ヲ付シ區別シテ掲ケヘシ
第十號表
學校ハ年度末現在ノ數ヲ掲ケ生徒、入學志願者、
入學者、卒業者ハ第七號表ノ例ニ準シテ掲ケヘシ
九號表ノ例ニ準シテ掲ケヘシ但シ無資格教員中
小學校本科正教員ノ免許狀ヲ有シ第二學年以下
ノ教授ヲ擔任スル者ハ適宜ノ符號ヲ付シ區別シ
テ掲ケヘシ又生徒、卒業者ノ中外國人ニ係ル者
ハ第九號表ノ例ニ準シテ掲ケヘシ

第十四號表
專門學校ハ醫學、藥學、政治學、法律學、經濟
學、文學(倫理、哲學、教育、語學、史學等ヲ
含ム)但シ中學校ノ學科程度ヨリ高等ナルモノ
理學(物理、化學、博物、數學等ヲ含ム)但シ中
學校ノ學科程度ヨリ高等ナルモノ)及其ノ他ノ
學科(中學校ノ學科程度ヨリ高等ナルモノ)ヲ
專門トシテ授クルモノヲ掲ケヘシ
學校ハ年度末現在ノ數ヲ掲ケ生徒、入學志願者、
入學者、卒業者ハ第七號表ノ例ニ準シテ掲ケヘシ
又他ヨリ兼メタル者アルトキハ朱書ヲ以テ掲ケヘ
シ又生徒、入學者卒業者、ノ中外國人ニ係ル者
ハ第九號表ノ例ニ準シテ掲ケヘシ

第十五號表
專門學校ハ醫學、藥學、政治學、法律學、經濟
學、文學(倫理、哲學、教育、語學、史學等ヲ
含ム)但シ中學校ノ學科程度ヨリ高等ナルモノ
理學(物理、化學、博物、數學等ヲ含ム)但シ中
學校ノ學科程度ヨリ高等ナルモノ)及其ノ他ノ
學科(中學校ノ學科程度ヨリ高等ナルモノ)ヲ
專門トシテ授クルモノヲ掲ケヘシ
學校ハ年度末現在ノ數ヲ掲ケ生徒、入學志願者、
入學者、卒業者ハ第七號表ノ例ニ準シテ掲ケヘシ
又他ヨリ兼メタル者アルトキハ朱書ヲ以テ掲ケヘ
シ又生徒、入學者卒業者、ノ中外國人ニ係ル者
ハ第九號表ノ例ニ準シテ掲ケヘシ

キ之ヲ掲クヘシ
 最多月額、最多月額ハ年度末ニ於ケル各教員ノ
 月俸中最多額及最寡額ヲ掲ケ其ノ平均月額ハ年
 度末ニ於ケル各教員ニ對スル月俸ノ總額ヲ其ノ
 教員數ヲ以テ除シタル額ヲ掲クヘシ
 明治三十三年省令第十四號第四百八條但書第
 百四十九條第五十條第六十六條ニ依ルモノ
 ニシテ掲クヘキ當該欄ナキトキハ其ノ俸給額ノ
 欄ヲ設ケテ掲ケ同第百五十一條ニ依ルモノハ合
 算シテ掲クヘシ

第二十三號表

授業料ヲ徵收スル學校ニ就キ年度内三月一日ノ
 現在敷ヲ掲クヘシ但シ尋常高等小學校ニ係ルモ
 ノハ尋常高等ニ分テ各適宜ノ符號ヲ付シ區別シ
 テ掲クヘシ又補習科ニ係ルモノハ附入スヘカ
 授業料最多額、最多月額ハ年度内三月一日ニ於
 ケル兒童ノ授業料中最多額及最寡額ヲ掲クヘシ
 但シ明治三十三年省令第十四號第四百七十九條
 百八十條ノ規定ニ依リ授業料ヲ増減シ又ハ其ノ
 一部ヲ免除シタルモノハ之ヲ掲クヘカラス
 授業料平均月額ハ年度内二月一日ニ於ケル各兒
 童ノ授業料月額總計ヲ授業料ヲ納ムル兒童ノ總
 數ヲ以テ除シタル額ヲ掲クヘシ
 授業料免除兒童ハ年度内三月一日ニ於ケル現員
 ナ掲クヘシ

第二十四號表

前年度内ニ卒業シタル者ニ就キ次年度末ノ現況
 ナ掲クヘシ但シ一人ニシテ二種以上ノ事項ニ涉
 ル者アルトキハ適宜ノ符號ヲ以テ各當該欄内ニ
 於テ區別シテ掲ケ合計ノ部ニハ實人員ヲ掲クヘ
 シ

第二十五號表

年度末ニ於ケル現員ヲ掲クヘシ
 第二十六號表
 學校ノ資格ニ基キ年度内三月一日ニ於ケル其
 ノ擔任ノ學校數、生徒又ハ兒童數、年度内四月
 一日ヨリ三月一日ニ至ル視察回数ニ依リ區別シ
 テ各人員ヲ掲クヘシ但シ一校ニシテ二人以下ノ
 學校時ニ置キタル場合ニ在リテハ擔任ノ生徒及
 ハ兒童ハ其ノ學校ノ數ヲ以テ生徒又ハ兒童ノ
 總數ヲ除シタル數ニ依リ掲クヘシ
 醫術開業免狀ヲ有スル者ハ明治十六年布告第三
 十五號醫師免狀規則第二條又ハ第四條ニ依リ該
 免狀ヲ有スル者ヲ掲クヘシ但シ第四條ニ依ル者
 ハ適宜ノ符號ヲ付シ區別シテ掲クヘシ又分校ハ
 一學校トシテ計入スルヲ要ス
 擔任ノ最多學校數、最多生徒又ハ兒童數ヲ備考
 ノ欄ニ掲クヘシ

第二十七號表

年度内三月一日ノ現在生徒ニ就キ各學科ニ依リ
 各校各別ニ掲クヘシ但シ一學校ニシテ本校
 分校、附屬學校等ノ區分アルモノハ又各別ニ掲
 クヘシ但シ師範學校、實業學校ニ就キテハ男女
 ナ區別シ又師範學校ノ豫備科、教員講習科、保
 健講習科ニ係ルモノハ掲クヘカラス
 木表ニハ實業補習學校ニ係ルモノハ掲クヘカ
 第二十八號表
 學校ハ年度末ノ現在ニ依リ各校各別ニ掲クヘシ
 ノトシ一學校ニシテ本校、分校、附屬學校等ノ
 區分アルモノハ又各別ニ掲クヘシ但シ小學校ニ
 係ルモノハ之ヲ掲クヘカラス
 學科ハ年度内三月一日ノ現在ニ依リ師範學校、

中學校、高等女學校、專門學校、實業學校等ニ
 シテ二種以上ノ學科課程ノ設ケアルモノハ各別
 ニ之ヲ掲ケ實業學校中農學學校、商業學校、商
 船學校ニ就キテハ甲種若ハ乙種ナルコトヲ附記
 シ工業學校、農學學校、商業學校、商船學校中
 更ニ高等ナル學校ニ係ルモノハ適宜ノ符號ヲ付
 スヘシ
 各種學校ニ在リテハ其ノ授業科目ト附記ス
 ヘシ但シ五科目以上ヲ授ケルモノハ其ノ重ナル
 五科目ヲ掲ケ其ノ他ハ外題科目ト附記スヘシ
 教員ハ年度末ノ人員(公立學校ニ在リテハ休職
 者ヲ除ク)ヲ掲クヘシ但シ公立學校教員ノ中
 校職員若ハ他ヨリ兼ナル者アルトキハ兼務員
 ナ掲クヘシ又外國人ハ其ノ國名ヲ附記スヘシ
 學級數、生徒ハ年度内三月一日ノ現在敷ヲ掲ク
 授業料及經費ハ私立學校ニ係ルモノノモ掲ク
 一シ

第二十九號表

幼雅園ハ年度末ノ現在ニ依リ各園各別ニ掲クヘ
 保母ハ年度末ノ人員ヲ掲ケ組數、幼兒ハ年度内
 三月一日ノ現在敷ヲ掲ケ保育料、經費、園長ハ
 前表ノ例ニ準シテ掲クヘシ
 第三十號表
 圖書館、圖書ハ年度末ノ現在ニ依リ各館各別ニ
 掲ケ學校等ニ附屬スル圖書館ト雖モ公衆ノ閱覽
 ナ許スモノハ總テ之ヲ掲クヘシ但シ學校等ニ附
 屬スル圖書館ニハ適宜ノ符號ヲ付スヘシ

閱覽料、經費ハ私立ニ係ルモノノモ掲クヘシ
 前三號表中明治三十三年勅令第三百三十六號ニ依
 リ設立シタル學校、幼稚園、圖書館ニハ適宜ノ
 符號ヲ附スヘシ
 第三十一號表及第三十二號表
 年度内ニ於テ支出シ收入シタルモノヲ掲ケ經費
 支辨ノ區別ニ從ヒ掲クヘシトス
 學校、幼稚園、圖書館等ニシテ他ノ學校ノ附屬
 ニ係ルモノハ總テ之ヲ本校ノ部ニ計入スヘシ但
 シ師範學校訓練ノ俸給ハ教諭助教諭俸給ト區別
 シ適宜ノ符號ヲ付シテ掲クヘシ
 甲種實業學校ニ乙種實業學校ノ學科ヲ併置シタ
 ルモノニシテ其ノ收支ノ分割シ難キモノハ甲種
 ノ欄ニ於テ適宜ノ符號ヲ付シ區別シテ掲クヘシ
 教員講習、學務委員ニ關スルモノノ如キ學校、
 幼稚園、圖書館ノ本部ニ屬セザルモノノ費額ハ
 備考ノ欄ニ於テ別ニ其ノ種類ヲ分テ各總額ヲ列
 記スヘシ

第三十三號表

學校基本財産中前種別ノモノト重複スルモノ亦
 之ヲ掲クヘシ又金額ノ中ニハ公債證書其ノ他ノ
 有價證券モ時價ヲ以テ計入スヘシ
 金員及坪數ノ計算ハ四捨五入シテ圓又ハ坪止
 ムヘシ

第三十四號表

年度末現在ノ學校、園、館ニ就キ各別ニ年度内
 ニ收入シ支出シタルモノヲ掲ケ其ノ收入ニ關ス
 ルモノハ第三十一號表及第三十二號表ノ例ニ準
 シテ掲クヘシ但シ實業學校ニ在リテハ學校ニ屬
 スル收入ノ中製作品又ハ收穫物賣拂代價ヲ區別
 シテ掲クヘシ
 金員ノ計算ハ四捨五入シテ圓止ムヘシ

其ノ他ノ諸費ハ前種別ノ欄ニ入ラサルモノノ費
 額ヲ掲ケ恩給ニ關スル區町村ノ納金亦其ノ計入
 スヘシ
 收入ノ部ニハ尋常高等小學校ノ授業料ハ之ヲ尋
 常高等ニ區別シテ記入シ又米穀其ノ他ノ物品等
 ニシテ金額ニ換算シ決算シタルモノハ總テ之ヲ
 計入スヘシ
 金員ノ計算ハ四捨五入シテ圓止ムヘシ

第三十五號表

本表ニハ小學校ニ係ルモノハ掲クヘカラス
 年度末ニ於ケル現職者ニ就キ計算シテ掲クヘシ
 但シ年功加俸又ハ國庫補助法第六條ニ依リ加俸
 ナ受ケ尙特別加俸ヲ受ケル者ハ年功加俸又ハ國
 庫補助法第六條ニ依リ加俸及特別加俸ノ兩欄ニ
 掲ケ特別加俸ノ欄ニハ適宜ノ符號ヲ以テ單ニ特
 別加俸ヲ受ケル者ト區別シテ掲クヘシ
 年功加俸ヲ受ケ尙加俸令第十一條ニ依リ加俸ヲ
 受ケル者ハ其ノ各欄ニ掲クヘシ但シ加俸令第十
 一條ニ依リ受ケタル差額ハ年功加俸ノ欄ニ計入
 スヘカラス

學齡兒童

種別 (設置區域)	既就學ノ學齡兒童		未就學ノ學齡兒童										通計	未就學ノ初期ニ達セザル者	就學ノ初期ニ達シタル男女百人中就學者	就學ノ初期ニ達シタル男女百人中就學者	就學ノ初期ニ達シタル男女百人中就學者			
	合		免		預		病		貧		其							除		總計
	男	女	貧	病	病	貧	貧	病	病	貧	病	貧						病	病	
	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計						計	計	
計																				

本表ノ町、村ノ二表ニ調製スヘシ

西土人ニ係ルモノハ更ニ一表ニ調製スヘシ
第二號表

種別 (設置區域)	學校												計					
	私立				立村町區				立私					立私				
	高		尋		高		尋		高		尋			高		尋		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女		男	女	男	女	
計																		

第九號表

種別	中學校		總立區立町村立私立計		
	別校				
	有資格	無資格			
學教員	徒	生	入學志願者	入學者	卒業者
無資格	有資格	無資格	有資格	無資格	無資格
女	男	女	男	女	男

第十號表

種別	高等女學校		總立區立町村立私立計
	別校		
	有資格	無資格	
教員	無資格	有資格	無資格
女	男	女	男

第十一號表

種別	專門學校		總立區立町村立私立計		
	別校				
	有資格	無資格			
學生	徒	入學志願者	入學者	卒業者	
無資格	有資格	無資格	有資格	無資格	
女	男	女	男	女	男

種別	專門學校		總立區立町村立私立計		
	別校				
	有資格	無資格			
醫學	徒	生	入學志願者	入學者	卒業者
無資格	有資格	無資格	有資格	無資格	無資格
女	男	女	男	女	男

公私立圖書館	
名稱	名
區町村別立	區町村別立
位置	町區國
町區國	町區國
創立年月	創立年月
圖書冊數	和漢書洋書
本年度	數開本館日
本年度	員開本覽人度
本年度	總開本覽料
本年度	額經本費總
館長氏名	

第三十一號表

公學費ノ一	
校名	種目
校長	學校長
助長	助長
監督	監督
會計	會計
庶務	庶務
教員	教員
代用	代用
保母	保母
旅費	旅費
雜給	雜給
生徒	生徒
借地	借地
圖書	圖書
器具	器具
消耗	消耗
新築	新築
修繕	修繕
其他	其他
合計	合計
總計	

第三十二號表

公學費ノ二	
校名	種目
	授業料
	保育料
	閱覽料
	寄付金
	學校基本財
	雜收入
	地方補助
	同埠補助
	合計

第三十三號表

公學資産	
校名	種目
	敷地
	附屬地
	家屋坪數
	其他
	敷地價
	附屬地價
	家屋價
	圖書價
	器械價
	器具價
	金額
	土地
	建物
	其他
	合計

第五類 學事雜
第三十四號表

公立諸學校幼稚園圖書館收支

名 稱	區町村		收入		支出	
	別立ノ區	區	基本財産ノ收入	其他學校幼稚園圖書館ニ屬スル收入	經常費	臨時費
授業料						
保育料						
図書料						
寄付金						
基本財産ノ收入						
補助						
地方						
其他學校幼稚園圖書館ニ屬スル收入						
合計						
經常費						
臨時費						
合計						

第三十五號表

區町村立小學校教員加俸

種 別	年 功 加 俸		特 別 加 俸		依 法 第 十 二 條 加 俸	
	人 員	額	人 員	額	人 員	額
正教員	男		男		男	
准教員	男		男		男	
合計	男		男		男	

○明治三十五年十月三日訓令第百十五號(中學校函館商業學校函館商船學校宛)
其校職員及生徒ニ關スル事項左記様式ニ依リ毎年十月一日現在ニ就キ之ヲ調査シ同月十五日限リ本廳ヘ報告スヘシ
(用紙ハ美濃紙トス)

(學校名)生徒調査

明治何年十月一日調

區 分	現 在 數	平 均 年 齡	學 級 數	本 學 年 入 學 者	志 望 入 學 者	入 學 者	退 學 者	卒 業 者	本 學 年									
									高等小學校卒業ノ者	同 三 學 年 卒 業 ノ 者	同 二 學 年 卒 業 ノ 者	同 一 學 年 卒 業 ノ 者	尋常小學校卒業ノ者					
合計																		
其他																		

前學年中途退學生徒										前學年卒業生徒									
高等學校入學ノ者	他ノ官立學校へ入學ノ者	私立諸學校へ入學ノ者	實業ニ就キタル者	除名放校シタル者	死亡シタル者	其他ノ者	合計	高等學校ニ入學ノ者	私立諸學校ニ入學ノ者	其他ノ官立學校ニ入學ノ者	官廳へ奉職ノ者	學校教員トナリタル者	實業ニ就キタル者	一年志願兵トナリタル者	士官候補生トナリタル者	死亡ノ者	其他ノ者	合計	

(用紙ハ美濃紙)

(學校名)職員調

明治何年十月一日調

許教員免	受持學科	毎週受持時間數	職名	俸給	就職年月	卒業校名	兼務ノ所	何府縣氏名	氏名	生年月
			校長							
			教諭							
			助教諭							
			囑託教員							
			雇教員							
			書記							
			舎監							

第六類 豫算及決算 歳入歳出豫算

馬桐油	木櫛	根櫛	毛櫛	鐵櫛	フオーグ	ソキ	押切	毛鋏	馬衣	竹製漏斗	馬尺	同下	手氷鉢	同付	靴用土搔	毛布	蚊張	三布蒲團	五布蒲團
枚	同	同	同	個	挺	同	同	同	枚	同	同	同	同	同	個	張	同	同	枚
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
二二八〇	〇〇五七	〇三一九	一九九七	〇五九三	二〇〇〇	一七〇〇	一五二〇	一二〇〇	一三九三	〇六〇〇	四〇〇〇	〇二一〇	〇四〇〇	一八〇〇	〇八三五	二八〇〇	五八二七	二五〇〇	三七〇〇
品	水	足洗	馬盥	銅箱	雜穀	馬乘提	鞍掛	乘鞍	革目	竹根	結上	毛伏	洗槽	升	箕	鞍網	手入道具	爪	
目	箱	桶	同	同	箱	燈	同	同	打	轆	同	同	同	同	同	同	同	同	同
呼稱	同	同	同	同	個	張	同	同	個	木	同	同	同	同	同	同	同	同	同
數																			
代																			
價	四四〇〇	〇三五〇	六九五〇	〇六〇〇	一八三三	〇七五〇	〇七〇〇	一八〇〇	二〇〇〇	〇四九四	一三〇〇	一三二一	〇四七五	一三一四	〇一五〇	〇三七一	〇二二〇	〇五〇〇	

第六類 豫算及決算 歳入歳出豫算

ラ	塞	濯	荷	紙	紙	踏	脚	同	同	木	同	同	同	竹	玄	玄	釘	鐵	器
ン	ラ	水	車	打	打	盤	立	九	二	梯	三	四	五	子	蕃	能	抜	鍍	械
プ	ン	車	輻	盤	同	面	脚	尺	間	三	間	間	間	六	桶	同	同	鍍	用
同	個	輻	輻	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	個	同	同	同	油
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	差
〇三五〇	〇四九〇	八〇〇〇	七〇〇〇	〇八〇〇	〇二三〇	〇六〇〇	一六〇〇	〇三八〇	〇四五〇	〇六〇〇	二〇〇〇	二五〇〇	三〇〇〇	四〇〇〇	〇九一五	〇二三八	〇四二〇	〇〇七五	〇三二五
夜	括	芯	點	約	フ	同	鐵	竿	細	弓	手	燈	ラ	行	手	木	差	方	路
著	枕	切	燈	用	ン	油	菜	付	長	張	丸	差	ン	提	提	製	ホ	形	燈
枚	個	挺	同	同	同	同	同	同	同	同	張	ホ	ホ	燈	角	同	ホ	ワ	用
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
五〇〇〇	〇四〇〇	〇一三〇	〇二〇〇	〇〇五〇	〇一五〇	〇〇四五	〇六〇〇	〇四〇〇	〇三五〇	〇二五〇	〇一五〇	〇〇六二	〇四五〇	〇四〇〇	〇四〇〇	〇〇五五	〇六五〇	一七〇〇	〇三〇〇

第六類 豫算及決算 歳入歳出決算

各目ノ流用ハ其旨決裁ヲ受ケタル者トニ拘ハラズ掲載スヘシ
指令番號年月日ノ欄ニハ三十四年八月十三日內經第九二四號通達ニ據
テ決裁ヲ得タル分ヲ記載スヘシ

豫算各目増減事由明細書		(内務部 監獄署 鐵道)	
科	目	増	減
何(款)			
何(項)			
何(目)			

○明治二十七年一月二十二日訓第二十三號(監獄署集治監各分監郡區役所宛)
明治二十三年六月訓令號外(網走紗那二郡役所ニハ「明治二十四年八月二十二日訓第八十六號ニ作ル」)任拂命令内譯報告書同報告訂正書ハ本年度相廢條第二十七年度以降支出計算書提出ノ際現金前渡任拂命令發行濟額ノ精算ニ對シ各官各月ニ區分シタル日ノ内譯書ヲ添附スヘシ
○明治三十五年三月二十八日訓第三百一號(廳中一般監獄署ヲ除ク)支廳第二豫備金支出其他臨時費トシテ交付シタル總テノ費途ハ明治三十四年度已降別紙書式ニ依リ翌年度七月十日ヲ期シ報告スヘシ

明治何年度臨時支出何費(項)任拂内譯報告書	總名
減ハ米書	
任拂命令 流用増減 計 任拂命令 任拂殘額	
費 日 委任額	

仕拂内譯表		出 張 用 務		出 張 場 所		出 張 日 出		出 張 費 額		官 氏 名	
計		何(項)	何(目)	何(項)	何(目)	月	日	何	日		
計											
何(人)											

事業手給料	
仕拂内譯表	
用 務	事業ニ從事スル月(又ハ)給額任拂額氏名
取扱メ	何(項)何(目)何(項)何(目)何(項)何(目)
計	
何(人)	

通信運搬費	
郵便切手	
購入金額	發送度數及金額
電 信	度 度
額	

第六類 豫算及決算 歳入歳出決算

運搬費		發送物件		發送場所		金額	
計		何	何	何	何		
計							
何(項)							
何(目)							

備用品費	
仕拂内譯表	
品名	數量 金額 使用目的
計	
何(項)	
何(目)	

備人料	
仕拂内譯表	
用 務	使役月日 延人員 一人日給額 任拂額
取扱メ	何(項)何(目)何(項)何(目)
計	
何(項)	
何(目)	

消耗品費		仕拂内譯表		備用品費		同シ	
計		名	稱	數量	價金	數量	價金
計							
何(項)							
何(目)							

渡船購入費				
仕拂内譯表				
名	稱	備付場所	數量	價金
馬渡船				
人渡船				
計				
何(項)				
何(目)				

第六類 諸證明 検査

六九八

後任者取扱金額五百圓以上ナルトキハ身元保証金ノ見込ヲ指定欄ニ記入シ其未滿ナルトキハ斜線ヲ施スヘシ

一金何

内 金何

金何

程

程

程

程

程

程

程

程

程

程

程

程

程

程

程

程

程

程

程

程

程

程

程

程

程

程

程

程

程

程

程

程

程

程

程

程

程

程

程

程

程

程

程

程

程

程

程

程

程

程

程

程

程

程

程

程

程

程

程

程

程

程

程

程

程

程

程

程

所管大臣宛

官 氏 名 印

備考

出納官吏若クハ立會人ハ交付スル分ハ宛名ヲ付セサルモノトス
○明治二十三年六月十七日訓令第四十七號(各部農學校區役所監獄署宛)
本年五月大藏省訓令第九十二號ニ據リ收入官吏轉免死亡等ノタメ交付ノトキ前任後任事務取扱區分各部局長ヨリ金庫ヘ通知スヘキ儀ト心得ヘシ
○明治三十年七月一日訓令第四十二號(郡役所戶長役場宛)
本年法律第二十一號國稅徵收法本年七月一日ヨリ施行ニ付テハ右施行ノ日ヨリ稅務署所在地以外ニアル町村ノ戶長ハ稅務管理局長ノ分任收入官吏トシテ收入事務取扱ヲ可シ
○明治二十五年六月七日訓令第五十五號(各部監獄署集治監區役所警察署札農學校尋常師範學校宛)
會計規則第九十二條第二項ニ依リ各出納官吏身元保証金ノ免除ニ係ル保證人ノ資産ハ不動産ニ限ル
但認可後右不動産ニ増減アルカ又ハ保證人ノ住居職業ニ變更アルトキハ其都度直チニ届出ツヘシ

諸證明

検査

○明治二十七年一月二十二日訓令第二十一號(財務部宛)
當總會計監規程左ノ通定ム
北海道總會計監規程
第一條 監査ハ會計ニ關スル法律命令ノ實施ヲ周到ナラシメ會計事務ノ整理ヲ期スル爲ニ執行スルモノトス
第二條 監査ハ實際ニ臨ミ又ハ證據書類ニ依リ又ハ特ニ提供セシメタル書類ニ就キテ之ヲ執行ス
第三條 監査上證據書類ヲ發見シタルトキハ主任官吏ニ移讓シ訂正ノ手續ヲ爲サシム
第四條 監査上法規ニ背反シ又ハ事實ニ適合セス又ハ適宜ナラズル事項

Table with columns for '明治年月', '種類', '金額', '検査員', '官氏名印', '在職職名', '出納官吏(又ハ立會人)'. It contains financial data for various categories like '大藏省所管(北海道)', '内務省所管', '租稅外收入', '租稅外支出', '現金保管高', '帳簿残高', '増減率山'.

ナ發見シタルトキハ之ヲ長官ニ稟申シ同時ニ其事由ヲ主任官吏ニ通告スルモノトス
第五條 監査上職務怠慢又ハ秩序不整ト認ムル場合アルトキハ之ヲ長官ニ稟申シ同時ニ監督ノ任アル官吏ニ通告スルモノトス
第六條 出納官吏故意怠慢ノ所爲ニ因リ政府ノ損害ヲ生シタルト認ムル事項アルトキハ意見ヲ具シ長官ノ指揮ヲ受クルモノトス
第七條 監査ノ手續ハ財務部ニ於テ之ヲ定ムルモノトス
○明治二十七年一月二十二日訓令第二十二號(内務部警察部監獄署札農學校集治監區役所警察署函館商業學校尋常師範學校宛)
當總會計監規程ヲ定メ左記ノ通財務部ヘ訓令候條此旨心得ヘシ
(左記ハ前出二十七年一月訓令第二十一號ト同一ニ付略之)
○明治三十五年三月二十六日訓令第二百七十五號(内務部支廳小樽港事務所宛)
國庫經費仕拂上被詐取ノ事實發見セシトキハ直ニ其官具申スヘシ
○明治二十三年五月二十三日訓令號外(各部農學校區役所監獄署宛)
會計規則第六十七條第九十條第九十一條ニ關スル檢査事務規則第九十條ノ件ハ大藏大臣ヨリ特ニ當總長官ヘ委任相成候條此旨心得ヘシ
○明治二十六年五月二十四日訓令第四百十八號(札幌農學校監獄署同支廳集治監同分監區役所警察署戶長役場宛)
會計檢査院ヨリ會計檢査院法第十六條ニヨリ左ノ各部局長ニ關スル歳入歳出外現金出納計算ノ檢査及責任解除ヲ明治二十五年年度以降當總長ニ委託セラル

六九九

第六類 諸證明 検査

第六類 諸證明・下検査

出納簿ヲ設備シ出納整理スヘシ
○明治三十四年三月十五日訓第百八十六號(支廳警察署師範學校中學校兩箇商業學校種畜場小樽築港事務所宛)

- 一 出納官吏保管ノ現金ヲ亡失シ又ハ政府ノ損失ヲ生シタルトキハ左ノ書類添付ヲ要ス
- 二 出納官吏ノ顔末書
- 三 損失金額所管管種額ノ區分調書
- 四 監督ノ任アル官吏ノ實況調書
- 五 監難又ハ遺失ニ由リ告訴告發、紛失届遺失届等ヲ爲シタルトキハ其書類ノ添付
- 六 出納官吏保管ノ物品ヲ亡失毀損シタル者ニ對シ賠償ヲ命ジタルトキハ左ノ書類添付ヲ要ス
- 一 亡失毀損ニ係ル物品ノ名稱數量
- 二 同上價格調書
- 三 賠償命令書ノ添付
- 四 出納官吏ニ對スル公訴ニ附帶シテ國ノ代表者私訴ヲ提起シタルトキ
- 五 出納官吏ニ賠償ヲ命ジ之方賠償ヲ終ヘ若ハ終ヘサルニ依リ私訴ヲ提起シタルトキ
- 六 前二項私訴ニ對スル裁判所ノ判決執行ノ結果小樽築港事務所宛)
- 七 物品會計規則第十五條ニ依リ物品會計官吏ノ證明スヘキ物品出納計算書提出ノ時ハ監督ノ任アル官吏ニ於テ左ノ保證書ヲ調製添付スヘシ(第一號書式)

保證書
明治何年度(明治何年度)自明治何年何月何日
至明治何年何月何日(物品出納計算書)
右計算書ニ記載シタル受入之部買入生産保管轉換
何何及拂之部消産生産保管轉換何何ハ總テ正當證
憑書之通出納シタルコトヲ保證ス
監督ノ任アル官吏
官氏 名印

仕拂命令官ニ送付セシメ下検査執行スヘシ此旨訓
令ス
明治二十三年三月十三日
大藏大臣伯耆 松方 正武
○明治三十六年二月三日訓第九十八號(總中一般
小樽築港事務所宛)

下検査
○明治二十三年三月二十九日訓令號外(各部農學
校郡區役所監獄署宛)
大藏省所管歲出ニシテ當廳所屬ノ現金前渡ヲ受ケ
ル出納官吏ニ仕拂計算提出期限及其仕拂命令官ニ
於テ下検査執行ノ件別紙ノ通大藏大臣ヨリ訓令相
成候條此旨心得ヘシ
(別紙)
第八五一號
府 北海道
官 縣

○明治二十四年十一月二十六日訓令第七十九號
(郡區役所宛)
政府ヨリ補助金ヲ受ケル公共事業費受拂担当者
者官職氏名ノ證明ニ係ル何年度(自何月何日)至何
月何日)受拂計算書ト帳簿ト對査シ符合ヲ認ム
(様式)

右調査候處相違無之候也
官氏 名印
○明治二十五年七月十九日訓令第三十九號(郡區
役所宛)
政府ヨリ補助金ヲ受ケル公共事業費ニシテ二十三
年(十二月)會計検査院送附第四號ニ依リ受拂決算ノ
件

證明ヲナスヘキモノハ補助費ノ種類金額及各主管
者ノ官職氏名左記様式ニ據リ翌年度七月十五日以
内ニ本廳ヘ報告スヘシ(二十七年五月訓令第二十
二號ヲ以テ本號改正)
但二十四年度分ハ本訓令到達五日以内ニ送附ス
ヘシ

作リ之ヲ添附スヘシ
書式
政府ヨリ補助金ヲ受ケル公共事業費何何受拂主管
者官職氏名ノ證明ニ係ル何年度(自何月何日)至何
月何日)受拂計算書ト帳簿ト對査シ符合ヲ認ム
(様式)

主 管 者	種 類	補助金額	各 所 名	主 管 者	補助金額	各 所 名	合 計	備 考
土木補助費	一〇〇,〇〇〇	何郡何町村	郡長氏名					主管者誰ナリシモ其後交 替ニ付現今誰ニシテ其後交 替員何誰及誰從給仕拂等ノ 類
教育補助費	一〇〇,〇〇〇	何 學 校	何 學 校					職員誰及誰從給等ノ類
衛生費及病 院費補助	一〇〇,〇〇〇	何 病 院	何 病 院					
其他何何	、	、	、					

右 報 告 候 也
明治 年 月 日
北海道廳長官宛

郡 區 長 氏 名

○明治二十四年十一月二十六日訓令第八十號(集
治監札幌農學校郡區役所宛)
歳入歳出外ノ現金ヲ取扱出納官吏ヨリ提出スル現
金出納計算書ニハ典獄校長郡區長ニ於テ左ノ書式
ニ依リ保證書ヲ作リ之ヲ添附スヘシ
書 式
保 證 書
出納官吏官氏名ノ證明ニ係ル明治何年度(自何月
何日)至何月何日)歳入歳出外現金出納計算書ト現
金出納簿及現存金額ノ符合ヲ認ム

右保證候也
年 月 日
○明治二十六年五月十一日訓令第三十八號(物品
會計官吏宛)
自今物品出納規程第十條ニヨリ物品出納計算書ヲ
提出スルトキハ前年度若クハ前期物品出納計算書
ノ控書ヲ添付スヘシ其控書ハ下検査執行後返付ス
但物品會計ヲ新置シ又ハ保管轉換ニヨリ物品會計
ヲ分置シタルモノハ其年度若クハ其取扱期間ノ證
明ニ限リ控書添付セザルモノトス

○明治二十七年一月十一日訓令第六號(兩館區役所
根室外九郡役所宛)
明治二十七年一月以降明治二十三年大藏省訓令第
百三十四號爲替金取扱規程第十條ニ定メタル總部
金月計對照表證明ノ件別紙第一二八二號ノ通り大
藏大臣ヨリ囑託セラル
(別紙)
第二二八二號
府 北海道廳
縣(東京府ヲ除ク)

第六類 租稅外諸收入

明治二十七年一月以降明治三十三年當省訓令第百三十四號爲納金取振順序第十條ニ定メタル雜部金月計對照表證明ノ件其應ヘ嘱託候條本年當省訓令第二十二號預金保管物及供託物金庫出納事務規程第四十條ニ定メタル證憑書類證明書檢閱ノ事務ヲ擔當スル官吏ヲシテ之ヲ取扱ハシムヘシ

明治二十六年十二月二十一日 大藏大臣 渡邊 國武
○明治二十七年十一月二十八日訓令第三百二十五號(兩館區役所根外九郡役所宛)
雜部金月計對照表ヘ添附スヘキ證憑書類ノ件ニ付別紙第二三四號ノ通リ大藏大臣ヨリ送セラレ(別紙)
第二三四號

北海道廳 府 縣
二十六日十二月二十一日第二二八一號ヲ以テ送シタル明治三十三年當省訓令第三百三十四號爲納金取振順序第十條ニ據ル雜部金月計對照表證明上票スル證憑書類中軍事公債募集金ノ振替拂ニ係ル分ハ爲替納金領收證書ノ代リニ中央金庫ヨリ發セル便宜ノ通知書ヲ以テ右ノ證憑ニ充テシメ候條證憑書類證明書檢閱ノ事務ヲ擔當スル官吏ヲシテ差支クテ證明セシムヘシ
明治二十七年十一月十九日 大藏大臣 渡邊 國武

租稅外諸收入

○明治二十年十一月三十日訓令第三百三十五號(郡區役所宛)
官有地貸下料徵收方自今左ノ通取扱フヘシ
一 貸下料ハ貸下許可ノ指令書本人ヘ到達ノ月ヨリ徵收ス(二十三年四月訓令第三百三十四號ヲ以テ本項改正)
一 貸下年限中事故アリ返上スルモノノ料金ハ返地許可指令ノ月マテ徵收ス
○明治二十三年九月三日訓令(各通)
久遠外三郡役所 奥尻郡掛外三ヶ村戸長役場ニ於テ國稅外ノ諸收入ヲ徵收スル收入官吏ノ收シタル現金ノ監守證ハ其郡役所所在地ノ金庫ヘ送付スヘシ
増毛外五郡役所 苫前郡燒尻外一ヶ村(以下前同文)
宗谷外三郡役所 宗谷禮文及利尻三郡各村(以下前同文)
根室外九郡役所 國後及色丹郡各村(以下前同文)
○明治二十四年四月七日訓令(各通)
札幌外九郡役所 厚田郡厚田村及益登郡夜生村ニ於テ國稅外諸收入ヲ取扱フ收入官吏ノ徵收金持込ノ限ハ二十二年十月大藏省令第十三號第十七條ニ據リ取扱監守證ハ其所屬在拂命令官所在地ノ金庫ヘ送付スヘシ
室蘭外五郡役所 勇拂郡若小牧村白老郡白老村虻田郡虻田村及真狩村ニ於テ國稅(以下前文ニ同シ)(三十年九月訓令第二百六號ヲ以テ改正)
小樽外六郡役所 吉平郡濱町美園村小泊村積丹郡野塚村及ヒ余別村ニ於テ國稅(以下同上)

浦河外六郡役所 幌泉郡幌泉村靜内郡下下方村沙流郡門別村三石郡幌布村檜似郡檜似村ニ於テ國稅(以下同上)
増毛外五郡役所 留萌郡鬼鹿村苫前郡苫前村ニ於テ國稅(以下同上)
龜田外三郡役所 龜田郡龜田、下湯川、鏡島、大野、月井、尻岸内、樺法華ノ七ヶ村上磯郡知内、木古内、上磯、茂邊地ノ四ヶ村茅部郡鹿部、砂原、森、尾札部、白尻、落部ノ六ヶ村山越郡八雲、山越内、長萬部ノ三ヶ村ニ於テ國稅(以下同上)
根室外九郡役所 標津郡標津村ニ於テ國稅(以下同上)
紗那外三郡役所 琴取郡琴取村ニ於テ國稅(以下同上)
網走外三郡役所 網走郡東網走村ニ於テ國稅(以下同上)
釧路外十二郡役所 虻田郡虻田村十勝郡大津村阿寒郡阿寒村ニ於テ國稅(以下同上)
第二部 厚田郡厚田村龜田郡龜田村茅部郡茅部村勇拂郡若小牧村留萌郡鬼鹿村宗谷郡禮文村利尻郡利尻村ニ於テ國稅(以下同上)
○明治二十五年二月二十日訓令第十號(出納官吏宛)
現金出納簿ノ送來ル二十五年年度以降別紙大藏大臣送第三五四號ニ據リ處理ノ送付心得ヘシ
但整理上其職務ニ主管職ノ區別ヲ要スル場合ハ別ニ補助簿ヲ設ケ處理スヘシ
明治二十五年二月大藏大臣送第三五四號

種	目	印紙料額	右報告候也	何部廳署長名
出納官吏現金出納簿ノ儀從來一人ニシテ職ヲ兼タル者ハ各職務(收入現金前渡、雜部、出納官吏ノ類)並各主管職毎ニ各別ニ調製ヲ要シ候處來ル二十五年年度ヨリ右區別方ヲ廢シ一人一冊ヲ備ヘ總テ之ニ記入整理スル儀ト心得ヘシ			北海道廳長官宛	
○明治三十六年二月二十八日訓令第二百四號(內務部殖民部警察部支廳警察署)			○明治二十六年八月十九日訓令第三十三號	
明治三十五年年度以降其年度ニ於ケル收入印紙貼用額ヲ別紙書式ニ準シ取調毎年度四月十日限進送スヘシ			歲入過額納金ノ拂戻ヲ請フモノハ別紙申請書式ノ請求書ヲ其收入ヲ取扱ヒタル收入官吏ニ送付スヘシ	
但明治二十六年七月訓令第二百五十五號ハ自今之ヲ廢止ス			收入官吏ニ於テ前項ノ請求書ヲ受ケタルトキハ別紙乙種書式ノ拂戻請求書ヲ添附所屬調定官ヘ送付シ調定官ハ書式ノ如ク與書シ本廳ヘ送付スヘシ。	
(別紙) (用紙半紙調定)			(書式)	
明治何年度中貼用セル收入印紙料報告表			(申請書式)	
一金何			請求書	
內			但何年月何日納付シタル何金何何ノ事由ニ據リ過(還納)ノ分	
種			右請求候也	
度器檢定料			長官宛	
量器檢定料			何國何郡何町何番地(現住地)	
衡器檢定料			何	
度器修覆檢定料				
衡器修覆檢定料				
賣藥營業證札料				
賣藥營業證札再渡手数料				
文官普通試驗手数料				
明治三十二年內務省令第二十六號ノ手数料				
明治三十二年內務省令第三十二號ノ手数料				
產婆試驗手数料				
產婆名簿ノ謄本手数料				
學校教員學力試驗手数料				
學校教員免許狀授與手数料				
藥川阿片拂下代				
旗券下付手数料				
狩獵免狀再渡或換手数料				
其他何				

第六類 租稅外諸收入

収入済額ノ増減	額		増	減
	欠損額	翌年度へ繰越額		
	10000	10000		
			10000	
				50000

豫算額ニ對スル増減額ニ差引

○明治二十四年十二月一日訓令第八十二號(内務部財務部監獄署東治監札
幌農學校郡區役所宛)
租稅其他ノ欠損額を整理すニ因リ欠損を生シタルトキハ該金額及
事由ヲ之ニ記載シ置キ其整理ヲ爲スヘシ
但毎年度ノ始メニ於テ前年度末ノ現在額及其一週年度中増減セシ金額事
由等ヲ右様帳ニ據リ取調適宜製表ノ上四月五日限リ報告スヘシ
○明治三十三年四月十四日訓令第二百十八號(内務部支廳警察署北海道
中學校南館商業學校南館南館學校札幌高等女學校小樽港事務所宛(三十
五年五月訓令第四百七十五號ヲ以テ改正)
明治三十三年大藏省訓令第二十七號諸收入取納取扱規程ニ據リ諸收入歳入
徴收官ノ事務ヲ北海道師範學校校長札幌中學校校長小樽中學校校長札幌高等女學
校校長小樽港事務所長ニ警察署及分署ニ於ケル同事務ノ各支廳長ニ兩館中
學校南館商業學校南館南館學校及南館區ニ於ケル同事務ノ南館支廳長ニ札
幌區ニ於ケル同事務ノ札幌支廳長ニ小樽區ニ於ケル同事務ノ小樽支廳長ニ
委任ス(三十五年五月訓令第四百七十五號ヲ以テ改正)
但明治三十三年五月二日訓令第二百五十九號(内務部殖民部警察署北海道
鐵道部支廳警察署同分署戶長役場師範學校札幌中學校小樽中學校札幌高等
女學校小樽港事務所收入官吏宛)(三十三年六月訓令第四百三十三號三十五年三
月訓令第三百三十三號同年五月訓令第四百七十九號三十五年六月訓令第四百七
以テ宛名中改正)
租稅外諸收入徴收事務取扱手續別紙ノ通リ改正ス
租稅外諸收入徴收事務取扱手續
第一條 鐵道部長、師範學校校長、札幌中學校校長、小樽中學校校長、札幌高等
女學校校長、小樽港事務所長(以下單ニ分任徴收官ト稱ス)及ヒ支廳長
ハ第一號書式ノ徴收元帳明治二十六年(十一月)大藏省訓令第三十二號第

十一號様式ノ歳入徴收官徴收簿及ヒ第二號書式ノ徴收内譯簿ヲ備ヘ調定
並ニ徴收ノ時時登錄整理スヘシ(三十四年十月訓令八百九十七號及ヒ三
十五年五月訓令第四百七十九號ヲ以テ改正)
但徴收内譯簿ハ鐵道部長及ヒ支廳長ニ限リ設備ヲ要スルモノトス
第二條 收入官吏ハ會計規則第二百五條ニ據リレシ領收簿報告書ヲ其時時在
勤處所管ノ支廳長及ヒ分任徴收官ニ送付スヘシ
支廳長及ヒ分任徴收官ニ於テ前項ノ報告書及ヒ金額領收簿通知書ヲ送付
テ受ケタルトキハ第一條ノ諸帳簿ヲ整理シ便宜保管スヘシ(三十四年十
月訓令八百九十七號ヲ以テ本條中追加)
第三條 支廳長及ヒ分任徴收官ハ徴收簿ニ據リ毎月歳入徴收報告書(二十
六年十一月大藏省訓令第三十二號第四號書式ニ據ル)ヲ調製シ翌月十日
限リ其地ヲ差立テ支廳長ヘ送付シ異動ナキトキハ其旨報告スヘシ(三十四
年十月訓令八百九十七號ヲ以テ本條中追加及ヒ改正)
但金額領收簿月ニ涉リタルモノハ年度末送付及ヒ拂込未済等ノ事由
ハ現金簿送付簿欄内員額ノ下ニ詳記スヘシ
第四條 收入官吏ハ第三號書式ニ據リ現金出納内譯簿ヲ調製シ出納ノ時時
記帳整理スヘシ
第五條 收入官吏ハ毎月第四號書式ノ現金拂込任譯簿ヲ調製シ翌月一日限
リ其地ヲ差立テ在勤處所管ノ支廳長及ヒ分任徴收官ヘ送付スヘシ
但其中異動ナキトキハ其旨報告スヘシ
支廳長及ヒ分任徴收官ハ歳入報告書中現金拂込任譯簿ノ員額ノミ異

(年度) 徴收元帳

第一號	
-----	--

第六類 租稅外諸收入

明治何年度

徴 收 内 課 簿

第二號

何

〳

凡 例

- 一 本簿ハ支廳各警察署、同分署、戸長役場毎ニ口座ヲ設ケ科目別ニ調製其取扱額ヲ測定並ニ收入等ノ時時式ノ如ク記入スルモノトス(三十三年六月調第四百三號ヲ以テ本項中追加)
- 二 納入告知書ノ發布ヲナストキハ支廳各警察署、同分署、戸長役場ノ取扱額ヲ各別ニ合算●印ノ加ケ金庫ヨリ領收済ノ通知ヲ受ケタルトキハ○印ノ如ク收入官吏ヨリ領收ノ報告ヲ受ケタルトキハ○印ノ如ク測定外課納ノアリタルトキハ▲印ノ如ク減額ヲ受ケルトキハ△印ノ如ク缺損處分ヲシタルトキハ×印ノ如ク記入整理スヘキモノトス(三十三年六月調第四百三號ヲ以テ本項中追加)
- 三 各科目ノ終リニ合計ヲ付スヘシ其記載方ハ前項ニ同シ
- 四 前年度收入未済繰越額ハ別ニ口座ヲ設ケ整理スルモノトス

(目) 何 何 (項) 何 何

年 月 日	摘 要	調 定 額	收 入 済 額	缺 損 額	收 入 未 済 額
明治何年何月何日	納入告知書ヲ發ス	● 三五〇〇〇	○ 一五〇〇〇		三五〇〇〇
何月何日	領收済通知ヲ受ケ		○ 一五〇〇〇		二〇〇〇〇
何月何日	領收済報告ヲ受ケ		○ 二〇〇〇〇		二〇〇〇〇
何月何日	何月何日支入ノ内何何ノ事 由ニ依リ測定外課納	▲ 二五〇			二五〇
何月何日	何何ノ事由ニ依リ減額	△ [11000]			11000
何月何日	何何ノ事由ニ依リ缺損			× 一八〇〇	一八〇〇

何々又ハ何何(三十三年六月調第四百三號ヲ以テ改正)

(年 度)

現 金 出 納 内 課 簿

第三號

〳

〳

第六類 租税外諸收入

凡例

- 一 本簿ハ各科目別ニ口座ヲ設ケ各一人別ニ記帳整理スルモノトス
- 一 本簿ハ毎月月計及累計ヲ朱記スヘシ

第三號様式ノ一

料下貸所地 入收林森

年月日	摘要	受	拂	残
何月何日	何某ヨリ收入	八〇〇〇		
同 日	何金庫へ拂込		八〇〇〇	
何月何日	何某ヨリ收入	五五〇〇		
何月何日	何某ヨリ收入	三八〇〇		
何月何日	何金庫へ拂込		九三〇〇	
				〇
				九三〇〇
				五五〇〇
				〇

第三號様式ノ二

金現外出歳入歳

年月日	摘要	受	拂	残
何月何日	何月分小学校教員退職料及遺族扶助料法納金	一〇〇〇〇		
同	警察官吏拾得金	五〇〇〇		
同	何金庫へ寄託		五〇〇〇	
				一〇〇〇〇

第四號

(用紙半紙)

〔第何號〕

明治何年何月中現金拂込仕譯書

明治何年度租税外歳入

第六類 租税外諸收入

○明治三十六年二月十八日訓令第十一號(支廳戶長役場宛)
 租稅外諸收入金ノ内森林收入金徴收方左ノ通相定メ明治三十六年四月一日ヨリ施行ス
 一 殖民部林務課派出所(札幌、岩見澤、龍川、旭川、富良野、岩内、空知、江差、福山、浦河、帶廣、釧路、根室、網走、稚内、紗那ノ十六箇所除ク)ニ分任收入官吏ヲ置キ森林收入徴收事務ヲ取扱ハシム
 二 前項分任收入官吏ハ支廳ノ管轄區域ニヨリ其支廳ニ於ケル主任收入官吏所屬トス
 ○明治三十五年三月三十日訓令第三十八號(支廳警察署同分署戶長役場宛)
 租稅外諸收入金ノ内罰金及科料等徴收方左ノ通り相定メ明治三十五年四月一日ヨリ施行ス
 一 警察署及同分署ニ分任收入官吏ヲ置キ罰金及科料徴收金健全證書下付ノ手数料並ニ警察主管ニ係ル物品拂下代ノ徴收事務ヲ取扱ハシム(三十五年四月訓令第四十九號ヲ以テ改正)
 二 前項分任收入官吏ハ警察署及同分署所在地ナ所轄スル支廳ニ於ケル主任收入官吏ニ屬スルモノトス
 但札幌函館小樽三區ニ於ケル警察署及同分署任收入官吏ハ各其所任支廳ノ主任收入官吏ノ所屬トス(三十五年五月訓令第六十五號ヲ以テ改正)
 ○明治三十三年四月七日訓令第九十八號(支廳警察署同分署戶長役場宛)
 明治三十二年(九月)訓令第五百八號科料金其他取扱手續左ノ通り改正ス
 科料金其他取扱手續
 第一條 違警罪即決例ニ依リ科料ノ引渡ヲ爲シタル場合ハ其確定ヲ待テ速ニ被管人ノ住所氏名官渡月日科料金額罰項等ヲ支廳又ハ戶長役場ニ通知スヘシ但シ本人轉住其他ノ理由ニ依リ他ノ支廳又ハ戶長役場ニ納付セシムルナラバ便利ト認ムル場合ハ其他警察官署ニ囑託シ本條ノ手續ヲ爲スヘシ(三十三年十二月訓令第八百二十六號ヲ以テ本條中追加)
 科料ノ引渡ヲ命シタル場合ハ即時通知シ徴收セシムヘシ
 第二條 違警罪即決例ニ依リ保證金ノ上納ヲ命シタル場合ハ即時徴入或ハ出外現金出納官ニ通知シ徴收セシムヘシ但シ確定ノ場合ハ第一條ノ手續ヲ爲スヘシ
 保證金ノ上納ヲ命セラレタル者ニシテ正式裁判ヲ請求シタルトキハ其旨徴入或ハ出外現金出納官ニ通知シ検事局ニ送付セシムヘシ
 第三條 支廳又ハ戶長役場ニ於ケル科料金納入アリタルトキ及納入期日ニ至リ納付セザルトキハ即時關係警察官署ニ通知スヘシ
 第四條 支廳又ハ戶長役場ニ於ケル保證金ノ納入ヲ了シタルトキハ直ニ關係警察官署ニ通知スヘシ
 第五條 科料金納入ノ通知ヲ受ケタル警察官署ハ即時違警罪事件簿ニ其年月日ヲ記載スヘシ
 ○明治三十五年五月三十日訓令第五百七十三號(北海道鐵道部中學校函館商船學校札幌高等女學校小樽養護事務所宛)
 明治三十三年四月六號省訓令第二十七號諸收入徴收取扱規程第三條ニヨリ委任ヲ爲シタル分任收入徴收官ハ明治三十四年六月會計検査院送附第四號租稅外諸收入徴收規程並ニ連號シ徴收額計算書ヲ製シテ證書添付シ翌年度八月十五日限リ提出ス

ル場合ハ其確定ヲ待テ速ニ被管人ノ住所氏名官渡月日科料金額罰項等ヲ支廳又ハ戶長役場ニ通知スヘシ但シ本人轉住其他ノ理由ニ依リ他ノ支廳又ハ戶長役場ニ納付セシムルナラバ便利ト認ムル場合ハ其他警察官署ニ囑託シ本條ノ手續ヲ爲スヘシ(三十三年十二月訓令第八百二十六號ヲ以テ本條中追加)
 科料ノ引渡ヲ命シタル場合ハ即時通知シ徴收セシムヘシ
 第二條 違警罪即決例ニ依リ保證金ノ上納ヲ命シタル場合ハ即時徴入或ハ出外現金出納官ニ通知シ徴收セシムヘシ但シ確定ノ場合ハ第一條ノ手續ヲ爲スヘシ
 保證金ノ上納ヲ命セラレタル者ニシテ正式裁判ヲ請求シタルトキハ其旨徴入或ハ出外現金出納官ニ通知シ検事局ニ送付セシムヘシ
 第三條 支廳又ハ戶長役場ニ於ケル科料金納入アリタルトキ及納入期日ニ至リ納付セザルトキハ即時關係警察官署ニ通知スヘシ
 第四條 支廳又ハ戶長役場ニ於ケル保證金ノ納入ヲ了シタルトキハ直ニ關係警察官署ニ通知スヘシ
 第五條 科料金納入ノ通知ヲ受ケタル警察官署ハ即時違警罪事件簿ニ其年月日ヲ記載スヘシ
 ○明治三十五年五月三十日訓令第五百七十三號(北海道鐵道部中學校函館商船學校札幌高等女學校小樽養護事務所宛)
 明治三十三年四月六號省訓令第二十七號諸收入徴收取扱規程第三條ニヨリ委任ヲ爲シタル分任收入徴收官ハ明治三十四年六月會計検査院送附第四號租稅外諸收入徴收規程並ニ連號シ徴收額計算書ヲ製シテ證書添付シ翌年度八月十五日限リ提出ス

○明治二十三年九月三十日訓令(各都府) 現金前渡ヲ受ケタル出納官更ヨリ提出スル仕簿計算書(別紙書式)仕簿計算書内諸書ヲ添付セシムヘシ
 但仕簿計算書提出時ノ分ハ此際取替メ差出サシムヘシ
 (別紙)
 出納官更前渡ヲ受ケタル現金取扱心得別紙之通知得ラルヘシ
 出納官更前渡ヲ受ケタル現金取扱心得
 第一條 出納官更前渡金ヲ受ケタルトキハ出納官更トナリ其職務ヲ行フヘシ
 第二條 出納官更ハ大藏大臣又ハ會計検査院(直接)且其職務上ニ付テハ總テ自己責任ヲ負ニ任スルヲ以テ其事務ノ明確ヲ要スルハ勿論諸簿計算等最モ注意スヘシ

出納

第三條 當該年度ノ仕簿ハ三月三十一日ヲ以テ完了シ其仕簿金額ハ翌月十日以内別紙第一號書式ノ返納書ヲ以テ返納ノ手續ヲ爲スヘシ
 四月一日以後ニ於テ前年度三月三十一日以前ニ屬スル仕簿ヲ要スルコトアルトキハ正當受取人ノ請求書ヲ取纏メ前項返納ノ手續ヲ爲スト同時ニ直接該受取人へ送金仕簿ヲ仕簿命令官へ請求スヘシ
 翌年度四月一日以後ノ仕簿元金ハ更ニ前金渡ヲ仕簿命令官へ請求スヘシ
 返納金ノ返納告知書(別紙第六號書式)ヲ受ケタルトキハ期日マテニ指定ノ金庫へ納金シ金庫ノ別符付領收證ヲ得直チニ其領收證ノ檢印及別符ノ切離ヲ仕簿命令官へ請求スヘシ
 返納金ノ納入告知書ヲ受ケタルトキハ期日以内ニ指定ノ金庫又ハ收入官吏ニ納金シ領收證ヲ得ヘシ但シ金庫へ納入シタルトキハ直チニ其領收證書ノ檢印及別符ノ切離ヲ收入官吏ニ請求スヘシ
 仕簿殘金ノ返納ハ避クヘカサル事故ヲ除クノ外指定ノ期日ヲ猶豫スルヲ得ス
 第四條 前渡金五百圓未満ハ一旅行ヲ通シタル總額トス
 第五條 五百圓以上ハ出張先事務所ノ設ケタルト一時假設トノ別ナク總テ事務取扱所ノ體裁ヲ爲シタル場所ニ於テ仕簿ヲ取扱フモノニシテ出張前條ノ例ニヨラサルモノトス
 第六條 出張先ニ於テ前渡金ヲ要スルトキハ路程ノ遠近ニ依リ往復日數ヲ見込請求スヘシ
 第七條 現金仕簿フトキハ必ス正當受取人ノ領收證書ヲ引換ニ交付スヘシ

領收證書ノ格式ハ別ニ定ムル所ニ據ル
 第八條 前渡金ハ各項ノ金額ヲ流用スルヲ得ス
 第九條 出納官更ノ保管ニ係ル現金ハ私金ト混スヘカラス
 第十條 金庫所在地へ滞在スルトキハ其取扱ノ所ノ現金ヲ保管ノ爲メ別紙第五號ノ書式ニ依リ其地ノ金庫ニ委託スヘシ
 金庫へ保管委託ナラスハ該金庫ノ保管證書ヲ引換ニ現金ヲ拂込ヘシ
 前項保管證書ヲ引換セントスルトキハ金庫ノ保管證書ハ別紙第二號書式ニ據リ出納官更ノ資格氏名ヲ記シタル印證ニ通テ大藏大臣へ直チニ送付シ同時ニ其旨ヲ金庫へ申込ムヘシ
 大藏大臣ヨリ印證ヲ金庫へ送付ノ通知ヲ受ケタルトキハ金庫ヨリ保管金差出シ切符用紙ヲ受取ルヘシ
 保管金ノ仕簿ヲ金庫ニ請求スルトキハ總テ引出切符ヲ以テスヘシ
 前項引出切符ヲ正當受取人へ交付スルトキハ同時ニ案内引出切符ヲ該金庫へ送付スヘシ
 保管金引出切符ヲ受取人へ交付スルトキハ正當領收證書ヲ引換ヘシ
 保管金ノ仕簿ヲ止メ殘金額ノ拂戻ヲ爲ストキハ引出切符ヲ以テスヘシ
 第十二條 前渡金ノ誤拂過渡ヲ返納セシムルモノアルトキハ正當受取人ノ氏名住所及返納ヲ要スル計算書其他必要ノ事實ヲ盡シ仕簿命令官へ申出ヘシ
 第十三條 金庫ノ設ケナキ場所ニ於テ現金ノ保管

○明治二十八年十一月四日訓令第三百十號(郡區役所戶長役場宛)
 出納官更又ハ戶長等之職務ヲ以テ保管スル各種ノ現金ハ其保管者ノ資格與ナルニ從ヒ相當ノ區別ノ爲スヘキハ勿論ニ有之候處往住之ヲ混泊シ保管スルモノ有之右ハ取替上ニ都合ニ付自國稅金稅外諸收入金前渡ヲ受ケタル現金或ハ出外現金區町村所屬金等ノ區分ヲ明ニシ不整理ナキ様注意スヘシ
 (三十五年六月訓令第六百三十九號ヲ以テ改正)
 ○明治二十三年九月三十日訓令(各都府) 現金前渡ヲ受ケタル出納官更ヨリ提出スル仕簿計算書(別紙書式)仕簿計算書内諸書ヲ添付セシムヘシ
 但仕簿計算書提出時ノ分ハ此際取替メ差出サシムヘシ
 (別紙)
 出納官更前渡ヲ受ケタル現金取扱心得別紙之通知得ラルヘシ
 出納官更前渡ヲ受ケタル現金取扱心得
 第一條 出納官更前渡金ヲ受ケタルトキハ出納官更トナリ其職務ヲ行フヘシ
 第二條 出納官更ハ大藏大臣又ハ會計検査院(直接)且其職務上ニ付テハ總テ自己責任ヲ負ニ任スルヲ以テ其事務ノ明確ヲ要スルハ勿論諸簿計算等最モ注意スヘシ

第六類 出納

公債證書ノ利子札ハ利子ノ渡期ニ至リ其預ケ入
レタル金庫ニ於テ受取ルヘシ

第十九條 身元保證金ハ會計検査院ヨリ出納官吏
在職中執行シタル會計事務ニ付責任解除ヲ得タ
ル後本廳ヲ經由(本廳外ノ部局ニ於テハ該部局
及本廳ヲ經由ス)シテ大藏大臣ニ證明シ其拂戻
ヲ請求スヘシ

第二十條 左ノ場合ニ於テハ臨時検査員ヲ派遣シ
出納官吏ノ帳簿金櫃ヲ検査セシムルコトアルヘ
シ

一 出納官吏交替ノトキ
二 出納官吏轉免死亡停職ノトキ
三 臨時検査ヲ必要ト認ムルトキ

第二十一條 前條検査ヲ執行スルニ當リ出納官吏
事故ニ據リ自身検査ヲ受クル能ハサルトキハ其
代理者若クハ特ニ命シタル官吏ニ於テ立會ナシ
スヘシ

第二十二條 前條検査ヲ執行シタルトキ検査員ノ
檢定書ニ出納官吏若クハ立會人署名スヘシ

帳簿 計算書
第二十三條 出納官吏ハ別紙第七號第八號書式ノ
帳簿ヲ設ケ其出納ヲ登記スヘシ

帳簿ハ各年度ニ區分調製スルモノトス
第二十四條 出納官吏ハ會計検査院ノ検査判決ヲ
受クル爲メ別紙第九號書式ノ仕拂計算書ヲ調製
シ證書類ヲ添ヘ仕拂命令官ヘ送付スヘシ

證書類ノ程式ハ別ニ定ムル所ニ據ル
第二十五條 前條ノ仕拂計算書ハ毎月調製シ翌月
五日以内ニ發送スヘシ但隨廳ノ時ニ係ル分ハ隨
廳ノ日ヨリ五日以内ニ差出スモノトス

年度末月ノ計算書ニ殘額アルトキハ第三條ノ返
納書ト共ニ翌月十日以内ニ差出スヘシ

仕拂計算書ハ提出ノ後修正變更スルヲ得ス
計簿ノ差出期限ハ遅延スルヲ得ス

第二十六條 計算書及證明ニ付審理書ヲ受ケタ
ルトキハ事務ヲ明確ニシ七日以内ニ答辯ヲナス
ヘシ

第二十七條 出納官吏交替ノトキ後任官吏ハ更ニ
前金渡ヲ受ケ前任官吏ハ前渡ヲ受ケタル現金ヲ
第二十五條ニヨリ清算スヘシ

第二十八條 出納官吏死亡其他ノ事故ニ據リ自身
ニ計算書ヲ調製スル能ハサルトキハ特ニ命シタ
ル官吏ヲシテ計算書ヲ調製セシムヘシ

第二十九條 金庫ヨリ別紙第十號書式ノ雜部金月
計對照表甲乙二葉證書類ヲ送付ヲ受ケタル
トキハ之ヲ調査シ相違ヲキモノハ甲表ヲ留置
乙表ニシテ相違アルモノハ甲乙表ニ共ニ返付)
三日以内ニ金庫ヨリ送付セシ證書類ト共ニ金
庫ニ返付スヘシ

附則
第三十條 出納官吏ノ心得ヘキ法規ハ概テ左ノ如
シ

會計法
會計規則
會計検査院法
出納官吏現金取扱規則

明治二十二年
法律第四號
勅令第六十號
法律第十五號
大藏省令第十三號

出納官吏身元保證金納
付ノ件
取扱規則
定額戻入金取扱規則
金庫出納事務規程
保管金引出符監守
證書

明治二十三年
大藏省令第四號
同
大藏省令第二號
大藏省令第十六號
同
大藏省令第七十二號
同
大藏省令第七十號
同
大藏省令第七十四號
同

送納書
一 金何程
但何年度所屬經費何(項)年月日前渡ヲ受ケ
タル現金仕拂
金何圓
金何圓
金何圓
右返納候也
明治年月日 出納官吏
官姓名

仕拂命令官
官姓名
(第二號)
印 官
小官何地金庫(現金事務委託候ニ付別紙印紙ニ
通過後條該金庫へ御下附相成度候也
明治年月日 出納官吏
官姓名
大藏大臣署名

印 官
認 印
北海廳官氏名

身元保證金納付書
一 金何程
但何地預金局預金取扱所保管證書別紙之通
右納付候也
明治年月日
出納官吏
北海廳 官氏名

身元保證金納付書
一 金何程
此公債證書額面何程内譯左ノ通
乙號 公債證書額面何圓 幾枚
丙號 公債證書額面何圓 幾枚
合幾枚
右納付候也
明治年月日
出納官吏
北海廳 官氏名

現金保管委託書
一 金何程
右保管委託候也
明治年月日
出納官吏
北海廳 官氏名

第六類 出納

七一八

第五日以内ニ發送スヘシ但隨廳ノ時ニ係ル分ハ隨
廳ノ日ヨリ五日以内ニ差出スモノトス
年度末月ノ計算書ニ殘額アルトキハ第三條ノ返
納書ト共ニ翌月十日以内ニ差出スヘシ
仕拂計算書ハ提出ノ後修正變更スルヲ得ス
計簿ノ差出期限ハ遅延スルヲ得ス
第二十六條 計算書及證明ニ付審理書ヲ受ケタ
ルトキハ事務ヲ明確ニシ七日以内ニ答辯ヲナス
ヘシ
第二十七條 出納官吏交替ノトキ後任官吏ハ更ニ
前金渡ヲ受ケ前任官吏ハ前渡ヲ受ケタル現金ヲ
第二十五條ニヨリ清算スヘシ
第二十八條 出納官吏死亡其他ノ事故ニ據リ自身
ニ計算書ヲ調製スル能ハサルトキハ特ニ命シタ
ル官吏ヲシテ計算書ヲ調製セシムヘシ
第二十九條 金庫ヨリ別紙第十號書式ノ雜部金月
計對照表甲乙二葉證書類ヲ送付ヲ受ケタル
トキハ之ヲ調査シ相違ヲキモノハ甲表ヲ留置
乙表ニシテ相違アルモノハ甲乙表ニ共ニ返付)
三日以内ニ金庫ヨリ送付セシ證書類ト共ニ金
庫ニ返付スヘシ
附則
第三十條 出納官吏ノ心得ヘキ法規ハ概テ左ノ如
シ
會計法
會計規則
會計検査院法
出納官吏現金取扱規則
明治二十二年
法律第四號
勅令第六十號
法律第十五號
大藏省令第十三號

出納官吏身元保證金納
付ノ件
取扱規則
定額戻入金取扱規則
金庫出納事務規程
保管金引出符監守
證書
明治二十三年
大藏省令第四號
同
大藏省令第二號
大藏省令第十六號
同
大藏省令第七十二號
同
大藏省令第七十號
同
大藏省令第七十四號
同
送納書
一 金何程
但何年度所屬經費何(項)年月日前渡ヲ受ケ
タル現金仕拂
金何圓
金何圓
金何圓
右返納候也
明治年月日 出納官吏
官姓名
仕拂命令官
官姓名
(第二號)
印 官
小官何地金庫(現金事務委託候ニ付別紙印紙ニ
通過後條該金庫へ御下附相成度候也
明治年月日 出納官吏
官姓名
大藏大臣署名

四寸五分 横二寸

印 官
認 印
北海廳官氏名

(第三號)
身元保證金納付書
一 金何程
但何地預金局預金取扱所保管證書別紙之通
右納付候也
明治年月日
出納官吏
北海廳 官氏名

(第四號)
身元保證金納付書
一 金何程
此公債證書額面何程内譯左ノ通
乙號 公債證書額面何圓 幾枚
丙號 公債證書額面何圓 幾枚
合幾枚
右納付候也
明治年月日
出納官吏
北海廳 官氏名

(第五號)
現金保管委託書
一 金何程
右保管委託候也
明治年月日
出納官吏
北海廳 官氏名

(第六號)

△印ハ朱書

返納書
雜部
一 金何程
右何年月何日限リ何地金庫へ返納スヘシ
明治何年月何日
仕拂命令官官氏名

領收書
右領收候也
明治何年月何日
何地金庫

證書
第何號 某年度 所屬經費
送納入何
一 金何程
明治何年月何日何地金庫へ返納

七一九

(第七號)

(川紙フールスカツプ)

出納官吏現金出納簿

● 縣 名

出納官吏官氏名

年月日	摘要	受	拂	残
		圓 角 分	圓 角 分	圓 角 分
何何何	何何金庫ヨリ受取	500000		
何何何	何何金庫ヨリ受取	430000		720000
何何何	何何金庫へ拂渡		50000	
何何何	何何何		20000	
何何何	何何何		10000	
何何何	何何何		5000	
何何何	何何何		10000	
何何何	何何何		2000	
何何何	何何何		5000	628000
何何何	何何何		20000	608000

(第八號)

明治何年度
何何(款)
現金出納内訳簿

縣 名

出納官吏官氏名

備考
 第一 領收高ノ欄ハ前渡金ヲ領收セシトキ其金額ヲ登記ス
 第二 支出高ノ欄ハ支拂ヲ爲セシトキ及在拂科目ノ更正ヲ要セシトキ
 其金額ヲ登記シ科目更正ノ爲減スヘキ金額ハ之ヲ控除スルモノトス
 第三 前各項ノ事由摘要ニ記載方ハ様式ニ依テシ

1 (俸給及諸給) 備入料

年月日	摘要	領收高	支出高	残
		圓 角 分	圓 角 分	圓 角 分
明治何年				
何何何	某地出張中費用トシテ領收	300000		300000
何何何	何月何日ヨリ何月何日マテ使用人夫賃		50000	250000
何何何	何何何		20000	230000